

平成 28 年度

国分寺市埋蔵文化財調査概報



平成 30 年 3 月

国分寺市教育委員会
国分寺市遺跡調査会

平成 28 年度
国分寺市埋蔵文化財調査概報

平成 30 年 3 月

国分寺市教育委員会
国分寺市遺跡調査会

表紙写真

右上：武藏国分寺跡第716次調査 SD436（南から）

右下：多摩蘭坂遺跡第13次調査 調査区南壁土層断面（北から）

左：武藏国分寺跡第718次調査出土 打製石斧



武藏国分寺跡第716次調査 SA19-3（東から）



武藏国分寺跡第716次調査 SD44断面（東から）



武藏国分寺跡第 722 次調査 SD170 全景（東から）



志ヶ窪遺跡第 98 次調査 SX2 性格不明遺構（溜池）全景（北から）

序

国分寺市内では、現在 48 カ所の遺跡（周知の埋蔵文化財包蔵地）が確認されています。これらの遺跡で掘削を伴う土木工事を行う場合は、文化財保護法に基づいて届出や通知を提出する必要があり、工事の内容によっては地下に埋蔵されている遺構や遺物などの文化財が破壊される可能性があります。本来、土地に埋蔵されている文化財は、これまでのように地下で保存されることが望ましいですが、やむなく壊すことになる際は事前に発掘調査を行い、遺構の規模や特徴を図面や写真で記録し、出土した遺物を適切に収集・整理しています。そしてこれらの成果を発掘調査報告書として刊行することで、国民共有の財産である文化財を記録として後世に残し、遺跡の重要な情報を伝えています。

本書は、このような目的で平成 28 年度に市内の 6 遺跡、11 カ所で実施された調査成果を報告するものです。

縄文時代の調査では、泉町や本町の調査区から縄文土器や石器が出土し、集落の広がりを知る上で貴重な資料となりました。古代の調査では、西元町で武藏国分尼寺を区画する掘立柱跡を確認し、建替えの回数などの新たな知見が得られました。そして泉町の東京都立公文書館建設予定地で実施した 2 次にわたる調査では、東西 46 メートルにわたって溝が検出され、これまでの調査と合わせて 340 メートルにおよぶ長大なものであったこと、出土遺物から中世の所産であることが判明しました。また、恋ヶ窪遺跡では、江戸時代に用水を利用した生活の一端を窺わせる遺構も見つかっています。

これらの成果を本書で報告するにあたり、発掘調査から本書の刊行に至るまで多大な御協力をいただいた施主の皆様をはじめ、関係諸機関の皆様方、御指導を賜りました各位、そして日頃より埋蔵文化財の調査に御理解・御協力いただいている近隣住民の方々に厚く御礼申し上げます。

平成 30 年 3 月

国分寺市教育委員会
教育長 古屋 真宏

例　言

1. 本書は、東京都国分寺市において、平成 28 年度に実施した発掘調査 15 カ所のうち、国分寺市教育委員会が国庫補助事業として行った 9 カ所、および国分寺市遺跡調査会が事業者から委託を受けて実施した 2 カ所（同地点のため報告は 1 カ所扱い）の計 11 カ所について報告するものである。調査対象となった遺跡は 6 遺跡で、調査の種別は発掘調査（本発掘調査）が 2 件、確認調査が 9 件である。
2. 本書には、付編として 3 件の立会調査の記録と、平成 25 年に東京都教育庁都立学校教育部・国分寺市教育委員会・国分寺市遺跡調査会で三者協定を締結して実施した「国分寺市武藏國分寺跡北方地区一都立小金井特別支援学校仮設校舎建築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査」の概要を掲載した。
3. 国庫補助事業として実施した発掘調査（平成 28 年度）および出土品等整理作業（平成 29 年度）にかかる経費は、文化庁の「国宝重要文化財等保存整備費補助金」を得ている。費用の負担割合は国 1/2、東京都 1/4、国分寺市 1/4 である。その他の調査は、事業者が負担した。
4. 報告書の編集・印刷にかかる費用は国分寺市が負担した。
5. 発掘調査は、国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課 史跡係長 依田亮一、同主任 増井有真、同係員 島田智博が担当した。
6. 本書の編集は、坂詰秀一調査団長の指導のもとで増井有真が行った。執筆分担は次の通りである。
増井有真 第 1 章、第 2 章第 1 節、第 2 章第 2 節（1）・（2）・（4）～（10）、第 3 章、付編（2）
依田亮一 第 2 章第 2 節（3）3、付編（1）・（3）
島田智博 第 2 章第 2 節（3）1・2
中野 純 第 1 章「届出・通知および立会記録等一覧」
7. 遺物観察表の作成は増井（古代）と依田（中・近世）が担当した。なお、縄文時代の土器・石器の実測・遺物撮影・遺物観察表の作成は、有限会社アルケーリサーチに委託した。
8. 発掘調査における測量は、システムプログラム「リプログラフ」（株式会社こうそく）、本書の挿図・表等の作成には Microsoft®Word®・Excel®、Adobe®Illustrator®・Photoshop®・InDesign® の各ソフトを用いた。
9. 個々の調査地区概要の中に記している「遺物箱数」は、現場作業終了時点で確認した出土遺物量で、単位（箱）はコンテナ（34 × 54 × 20 cm）の箱数を示す。
10. 調査における図面は、全体図 1/100・遺構平面図 1/20・断面図 1/20 で記録している。
11. 遺物や各種図面・写真類は、一括して国分寺市教育委員会で保管している。
12. 発掘調査および遺物・資料整理作業、報告書作成業務に従事した者は下記の通りである。

| | | | | | | |
|-------|------------------|------------------|-----------------------|------|-------|------|
| 岩田尋湖 | 大羽正子 | 小野祐子 | 桂 弘美 | 小池和彦 | 相馬しのぶ | 富澤 好 |
| 平塚恵介 | 矢内雅之 | 吉田さおり | (国分寺市遺跡調査会) | | | |
| 高橋より子 | 山口啓子 | (国分寺市シルバー人材センター) | | | | |
| 梅山伸二 | 上村雄三 | 佐々木義身 | (国分寺市ふるさと文化財愛護ボランティア) | | | |
| 江口真裕 | 及川有子 | 川戸直子 | 黒田智和 | 清水広幸 | 杉山久晶 | 西野 宏 |
| 室賀明子 | (株式会社共和開発〔支援業務〕) | | | | | |
13. 発掘調査・出土品等整理作業・報告書作成作業では、下記の諸氏・関係機関から御指導・御協力を賜りました。記して感謝申し上げます（順不同・敬称略）。

| | | | | |
|---------------------|------------------|------------------|--------------|------|
| 小野一之 | 渋江芳浩 | 高木翼郎 | 西木浩一 | 深澤靖幸 |
| 東京都公文書館 | 文化庁文化財部記念物課 | 東京都教育庁地域教育支援部管理課 | 国分寺市文化財保護審議会 | |
| 国分寺市史跡武藏國分寺跡保存整備委員会 | 武藏國分寺跡調査・研究指導委員会 | | | |

凡 例

① 国分寺市の基本土層について

国分寺市域で用いる層位区分は、表土（I層）下の黒褐色土を黒色味が強い上層（II層）と、ローム層への漸移層である下層（III層）に細分している。そのため、黒色土をII層、III層以下をローム層にあてる、一般的な武藏野台地上の遺跡における層序区分とは呼称が若干異なっている。本書で報告する調査対象地は、武藏野段丘面と立川段丘面とに存在するが、堆積土層は下記のとおりほぼ共通した層序区分を示す。

| | | |
|---------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------|
| I 层 | 表土。近～現代の盛土、および耕作土。層厚約 30～50 cm。 | — I — 0.0 ± 0m |
| II 層 | 黒褐色土。粒子が粗い、縮まりはやや弱い。粘性は弱い。古代～中世の遺物を包含し、古代の遺構覆土に似る。層厚約 10～15 cmだが、市内では削平されていることが多い。 | — II — 0.0 ± 0.5m |
| III a 層 | 黒褐色土。粒子はやや粗い。粘性はやや弱い。層厚約 10～15 cm。同層上面が本来的な古代の遺構確認面であるが、II層と類似した土質であることから、この下層において遺構を視覚的に検出することが多い。 | — III a — 0.0 ± 0.5m |
| III b 層 | 暗褐色土。III a 層より明るく、褐色味が強くなる。軟質で粘性はやや弱いが、III c 層に近づくに連れて粘性が強くなる。縄文時代中期の遺物を包含する。層厚約 30～40 cm。 | — III b — 0.0 ± 1.0m |
| III c 層 | 茶褐色土・暗黄褐色土。縄文時代早～前期の遺物を包含する。ローム層への漸移層で、赤色スコリアを多量に含む。層厚約 10～15 cm。 | — III c — 0.0 ± 1.5m |
| IV 層 | 黄褐色土。ソフトローム。V 層との境は凹凸が激しい。層厚約 15～25 cm。 | — IV — 0.0 ± 2.0m |
| V a 層 | 黄褐色土。ハードローム。色調によって a・b の 2 層に分けられる。下層にいくに従い黄色味が薄くなり暗褐色味を帯びてくる。その色調は漸移的に変化する。赤色・黒色スコリアを多量に含む。部分的に V b 層と中間の色調を有する部分がある。 | — V a — 0.0 ± 2.5m |
| V b 層 | 暗灰褐色土。ハードローム。色調は V a と VI 層の中間。 | — V b — 0.0 ± 3.0m |
| VI 層 | 暗褐色土。立川ローム第一黑色帶。スコリアは細かく、全体に粒子緻密。やや粘性を増す。 | — VI — 0.0 ± 3.5m |
| VII 層 | 黄褐色土。黄色味が強く、明るい。VII 層へは漸移的に移行し、境界はやや不明瞭。削るとジャリジャリする (A T 層)。 | — VII — 0.0 ± 4.0m |
| VII a 層 | 褐色土。立川ローム第二黑色帶。VII 層下部に似て、やや暗くなり始めるところから本層とし、削るとジャリジャリする。黒色・赤色スコリアを含む。 | — VII a — 0.0 ± 4.5m |
| VII b 層 | 暗褐色土。立川ローム第二黑色帶。VII a よりさらに色調が暗くなる。粒子が細かく、緻密で粘性がある。黒色・赤色・青色・白色スコリアを多く含む。 | — VII b — 0.0 ± 5.0m |
| IX a 層 | 暗褐色土。立川ローム第二黑色帶。VII b よりさらに黒色味増す。粒子は細かく、緻密で粘性が強くなる。 | — IX a — 0.0 ± 5.5m |
| IX b 層 | 暗褐色土。立川ローム第二黑色帶。成分は IX a 層と同じで、粒子は細かく、緻密で粘性が強い。下部の 5～10 cm は X 層の影響から IX a 層より明るい部分もある。 | — IX b — 0.0 ± 6.0m |
| X 層 | 黄褐色土。粒子極めて細かく、緻密で粘性のあるローム土。 | — X — 0.0 ± 6.5m |

国分寺市内の
平均的な層序

② 調査地区の位置について（グリッド）

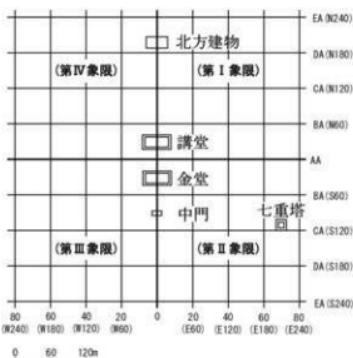
国分寺市では、No. 10・19 遺跡である武藏国分寺跡（僧尼寺）の広大な範囲を統一して調査するため、局地座標系を用いている。

座標原点は僧寺伽藍中軸線を基準に、金堂中心の北 26.276 m 中軸線上の点（コンクリート埋設）である。僧寺中軸線は、真北から 7° 07' 01"、磁北から 0° 37' 01" それぞれ西偏する。この座標原点を中心に象限を I～IV に大別し、

中心点からの距離をN・S・E・Wで表す。さらに、本文中および図面のグリッド表示の数字は、南と西に接する基準線に与えた記号の組み合わせにより呼称する。東西基準線はアルファベット2文字で表す。1文字目は原点をAとし、60mごとにB・C・D…とふり、2文字目はその内を3mごとに20区に分けA～Tとふつっている。南北基準線は数字で表し、原点を0として以下東西ともに3mごとに1・2・3…とふつた。

なお、遺跡記号はMK（武藏国分寺の略）にI～IVの各象限を続けたものに、調査次数を付して表示している。

上記以外の市内遺跡の座標は世界測地系の第9系を用いている。ただし、その基準点は平成23年3月11日の東北地方太平洋沖地震の影響を受けて変動しているが、従来の測量成果簿を使用している。



武藏国分寺跡の調査基準線

③ 遺跡名について

遺跡名については、No.10・19遺跡以外の調査については、K（国分寺の略）に遺跡番号を続けたものに次数を付して表示している。

④ 造構図面について

調査地点位置図・造構図面は、図面上が座標北を示す。特記のない限り調査地点位置図は縮尺を1/2,500、土層断面図および柱状図の縮尺は1/40に統一し、スケールバーで示している。

⑤ 造構番号について

造構は遺跡ごとにほぼ発見順に連続番号を付し、下記の造構記号を冠して表示している。また、縄文時代の造構は造構番号末尾にJを付し、Pは造構記号の後ろにJを付して歴史時代の造構と区別している。

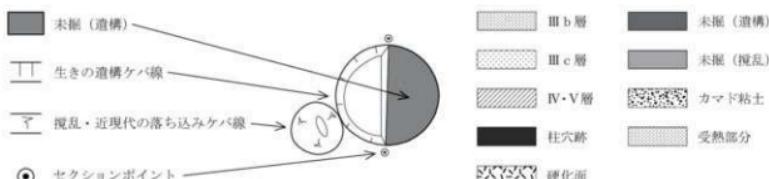
SA：掘立柱塀 SD：溝 SK：土坑 SX：性格不明造構 P：小穴

⑥ 造構写真について

各写真キャプションに併記する（方位）は撮影した方向を示す。真上から撮影した場合は上下左右と方向を用いて方位を示している。

⑦ 全体図・造構図の表現方法について

図中の記号・ライン、スクリーントーンについては次の通りで、これ以外に使用しているトーンは個々の図で示している。なお、図の一部ではスクリーントーンを使用していないものもある。



⑧ 遺物番号について

遺物は、各調査において種別毎に連続番号を付し、下記の遺物記号を冠して表示する。

| | | | |
|-------------|-----------|-----------|------------|
| 【歴史時代】土 器 類 | PK : 須恵器 | PN : 灰釉陶器 | PT : 中近世陶器 |
| 瓦 壁 類 | KA : 鎏瓦 | KB : 宇瓦 | KC : 男瓦 |
| 金属製品 | MH : 刀子 | | |
| 【縄文時代】土 器 類 | JE : 中期前半 | JF : 中期後半 | JG : 時期不明 |
| 石 器 類 | AG : 打製石斧 | | |

⑨ 遺物の表現方法について

遺物のスクリーントーンの指示は次のとおりである。



灰釉陶器（施釉部分）



灰釉陶器（断面）



鉄軸系（施釉部分）

⑩ 遺物の縮尺について

縮尺は次のとおりに統一し、スケールバーで示している。また、写真図版についても、おおむね次のスケールに統一している。

土器類：1 / 3 瓦類：1 / 4 縄文・旧石器時代石器：1 / 3、3 / 4

⑪ 遺物観察表について

遺物の記述については一覧表とし、原則として図面番号順に列記してある。遺物観察表における法量のうち、完存しているものは括弧なしで全長数値を表し、() は残存数値、(()) は復元数値を表す。「-」は計測できないものを表す。

⑫ 鎔瓦・宇瓦の文様・製作技法等の表記について

| | | | |
|--------------|--------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|
| 【鎔瓦】 | イ. 中層の形状 | A 中層が凸型のもの | A1 断面平滑形のもの A2 断面半球形のもの |
| | | B 中層の輪郭を凸縁で表わすもの | I1 内部が平坦なもの I2 内部が半球形に盛り上がるるもの |
| ロ. 脊の形状 | S 素脊 | A 弁の輪郭縁(凸縁)がなく、全体が直角に上がるもの B 弁の輪郭縁(凸縁)のみで表わされるもの C 弁の輪郭縁(凸縁)があり、内部全体が盛り上がるるもの D 弁の輪郭縁(凸縁)があり、内部が直角に上がるものの中層側が弧形るもの | |
| | T 平脊 | | |
| ハ. 外区文様 | a=墨文, b=朱文, c=その他の | などがあり、内・外縁の区別がないものは外縁側に記入。 | |
| 二. 製作技法 | A 接着技法 | 一一般的なもの | |
| | B さしこみ技法 | I A 瓦当部が一面重ねで分厚く作られるもの II X字面の目面に上りがるもの | |
| | C 一本作り技法 | I X字面の目面に上りがないもの II X字面の目面に上りがないもの | |
| | D はめこみ技法 | I 平載前の男瓦立端側にはめこみもの II 平載前の円筒の立端側にはめこみ、不必要な部分を切り落とすもの | |
| 【宇瓦】 | イ. 内区文様 | 6=重乳文, 7K=均整唐草文, 1K=偏行唐草文, 8B=ヘラ書文, 8K=格子文, J=漢文, Y=墨文, 0=その他 | |
| ロ. 上・下区、脇区文様 | a=墨文, b=朱文, c=其の他の | | |
| ハ. 製作技法 | A 接着技法 B さしこみ技法 C 折り曲げ技法 D 落り付け技法 | 女瓦凸面に粘土を貼り付け瓦当部を作るもの | |
| 二. 形態 | A 直縁型 | I a 瓦当凸面を調整するもの I b 瓦当部と瓦瓦部の複数部分のみ調整するもの I c 不調整のもの | |
| | B 段腰 | I I 瓦当凸面と瓦瓦部を平行するもの I I I B1・B2以外のもの I I I II 瓦当凸面が丸みを持つもの | I a 瓦当凸面および瓦瓦面を調整するもの I b 瓦当凸面のみ調整するもの I c 瓦瓦面のみ調整するもの I d 不調整のもの |
| | C 曲縁型 | I C1 一般的なものの I C2 やや直線的なものの | I a 瓦当凸面を調整するもの I b 瓦当凸面と瓦瓦部の複数部分を調整するもの I c 瓦当凸面および瓦瓦部の複数部分を調整するもの I d 不調整のもの |

●報告書で使用する用語と図面の見方について

国分寺市では、市民サービス等の向上の一環として、わかりやすい埋蔵文化財概報の作成に取り組み、平成19年度版年報から改編を重ねている。ここでは、報告書の内容を多くの方々に具体的に御理解いただけるよう、一般的には使用されない考古学の用語や、⑦で示した図面の見方について解説する（⑧も参照）。

- 遺構 … 遺跡中に残されている不動性に富む人間集団の痕跡。集落では、住居・建物・倉庫・井戸・溝・土坑などを指す。可動性のある遺物とは区別される。
- 遺物 … 人間集団が残した可動性に富む物質で、遺構とともに遺跡を構成する。石器・土器・陶磁器・木製品・骨角器・金属製品・石製品など様々な道具や装飾品を指す。
- 堅穴住居 … 地面を掘りくぼめて床を敷き、支柱を立てて屋根をかける構造の建物。縄文時代以来の一般的な住居として中世まで使用されている。床面には炉・カマド・柱穴などがあり、床面は硬く踏み固められている。堅穴構造の建物であっても住居以外の用途（工房など）に使用されていた可能性も想定されることから「堅穴建物」とも呼ばれる。
- トレンチ … 地表下の遺構を探すために掘られた適切な幅と長さの溝状の発掘区で、発掘溝・試掘坑ともいう。
- 未掘 … 検出された遺構を平面形のみ確認して、掘削をしていない箇所。
- 搅乱 … 後世に掘り込まれ、地山（自然堆積土）や遺物包含層、遺構等を壊している範囲。耕作による削平や、地下埋設物（水道・ガス）を敷設するために掘り込まれた穴・溝等も含まれる。
- 遺構ケバ線 … 遺構の平面図に加える線。遺構の上端（遺構の掘り込み囲）から、遺構の下端（遺構の底面）に向かって掘り込まれている様子を示す。
- 搅乱ケバ線 … 掘乱の掘り込みの様子を示す。
- セクション・カット … 遺構が構築されてから埋没するまでの過程を、土層の堆積状況によって判断するために遺構を断ち割り、土層観察面を設定した地点。

国分寺市遺跡調査会構成員名簿

平成30年2月1日現在

―― 役員および監事 ――

| | | |
|------|-------|------------------------|
| 会長 | 坂説 秀一 | 国分寺市文化財保護審議会会长 |
| 副会長 | 星野 亮雅 | 国分寺市文化財保護審議会副会長 |
| 理事 | 井澤 邦夫 | 国分寺市長 |
| 理事 | 古屋 真宏 | 国分寺市教育委員会教育長 |
| 理事 | 富山 謙一 | 国分寺市教育委員会教育長職務代理者 |
| 理事 | 北原 進 | 国分寺市文化財保護審議会委員 |
| 理事 | 遠藤 慎郎 | 国分寺市文化財保護審議会委員 |
| 理事 | 福嶋 司 | 国分寺市文化財保護審議会委員 |
| 理事 | 清水 宏 | 東京都教育庁地域教育支援部管理課長 |
| 専務理事 | 堀田 順也 | 国分寺市教育委員会教育部長 |
| 監事 | 峯岸 桂一 | 元国分寺市職員 |
| 監事 | 伊藤 敏行 | 東京都教育庁地域教育支援部管理課統括課長代理 |

―― 武藏国分寺跡調査・研究指導委員会 ――

| | | |
|-----|-------|-------------------------|
| 委員長 | 坂説 秀一 | (考古学) 立正大学名誉教授 |
| 委員 | 藤井 恵介 | (建築史) 東京大学大学院工学系研究科教授 |
| 委員 | 佐藤 信 | (古代史) 東京大学大学院人文社会系研究科教授 |
| 委員 | 酒井 清治 | (考古学) 駒澤大学文学部教授 |
| 委員 | 松井 敏也 | (保存科学) 筑波大学芸術系教授 |

―― 事務局 ――

| | | |
|------|-------|------------------------------|
| 事務局長 | 高杉 強 | 国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課長 |
| 事務局員 | 諸橋 広光 | 国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課文化財保護係長 |
| 事務局員 | 中道 誠 | 国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課文化財保護係主任 |
| 事務局員 | 吉田 澄音 | 国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課文化財保護係嘱託 |
| 事務局員 | 熊木 正好 | 国分寺市遺跡調査会 |

―― 調査団 ――

| | | |
|-------|-------|---------------------------|
| 団長 | 坂説 秀一 | 立正大学名誉教授 |
| 主任調査員 | 依田 亮一 | 国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課史跡係長 |
| 調査員 | 増井 有真 | 国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課史跡係主任 |
| 調査員 | 島田 智博 | 国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課史跡係嘱託 |

本文目次

| | |
|--------------------------|-----|
| 卷頭図版 | |
| 序 | 5 |
| 例言 | 6 |
| 凡例 | 7 |
| 国分寺市遺跡調査会構成員名簿 | 11 |
| 本文目次・挿図目次・表目次 | |
| 第1章 国分寺市の埋蔵文化財 | 16 |
| 第2章 平成28年度に実施した発掘調査 | 34 |
| 第1節 遺跡の概要 | 34 |
| 第2節 調査の概要 | 40 |
| (1) 武藏国分寺跡第716次調査 | 40 |
| (2) 武藏国分寺跡第717次調査 | 56 |
| (3) 武藏国分寺跡第718・722次調査 | 59 |
| (4) 武藏国分寺跡第719次調査 | 84 |
| (5) 武藏国分寺跡第721次調査 | 88 |
| (6) 恋ヶ窪遺跡第98次調査 | 93 |
| (7) 多摩蘭坂遺跡第13次調査 | 102 |
| (8) 本町(国分寺村石器時代)遺跡第14次調査 | 104 |
| (9) №29遺跡第4次調査 | 108 |
| (10) №41遺跡第1次調査 | 111 |
| 第3章 総括 | 114 |
| 付編 | 118 |
| (1) 元町通り水道管布設替工事に伴う立会調査 | 118 |
| (2) 武藏国分寺跡史跡整備工事に伴う立会調査 | 135 |
| (3) 平成27年度の立会調査で出土した遺物 | 138 |
| (4) 武藏国分寺跡第698次調査 | 139 |
| 報告書抄録 | 158 |
| 奥付 | |

挿 図 目 次

- | | |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>第 1 図 国分寺市の地形模式図</p> <p>第 2 図 国分寺城郭と湧水</p> <p>第 3 図 中門跡（南東から）</p> <p>第 4 図 鏡模跡（南西から）</p> <p>第 5 図 № 1 立会状況</p> <p>第 6 図 № 29 立会・構検出状況</p> <p>第 7 図 № 32 立会状況</p> <p>第 8 図 № 67 立会状況</p> <p>第 9 図 № 126 立会状況</p> <p>第 10 図 № 179 立会状況</p> <p>第 11 図 № 181 立会状況</p> <p>第 12 図 № 214 立会状況</p> <p>第 13 図 平成 28 年度 届出・通知および立会記録№ 67 で 出土した遺物実測図</p> <p>第 14 図 平成 28 年度 届出・通知および立会記録№ 67 で 出土した遺物写真</p> <p>第 15 図 武藏国分寺跡伽藍配置模式図</p> <p>第 16 図 武藏国分寺跡の位置</p> <p>第 17 図 野川上流域の主な旧石器・縄文時代集落遺跡</p> <p>第 18 図 調査地位位置図</p> <p>第 19 図 MKIII-716 調査地位位置図</p> <p>第 20 図 MKIII-716 調査区全体図</p> <p>第 21 図 MKIII-716・383 調査区</p> <p>第 22 図 MKIII-716 SA19 平面図</p> <p>第 23 図 SA19-2 土層断面図</p> <p>第 24 図 SA19-3 土層断面図</p> <p>第 25 図 SD436・SD44 平面図</p> <p>第 26 図 SD44・SD436 A・B 土層断面図</p> <p>第 27 図 MKIII-716 調査区全景（南から）</p> <p>第 28 図 MKIII-716 調査区全景（北から）</p> <p>第 29 図 SA19-2・3 検出状況（北から）</p> <p>第 30 図 SA19-2・3 検出状況（東から）</p> <p>第 31 図 SA19-2・3 全景（東から）</p> <p>第 32 図 SA19-2・3 全景（西から）</p> <p>第 33 図 SA19-2断面（南から）</p> <p>第 34 図 SA19-3断面（東から）</p> <p>第 35 図 SD436・SD44 接出状況（南から）</p> <p>第 36 図 SD436 A・B 全景（北から）</p> <p>第 37 図 SD436 A・B 土層断面（東から）</p> <p>第 38 図 SD44 全景（南から）</p> <p>第 39 図 SD44 土層断面（東から）</p> <p>第 40 図 調査風景 1（北から）</p> <p>第 41 図 調査風景 2（北から）</p> | <p>第 42 図 MKIII-716 出土遺物実測図 1</p> <p>第 43 図 MKIII-716 出土遺物写真 1</p> <p>第 44 図 MKIII-716 出土遺物実測図 2</p> <p>第 45 図 MKIII-716 出土遺物写真 2</p> <p>第 46 図 MKIII-716 出土遺物実測図 3</p> <p>第 47 図 MKIII-716 出土遺物写真 3</p> <p>第 48 図 MKIII-716 出土遺物実測図 4</p> <p>第 49 図 MKIII-716 出土遺物写真 4</p> <p>第 50 図 MKI-717 調査地位位置図</p> <p>第 51 図 A トレンチ全景（東から）</p> <p>第 52 図 B トレンチ全景（南から）</p> <p>第 53 図 C トレンチ全景（北から）</p> <p>第 54 図 MKI-717 調査区全体図</p> <p>第 55 図 MKI-717 土層柱状図（西壁）</p> <p>第 56 図 C トレンチ西壁土層断面</p> <p>第 57 図 遺物出土状況（A601）A トレンチ（東から）</p> <p>第 58 図 MKIII-716 出土遺物実測図・写真</p> <p>第 59 図 MKIV-718・722 調査地位位置図</p> <p>第 60 図 MKIV-722 土層柱状図（北壁）</p> <p>第 61 図 MKIV-718 B トレンチ東壁土層断面</p> <p>第 62 国 志ヶ窪廃寺跡と周辺の中世遺構群</p> <p>第 63 国 志ヶ窪廃寺跡 全体図</p> <p>第 64 国 志ヶ窪廃寺跡周辺出土の中世遺物 -1（土器・陶磁器）</p> <p>第 65 国 志ヶ窪廃寺跡周辺出土の中世遺物 -2（石塔）</p> <p>第 66 国 志ヶ窪廃寺跡周辺出土の中世遺物 -3（石塔・石製品）</p> <p>第 67 国 国分寺村の字別開発と国分寺村材繪図（明治 2 年）</p> <p>第 68 国 武藏国分寺跡周辺の中世遺物出土地点と国分寺村 給図（明治 2 年）「字編之内」範囲</p> <p>第 69 国 伝祥応寺跡周辺出土の中世遺物 -1（土器・陶磁器）</p> <p>第 70 国 伝祥応寺跡周辺出土の中世遺物 -2（石塔）</p> <p>第 71 国 MKIV-718 調査区全体図</p> <p>第 72 国 MKIV-718 SD170 平面・断面図</p> <p>第 73 国 MKIV-718 縄文時代遺構 平面・断面図</p> <p>第 74 国 MKIV-722 調査区全体図</p> <p>第 75 国 MKIV-722 SD170 平面・断面図</p> <p>第 76 国 MKIV-722 SD153・170 平面・断面図</p> <p>第 77 国 MKIV-722 遺物出土位置図</p> <p>第 78 国 MKIV-718 A トレンチ全景（南から）</p> <p>第 79 国 MKIV-718 B トレンチ全景（北から）</p> <p>第 80 国 MKIV-718 C トレンチ全景（東から）</p> <p>第 81 国 MKIV-718 C トレンチ全景（西から）</p> |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

- 第82図 SD170 確認状況（北から）
- 第83図 SD170 完掘全景（南から）
- 第84図 SD170 土層断面（西から）
- 第85図 SK3458J・3459J 完掘全景（西から）
- 第86図 SK3458J 土層断面（南から）
- 第87図 SK3459J 土層断面（西から）
- 第88図 SK3460J 完掘全景（西から）
- 第89図 SK3460J 土層断面（南から）
- 第90図 MKIV-722 Aトレンチ完掘全景（東から）
- 第91図 MKIV-722 Aトレンチ完掘全景（西から）
- 第92図 SD170 完掘全景（西から）
- 第93図 SD170 完掘全景（東から）
- 第94図 SD170 土層断面及び白磁出土状況（西から）
- 第95図 SD170・SD3 土層断面（東から）
- 第96図 SD3 土層断面（南から）
- 第97図 SD170 遺物出土状況（東から）
- 第98図 MKIV-718 出土遺物実測図（歴史時代）
- 第99図 MKIV-718 出土遺物実測図（縄文時代）
- 第100図 MKIV-718 出土遺物写真（歴史時代）
- 第101図 MKIV-718 出土遺物写真（縄文時代）
- 第102図 MKIV-722 出土遺物実測図
- 第103図 MKIV-722 出土遺物写真
- 第104図 MKIII-719 調査位置図
- 第105図 MKIII-719 調査区全体図
- 第106図 MKIV-719 土層柱状図（北壁）
- 第107図 北壁土層断面（南から）
- 第108図 MKIV-719 調査区全景（東から）
- 第109図 MKIV-719 遺構断面図
- 第110図 SK3457断面（南から）
- 第111図 SK3457調査区内完掘状況（南から）
- 第112図 P-1断面（南から）
- 第113図 P-2完掘状況（東から）
- 第114図 MKIV-719 出土遺物実測図（上）・出土遺物写真（下）
- 第115図 MKI-721 調査位置図
- 第116図 Aトレンチ全景歴史時代確認面（東から）
- 第117図 Bトレンチ全景歴史時代確認面（西から）
- 第118図 MKI-721 調査区全体図
- 第119図 MKIV-721 土層柱状図（南壁）
- 第120図 MKIV-721 遺構断面図
- 第121図 Cトレンチ東壁土層断面（西から）
- 第122図 PJ-1断面（北から）
- 第123図 遺物出土状況（AG01）Bトレンチ（北から）
- 第124図 Cトレンチ全景縄文確認面（東から）
- 第125図 Bトレンチ全景縄文確認面（西から）
- 第126図 Aトレンチ ブレ坑（西から）
- 第127図 Aトレンチ 縄文土器出土状況（南から）
- 第128図 Cトレンチ 南壁土層堆積状況（北から）
- 第129図 Bトレンチ 南壁土層堆積状況（北から）
- 第130図 作業風景 1
- 第131図 作業風景 2
- 第132図 MKIV-721 出土遺物実測図
- 第133図 MKIV-721 出土遺物写真
- 第134図 K 2-98 調査位置図
- 第135図 K 2-98 土層柱状図（Bトレンチ北壁）
- 第136図 Bトレンチ北壁土層断面（南から）
- 第137図 K 2-98 調査区全体図
- 第138図 SX2 平面図
- 第139図 SX2 断面図
- 第140図 SX3 平面図
- 第141図 SX4 平面図
- 第142図 Cトレンチ 南壁土層断面図
- 第143図 Aトレンチ表土下遺構確認面（西から）
- 第144図 Aトレンチ全景（北から）
- 第145図 Aトレンチ南壁土層断面（北から）
- 第146図 Aトレンチ砂礫層近影（北から）
- 第147図 SX3完掘状況（北から）
- 第148図 作業風景 1
- 第149図 Bトレンチ全景（北から）
- 第150図 SX3完掘状況（北から）
- 第151図 Bトレンチ北壁土層断面（南から）
- 第152図 作業風景 2
- 第153図 Cトレンチ調査前の現況（南から）
- 第154図 Cトレンチ全景（西から）
- 第155図 SX3東側完掘状況（西から）
- 第156図 SX3東側完掘状況（北から）
- 第157図 Cトレンチ南壁土層断面（北から）
- 第158図 SX3西側（北から）
- 第159図 K 2-98 出土遺物実測図
- 第160図 K 2-98 出土遺物写真
- 第161図 K 7-13 調査位置図
- 第162図 K 7-13 土層柱状図（南壁）
- 第163図 南壁土層断面（北から）
- 第164図 K 7-13 調査区全体図
- 第165図 K 7-13 調査区全景（北から）
- 第166図 調査区縄文確認面（北から）
- 第167図 作業風景
- 第168図 K28-14 調査位置図
- 第169図 K28-14 Bトレンチ 土層柱状図（南壁）
- 第170図 Bトレンチ 南壁土層断面（北から）
- 第171図 K28-14 調査区全体図
- 第172図 Aトレンチ全景（東から）

- 第173図 Bトレンチ全景（東から）
- 第174図 K28-14 平面図
- 第175図 Aトレンチ 北壁土層断面（南から）
- 第176図 調査前の状況（西から）
- 第177図 作業風景
- 第178図 PJ-1断面（東から）
- 第179図 PJ-2断面（南から）
- 第180図 PJ-1～4断面図
- 第181図 PJ-3断面（東から）
- 第182図 PJ-4断面（東から）
- 第183図 K29-4 調査地位置図
- 第184図 K29-4 土層柱状図（北壁）
- 第185図 Bトレンチ 南壁土層断面（北から）
- 第186図 K29-4 調査区全体図
- 第187図 調査区縄文確認面全景（東から）
- 第188図 調査区全景（東から）
- 第189図 調査地点遠影（南西から）
- 第190図 調査前 トレンチ設置状況（南西から）
- 第191図 調査地点から南東を望む
- 第192図 調査地点から南を望む
- 第193図 調査地点から西を望む
- 第194図 作業風景
- 第195図 北壁東側土層断面 合成写真（南から）
- 第196図 K41-1 調査地位置図
- 第197図 K41-1 土層柱状図（西壁）
- 第198図 Aトレンチ 西壁土層断面（東から）
- 第199図 K41-1 調査区全体図
- 第200図 Aトレンチ奈良・平安時代確認面（南東から）
- 第201図 Aトレンチ奈良・平安時代確認面（北東から）
- 第202図 Aトレンチ 縄文時代確認面（北東から）
- 第203図 Aトレンチ 縄文時代確認面（南西から）
- 第204図 Aトレンチ 北端ブレ坑全景（北東から）
- 第205図 Bトレンチ 縄文時代確認面（北西から）
- 第206図 Bトレンチ ブレ坑全景（南東から）
- 第207図 Bトレンチ 南東壁土層断面（北西から）
- 第208図 調査前の状況
- 第209図 作業風景

表 目 次

- 第 1 表 平成 28 年度の届出・通知の提示事項と割合
- 第 2 表 届出・通知および調査件数
- 第 3 表 発掘調査面積の推移
- 第 4 表 平成 28 年度 届出・通知および立会記録等一覧 (1)
- 第 5 表 平成 28 年度 届出・通知および立会記録等一覧 (2)
- 第 6 表 平成 28 年度 届出・通知および立会記録等一覧 (3)
- 第 7 表 平成 28 年度 届出・通知および立会記録等一覧 (4)
- 第 8 表 平成 28 年度 届出・通知および立会記録等一覧 (5)
- 第 9 表 平成 28 年度 届出・通知および立会記録等一覧 (6)
- 第 10 表 平成 28 年度 届出・通知および立会記録等一覧 (7)
- 第 11 表 平成 28 年度 届出・通知および立会記録等一覧 (8)
- 第 12 表 平成 28 年度 届出・通知および立会記録等一覧 (9)
- 第 13 表 平成 28 年度 届出・通知および立会記録等一覧 (10)
- 第 14 表 平成 26 年度の届出に対する立会記録
- 第 15 表 平成 28 年度 届出・通知および立会記録No.67 遺物観察表
- 第 16 表 MKIII-716 遺物観察表
- 第 17 表 MKI-717 遺物観察表
- 第 18 表 MKIV-718・722 遺物観察表
- 第 19 表 MKI-719 遺物観察表
- 第 20 表 MKIV-721 遺物観察表
- 第 21 表 K 2 - 98 遺物観察表

第1章 国分寺市の埋蔵文化財

【国分寺市の地形と埋蔵文化財】

国分寺市は、通称「ハケ」と呼ばれる国分寺崖線を境として、地形的に北と南に分けられている。国分寺崖線は、古多摩川が武藏野台地を10万年以上の歳月をかけて削りとつて形成された河岸段丘の連なりを指し、北と南の標高差（崖高）は10～20m、東西の長さは約30kmにわたる。崖線沿いには樹林や湧水などの豊かな自然環境が形成され、この崖線上を武藏野段丘、崖下を立川段丘と呼んでいる。

武藏野段丘の縁辺部には、本多谷・殿ヶ谷戸谷・さんや谷・恋ヶ窪谷のようないくつもの開析谷が作られ、崖線下からの湧水はこれらの谷を通じて集まり野川となっている。こうした起伏に富む豊かな自然環境のもと、野川を中心に市内には人類が日本列島に住み始めた旧石器時代以来の生活痕跡が多く残されている。そして、7世紀後半頃に市域を南北に縱走する古代官道の東山道武藏路が整備されると、奈良時代には、市名の由来となった武藏国分寺が国分寺崖線を背にして建立された。

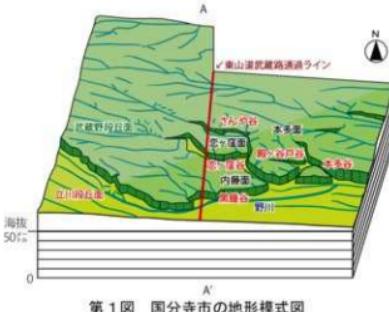
先人がこの土地に残した遺構や遺物（埋蔵文化財）を保存・活用し、現在を生きる私たちの文化的向上に役立て、さらに未来へ引き継いでいくことは大切なことであり、「文化財保護法」（以下「法」という）では、国や地方公共団体に対し、遺跡である「埋蔵文化財を包蔵する土地として周知されている土地」（「周知の埋蔵文化財包蔵地」）を的確に把握し、周知の徹底に努めるように求めている（法第95条第1項）

^{※1}。国分寺市では、現在48箇所の周知の埋蔵文化財包蔵地（以下、「包蔵地」）が確認されている。そのうち、武藏国分寺跡の中中枢周辺と東山道武藏路跡の一部については、国の史跡に指定されてる。

【包蔵地内の土木工事】

包蔵地の範囲内で掘削を伴う土木工事を行う場合には、埋蔵文化財保護の観点から、法に基づき、着手しようとする日の60日前までに届出（法第93条第1項）^{※2}、もしくは通知（法第94条第1項）^{※3}を行なう必要がある。届出（通知）は国分寺市教育委員会を通して東京都教育委員会に進達され、工事が埋蔵文化財に与える影響を考慮して必要な措置（指示内容）が都から届出者に対して通知される。

市内の包蔵地では、地表からおよそ40～100cm下（深いところでは10cm前後）に遺



第1図 国分寺市の地形模式図



第2図 国分寺崖線と湧水

構が存在している。そのため、工事に伴う掘削深度がこれより深い場合は、埋蔵文化財が壊される可能性があるため、遺跡の広がりや性格、遺構の種別を探る目的で確認調査（法第 99 条第 1 項）^{*4}を行っている。その結果、事業者と協議の上で、やむを得ず開発により遺跡を壊すことになった場合には、事前に記録保存調査を行い（発掘調査）、その費用については、原因者に負担をお願いしている（法第 99 条第 2 項）^{*4}。なお、周辺の発掘調査履歴や、遺構の密度などを考慮し、掘削範囲や深度が埋蔵文化財に与える影響が軽微と考えられる場合には、工事の際に市職員が立会を行っている（立会調査）。

【国指定史跡と現状変更】

史跡とは、貝塚・古墳・都城・旧宅・その他の遺跡で我が国にとって歴史上又は学術上価値の高いものを指し、国や自治体によって指定される。国分寺市内には国によって指定された史跡武藏国分寺跡附東山道武藏路跡があり、国分寺市では郷土の歴史を語り継ぐようとして、そして国民共有の貴重な財産として保存・整備・活用するための事業を推進している。この史跡内で工事などによって現状を変更する場合については、文化庁長官の許可を受けなければならない（法第 125 条）^{*5}。また、掘削を伴う工事がある場合は、さらに埋蔵文化財発掘の届出もしくは通知の提出が必要となる。

【文化財保護法】抜粋（昭和 25 年 5 月 30 日法律第 214 号・最終改正 平成 23 年 5 月 2 日法律第 37 号）

※1 （埋蔵文化財包蔵地の周知）第 95 条第 1 項

国及び地方公共団体は周知の埋蔵文化財包蔵地について、資料の整備その他その周知の徹底を図るために必要な措置の実施に努めなければならない。

※2 （土木工事のために発掘に関する届出及び指示）第 93 条第 1 項

土木工事その他の埋蔵文化財の調査以外の目的で、貝づか・古墳その他の埋蔵文化財を包蔵する土地として周知されている土地（以下「周知の埋蔵文化財包蔵地」という。）を発掘しようとする場合には、前条第 1 項の規定を準用する。この場合において同項中「30 日前」とあるのは、「60 日前」と読み替えるものとする。

※3 （国の機関等が行う発掘に関する特例）法第 94 条第 1 項

国の機関（中略）が前条第 1 項に規定する目的で周知の埋蔵文化財包蔵地を発掘しようとする場合においては、同条の規定を適用しないものとし、当該国の機関等は、当該発掘に係る事業計画の策定に当たって、あらかじめ文化庁長官にその旨を通知しなければならない。

※4 （地方公共団体による発掘の施行）法第 99 条第 1・2 項

地方公共団体は、文化庁長官が前条第一項の規定により発掘を実施するものを除き、埋蔵文化財について調査する必要があると認めるときは、埋蔵文化財を包蔵すると認められる土地の発掘を実施することができる。

2 地方公共団体は、前項の発掘に際し、事業者に対し協力を求めることができる。

※5 （現状変更等の制限及び原状回復の命令）第 125 条

史跡名勝天然記念物に關しその現状を変更し、又はその保存に影響を及ぼす行為をしようとするときは、文化庁長官の許可を受けなければならない。ただし、現状変更については維持の措置（中略）、保存に影響を及ぼす行為については影響の軽微である場合は、この限りではない。

【平成 28 年度の届出・通知の件数】

近年の埋蔵文化財発掘の届出・通知の件数は、200 件前後で推移しており、平成 28 年度は 207 件(緊急工事の後日提出分等含む)あつた。届出(通知)に対する確認調査・発掘調査の指示は合わせて 14 件(1 件は工事中止)あり、このうち 3 件(確認調査 2 件、発掘調査 1 件)は次年度に調査を行った。

平成 28 年度に実施した調査のうち、国庫補助事業による調査は平成 27 年度分の届出 1 件(№29 遺跡第 4 次)、平成 28 年度分の届出 8 件(武藏国分寺跡第 716・717・719・721 次、恋ヶ窪遺跡第 98 次、多摩蘭坂遺跡第 13 次、本町(国分寺村石器時代)遺跡第 14 次、№41 遺跡第 1 次)の計 9 件となっている。

このほかに国分寺市教育委員会と民間調査会社、開発事業者の三者で協定を締結し、開発事業者が費用を負担して、民間調査会社(法第 92 条による)が実施した発掘調査が 2 件(羽根沢遺跡第 8・10 次)、公共機関が費用を負担し、国分寺市遺跡調査会が実施した確認調査が 1 件(武藏国分寺跡第 718 次)同じく発掘調査が 1 件(武藏国分寺跡第 722 次)、開発事業者・公共機関が費用を負担し、国分寺市教育委員会が主体となって実施した確認調査が 2 件(武藏国分寺跡第 720 次、羽根沢遺跡第 9 次)あった。

第 2 表 届出・通知および調査件数

| | 平成 24 年度 | 平成 25 年度 | 平成 26 年度 | 平成 27 年度 | 平成 28 年度 |
|------------------------|---------------|----------|----------|----------|----------|
| 埋蔵文化財発掘の届出 法第 93 条 | 170 | 184 | 193 | 172 | 183 |
| 埋蔵文化財発掘の通知 法第 94 条 | 49 | 39 | 23 | 21 | 24 |
| 埋蔵文化財発掘調査の届出 法第 92 条 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 |
| 史跡・名勝現状変更許可申請 法第 125 条 | 7 | 4 | 5 | 5 | 7 |
| 国分寺市遺跡調査会(委託) | 24 | 11 | 11 | 14 | 11 |
| 発掘調査件数 | 国分寺市教育委員会(直接) | 0 | 0 | 1 | 0 |
| | 民間調査会社(三者協定) | 0 | 3 | 2 | 4 |

【発掘調査面積の推移】

平成 28 年度の国庫補助事業による調査面積は約 237 m²で、昨年度とほぼ同じであった。開発事業者負担による調査は昨年度から増加し、平成 28 年度は平成 27 年度から継続して行っている大規模開発や、公共機関負担の調査もあり、市内全体では 7,858 m²の調査が実施された。

第 3 表 発掘調査面積の推移

単位: m² 小数点以下切り捨て

| | | 平成 24 年度 | 平成 25 年度 | 平成 26 年度 | 平成 27 年度 | 平成 28 年度 |
|----------------|-------------|----------|----------|----------|----------|----------|
| 土木工事等に伴う調査 | 事業者負担による調査 | 民間企業負担 | 0 | 0 | 4,255 | 15,552 |
| | | 公共機関負担 | 4,000 | 326 | 0 | 1,617 |
| | 補助金による調査 | 発掘調査 | 94 | 216 | 23 | 8 |
| | | 確認調査 | 155 | 360 | 182 | 237 |
| | 国分寺市負担による調査 | 試掘調査 | 7 | 0 | 0 | 0 |
| | | 確認調査 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 土木工事等に伴う調査面積合計 | | 4256 | 902 | 4,460 | 15,793 | 7,858 |

第 1 表 平成 28 年度の届出・通知の指示事項と割合

| 指示内容内訳 | 件数 | 割合 |
|--------|-----|-------|
| 発掘調査 | 3 | 1.6% |
| 確認調査 | 11 | 5.6% |
| 立会調査 | 139 | 69.7% |
| 慎重工事 | 46 | 23.1% |

*緊急工事(8 件)を除く。

【史跡整備事業と普及活動】

国分寺市では事前遭撲確認調査の成果をもとに、史跡武藏国分寺跡（僧寺）を歴史公園として開園するための整備工事を進めている。平成28年度は、主に中門跡周辺の中門・参道・築地塀・堀内外の溝の平面表示や輪竿の立体復元、鐘楼跡の平面表示を行った。



第3図 中門跡（南東から）



第4図 鐘楼跡（南西から）

また、市域の貴重な埋蔵文化財を保護し、後世に伝えていくために、発掘調査で得られた調査成果をもとに、平成28年度も様々な公開・普及活動事業を行った。なお、発掘調査によって出土した土器や瓦は、武藏国分寺跡資料館や文化財資料展示室（市立第四中学校内）などで展示している。また、刊行した報告書や普及書は資料館や図書館、市役所オーブナー等で閲覧することができる。

平成28年度に実施した埋蔵文化財・史跡関係の主な普及活動

1. 武藏国分寺跡資料館企画展示

夏季企画展「瓦から見た武藏国分寺の造営」〔会期〕7月23日～8月28日〔観覧者数〕489人

第2回国分寺・坂戸市合同企画展「東山道武蔵路とともに生きる～路でつながる古代の国分寺と坂戸～」

〔会期〕1月14日～3月12日〔観覧者数〕623人

2. 文化財めぐり

市内文化財めぐり：市内の文化財を市職員の案内で歩いて巡る。〔実施日〕10月10日〔参加者数〕48人

市外文化財めぐり：「バスで行く！市外文化財めぐり」群馬県高崎市（上野国分寺跡・かみつけの里博物館・群馬県立博物館）〔実施日〕11月19日〔参加者数〕45人

3. 講座・講演

市民歴史講座：国分寺市・堀山町の連携事業。「武藏国分寺と堀山窯跡群における瓦生産体制」と題し、各自治体職員の講師による2部構成で実施。〔実施日〕12月10日〔参加者数〕39人

歴史講演会「武藏国分寺跡の今・昔」と題し、2部構成で「武藏国分寺跡の調査と保存のあゆみ」を市職員が、「江戸から見た武藏国分寺跡」を青木直己氏が講演。〔実施日〕2月12日〔参加者数〕133人

4. イベント

鏡瓦等のレプリカ作成：子ども向けワークショップとして資料館所蔵品の型取り、色付けを行いレプリカを作成。〔実施日〕11月6日〔参加者数〕48人

5. 印刷物の作成

『武藏国分寺跡資料館だより』 第26号～第29号 各2,000部

『国史跡追加指定記念 古代道路を掘る 一東山道武蔵路の調査成果と保存活用一』 1,000部

第4表 平成28年度 届出・通知および立会記録等一覧（1）

| No. | 日付 | 条 | 申請地 | 申請工事内容 | 指示内容 | 立会実施日 | 立会記録・調査次数・備考 |
|-----|----------|-----|------------------------|------------------------------|------|--------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | H28.4.4 | 93条 | 泉町2-102-11 | その他建物 (排水工事) | 工事立会 | ①H28.4.12 ②H28.5.11 ③H28.5.12 ④H28.5.25 | ①排水管接続。GL-250cmまで掘削。-130cmまで路盤。以下ローム。崩山の可能性あり。東側ではローム砂山の下に砂があった。②-130cmまで掘削。砂の多い土内施工。底部でローム。③、④の東側。-300cmまで掘削。-200cmの管の下はローム。④、⑤の北側。-220cmまで掘削。管周辺は崩山。それ以外はローム。 |
| 2 | H28.4.5 | 93条 | 泉町1-16～18 | ガス | 慎重工事 | — | — |
| 3 | H28.4.8 | 93条 | 西志ヶ庄1-20-62 | 個人住宅 | 工事立会 | H28.6.2 | 基礎根切。没透ます。敷地西側。GL-40cmまで掘削。-30cmまでローム混じり黒色土。以下に表土。 |
| 4 | H28.4.11 | 93条 | 南町1-10先 | 水道 | 工事立会 | H28.5.6 | 東側根切。GL-150cmまで掘削。-40cmまで路盤。以下砂の多い崩山。それ以外の場所も同じ。 |
| 5 | H28.4.12 | 94条 | 日吉町1-31～3-18先 | 道路・水道 | 工事立会 | H28.7.1 | 崩山内施工。 |
| 6 | H28.4.13 | 93条 | 西元町2-4(E) | 個人住宅 | 工事立会 | H28.6.6 | 基礎根切。GL-50cmまで掘削。耕作土・ロームなどが混じる崩山。 |
| 7 | H28.4.15 | 94条 | 泉町2-2 | 電話 | 工事立会 | ①H28.5.18 ②H28.5.19 | ①中央部。GL-120cmまで掘削。-40cmまで路盤。以下の砂の多い崩山。②管を共通渠につなぐ。南側。-140cmまで掘削。-90cmまで路盤。以下同。 |
| 8 | H28.4.15 | 93条 | 東志ヶ庄1-280 | その他建物 (研究所)、ガス・ 水道・電気等 | 発掘調査 | — | K5-9次調査(試掘調査)、K5-10次(発掘調査)。 |
| 9 | H28.4.18 | 93条 | 東元町4-18-18 | ガス | 工事立会 | H28.4.26 | GL-120cmまで掘削。-40cmまで路盤。下はローム多い崩山。底には様なインフ。 |
| 10 | H28.4.18 | 93条 | 泉町1-10-10 | 個人住宅 | 工事立会 | H28.6.9 | 深層根切。GL-50cmまで掘削。黄色い砂・ローム・黒色土・表土が混ざり、黒色土が底点状に混じる所にある。 |
| 11 | H28.4.19 | 93条 | 南町1-177-66(1-11) | 個人住宅 | 工事立会 | H28.5.31 | GL-30cmまで掘削。-5cmまでローム多い崩山。以下はローム。 |
| 12 | H28.4.19 | 93条 | 東元町3-12-11 | 個人住宅 | 工事立会 | ①H28.6.27 ②H28.6.28 | ①GL-80cmまで掘削。南側では-35cmまで表土。-65cmまでⅢb層。-75cmまでⅢc層。以下IV層。 ②-80cmまで掘削。-60cmからローム。東北に向かって表土が厚くなる。 |
| 13 | H28.4.20 | 93条 | 泉町1-10- | ガス | 工事立会 | H28.6.2 | GL-90cmまで掘削。ほほ崩山。歩道中央部に若干黒色地山。 |
| 14 | H28.4.21 | 93条 | 西元町2-11先 | 水道 | 工事立会 | ①H28.6.7 ②H28.6.8 | ①②中央部。GL-180cmまで掘削。-40cmまで路盤。-80cmまで表土。以下ローム・水道・ガスなどの管内。②東側。-140cmまで掘削。-16cmまで路盤。南に向かって厚くなる。道路中央より南は全て崩山。①と東側の間の工事。-80cmまで掘削。-30cmまで路盤。下はローム多め崩山。 |
| 15 | H28.4.25 | 93条 | 東志ヶ庄1-235 | ガス | 慎重工事 | — | — |
| 16 | H28.4.26 | 93条 | 東元町3-14-19先 | 電気 | 工事立会 | ①H28.5.11 ②H28.9.23 | ①GL-140cmまで掘削。40cmまでリテラ。以下ローム。②電柱接替。-140cmまで掘削。路盤。以下碎石もあるがローム多め崩山。 |
| 17 | H28.4.27 | 93条 | 西元町4-2- | 水道 | 工事立会 | H28.6.3 | 尼寺門内側溝を検査。電柱から東へ1.3mの所。北へ0.2m、南へ1mの範囲に柱を検出。掘削した西壁面。北はガスの管で削平されている。GL-40cmまで路盤。-60cmまで暗褐色土。粘性ややあり、しまりあり。ローム粒を20%含む。部分的にローム粒しみ状に入る直径14cm程度。-78cmまで暗灰褐色土。粘性ややあり、しまりなし。ローム粒を40%含む。-98cmまで暗褐色。粘性ややあり、しまりなし。底部にロームブロック。ローム粒を10%含む。以下はローム。 |
| 18 | H28.4.28 | 93条 | 泉町2-102,2 | 水道 | 慎重工事 | — | — |
| 19 | H28.4.28 | 93条 | 東元町3-14-10 | ガス | 緊急工事 | — | 緊急工事。 |
| 20 | H28.5.6 | 93条 | 西元町3-2198-3 | 分譲住宅 | 工事立会 | ①H28.6.15 ②H28.6.30 | ①基礎根切。基礎が打たれていたため。GL-20cmまでしか確認できなかったが、ガラ混じり崩山。②道路脇の配管。-60cmまで掘削。-30cmまで固められた砂石。以下はローム多め崩山。 |
| 21 | H28.5.9 | 93条 | 西元町2-1668-6(2-4) | 個人住宅 | 工事立会 | — | 写真撮影。遺物・遺構なし。 |
| 22 | H28.5.9 | 93条 | 本町4-6～17 | ガス | 工事立会 | H28.7.14 | GL-100cmまで掘削。-40cmまで路盤。-60cmまで耕作土。-80cmまで黒色土地山。以下はローム。 |
| 23 | H28.5.11 | 93条 | 南町1-177-53の一部 (1号棟) | 分譲住宅 | 工事立会 | H28.6.1 | GL-35cmまで掘削。表土内施工。 |

※グレー20%の網掛け部分は本書掲載の発掘調査に伴う届出(平成27年度届出分を除く)

※「包蔵地外工事立会」は国分寺市文化財の保存と活用に関する条例に基づき、包蔵地外で実施した立会

第5表 平成28年度 届出・通知および立会記録等一覧（2）

| No. | 日付 | 条 | 申請地 | 申請工事内容 | 指示内容 | 立会実施日 | 立会記録・調査次数・備考 |
|-----|----------|-----|------------------------|--------------------|------|-------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 24 | H28.5.11 | 93条 | 南町1-177-53,-59の一部（2号機） | 分譲住宅 | 工事立会 | ①H28.5.18 ②H28.6.1 | ①地盤改良。見える範囲は表土、多少ロームが入る。防砂層があったという情報があり、後日提供を受けた情報によると、GL-25cmの所に防砂層の天井部分と思われる無筋コンクリートがあるそのままが空洞、規格は不明。②-30cmまで削削。表土は施工。地盤改良の影響か、No.23よりロームが多く混じる。 |
| 25 | H28.5.11 | 93条 | 本町4-2962-42,43 | 集合住宅 | 工事立会 | H28.7.11 | 基礎根切。西側はGL-50cmまで削削。-20cmまでローム・ガラ混じり掘山。以下は黒色土・ガラ混じり掘山。北側は-40cmまで削削。-20cmまでローム・ガラ混じり掘山。以下は黒色土地山。 |
| 26 | H28.5.13 | 93条 | 本町4-24-1先 | 電気 | 工事立会 | - | 写真受領。遺物・遺構なし。 |
| 27 | H28.5.13 | 93条 | 西元町4-2-18先 | 電気 | 工事立会 | H28.6.7 | GL-40cmまで路盤・礫・ガラ・瓦が混じる。以下はローム。 |
| 28 | H28.5.17 | 93条 | 西志ヶ窪3-13-64,66 | 個人住宅 | 工事立会 | H28.7.4 | 基礎根切。南側ではGL-30cmまで削削。北側は道路面が100cm下がる。南北部分で南北に1m、東西に2mの範囲でローム。 |
| 29 | H28.5.18 | 94条 | 東元町3-12 | 水道 | 工事立会 | ①H28.5.26 ②H28.5.31 ③H28.6.1 ④H28.6.6 ⑤H28.6.14 | ①アンホール設置。GL-210cmまで削削。東面で-40cmまで路盤。-60cmまでローム混じり掘山。-70cmまで北側に向って黒色土地山が厚くなる。以下ローム。西側で提出されたSD66の延長の可能性はあるが、謹体自体は既存の下水管材にあたつていたため、確認はできず。②アンホール設置。-20cmまで削削。-40cmまで路盤。-50cmまで耕作土。-65cm以下ローム。-100cm以下ハドローム。東面に穴の植筋。穴の底は-85cm、上面が-80cm。底部は60cm。跡肩から2.0mが穴の中央。穴の覆土は、粘性、しまりなし、黒褐色土、ローム粒、炭化物・スコリア少量。南側には-80cmまで路盤の掘山。西面は-80cmまで路盤のためSDにつながっていないか不明。③、④、⑤で接続する管設置。-200cmまで削削。-40cmまで路盤。-80cmに黒色土。場所によっては黒色土からローム移行層、以下はローム。⑤写真受領。-150cmまで削削。-70cm以下にはロームが残る所もあるが、ほぼ崩山。 |
| 30 | H28.5.18 | 93条 | 泉町2-102-11 | ガス | 営重工事 | - | - |
| 31 | H28.5.20 | 94条 | 本町2-3 | 水道 | 緊急工事 | H28.5.18 | 道路陥没。GL-160cmまで削削。すべてローム主体掘山。 |
| 32 | H28.5.20 | 94条 | 泉町2-2- | 地質調査 | 工事立会 | ①H28.9.5 ②H28.9.12 | ① (1) (2) 地点。GL-35cmまで表土、-80cmまでガラ混じり掘山。-20cmまで黒色土、以下ローム。ロームの上はほぼ掘山と思われる。③(3) 地点。-10cmまで表土、-30cmまでガラ混じり掘山。-150cmまで黒色土、以下ローム。-50cmと-60cmのサンブルは黒味があり黒色帯と思われる。 |
| 33 | H28.5.23 | 93条 | 光町2-9-7 | ガス | 工事立会 | H28.7.12 | 写真提供。GL-90cmまで削削。路盤以下は全てローム。 |
| 34 | H28.5.23 | 93条 | 西志ヶ窪1-13-5 | 解体・集合住 | 工事立会 | H28.7.27 | 宅地は GL+140cm。-40cmまで削削。表土なし。 |
| 35 | H28.5.24 | 緊急 | 本町4-24-31地先 | ガス | 緊急工事 | H28.5.24 | 緊急工事。GL-70cmまで削削。掘山なし。 |
| 36 | H28.5.26 | 94条 | 泉町2-2- | その他開発 (埋設物試掘調査) | 工事立会 | ①H28.8.23 ②H28.8.24 | ※() 内は届出時の試掘地点番号。 ①(16) GL-20cmで取り除けないサイズのガラ。(15)-40cmで取り除けないサイズのガラ。(14)-10cmまで削削。-30cmまで表土。-90cmまで盛土。以下 III b 層。奈良時代の土器片検出。②(12)-80cmまで削削。-20cmまで砂質掘山。-40cmまでローム多い掘山。-60cmまで黒色土地山。底部に近代のゴミ焼き穴、ガラスが入る。(11)-60~140cmまでコンクリート壁。金屬蓋、底に川原石。周辺のロームは粘土化。元トイレか。(13)-100cmまで削削。-20cmまで砂質掘山。-30cmまで黒色土。-50cmまでローム。ガラ混じり掘山。-70cmまでローム。-80~90cmにIII b 層。地山との境目に砂。 |

第6表 平成28年度 届出・通知および立会記録等一覧（3）

| No. | 日付 | 条 | 申請地 | 申請工事内容 | 指示内容 | 立会実施日 | 立会記録・調査次数・備考 |
|-----|----------|-----|----------------|----------------|------|----------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 36 | H28.5.26 | 94条 | 泉町 2-2- | その他開発（埋設物試掘調査） | 工事立会 | ③H28.8.25 ④H28.8.26 ⑤H28.8.29 | ※（ ）内は届出時の試掘地地点。 ③(10) -80cmまでローム層じり層山、-70cmまでガラ・砂石を含む黒色土層山、-100~ -110cmまで非常に硬く固まつたローム層じりの暗褐色土、-110cmでⅢb層（ややローム粒・スコリア混ざり、完全なⅢbではないか）、同レベルで不明透構を検出（層土はⅢbに似る）。不明透構を検出、(7) -50cmまでローム層山、-120cmまで構造物埋設された複数トレンチ内の一部、-105cmまで耕作へⅢa層、-116cmで明確なⅢb層、(9) -50cmまでローム・ガラ・シート混じるやや締まる茶褐色土成土、-80cmまで締まりのない明るい褐色土、-90cmまで非常に締まりのあるローム層じりの暗褐色土（10）の-100cmの上に似る）、地山には達せず。(7) -100cmまで崩壊、(11) -100cmまで砂質層山、-40cmまで黑色土・ローム混じり層山、-60cmまでローム・ガラ混じり層山、-70cm付近にコアドリルで、以下原生層、-90~ -100cmまで掘削、中央に-50~ -50cmにU字溝、北側で同じ深さにコンクリート基礎、④(6) -55cmまで砂石・ロームを含む層山、-80cmまで鐵を含むやや締まりのある暗褐色土層山、-190cmまで大きなガラ・玉石を多數含む黒色土層山、-150cmまで強烈なガラ・玉石を含む黒色土層山、-200cmまで山砂、-200cmでⅢa層（ややトロム）、同様の南側で深度約30cmの鑿文ビットを検出（確認のみ）、(12) -50cmまで砂石・ガラ混じりの締まりややら茶褐色土、-105cmまで砂石・ロームの混じる締まりのある暗褐色土、以下Ⅲa層土と表土が混じる地山、(2) -110cmまで崩壊、-40cmまで暗茶褐色土、-100cmまでガラ混じり黒色土層山、-100~ -110cmまでⅢa・b層、中央の100cmにコンクリート製管、北側の-85cmからコンクリート基礎、⑤(3) -135cmまで崩壊、-40cmまでローム・ガラ混じり層山、以降はガラ混じり黒色土層山、-100~ -135cmで埋山。 |
| 37 | H28.5.26 | 93条 | 西元町 4-13804-14 | 分譲住宅 | 確認調査 | — | WK III-716次調査。 |
| 38 | H28.5.27 | 93条 | 泉町 1-2458-53 | 個人住宅 | 工事立会 | H28.9.12 | 解体。旧車庫部分は-50cmまで崩削、ほぼガラ混じり層山、深くなるとロームブロックが混じる。南面の庭は+150~ +210cmが見えているが、全て黒色土表土。この後土を行く。 |
| 39 | H28.5.31 | 94条 | 西元町 3-10-7 | その他建物（フェンス） | 慎重工事 | ①H28.8.1 ②H28.8.2 ③H28.8.3 ④H28.8.4 ⑤H28.8.5 | ①GL-60cmまで崩削、校庭の高さ（設計GL）は道路から+50cmあり、見る範囲は全て砂質じり盛土。②芝端、最大-120cmまで崩削、ほぼ砂の盛土。③の南側、砂の場合は少なくなり、黒色土が増える。④消の角、-90cmまで崩削、ガラが少し入る盛土。⑤基礎コンクリートが打たれる。道構面には塗していません。 |
| 40 | H28.6.1 | 94条 | 泉町 2-9- | その他開発（自転車等駐車場） | 工事立会 | ①H28.6.14 ②H28.6.15 ③H28.6.27 | ①空気配管、GL-60cmまで崩削。層山内施工。②ゲート。案内板。ゲートは-30cmまで、看板は-60cmまで崩削。層山内施工。ガラが多く、看板の方は土にロームが混じる。③電灯、-60cmまで崩削。層山内施工。 |
| 41 | H28.6.2 | 93条 | 南町 1-10- | ガス | 工事立会 | H28.7.1 | 新設。東側ではGL-90cmまで、西側では-80cmまで崩削。東では-50cm、西では-60cmからローム。道路は-40cmまで路盤、以下推山。 |
| 42 | H28.6.3 | 93条 | 東元町 3-12- | 水道 | 工事立会 | H28.6.21 | 道路側はGL-100cmまで崩削、-40cmまで路盤、後は推山。宅地内は-80cmまで崩削。西側にはロームが見えるがそれ以外は表土。 |
| 43 | H28.6.7 | 93条 | 光町 3-16- | ガス | 工事立会 | — | 写真依頼。 |
| 44 | H28.6.7 | 93条 | 本町 4-6- | 水道 | 工事立会 | H28.7.14 | 北端、GL-250cmまで崩削。部分的に-80cmから黒色土層山、-120cm以下ローム。 |
| 45 | H28.6.8 | 93条 | 南町 2-4-13 | ガス | 慎重工事 | — | — |
| 46 | H28.6.9 | 93条 | 本町 4-23・24 | ガス | 慎重工事 | — | — |
| 47 | H28.6.10 | 93条 | 東元町 3-14-9 | 宅地造成 | 工事立会 | ①H28.6.7 ②H28.6.8 ③H28.6.9 | ①解削を伴う工事が行われていたため、施工業者に対して解削が必要であることを、施工主に対してしてこのことを伝えること、当面の職員が立会いを行うことを伝えた。鑿文土表土を1点検出。②南側隣地（GLとする）は+5~ -70cmまで崩削。南側の中央部でさらに-40cm程度まで崩削。-30cmまで表土、以下ローム。③土砂の搬出が進む。 |

第7表 平成28年度 届出・通知および立会記録等一覧（4）

| No. | 日付 | 条 | 申請地 | 申請工事内容 | 指示内容 | 立会実施日 | 立会記録・調査次数・備考 |
|-----|------------|------|---------------------|---------|--------|-------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 47 | H28. 6. 10 | 93 条 | 東元町 3-14-9 | 宅地造成 | 工事立会 | ④H28. 6. 10 ⑤H28. 6. 14 ⑥H28. 6. 17 ⑦H28. 6. 21 ⑧H28. 6. 28 | ④西側・南側ブロック解体が始まる。織文土器を1点検出。道路面から+55～+60cmでIV層底部からV層剥離となる。⑤道路面より深くまで掘削が行わされている所もある。東側は表土または盛土、織文土器を1点検出。⑥ブロック基礎工事、南側隣地より、東側で-50cm以下ローム、西側で-30cm以下ローム、東側中央部では表面から-20cmでロームとなる。織文土器を1点検出。⑦土を動かす工事にはほぼ終った。⑧工事完了。 |
| 48 | H28. 6. 10 | 93 条 | 東元町 3-14-10 | 宅地造成 | 工事立会 | — | No. 47と同じ。 |
| 49 | H28. 6. 13 | 93 条 | 内藤 2-2-17 | 分譲住宅 | 工事立会 | H28. 11. 10 | GL-50cmまで掘削。表土内施工。 |
| 50 | H28. 6. 13 | 93 条 | 本町 4-9-10 | ガス | 工事立会 | H28. 7. 4 | 新設。GL-150cmまで掘削。-10cmまで路盤、-70cmまで表土、以下ローム。道路は巣山内施工。宅地側はロームが一部残る。 |
| 51 | H28. 6. 14 | 93 条 | 東元町 4-1781-3, 4 | 集合住宅 | 工事立会 | H28. 9. 15 | 基礎根切。GL-30cmまで掘削。ガラが混じる巣山、前身建物の基礎撤去時にかなり深くまで掘削されている。 |
| 52 | H28. 6. 17 | 93 条 | 東元町 3-889-9, 889-71 | 個人住宅 | 工事立会 | H28. 8. 26 | 盛土事前立会。やわらかいローム巣山とローム地山が混在。織文土器を2点検出。 |
| 53 | H28. 6. 17 | 93 条 | 西志ヶ崖 1-20-1 | ガス | 慎重工事 | — | — |
| 54 | H28. 6. 17 | 93 条 | 東元町 3-19-5 | 個人住宅 | 工事立会 | H28. 9. 5 | 基礎根切。GL-40cmまで掘削。前身建物のガラが混じるローム多め巣山。南側に黒色土堆山。 |
| 55 | H28. 6. 20 | 93 条 | 西元町 1-2448-18 | 集合住宅 | 確認調査 | — | MR I -717次調査。 |
| 56 | H28. 6. 20 | 93 条 | 東元町 3-25-19 | 水道 | その他 | H28. 6. 8 | 写真受取。遺物・遺構なし。 |
| 57 | | 外 | 東志ヶ崖 3-2-2 | その他（解体） | 包蔵地外立会 | ①H28. 6. 22 ②H28. 6. 29 | ①基礎解体。GL-160cmまで掘削。基礎の下に山砂と鈴石。西面では-60cmにガラ菅、以下にローム・ブロック混じりの表土。②解体工事は終了している。 |
| 58 | H28. 6. 23 | 93 条 | 南町 2-1-34 | ガス | 工事立会 | H28. 7. 25 | GL-140cmまで掘削。40cmまで路盤、以下ローム・山砂混じる巣山。巣山内施工。 |
| 59 | H28. 6. 24 | 93 条 | 本町 4-2964-46 | 個人住宅 | 工事立会 | H28. 7. 12 | 基礎根切。最大 GL-60cm、それ以外は-40～-20cmまで掘削。中央部にローム混じる巣山。表土内施工。 |
| 60 | H28. 6. 27 | 93 条 | 南町 2-8-8 | 水道 | 工事立会 | H28. 7. 27 | 道路側面 GL-150cmまで掘削。巣山内施工。宅地側は-60cmまで掘削。黒色土巣山。堆山には達せず。 |
| 61 | H28. 6. 27 | 93 条 | 南町 2-8-8 | 水道 | 工事立会 | H28. 7. 25 | GL-50cmまで掘削。-20cmまで路盤、以下は黒色土巣山。巣山内施工。 |
| 62 | H28. 6. 27 | 93 条 | 東元町 3-14- | 水道 | 工事立会 | H28. 7. 14 | GL-150cmまで掘削。道路側は砕石、宅地側はローム。 |
| 63 | H28. 6. 27 | 93 条 | 東元町 3-14- | 水道 | 工事立会 | H28. 7. 11 | 道路側面 GL-170cmまで、宅地側は110cmまで掘削。道路側は砕石、宅地側はローム。 |
| 64 | H28. 6. 28 | 93 条 | 西元町 1-2448-1, 4 | 集合住宅 | 確認調査 | — | 工事中止。 |
| 65 | H28. 6. 29 | 93 条 | 東元町 3-889-44, -87 | 個人住宅 | 工事立会 | H28. 8. 26 | 盛土事前立会。ローム盛土+ローム地山の部分が混在。盛土はかなりやわらかい。 |
| 66 | H28. 6. 30 | 93 条 | 本町 4-24 | 水道 | 工事立会 | H28. 9. 9 | GL-80cmまで掘削。巣山内施工。 |
| 67 | H28. 7. 1 | 93 条 | 本町 2-5-1 | 集合住宅 | 工事立会 | ①H28. 8. 31 ②H28. 9. 5 ③H28. 9. 7 ④H28. 9. 12 | ①土手があり、堆壁巣山。ガラやゴミの燃えカスが多く残る。旧玄関付近にはGL-40cm程度まで黒色土堆山。その上に30cm厚のローム混じる盛土があり、織文土器を含む。その上はガラが多い盛土。原地形は東側道路のような敷設や東端まで高く、その後下へ形だった様様。削離された土にも織文土器を検出。②北側のブロック解体。-40cmまで掘削があるが全て黒色土上。少しロームが残る場所もある。織文土器を検出。③北西井戸の内壁は-50cmまでbb層、上にaa層、-80cmからローム、高低差のある東側道路から-20cmでローム地山。織文土器を検出。④掘削された土に織文土器を含む。 ※掘削は直構造認面に達しなかつたが、掘り出された黒色土に織文土器を多く含む場所であった。流れ込みによる堆積土の厚い場所であり、その土に織文土器が多く含まれたと想定される。 (第8・13・14回、第15表参照)。 |
| 68 | H28. 7. 5 | 93 条 | 本町 4-9- | ガス | 工事立会 | — | 工事中止。 |
| 69 | H28. 7. 5 | 93 条 | 西元町 2-11-7 | ガス | 工事立会 | ①H28. 7. 6 ②H28. 7. 13 | ①新設。西側。GL-140cmまで掘削。-30cmまで路盤、以下はローム多めの巣山。西側に傾斜している。 ②新設。東側。-120cmまで掘削。ローム多め巣山だが、一部-40cm以下にローム地山。 |

第8表 平成28年度 届出・通知および立会記録等一覧（5）

| No. | 日付 | 条 | 申請地 | 申請工事内容 | 指示内容 | 立会実施日 | 立会記録・調査次数・備考 |
|-----|----------|------|----------------------|---------------|--------|--------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 70 | H28.7.1 | 93 条 | 東恋ヶ丘1-280 | その他（プラント（水槽）） | 工事立会 | H28.7.13 | GL-15～60cmまで掘削。表土内施工。特に東側は掘削深度が浅く、地山のレベルに達してない。 |
| 71 | H28.7.8 | 93 条 | 東元町3-889-44,-87 | 個人住宅 | 工事立会 | — | 写真受領。遺構・遺物なし。 |
| 72 | H28.7.11 | 93 条 | 本町4-22- | ガス | 工事立会 | — | 写真受領。遺構・遺物なし。 |
| 73 | H28.7.11 | 93 条 | 南町1-7- | ガス | 慎重工事 | — | — |
| 74 | H28.7.12 | 93 条 | 本町2-24-7 | 個人住宅・長屋・ガス・水道 | 工事立会 | ①H28.12.15 ②H28.12.16 | ①解体。既存建物基礎が奥-50cmまで入っており撤去。北東角-10cmで調査土器片を検出。②解体。北側最大-110cmまで掘削。-60cmから褐色土山。-50cmからローム。東側では-50cmまで含む。建設予定の建物の基礎。インフラが調査面に達しないことを確認。③とほほ同じ地点で調査土器片を検出。 |
| 75 | H28.7.13 | 93 条 | 東元町3-12-11 | ガス | 工事立会 | H28.8.4 | GL-150cmまで掘削。巣山内施工。一部-50cm以下にローム。 |
| 76 | H28.7.15 | 93 条 | 本町2-19-17 | 水道 | 工事立会 | H28.8.2 | ①新設。南側 GL-180cmまで掘削。ローム多めの巣山内施工。②撤去。北側-180cmまで掘削。ローム多めの砂を主体とする巣山内施工。 |
| 77 | H28.7.20 | 93 条 | 日吉町1-35- | ガス | 慎重工事 | — | — |
| 78 | H28.7.20 | 94 条 | 泉町2-102-13 | その他建物（公文書館） | 確認調査 | — | MK. IV-718次調査（確認調査）。 MK. IV-722次調査（確認調査）。 |
| 79 | H28.7.21 | 93 条 | 東元町3-889-44,-87 | 個人住宅 | 工事立会 | H28.9.21 | 排水管接続部。GL-60cmまで掘削。碎石の下に明るいローム地山。 |
| 80 | H28.7.21 | 93 条 | 東元町3-14- | ガス | 慎重工事 | — | — |
| 81 | H28.7.22 | 93 条 | 東元町3-889-44,-87 | 個人住宅 | 工事立会 | H28.9.21 | 排水管接続部。GL-60cmまで掘削。碎石の下にNo. 79より暗いローム。調査土器片検出。 |
| 82 | H28.7.25 | 93 条 | 内藤1-8-26 | 個人住宅 | 発掘調査 | — | K7-13次調査。 |
| 83 | H28.7.25 | 93 条 | 西元町2-2546-73 | 個人住宅 | 工事立会 | ①H28.8.22 ②H28.9.26 | ①調査坑打設。更障地上り-50cm。敷地北側の方柱の積み方が良い。中段棟が推定される部分はよりゆるく入っていく。漢がどこで切れるかは、鋼管杭の打設からは判別し難い。②根切立合の堆積がなかなかためたため、立会が出来なかったため、地盤調査の情報提供を依頼。地盤調査報告書によれば、敷地東部部分にGL-300～400cmにわらかい部分があり、東側の延長の可能性もあるか。 |
| 84 | H28.7.26 | 93 条 | 東元町3-25- | 水道 | 工事立会 | ①H28.8.4 ②H28.8.5 | ①写真受領。②とほほ同じ状況。敷地内は巣山が残っていたようだが、遺構・遺物なし。③GL-100cmまで掘削。道路西端から130cmまでは地山。北の交差点電柱から4,5mの地点から北に向かって田舎筋が始まり2mで底までする。北の交差点付近では-60cmまでローム混じり巣山。-70cmまで表土。以下ローム。巣山から南に1～2mまで、深さ50cm程度のゴミ穴、茶碗のかけらやガラス破片などを含む。 |
| 85 | H28.7.26 | 93 条 | 東元町4-16- | ガス | 工事立会 | H28.8.12 | 宅地内は道路面より-40cm。道路は-120cmまで掘削。40cmまで路盤。以下ローム混じり巣山。 |
| 86 | H28.7.28 | 94 条 | 西元町2-17～1-14 | 水道 | 工事立会 | H28.10.13～ | 本件は立会回数・記録事項が多いため、別報告とする。 |
| 87 | H28.7.28 | 94 条 | 西元町3-8～3-4..、南町3-26- | 道路舗装・反射鏡設置 | 工事立会 | ①H28.11.18 ②H28.11.21 | ①GL-45cmまで掘削。-30cmまで路盤。以下C層。②ぶんバス転回場入口工事。碎石を敷いて、転圧をかける。 |
| 88 | H28.7.28 | 94 条 | 日吉町1-39～36 | 道路舗装・雨水ます設置 | 慎重工事 | — | — |
| 89 | H28.7.29 | 93 条 | 東元町4-17-2 | 個人住宅 | 工事立会 | H28.10.14 | 基礎根切。GL-20cmまで掘削。オーバーローム混じり表土。 |
| 90 | H28.7.29 | 緊急 | 本町1-22-10先 | ガス | 非常緊急工事 | H28.7.29 | 写真提供。ただし包蔵地外。 |
| 91 | H28.8.2 | 93 条 | 本町4-24 | 水道 | 慎重工事 | — | — |
| 92 | H28.8.2 | 93 条 | 本町4-24 | 水道 | 工事立会 | H28.9.1 | 状況確認。8/22に工事済。巣山内施工。 |
| 93 | H28.8.4 | 93 条 | 本町4-27 | ガス | 工事立会 | H28.8.31 | GL-70cmまで掘削。-60cmでローム、巣山内施工。 |
| 94 | H28.8.8 | 93 条 | 西元町3-10-4 | 分譲住宅 | 確認調査 | H28.10.17 | MK. III-719次調査。 解体。元建物は道路面から+40cmの盛土。土は均質な褐色土盛土。敷地中央部の少し盛土が減ったところに黒色土地山が見えるところがあった。 |
| 95 | H28.8.8 | 93 条 | 内藤1-16 | ガス | 工事立会 | — | 写真受取。遺物・遺構なし。 |

第9表 平成28年度 届出・通知および立会記録等一覧（6）

| No. | 日付 | 条 | 申請地 | 申請工事内容 | 指示内容 | 立会実施日 | 立会記録・調査次数・備考 |
|-----|----------|-----|-----------------|---------|--------|---------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 96 | H28.8.8 | 93条 | 東元町3-25-19の内 | 個人住宅 | 工事立会 | H28.8.23 | 基礎根切。GL-40cmまで掘削。底木による擾乱がある。北側では-40cm、南側では-20cmがⅢb/c層の境目。調査（後期）土器・古代瓦検出。 |
| 97 | H28.8.9 | 93条 | 本町1-3～4 | ガス | 慎重工事 | — | — |
| 98 | H28.8.12 | 93条 | 西志ヶ瀬3-26-13 | 分譲住宅 | 工事立会 | H28.10.20 | 柱状改良。底土は道路面-120cm。根切では遺構面に届かないことが確認できた。 |
| 99 | H28.8.16 | 93条 | 西元町2-2456-48の一部 | 個人住宅 | 工事立会 | ① H28.8.18 ② H28.10.4 | ①鋼管杭打設。敷地の北側半分が地盤のしまりが強い。一部でガリガリと言がする。GL-300cm程度になるか。2回音がするところもあった。敷地は東隣地より-50cm、西隣地より-50cm、道路より-400cm。②根拠立会の連絡がなかったため、地盤調査の情報提供を依頼。GL-250～275cmに空開孔に柔らかい所があった。 |
| 100 | H28.8.19 | 93条 | 西元町4-2 | ガス | 工事立会 | H28.10.31 | GL-80cmまで掘削。搬山内施工。 |
| 101 | H28.8.24 | 94条 | 光町2-9-11先 | 水道 | 工事立会 | H28.11.29 | GL-250cmまで掘削。搬山内施工。 |
| 102 | H28.8.25 | 93条 | 東元町4-1734 | 分譲住宅 | 工事立会 | H28.9.26 | 西側2階はGL-5cmまで掘削。東側1棟は盛土をするため掘削せず。-5cmまで耕作土・盛土、底部は黒色土・ロームが見えるが、前身建物の解体時のガラが入り込んでいるので、表面近くは搬山と思われる。 |
| 103 | H28.8.29 | 93条 | 内藤1-16-1 | ガス | 慎重工事 | — | — |
| 104 | H28.9.2 | 94条 | 日吉町1-31～35先 | 水道 | 慎重工事 | — | — |
| 105 | H28.9.2 | 94条 | 西元町3-6先 | 水道 | 慎重工事 | — | — |
| 106 | H28.9.2 | 93条 | 東元町3-14- | 個人住宅 | 工事立会 | H29.3.30 | 敷地南端ではGL-30cmまで掘削。-20cmまで褐色土盛土、以下ローム。北側給排水工事部分では、-50cmまで盛土。 |
| 107 | H28.9.5 | 93条 | 西志ヶ瀬1-24-7 | 分譲住宅 | 工事立会 | ① H28.9.23 ② H28.10.13 | ①解体。金属性にやわらかい茶褐色土。一部、道路から10～数cmで明るいローム系の土が見えるが地山か不明。②基礎根切。コンクリートが打たれていたので、南側で碎石を少しだけよけて様子を見たところ。GL-30cmくらいまで黒色土地山。遺構面には届かなかった根桿。 |
| 108 | H28.9.5 | 93条 | 西元町2-2546-54 | 分譲住宅 | 工事立会 | — | 工事中止。 |
| 109 | H28.9.6 | 93条 | 西志ヶ瀬2-20-1 | ガス | 工事立会 | — | 写真提供。搬山内施工。 |
| 110 | H28.9.6 | 93条 | 西志ヶ瀬1-28-2 | 宅地造成 | 確認調査 | — | K2-98次調査。 |
| 111 | H28.9.13 | 93条 | 南町2-8～3 | ガス | 慎重工事 | — | — |
| 112 | H28.9.14 | 93条 | 東元町4-2- | 水道 | 工事立会 | H28.11.11 | 西・中央部分。GL-150cmまで掘削。南側隣地から1.5mは搬山、その先1.5mは地山。-30cmまで路盤、-70cmまで黒色土地山、以下ローム。南に向かって下がり傾斜。 |
| 113 | H28.9.16 | 93条 | 東元町3-25-19の内 | 個人住宅 | 工事立会 | H28.9.29 | GL-40cmまで掘削。-20cmまで表土、以下はV層、東側はローム多めの表土。古代瓦・古代須恵器を検出。 |
| 114 | H28.9.20 | 93条 | 西元町3-11-先 | 電気 | 工事立会 | H28.10.26 | 電柱新設。GL-250cmまで掘削。-60cm以下はローム。 |
| 115 | H28.9.21 | 93条 | 西志ヶ瀬1-13-5 | ガス | 工事立会 | H28.11.15 | 北側削去。GL-110cmまで掘削。一部20cmまで路盤、以下黒色土地山。-50～60cmに繩文土器片(2点、接合できる)検出。南側新設。-100cmまで掘削。同じ状況。 |
| 116 | H28.9.26 | 外 | 東志ヶ瀬4-11-14 | その他（解体） | 包蔵地外立会 | ① H28.9.26 ② H28.9.27 | ①解体。全面表土、ガラは少ない。②東側道路から3.5m北側道路から3.5mの地点から西に約0.4m南に長さ0.9mの硬質面を検出。Ⅲc上面が2cm厚で硬化しており、面上的に微細されたが、ブロック状にもろくずれる。その下の30cmの厚さのIV層はV層位の硬さで非常に硬くしまる。敷地西端から4m、南端から3mでは-40cmでⅢc/IV層。 |
| 117 | H28.9.26 | 93条 | 東元町3-889-9外 | 個人住宅 | 工事立会 | H28.10.14 | 基礎根切。無連絡着工。道路より+30cm、GL-40cmまで掘削。ローム盛土。盛土中から繩文土器が検出された。 |
| 118 | H28.9.27 | 93条 | 本町2-19-17 | ガス | 慎重工事 | — | — |
| 119 | H28.9.27 | 94条 | 本町4-24先 | 水道 | 慎重工事 | — | — |
| 120 | H28.9.27 | 93条 | 西元町1-1先 | 水道 | 工事立会 | H28.10.24 | GL-200cmまで掘削。砂・砂利とロームが混じった搬山内施工。 |
| 121 | H28.9.27 | 93条 | 西元町1-1先 | 水道 | 慎重工事 | — | — |

第10表 平成28年度 届出・通知および立会記録等一覧（7）

| No. | 日付 | 条 | 申請地 | 申請工事内容 | 指示内容 | 立会実施日 | 立会記録・調査次数・備考 |
|-----|-------------|-----|--------------------------|---------------|------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 122 | H28. 9. 28 | 外 | 東志ヶ丘4-11-20 | その他 (解体) | 包蔵地外 立会 | H28. 9. 28 | 解体。庭はやわらかい黒色土。建物基礎中央部ではGL-10cmくらいから黒色土があり、下に河原石が並んでいるが、この建物とは無関係。基礎内には乾燥したローム混じり土が入っていた。西側園地では浅めの掘削でロームが出ていた。 |
| 123 | H28. 9. 30 | 93条 | 泉町2-2 | 水道 | 工事立会 | H28. 10. 20 | 市道ではGL-175cmまで、公文書館用地では-110cmまで掘削。搬山内施工。 |
| 124 | H28. 10. 6 | 93条 | 東元町3-1347-1 | 個人住宅 | 工事立会 | — | 写真受領。遺物・遺構なし。 |
| 125 | H28. 10. 6 | 93条 | 西志ヶ丘3-13-16 | ガス | 慎重工事 | — | — |
| 126 | H28. 10. 6 | 94条 | 西元町3-6-3番地先、 3-5番地先 | 消火栓 | 工事立会 | ① H28. 11. 28 ② H28. 11. 29 | ①消火栓蓋形状変更。GL-50cmまで掘削。-30cmまで砂石、以下搬山。②制水弁設置。-100cmまで掘削。北面-30cmまで掘削。-70cmまで褐色土地山。以下ローム。南側は耕作にかかる擾乱（イモ穴）がある。 半実跡地内・現状変更にも該当。 |
| 127 | H28. 10. 11 | 93条 | 西元町2-16-11 | ガス | 工事立会 | H28. 11. 14 | 西側敷去。GL-70cm以下に砂。公社敷地内東側新設。-100cmまで掘削。-40cmに砂の層がありそこまで搬山。-70cmから褐色土地山。道路東側新設。-100cmまで掘削。-80cm以下に一部褐色土地山。 |
| 128 | H28. 10. 21 | 93条 | 泉町3-1- | ガス | ※緊急工事 | — | 遺物・遺構なし。 |
| 129 | H28. 10. 17 | 緊急 | 本町4-24-31 | ガス | ※緊急工事 | — | 写真受領。GL-65cmまで掘削。搬山内施工。遺物・遺構なし。 |
| 130 | H28. 10. 21 | 93条 | 本町4-9- | ガス | 慎重工事 | — | — |
| 131 | H28. 10. 24 | 93条 | 内藤1-18-1 | 宅地造成・イン フラ | 確認調査 | — | K41-1次調査。 |
| 132 | H28. 10. 24 | 93条 | 西志ヶ丘1-12-21 | 分譲住宅 | 工事立会 | H28. 12. 5 | 杭切工事。道路から+190cm。GL-40cmまで掘削。ほぼロームの盛土。 |
| 133 | H28. 10. 25 | 93条 | 本町2-4-6 | 集合住宅 | 確認調査 | ① H29. 2. 7 ② H29. 2. 9 | K28-14次調査。 ①前確認、解体、基礎が残っている判断できず、一部ココリタ多めの黒色土地山。②GL-90cmまで前身側物の基礎が入っている。建物外周および基礎内側に鋼文土器片2点検出。 |
| 134 | H28. 10. 25 | 94条 | 西元町2-1・3-23 | 史跡保存整備 工事 | 工事立会 | ① H28. 11. 16 ② H28. 11. 17 ③ H28. 11. 29 ④ H28. 11. 30 ⑤ H28. 12. 12 ⑥ H28. 12. 13 ⑦ H28. 12. 14 ⑧ H28. 12. 19 ⑨ H29. 1. 17 ⑩ H29. 1. 18 | ①車止め撤去。GL-20cmまで基礎が入っていたが、盛土内施工。②縄模跡、盛土内施工。③縄模跡、砂石焼き。削削なし。④縄切。-30cmまで掘削。盛土内、表土内施工。⑤敷水栓、中門金網フジン設置。敷水栓は-30cmまで掘削。表土内施工。中門は-40cmで礎石検出。ただし表土内。原位置から移動・投棄されたものと思われる。⑥電気配管、散水栓。西・東:-30cmまで地盤層を検出。⑦中門縁石埋設。⑧保護砂・保護用シートを入れた後埋戻し。⑨単位設置。-20cmまで掘削。盛土内施工。⑩企画全般・舗装。-40cmまで掘削。盛土内施工。⑪中門説明版。-40cmまで掘削。盛土内施工。⑫史跡地内・現状変更にも該当。 |
| 135 | H28. 10. 26 | 93条 | 本町4-24- | ガス | ※緊急工事 | — | — |
| 136 | H28. 10. 27 | 93条 | 東志ヶ丘3-3-8 | ガス | 工事立会 | H28. 11. 21 | GL-150cmまで掘削。歩道北側0.3mまで地山、道路路側が搬山。-40~100cmまで黒色土地山、以下ローム。 |
| 137 | H28. 10. 28 | 93条 | 東志ヶ丘1-217 | ガス | 工事立会 | H28. 11. 10 | GL-170cmまで掘削。歩道の南1.1mまで地山、全て明るいローム。北側.-130cmまで掘削。以下同じローム。 |
| 138 | H28. 10. 28 | 93条 | 西志ヶ丘1-17-31, 29-7 | 集合住宅 | 工事立会 | ① H28. 12. 13 ② H29. 3. 6 | ①鋼管打設。75cmの杭打設、特に異音なし。駐車場として使われていた土地だが、砂石に土器片らしきものが混じる。また杭の周辺を覆った所を見ると北東側には堆山が残っている可能性がある。西側は擁壁があり盛土であると思われる。②基礎切。北東部で-40cmまで掘削。-10cmまで砂石混じり搬山。以下褐色土地山。北西部で-30cmまで掘削。全て砂石混じりの搬山。 |
| 139 | H28. 10. 31 | 94条 | 西元町3-11-(2093-1, 2096-3) | バス暫定転回場 | 工事立会 | ① H28. 11. 18 ② H28. 11. 21 ③ H28. 11. 22 | ①街灯。GL-95cmまで掘削。-15cmまで耕作土。-2cm IIIe層土。-70cmまでIV層土。以下V層土。②L型ロック設置工。盛土内施工。③アーチシステム設置、街灯。フェンス。盛土内施工。街灯。-10cmまで掘削。-10cmまで耕作土。-20までIIIe層土。④60までIV層土。以下V層土。 |

第11表 平成28年度 届出・通知および立会記録等一覧（8）

| No. | 日付 | 条 | 申請地 | 申請工事内容 | 指示内容 | 立会実施日 | 立会記録・調査次数・備考 |
|-----|-------------|------|-------------------------|---------------|------|--------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 139 | H28. 10. 31 | 94 条 | 西元町3-11-（2093-1、2096-3） | バス暫定転回場 | 工事立会 | H28. 11. 25 H28. 11. 29 | ④アングル部分掘取り、出車灯及び支柱外灯、撤取・-20cmまで掘削、表土内施工、柱基礎、-100cmまで掘削、-25cmまで耕作土、-35cmまで耕土層土、-70cmまでIV層土、以下V層土。⑤嵩増し用砂搬入、掘削なし。 |
| 140 | H28. 11. 1 | 93 条 | 西元町3-8- | 電気 | 工事立会 | H29. 1. 18 | GL-110cmまで掘削。-30cmまで路盤、以下ケーブルや下水管の掘山。 |
| 141 | H28. 11. 1 | 94 条 | 泉町3-31先 | 水道 | 慎重工事 | — | — |
| 142 | H28. 11. 4 | 93 条 | 南町1-11 | 駐車場屋根柱工事 | 工事立会 | — | 口頭で出土等がなかったことを確認。 |
| 143 | H28. 11. 4 | 93 条 | 泉町2-9他（4ヶ所） | バス停 | 工事立会 | ①H28. 12. 1 ②H28. 12. 6 ③H28. 12. 14 | ①郵政南前舟・武藏関分寺公園東、GL-40cmまで掘削、盛土内施工。②本町4丁目都営住宅前、-40cmまで掘削。東側では-20cm、西側では-30cm以下に黒色土地山。③交通広場、-40cmまで掘削。盛土内施工。 |
| 144 | H28. 11. 7 | 93 条 | 西元町1-2448-1 | 集合住宅 | 確認調査 | — | MR I -712 次検査。 |
| 145 | H28. 11. 10 | 93 条 | 西志ヶ窪3-35-3 | 個人住宅 | 工事立会 | H29. 1. 10 | GL-20cmまで掘削。-10cmまでロームの多い盛土、以下黒色土地山。造構面には達しない。調査土器片を2点回収、②番遺跡で縄文時代の遺物が確認されたのは、今回が初めてとなる。 |
| 146 | H28. 11. 11 | 93 条 | 本町4-6- | 電気 | 工事立会 | H29. 2. 14 | GL-30cmまで掘削。-50cmまで路盤、-120cmまで黒色土地山。次に砂、以下ローム。部分的には-20～50cmに黒色土地山。 |
| 147 | H28. 11. 11 | 93 条 | 東元町3-19-5 | ガス | 慎重工事 | — | — |
| 148 | H28. 11. 11 | 93 条 | 西志ヶ窪1-24- | ガス | 工事立会 | — | 写真提供。遺物・造構なし。 |
| 149 | H28. 11. 14 | 93 条 | 東元町4-13-20 | ガス | 慎重工事 | — | — |
| 150 | H28. 11. 15 | 93 条 | 東元町3-25～14 | ガス | 工事立会 | H28. 12. 7 | 新設。GL-120cmまで掘削。道路の西側は明るいローム、東側は褐色土地山。掘山が入っている所があり、近現代の野川に向かう風と思われる。調査土器片1点検出。 |
| 151 | H28. 11. 15 | 93 条 | 西志ヶ窪1-18-3 | 分譲住宅 | 工事立会 | H29. 1. 23 | 掘削を行わず。-40cmの盛土、表面に建物解体時に出てきたと思われる調査土器検出。 |
| 152 | H28. 11. 17 | 93 条 | 本町2-5-1 | ガス | 工事立会 | — | 写真提供。調査土器片らしきものが見える。 |
| 153 | H28. 11. 18 | 93 条 | 西元町2-17-13 | 電気 | 工事立会 | H28. 12. 8 | 電柱新設。GL-270cmまで掘削。両側にインフラの掘山があり、-70cm以下でローム。 |
| 154 | H28. 11. 18 | 94 条 | 泉町2-102-13 | 販売戸口設置 | 慎重工事 | — | — |
| 155 | H28. 11. 25 | 93 条 | 東元町3-33-4(3-2382-6) | 個人住宅 | 工事立会 | H29. 1. 24 | 解体。GLは南北隅道路路面から+130cm、北西部でGL-30cmまで掘削。全て黒色土地山。北東部では-60cmまで掘削。一部ローム。 |
| 156 | H28. 11. 25 | 93 条 | 西志ヶ窪1-28-9 | 個人住宅 | 工事立会 | — | 写真提供。遺物・造構なし。 |
| 157 | H28. 11. 28 | 93 条 | 東元町4-2- | ガス | 工事立会 | H28. 11. 29 | 新設。GL-130cmまで掘削。-30cmまで路盤、-70cmまで掘山。-100cmまで黒色土地山、以下ローム。 |
| 158 | H28. 11. 28 | 93 条 | 東志ヶ窪1-280- | ガス | 慎重工事 | — | — |
| 159 | H28. 11. 29 | 93 条 | 東元町3-23-11 | 個人住宅 | 工事立会 | H29. 1. 10 | GL-40cmまで掘削。盛土内施工。 |
| 160 | H28. 11. 29 | 93 条 | 南町2-287-23 | 宅地造成 | 工事立会 | H29. 2. 22 | 解体。西角が道路から150cm下がり、一旦平面上なり、再度傾斜して300cm下がる。道路の下から平面には褐色土地山。 |
| 161 | H28. 12. 1 | 93 条 | 西志ヶ窪1-12- | ガス | 慎重工事 | — | — |
| 162 | H28. 12. 2 | 93 条 | 東元町3-1-3 | ガス | 緊急工事 | H28. 12. 2 | 遺物・造構なし。 |
| 163 | H28. 12. 2 | 93 条 | 内藤2-22-21先 | 水道 | 緊急工事 | H28. 12. 2 | 南東側は、GL-100cmまで掘削。掘山内施工。一部-40cm以下に黒色土地山、-60cm以下にローム。北西側は-150cmまで掘削。ほぼ掘山、-70cm以下にローム。 |
| 164 | H28. 12. 9 | 93 条 | 東元町3-25-14先 | 電気 | 工事立会 | H29. 2. 10 | 試掘2箇所、GL-140cmまで掘削。-30cmまではローム上、以下はローム地山。 |
| 165 | H28. 12. 12 | 93 条 | 東元町4-3-12西隣 | 個人住宅 | 工事立会 | H29. 2. 9 | GL-100cmまで掘削。-30cmまで掘山。以下黒色土地山。 |
| 166 | H28. 12. 19 | 93 条 | 泉町1-18-15先 | ガス | 慎重工事 | — | 写真提供。遺物・造構なし。 |
| 167 | H28. 12. 19 | 緊急 | 東元町3-23-2先 | ガス | 緊急工事 | — | 写真提供依頼。 |
| 168 | H28. 12. 20 | 93 条 | 東元町3-14- | その他 (地盤改良) | 工事立会 | H29. 2. 14 | 鋼管杭打設。南東角 GL-50cmまで黒色土地山、北西角 -30cmまでローム・黒色土掘山。ほぼ全面に解体の埋戻が及んでいる。調査土器片複数検出。 |

第12表 平成28年度 届出・通知および立会記録等一覧（9）

| No. | 日付 | 条 | 申請地 | 申請工事内容 | 指示内容 | 立会実施日 | 立会記録・調査次数・備考 |
|-----|-----------|-----|----------------|---------|--------|-------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 169 | H28.12.21 | 緊急 | 西元町2-17-13先 | ガス | ※緊急工事 | H28.12.21 | 緊急工事。掘削はGL-140cmまで。黒色土掘山。 |
| 170 | H28.12.21 | 93条 | 東元町3-8- | ガス | 慎重工事 | — | — |
| 171 | H28.12.26 | 93条 | 西志ヶ窪1-18-先 | 水道 | 工事立会 | H29.2.13 | GL-100cmまで掘削。北側では-30cmまで掘山。-70cmまでIII層、以下III層。調査土器盤を複数検出。南に向かって黒色土地山が減ってロームが現れる。道路（東西方向）に合流するところの南北分は掘山。 |
| 172 | H28.12.27 | 94条 | 泉町2-9先(4ヶ所) | 室内看板 | 工事立会 | H29.1.18 | 2箇所。GL-100cmまで掘削。鉄石混じり掘山。 |
| 173 | H29.1.10 | 93条 | 南町3-28～29 | 耐震補強 | 工事立会 | H29.1.31 | 写真標示。遺物・遺構なし。 |
| 174 | H29.1.12 | 93条 | 西元町3-2-24 | 集合住宅 | 確認調査 | — | MR II -723次調査。(平成29年度実施) |
| 175 | H29.1.17 | 93条 | 西志ヶ窪3-17-4 | 個人住宅 | 工事立会 | H29.4.19 | GL-70cmまで掘削。掘山内施工。 |
| 176 | H29.1.17 | 93条 | 東志ヶ窪1-280 | 電気 | 工事立会 | H29.2.28 | GL-70cmまで掘削。表土中施工。 |
| 177 | H29.1.17 | 93条 | 東元町3-18-5 | 個人住宅 | 工事立会 | H29.4.19 | 基礎根切。GL-30cmまで掘削。盛土内施工。 |
| 178 | H29.1.17 | 93条 | 南町2-9～2 | ガス | 工事立会 | ①H29.2.22 ②H29.2.24 ③H29.2.27 | ①中央部分、道路を横断する工事。GL-80cmまで掘削。-30cmまで路盤、-70cmまで褐色土堆山。以下ローム。道路の北側側はロームが見えないので、原位置は北東に下がっている模様。 ②敷地内にて確認したところ、-70cm・-90cm・-80cm以下で褐色土堆山となり、-80cm（なし）・-110cmでロームになる。 ③敷地内にて確認したところ、-30cm・-60cm・-30cm・-30cm以下で褐色土地山となり、-70cm・-60cm・-60cmでロームになる。 |
| 179 | H29.1.18 | 緊急 | 西元町2-11-42 | ガス | ※緊急工事 | H29.1.18 | GL-130cmまで掘削。-30cmまで路盤、-90cmまで掘山。以下地山。南面は地山が残るが、すぐ南に水管がある。 |
| 180 | H29.1.18 | 93条 | 西元町2-16- | ガス | 慎重工事 | — | — |
| 181 | H29.1.23 | 93条 | 西元町3-10-4(A号様) | 分譲住宅 | 工事立会 | H29.3.30 | 基礎根切。道路面より+50cmの盛土がある。盛土内施工。 |
| 182 | H29.1.23 | 93条 | 西元町3-10-4(B号様) | 分譲住宅 | 工事立会 | H29.3.30 | 基礎根切。道路面より+50cmの盛土がある。盛土内施工。 |
| 183 | H29.1.24 | 93条 | 東元町4-18-25 | 電気 | 工事立会 | H29.3.7 | アース工事。アースを差し込む工事のため。地中の様子は確認できず。 |
| 184 | H29.1.24 | 93条 | 本町4-22～21 | ガス | 工事立会 | — | 写真提供。遺物・遺構なし。 |
| 185 | H29.1.24 | 93条 | 東元町3-19-10 | 分譲住宅 | 工事立会 | ①H29.1.26 ②H29.4.4 | ①解体。設計図は北側のお隣の道より+150cm・-30cmまで掘削。盛土内施工。その後地盤改良を実施。地盤調査の結果、盛土が厚いことが分かる。 ②基礎根切。-10cmまで掘削。盛土内施工。 |
| 186 | H29.1.24 | 94条 | 西元町3-26- | 工作物設置 | 工事立会 | — | 工事中止。 |
| 187 | H29.1.27 | 93条 | 東元町3-19-5 | 遮気 | 工事立会 | — | 写真提供。遺物・遺構なし。 |
| 188 | H29.2.3 | 93条 | 東元町4-17-2 | ガス | 慎重工事 | — | — |
| 189 | H29.2.10 | 93条 | 南町2-2-21 | ガス | 工事立会 | H29.2.28 | GL-120cmまで掘削。-30cmまで路盤、-60cmまで褐色土地山。以下ローム。宅地内は+30cmでロームが多い盛土。 |
| 190 | H29.2.15 | 外 | 東志ヶ窪4-11-20 | 集合住宅 | 包蔵地外立会 | H29.2.15 | 基礎根切。GL-40cmまで掘削。ほぼ黒色土、ロームやガラス混じる掘山。 |
| 191 | H29.2.17 | 93条 | 西元町2-16-17 | 集合住宅 | 確認調査 | — | MR IV -725次調査。(平成29年度実施) |
| 192 | H29.2.20 | 93条 | 東元町4-14-4 | 個人住宅 | 工事立会 | H29.3.6 | 根切立会。GL-10cmまで掘削。表土内施工。 |
| 193 | H29.2.22 | 93条 | 南町1-11-10 | ガス | 慎重工事 | — | — |
| 194 | H29.2.22 | 93条 | 南町2-11-11 | ガス | 慎重工事 | — | — |
| 195 | H29.2.22 | 93条 | 本町4-18-7 | ガス | 慎重工事 | — | — |
| 196 | H29.2.22 | 93条 | 西志ヶ窪1-19-17 | ガス | 慎重工事 | — | — |
| 197 | H29.2.23 | 93条 | 西元町3-15-2 | ガス | 慎重工事 | — | — |
| 198 | H29.2.23 | 93条 | 西志ヶ窪1-1-8 | その他（解体） | 工事立会 | H29.2.27 | 陸域成のブロック塀を外すと、道路面+30cmまで表土。一部擾乱があるが、基礎（道路面より下）は地山の可能性あり。 |
| 199 | H29.2.23 | 93条 | 西志ヶ窪1-17-35 | 個人住宅 | 発掘調査 | — | K2-99次調査。(平成29年度実施) |
| 200 | H29.2.24 | 93条 | 東志ヶ窪1-217 | 水道 | 慎重工事 | — | — |
| 201 | H29.2.27 | 93条 | 南町1-7-34 | 排水溝 | 工事立会 | H29.2.22 | 表土から-60cmまで掘削。盛土・地山。遺構面には達していない。 |
| 202 | H29.2.27 | 93条 | 泉町1-10～20 | ガス | 慎重工事 | — | — |

第 13 表 平成 28 年度 届出・通知および立会記録等一覧 (10)

| No. | 日付 | 条 | 申請地 | 申請工事内容 | 指示内容 | 立会実施日 | 立会記録・調査次数・備考 |
|-----|------------|------|----------------------|------------|------|----------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 203 | H29. 2. 28 | 93 条 | 内藤 1-18-1 | 電気 | 慎重工事 | — | — |
| 204 | H29. 2. 28 | 93 条 | 東元町 4-16- | 電気 | 工事立会 | H29. 3. 28 | 電柱新設。GL-120cm まで耐削。-30cm まで路盤。-70cm まで褐色土。以下ローム。 |
| 205 | H29. 2. 28 | 93 条 | 泉町 3-6 ～ 府中市武藏台 2-20 | ガス | 工事立会 | H29. 2. 22 H29. 2. 24 H29. 3. 8 H29. 3. 9 | ①府中市境裏東山 (G-150cm まで耐削。-50cm まで路盤。-100cm まで黒色土地山)、-125cm まで褐色土地山、以下ローム。②より東、-150cm まで褐色土地山、以下ローム。③より西、-110cm まで黒色土地山、以下ローム。④より北、-120cm まで褐色土地山、以下ローム。⑤より南、-110cm まで褐色土地山、以下ローム。⑥より東、-120cm まで耐削。南路では 100m まで盛上。以下褐色土地山。北面では 120cm まで褐色土地山。一部講上と思われる部分があり。覆土と暗茶褐色土。下にいくほどロームが増える。覆土と暗茶褐色土。下にいくほどロームが増える。南路 0.6 ～ 0.9m の範囲。東に進み駐車場看板前、南路では -210cm まで耐削。-50cm まで路盤。-80cm までローム (裏を掘った時のローム) から、-140cm まで褐色土地山。-160cm まで褐色土地山。以下ローム。溝の底が削られたところでは 150cm まで底は平らではなく、黒色土が多く、上に行くと褐色土。駐車場入口近、北面 -170cm が黒色土の底。下に黒色土、ローム多めの土。上に褐色土が入っている。駐車場東角、南面は -130cm 以下が褐色土。北面は -150cm が褐色土。入っている土は同じ。 |
| 206 | H29. 2. 28 | 93 条 | 泉町 3-1 | ガス | 工事立会 | — | 写真提供。遺物・遺構なし。 |
| 207 | H29. 3. 7 | 93 条 | 東元町 3-21 | 分譲住宅 | 工事立会 | — | 排水接続部。GL-30cm まで耐削。表土・盛土内施工。 |
| 208 | H29. 3. 8 | 93 条 | 南町 1-9-25 | ガス | 工事立会 | — | 連絡がなく、写真もなかったため、注意。何か出てきたという報告はない。 |
| 209 | H29. 3. 8 | 93 条 | 西元町 2-17 | ガス | 慎重工事 | — | — |
| 210 | H29. 3. 8 | 93 条 | 南町 1-11-4 | ガス | 工事立会 | — | 写真提供依頼。 |
| 211 | H29. 3. 14 | 93 条 | 西元ヶ窪 3-17-4 | ガス | 慎重工事 | — | — |
| 212 | H29. 3. 14 | 外 | 東志ヶ窪 4-12-14 | その他 (解体) | | H29. 3. 14 | 東側傾と同レベル。西側道路より +10cm。東側では GL-20cm で皿 b / c 層となる。西側では -30cm でローム。北西隅には浄化槽があったため、深く耐削。中央部を掘った際にかなり黒い土があり、遺構の覆土の可能性も考えられる。 |
| 213 | H29. 3. 17 | 93 条 | 内藤 1-16 ～ 18 | ガス | 慎重工事 | — | — |
| 214 | H29. 3. 24 | 93 条 | 東元町 4-1865-3 | 個人住宅 | 工事立会 | H29. 5. 29 | 基礎根切。GL-30cm まで耐削。-10cm まで碎石。以下は耕作土。 |
| 215 | H29. 3. 27 | 93 条 | 本町 4-20 ～ 12 | ガス | 慎重工事 | H29. 7. 6 | 本町 4-20-10 前、T 字路中央部。GL-120cm まで耐削。-30cm まで路盤、砂。以下黒色土ローム混じる層。南面は削山。 |
| 216 | H29. 3. 27 | 94 条 | 西元町 3-10-4 先 | その他開発 (電話) | 慎重工事 | — | — |
| 217 | H29. 3. 31 | 93 条 | 内藤 1-18-1 | 分譲住宅 | 工事立会 | H29. 6. 7 | GL-30cm (深基礎) で皿 b 層、-20cm (通常の基礎) では盛土内施工。 |

第 14 表 平成 26 年度の届出に対する立会記録

| No. | 日付 | 条 | 申請地 | 申請工事内容 | 指示内容 | 立会実施日 | 立会記録・調査次数・備考 |
|-----|--------------------|------|---------------|--------|------|-----------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 218 | 平成 26 年度年報 No. 161 | 93 条 | 東志ヶ窪 1-280 地内 | | | H29. 4. 7 H29. 4. 18 H29. 4. 27 H29. 4. 28 | ①底 -350cm まで耐削。-30cm まで路盤。削山内施工。 ② -110cm まで耐削。-10cm までアスファルト。以下ガラ。削山内施工。 ③ -110cm まで耐削。-30cm まで路盤、以下ガラ。削山内施工。 ④ -110cm まで耐削。-30cm まで路盤、以下ガラ。削山内施工。 |



第5図 No.1 立会状況



第6図 No.29 立会・溝検出状況



第7図 No.32 立会状況



第8図 No.67 立会状況



第9図 No.126 立会状況



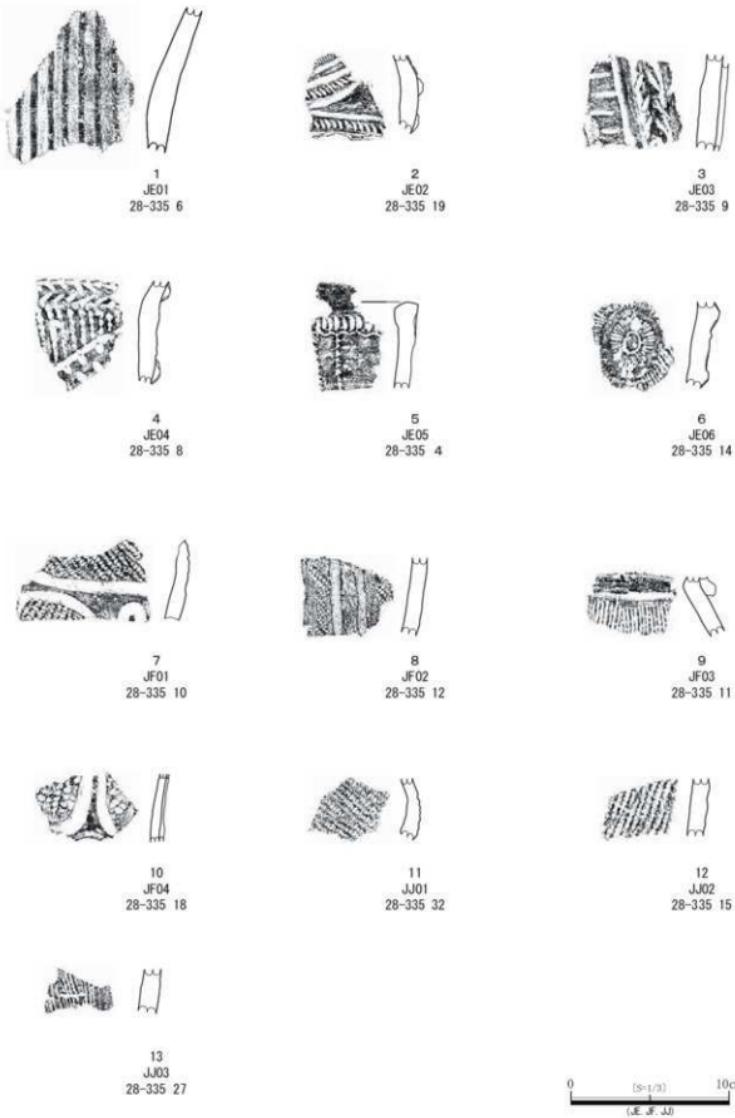
第10図 No.179 立会状況



第11図 No.181 立会状況



第12図 No.214 立会状況



第13図 平成28年度 届出・通知および立会記録No.67で出土した遺物実測図



第14図 平成28年度 届出・通知および立会記録No.67で出土した遺物写真

第15表 平成28年度 届出・通知および立会記録No.67 遺物観察表

| No.67 織文時代 土 器 | | | | | | | | | | |
|----------------|----------------------|---------------------------|---------------------------|----------------------------------------------------------------------|---------------------------------|---------------------------------------|-------------------------------|---------------------|--------------------|-------------------------|
| 番号 遺物番号 | 時期 型式 | 器種 部位 | 調整 | 文様 | 縞文 | 外面色調 | 内面色調 | 焼成 | 胎土 | 備考 |
| 1 JE01 | 中期前半 勝板3式 | 深鉢 胴部 | 内面横位ナダ | 幅広く浅いナダ状の縞位模様。 | — | 赤褐色 5YR4/6 7.5YR5/3 | にぶい褐色 7.5YR5/3 | 良 | 長石、石英、雲母、 橙粒、小礫 | 胎土に雲母を多く含む。内面に スス付着。 |
| 2 JE02 | 中期前半 勝板3式 | 深鉢 胴部 | 内面横位ナダ | 弧状・横位の隆帯。隆 帯上に連続刺突、弧状の 隆帯模様・内側に沈線模 文。 | — | 黒褐色 10YR3/2 | 灰黄褐色 10YR4/2 | 良 | 長石、石英、角閃 石、小礫 | 胎土に角閃石を 多く含む。 |
| 3 JE03 | 中期前半 勝板3式 | 深鉢 胴部 | 内面ナダ | 縞位の隆帯。隆帯断面 形状三角形で矢羽根状 網文施文。隆帯下端2 条の縞位單孔模様・横位 の短光澤を交互に施文。 | — | 黒褐色 10YR3/2 | 褐色 10YR4/1 | 良 | 長石、石英、角閃 石、小礫 | — |
| 4 JE04 | 中期前半 勝板3式 | 深鉢 胴部 | 内面ナダ | 隆帶による区画。隆帶 上交互刺突・矢羽根状 網文施文。隆帶下端2 条の縞位網文。 | — | 灰黄褐色 10YR4/2～ にぶい黒褐色 10YR5/3 | 褐色 10YR4/1 | 良 | 長石、石英、角閃 石、小礫 | 胎土に角閃石を 多く含む。 |
| 5 JE05 | 中期前半 勝板2式 | 口縦部 横位ナ ダ。 内面横位ナ ダ。 | 口縦部 横位ナ ダ。 内面横位ナ ダ。 | 口縦部に沿う幅広角押 突・大形の連続刺突と波状 模様・縞位2条の三角 形の連続刺突。 | — | 灰黄褐色 10YR4/2 | 褐色 7.5YR4/4 | 良 | 長石、角閃石、小 礫 | — |
| 6 JE06 | 中期前半 勝板2式 | 深鉢 胴部 | 内面ナダ | 横位の隆帯。隆帯基部 広角押突文施文。 | — | 褐色 7.5YR4/3 ～黒褐色 10YR2/2 | 黒褐色 10YR2/1 | 良 | 長石、石英、小礫 | — |
| 7 JF01 | 中期後半 加曾利E3 式 | 深鉢 胴部 | 内面横位ナダ後 横位ミガキ | 縞位施文。幅広く浅い ナダ状の横位光澤・弧状 の光澤・右側の弧状の 沈線は副刺突。 | 縞文RL横位 (上部)・縞位 (下部) | 褐色 7.5YR4/3 にぶい褐色 7.5YR5/4 | にぶい褐色 7.5YR5/4 | 良 | 長石、石英、角閃 石、小礫 | — |
| 8 JF02 | 中期後半 加曾利E3 ～4式 | 深鉢 胴部 | 内面横位ナダ | 幅広く浅いナダ状の縞 位模様。縞位施文。 | 縞文LR縞位 赤褐色 5YR4/6 10YR5/4 | にぶい黄褐色 10YR5/4 | 良 | 長石、石英、角閃 石、橙粒、小礫 | — | |
| 9 JF03 | 中期後半 曾利E I 式 | 深鉢 胴部 | 内面横位ナダ | 横位施文。横位の隆 帯貼付。 | 燃系文L縞位 | 褐色 7.5YR4/3 10YR4/2 | 灰黄褐色 10YR4/2 | 良 | 長石、石英、橙粒、 小礫 | — |
| 10 JF04 | 中期後半 加曾利E3 式 | 深鉢 胴部 | 内面ナダ後横位 ミガキ | 隆帶による区画。区画 内施文施文。隆帯に 幅広く浅いナダ状の沈 線。 | 縞文RL縞位 | 褐色 7.5YR4/3 10YR3/2 | 黒褐色 10YR3/2 | 良 | 長石、角閃石、橙 粒、小礫 | — |
| 11 JJ01 | 中期 不明 | 深鉢 胴部 | 内面横位ナダ | 縞文施文。 | 縞文RL横位 5YR4/4 | にぶい赤褐色 5YR4/4 | 褐色 7.5YR4/4 | 良 | 長石、雲母、橙粒 | 胎土に雲母を多く含む。勝板式 か。 |
| 12 JJ02 | 中期 不明 | 深鉢 胴部 | 内面ナダ | 縞文施文。 | 縞文R縞位 | 褐色 10YR3/2 2.5YR3/2 | 褐色 5YR6/6 ～黒褐色 2.5YR3/2 | 良 | 長石、小礫、礫 | — |
| 13 JJ03 | 中期 不明 | 深鉢 胴部 | 内面ナダ | 縞位の条線。 | — | にぶい赤褐色 2.5YR4/4 | 暗赤褐色 5YR3/4 | 良 | 長石、石英、小礫 | — |

第2章 平成28年度に実施した発掘調査

第1節 遺跡の概要

平成28年度に実施した個人住宅建設に伴う発掘調査および個人住宅・民間開発事業等に伴う確認調査は、武藏国分寺跡（No.10・19遺跡）5地区、恋ヶ窪遺跡（No.2遺跡）1地区、多摩蘭坂遺跡（No.7）1地区、本町（国分寺村石器時代）遺跡（No.28）1地区、No.29遺跡1地区、No.41遺跡1地区の計10地区である（付録除く）。調査を実施した各遺跡の概要は次の通りである。

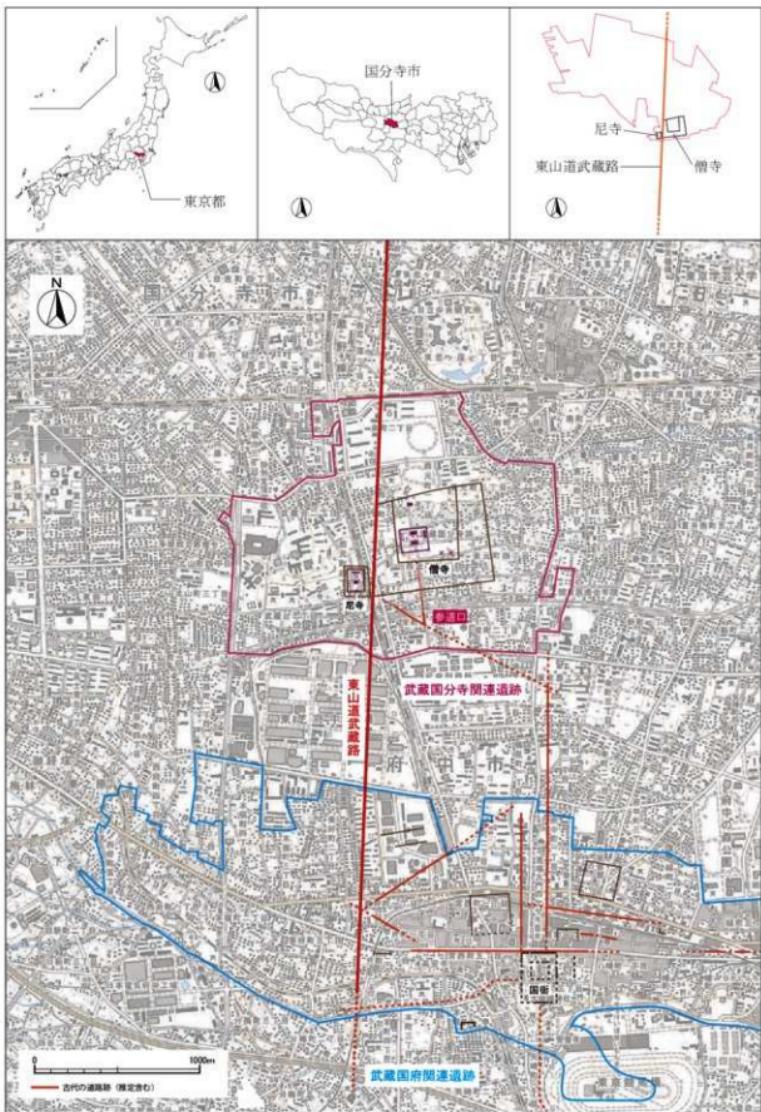
武藏国分寺跡（No.10・19遺跡）

武藏国分寺は、天平13年（741）に聖武天皇により発布された国分寺建立の詔で、全国60余国に設置された国分寺の一つである。古代の官道である東山道武藏路を挟んで東に僧寺、西に尼寺が配置され、遺跡の範囲は東西約1.5km、南北は国分寺崖線を挟んで約1kmに及ぶ。遺跡は現在の西元町1～4丁目、東元町3・4丁目、泉町1・2丁目、西恋ヶ窪1丁目に所在する。

僧寺は「寺院地」・「伽藍地」・「中枢部」の三重に、尼寺は「伽藍地」・「中枢部」の二重に区画され、その周囲の寺院に関連する遺跡を含めて「寺地」と称している。前者がNo.10遺跡、後者がNo.19遺跡に該当し、寺院跡のほか、東山道武藏路、推定鎌倉街道などの道路跡が確認されている。



第15図 武藏国分寺跡伽藍配置模式図



第16図 武藏国分寺跡の位置

恋ヶ窪遺跡（No.2 遺跡）

恋ヶ窪遺跡は、西恋ヶ窪1丁目、東恋ヶ窪1・3丁目に所在する。野川の源泉を見下ろす武藏野台地上に立地する縄文時代中期を中心とした集落跡で、北側を除く三方向を野川の開析谷に囲まれた舌状台地南西縁に広がっている。野川流域の代表的な大規模集落として知られており、これまでに約160軒の住居跡が確認されている。恋ヶ窪遺跡の中央やや西側の位置には、遺跡内を南北方向に縱走する東山道武蔵路（No.58）があり、恋ヶ窪遺跡の東側には羽根沢遺跡（No.5）、さらに東には恋ヶ窪東遺跡（No.57）がある。恋ヶ窪谷を挟んだ南側の台地には、恋ヶ窪南遺跡（No.3）、日影山遺跡（No.9）、そして武藏国分寺跡（No.10・19）の各遺跡がある。

多摩蘭坂遺跡（No.7 遺跡）

多摩蘭坂遺跡は、内藤一・二丁目周辺に所在する旧石器時代・縄文時代・奈良・平安時代の集落遺跡である。国分寺崖線に東南部から入るノッチ（凹部）状の小谷を取り囲むように武藏野段丘面沿いに広がっており、特に旧石器時代においては、約3万5000年前にさかのぼる市内最古の遺跡である。石器はナイフ形石器、打製石斧、槍先形尖頭器などが多く出土している。

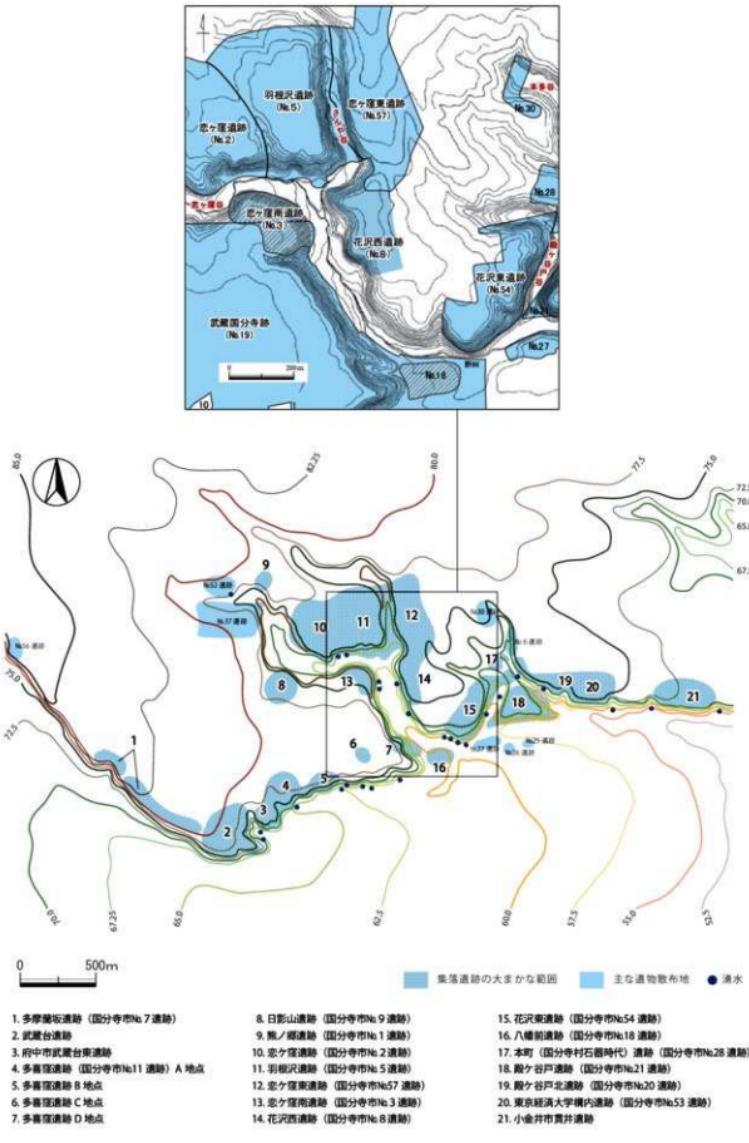
本町（国分寺村石器時代）遺跡（No.28 遺跡）

遺跡の名称は、大野延太郎と鳥居龍藏が明治27年（1894）に『東京人類学会雑誌』に「武藏国北多摩郡国分寺村石器時代遺跡」として論文を4号にわたって発表したことによる。この論文では、現在も考古学用語として用いられている「遺物包含層」の概念が規定されたこともあり、考古学研究史の中でも著名な遺跡である。

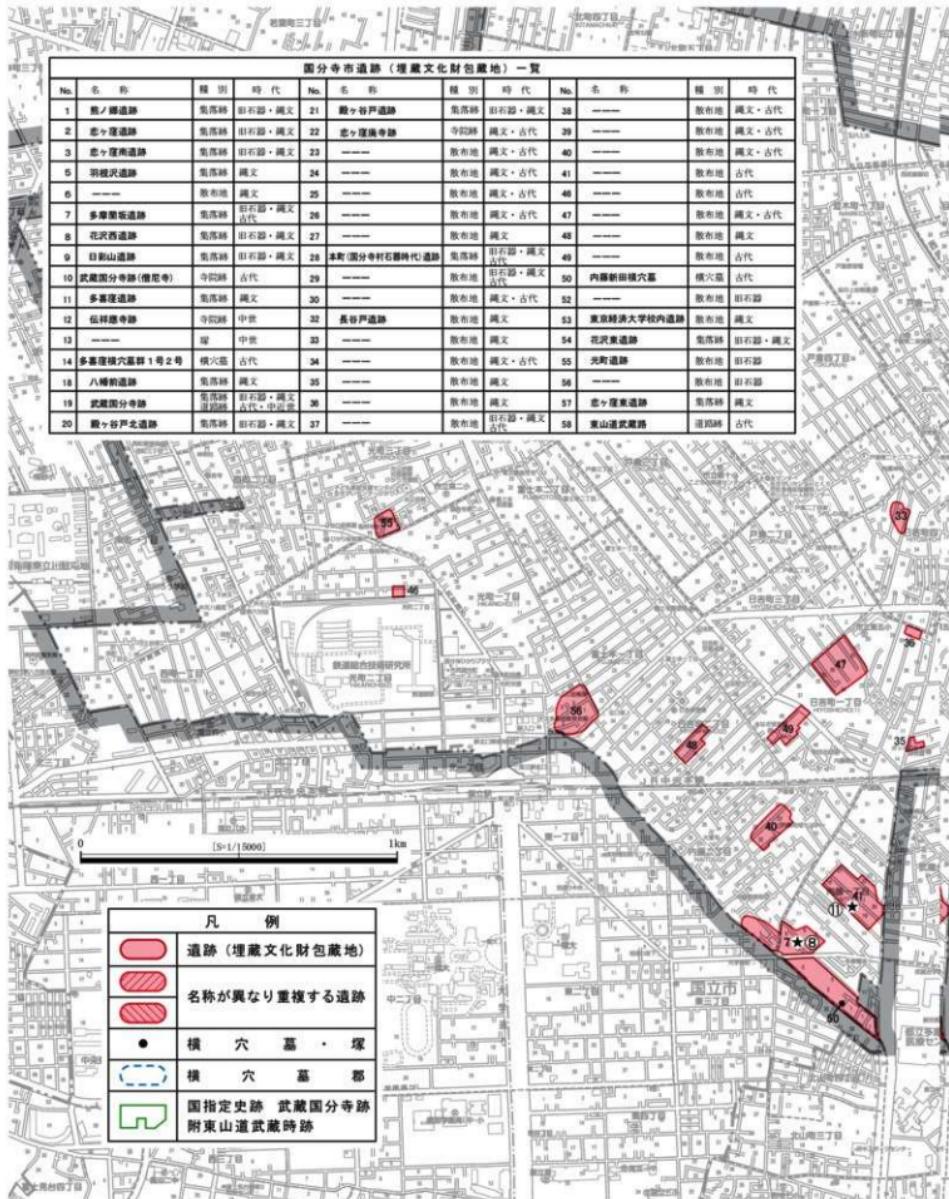
遺跡は、本町二丁目・南町二丁目周辺に所在し、地理的には開析谷である本多谷と殿ヶ谷戸谷によつて区画された武藏野台地上に立地する。旧石器時代・縄文時代・古代の集落遺跡として周知されているが、主な時代は縄文時代中期で、これまでに20軒を超える住居跡が検出されている。

No.41 遺跡

遺跡は、内藤一丁目に所在する奈良・平安時代の散布地である。国分寺崖線沿いに展開する多摩蘭坂遺跡からやや北に離れた場所に位置し、東側は武藏台遺跡（府中市）が展開する。

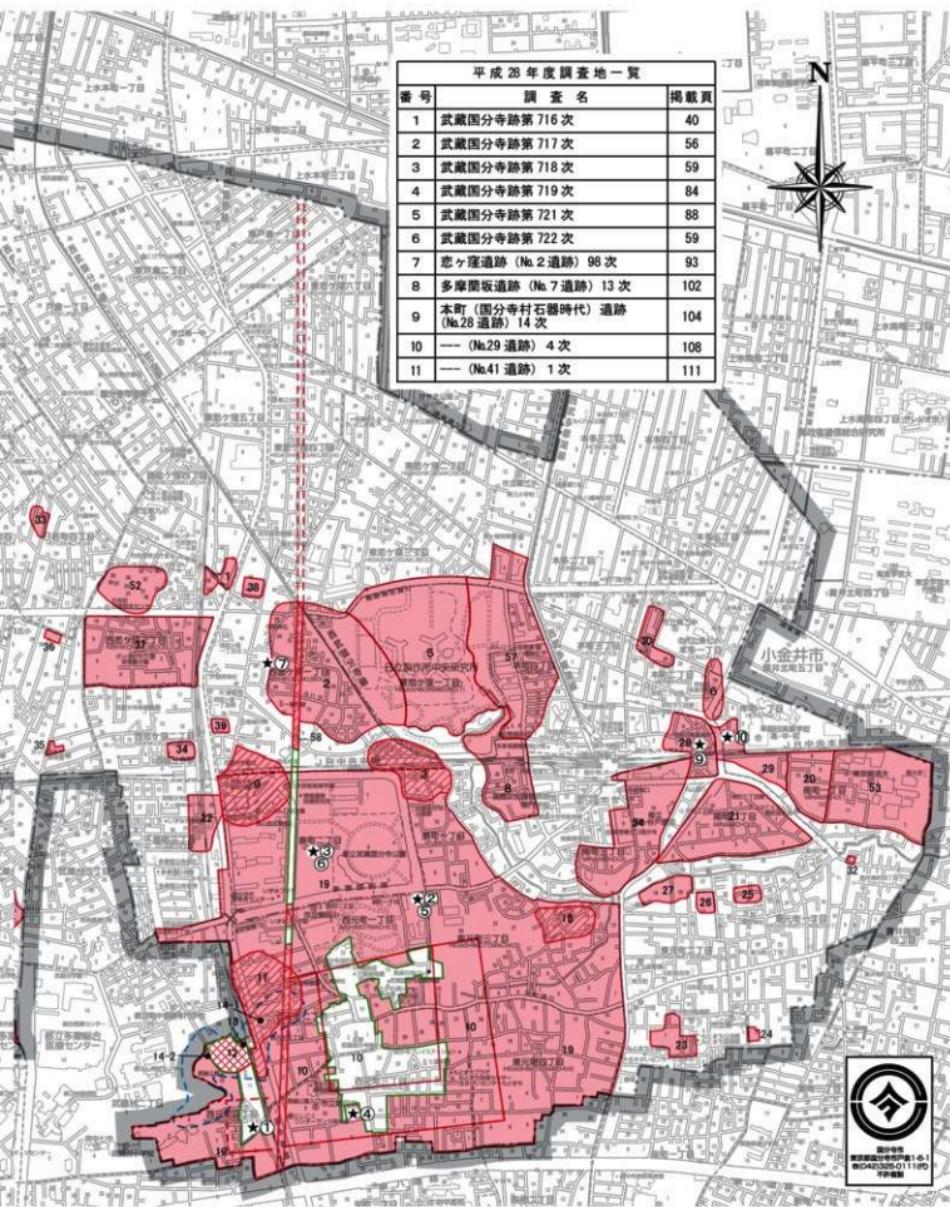


第17図 野川上流域の主な旧石器・縄文時代集落遺跡



第18図 調査地点位置図

| 平成28年度調査地一覧 | | |
|-------------|------------------------------|-----|
| 番号 | 調査名 | 掲載頁 |
| 1 | 武藏国分寺跡第716次 | 40 |
| 2 | 武藏国分寺跡第717次 | 56 |
| 3 | 武藏国分寺跡第718次 | 59 |
| 4 | 武藏国分寺跡第719次 | 84 |
| 5 | 武藏国分寺跡第721次 | 88 |
| 6 | 武藏国分寺跡第722次 | 59 |
| 7 | 志ヶ窪遺跡(№2遺跡)96次 | 93 |
| 8 | 多摩蘭坂遺跡(№7遺跡)13次 | 102 |
| 9 | 本町(國分寺村石器時代)遺跡 (№28遺跡)14次 | 104 |
| 10 | ——(№29遺跡)4次 | 108 |
| 11 | ——(№41遺跡)1次 | 111 |



第2節 調査の概要

(1) 武藏国分寺跡第716次調査

| | | | | | |
|------|----------------------------------|------|------|--|--|
| 所在地 | 西元町四丁目 13804-14 | | | | |
| 調査原因 | 分譲住宅建設 | 調査種別 | 確認調査 | | |
| 調査費用 | 国庫補助等 | 調査体制 | 委託 | | |
| 調査期間 | 平成 28 年 6 月 7 日～6 月 23 日 | | | | |
| 調査面積 | 18.18 m ² | 遺物箱数 | | | |
| 検出遺構 | SA19-2・SA19-3、SD44・SD436A・SD436B | | | | |
| 主な遺物 | 須恵器・瓦・埠 | | | | |



第19図 MKIII-716 調査地位置図

【1. 調査の目的と経緯】 本調査は、平成 28 年 5 月 26 日付国教教ふ收第 205 号文化財保護法（以下、法と称する）第 93 条第 1 項届出に基づき、国分寺市教育委員会（以下、市教委と称する）が国分寺市遺跡調査会（以下、調査会と称する）に委託して行ったものである。

調査区は、国分寺市西元町四丁目 13804-14 に所在し、武藏国分寺跡（遺跡No.10・19）に該当する。当該地は、国指定史跡武藏国分寺跡の尼寺中枢部付近にあたり、西隣の敷地で行った調査（武藏国分寺跡第 675 次調査（市教委『平成 23 年度国分寺市埋蔵文化財調査年報』2013 年 所収、以下『年報』））では、尼寺の掘立柱塀（SA19）と区画溝（SD44）が検出されている。このため、本工事で予定されている下水道工事によってこれらの遺構の一部が破壊される可能性があり、より詳しく埋蔵文化財の内容・性格等を把握するために、部分的な確認調査を行った。調査面積は 18.18 m² である。現地調査は平成 28 年 6 月 7 日から同年 6 月 23 日（実働 13 日）まで実施した。

【2. 検出された遺構と出土遺物】 調査区内は、地表より約 25 ~ 40 cm の深さまで、表土（耕作土含む）に覆われており、その下層から奈良・平安時代の遺構確認面である基本層序 III b 層が検出された。III b 層は上方が大きく搅乱されており、下方が薄く残っている状況であったが、同レベルで遺構確認を行ったところ、トレンチの北端で柱穴 2 基（SA19-2・3）、中央から南端にかけて溝 3 条（SD44・436A・436B）が検出された。

SA19-2 掘立柱塀柱穴（第23図）

尼寺の中中枢部を区画する南辺の掘立柱塀で、中門より東へ取りつく 2 本目の柱穴と考えられる。遺構の北側約半分と中央部は搅乱を受けており、全体の規模は不明だが、搅乱を掘り上げた南壁断面で確認された規模は東西幅約 1.0 m、深さは確認面から約 0.9 m である。掘方は下端に向かって僅かに内傾する逆台形を呈する。埋土は底部にロームブロック層があり、それより上層は黒褐色土を基本とした土が順次 10 ~ 15 cm 每の厚さでほぼ水平に埋められている状況であった。また柱穴には柱抜き取り穴の痕跡が見受けられたが、本工事の掘削深度に達しないため、断ち割りは行わず表面観察に留めた。時期は 1

期のみと想定され、柱の抜き取り後人為的に埋め戻されたと考えられる。遺物は抜き取り穴の埋土上面から須恵器蓋（番号1、以下「番号」）が出土した。

SA19-3 挖立柱塙柱穴（第24図）

SA19-2の東隣に位置する柱穴で、19-2～19-3の柱間の距離は推定で約2.4mと想定される。規模・形状は南北方向が長辺で約1.4m、東西が約1.0mの隅丸長方形を呈し、確認面からの深さは約1.0mである。本遺構は工事によって遺構の一部が破壊されたため、遺構の一部を断ち割って建て替えの有無等を確認した。掘方は、2と同様にほぼ垂直に立ち上がる逆台形で、埋土は底部にロームブロック層、その上層は黒色土・黒褐色土・ロームブロック主体土が互層のように充填されていた。掘方底部には柱を据えた際に残る圧痕である所謂「あたり」が認められた。また、柱穴中央には、平面形態が径約0.8mの不整形な円形状の柱抜き取り穴があったが、柱痕跡は確認できなかった。これらのことから、柱は1度建てられたのちに抜き取られ、その後建て替えを行わずに人為的に埋められたものと想定される。

伽藍を区画する東辺の掘立柱塙の柱穴も1時期のみが確認されているが、一方で武藏国分寺跡第383次調査で確認された中門の西側に取り付く掘立柱塙（第21図参照）では、1度の建て替えによる2時期が確認されている。今回の調査では遺構を完掘していないため、現状での判断になるが、中門の西側と東側で柱の建て替え回数が異なる可能性があり、今後も検証を重ねる必要がある。

なお、遺物は柱抜き取り穴の埋土から礫や瓦片（8・9）が出土している。

SD44溝（第25・26図）

掘立柱塙から約6～7m離れて外周し、塙とともに尼寺を区画する機能をもつ溝と考えられる。溝の規模は上端幅約1.7m、下端約0.9m、深さは確認面から約0.8mである。断面形態は上端から下端にかけて20～30度の角度で内傾する逆台形を呈し、SD436と比べると壁面・底面ともに丁寧に掘られている。覆土は、底部にロームブロックを主体とする整地土があり、その直上は早い段階に埋まつた暗褐色土が堆積しているが、中層～上層の暗褐色土・黒褐色土は自然堆積と考えられる。遺物は、覆土から瓦片が出土している。

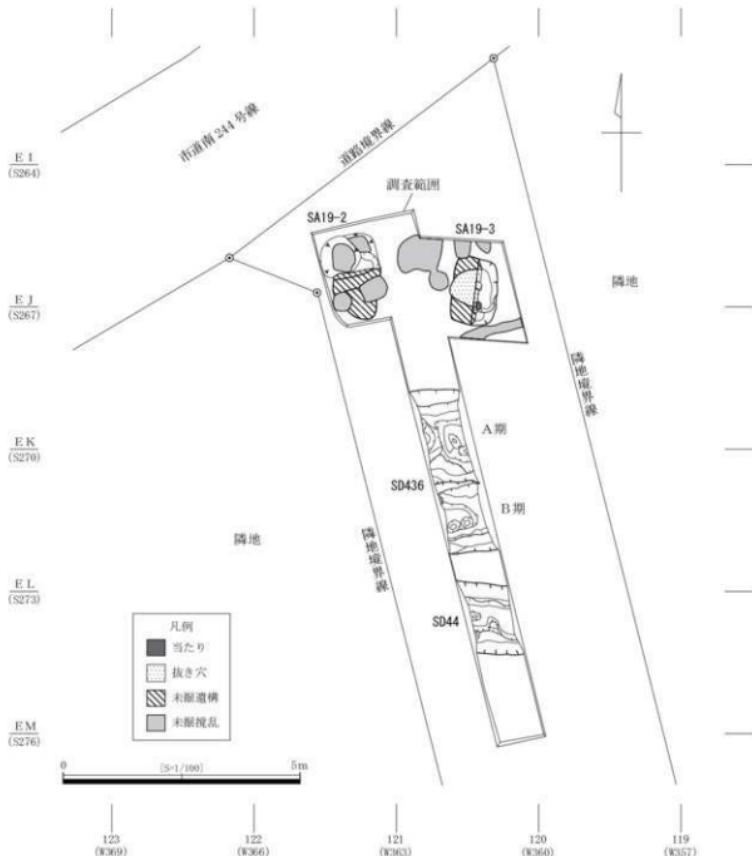
SD436溝（第25・26図）

尼寺の掘立柱塙に並行して掘られた溝で、塙から約2～3m外側に位置する。溝は新旧2時期あり、内側の溝が古く（A期）外側の溝（B期）が新しく構築されている。

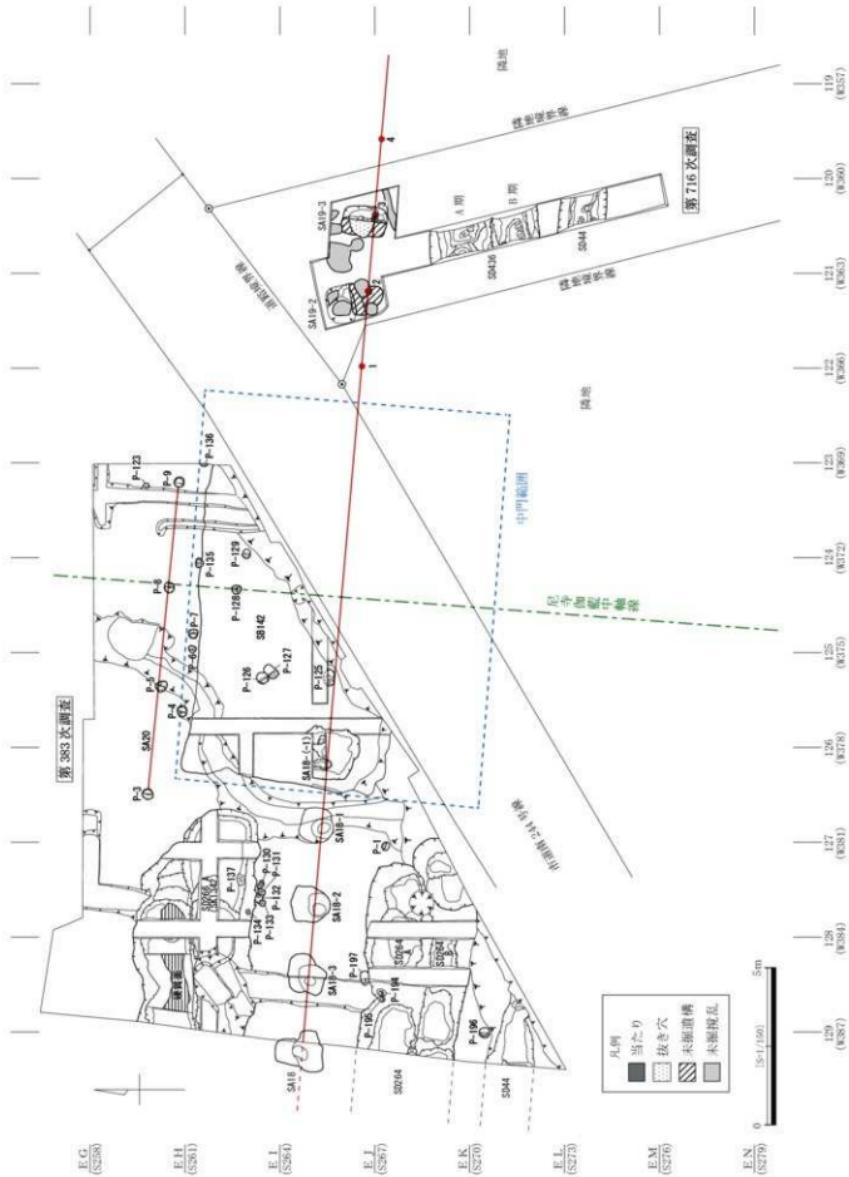
A期の溝は、重複して構築されたB期の溝によって一部が破壊されているため、正確な規模は不明であるが、遺存している範囲では上端幅2m以上、確認面からの深さは約1.2mである。断面形態は、底部から上端にかけて40～50度ほどの角度で緩やかに立ち上がる逆三角形で、掘方は全体にやや粗く掘られている。底部は、土坑が連結した形態で、底部には綺麗に仕上げられたロームブロック主体土が堆積していた。溝の覆土は、ロームブロック主体土・黒褐色土・灰黄褐色土・褐色土からなり、一部に白色粘土を含んでいる。堆積状況は自然ではなく短い期間で人為的に埋められたものと看取され、埋め方は北側から先に埋められている状況である。遺物は、覆土より約30点ほどの瓦片が出土しており、特に中層から多く出土した。図化したのは、武藏国分寺再建期の鎧瓦（3）である。

B期の溝は、A期の溝の一部を壊して構築されており、規模は上端で幅約1.7m、確認面からの深さ約1.2mである。断面形態は上端から中段までは垂直に近い角度で掘り込まれ、底部は湾曲して窪み、拳大の凹凸が多く見られる。覆土は、底部にロームブロックを主体とする整地もしくは掘り残し土があつたが、それより上層の土は比較的長い時間をかけて自然に堆積した土と考えられる。これまでの尼寺周辺の調査成果からは、SD436は建物等を構築する際に必要な土を取るために掘った溝と想定されていたが、B期覆土の堆積状況からは長期にわたって溝が開口していたことが想定される。

遺物は、覆土の上層がやや多く、須恵器坏（2）や瓦片（4～6・10）が出土している。



第20図 MK III-716 調査区全体図



第21図 MKIII-716・383調査区

E 1
(S264)E J
(S267)

SA19-2

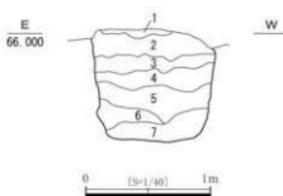
SA19-3

SD436
A期120
(S360)121
(K363)E S
(S270)

0 [S-1/40] 1m

第22図 MK III-716 SA19 平面図

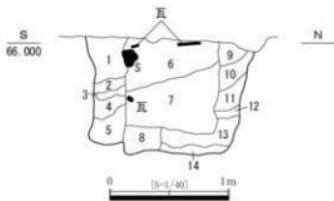
SA19-2 土層断面図（東西）



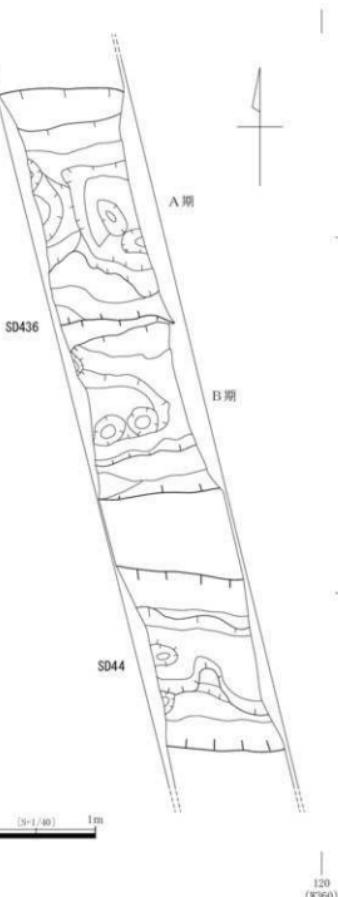
第23図 SA19-2 土層断面図

- 10YR3/1 黒褐色土 粘性なし。しまりややあり。
ローム粒微量、1~5cmのロームブロック少量含む。
2. 10YR3/3 暗褐色土 粘性なし。しまりややあり。
ローム粒・2mm~7cmのロームブロック多量、赤色スコリア微量含む。
3. 10YR3/1 黒褐色土 粘性ややあり。しまりややあり。
ローム粒・2mm~6cmのロームブロック（6点）少量含む。瓦を含む。
4. 10YR2/1 黒色土 粘性なし。しまりややあり。
部分的にしまりあり。ローム粒微量、1cm大のロームブロック微量（3点）含む。
5. 10YR4/2 底黄褐色土 粘性ややあり。しまりややあり。
西側から中央付近にかけてローム粒2mm~7cmのロームブロック少量含む。
6. 10YR2/1 黒色土 粘性なし。しまりややあり。ローム粒微量含む。
7. ロームブロック主体土 粘性ややあり。しまりあり。
2mm~10cmのロームブロックを主体とする。
部分的に底黄褐色土を少量含む。

SA19-3 土層断面図(南北)

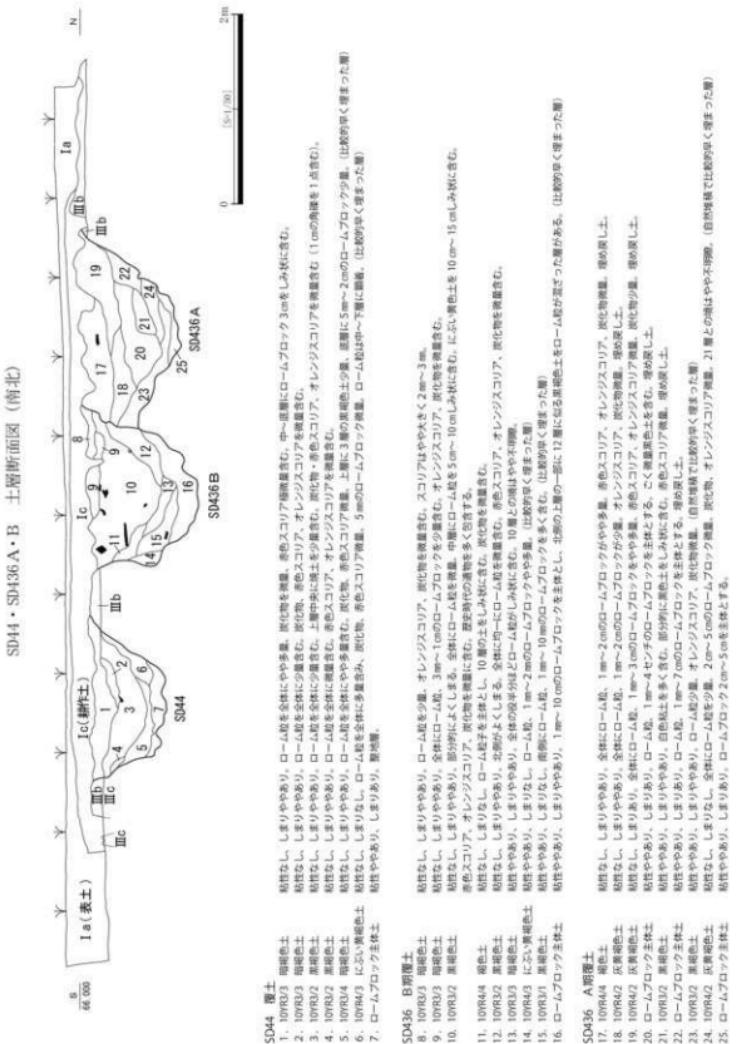


1. 10YR2/1 黒色土
粘性やあり、しまりややあり。
ローム粒・2mm~5cmのロームブロックやや多量、
オレンジスコリア微量含む。
2. ローム粒主体土
粘性やあり、しまりややあり。
ローム粒を主体とする。2~3cmのロームブロック、
にぶく黄褐色土を部分的に少量含む。
3. 10YR2/2 黒色土
粘性なし、しまりややあり。
ローム粒・2mm~3cmのロームブロックやや多量、
赤色スコリア微量含む。
4. ローム粒主体土
粘性なし、しまりややあり。
部分的に3層土、2cmの大ロームブロックを少量、
オレンジスコリア微量含む。
5. ロームブロック主体土
粘性やあり、しまりややあり。
2mm~12cmのロームブロックを主体とし、ローム粒も少量含む。
6. 10YR4/4 にぶく黄褐色土
粘性なし、しまりややあり。
ローム粒・2mm~5cmのロームブロック少量、赤色スコリア、
オレンジスコリア、黒色スコリア微量。
白色粘土微量、黒色土をしみ跡に少量含む。瓦・礫を上層に
包含する。
7. 10YR4/2 灰褐色土
粘性なし、しまりややあり。
ローム粒・2mm~8cmのロームブロック少量、赤色スコリア、
オレンジスコリア、黒色スコリア微量。
白色粘土微量。中層に瓦を包含する。
8. 10YR3/3 喀色土
粘性なし、しまりなし。
ローム粒少量、白色粘土微量含む。ボソボソして、13層土が
崩れ落ちたした。底部アタリの上に2~
3mmのまつた喀色土あり。
9. 10YR2/1 黒色土
粘性ややあり、しまりややあり。
ローム粒・2mm~5cmのロームブロックやや多量、
オレンジスコリア微量。
ローム粒主体。
10. ローム粒主体土
粘性ややあり、しまりややあり。
ローム粒を主体とする。2cmの大ロームブロックを少量含む。
11. 10YR2/2 黒色土
粘性なし、しまりややあり。
ローム粒・2mm~3cmのロームブロックやや多量、
赤色スコリア微量含む。
12. ローム粒主体土
粘性ややあり、しまりなし。
ローム粒を主体とし2~3cmのロームブロックを少量含む。
13. 10YR2/2 黒色土
粘性なし、しまりあり。
ローム粒・1cmの大ロームブロック微量含む。B層との物は
異がつされて不明瞭。
14. ロームブロック主体土
粘性ややあり、しまりあり。
2mm~6cmのロームブロック主体。一部に13層土が上から
混ざる。



第25図 SD436・SD44 平面図

第24図 SA19-3 土層断面図



第26図 SD44・SD436 A・B 土層断面図



第27図 MK III - 716 調査区全景（南から）



第28図 MK III - 716 調査区全景（北から）



第29図 SA19-2・3 検出状況（北から）



第30図 SA19-2・3 検出状況（東から）



第31図 SA19-2・3 全景（東から）



第32図 SA19-2・3 全景（西から）



第33図 SA19-2 断面（南から）



第34図 SA19-3 断面（東から）



第35図 SD436・SD44 検出状況（南から）



第36図 SD436 A・B全景（北から）



第37図 SD436 A・B土層断面（東から）



第38図 SD44 全景（南から）



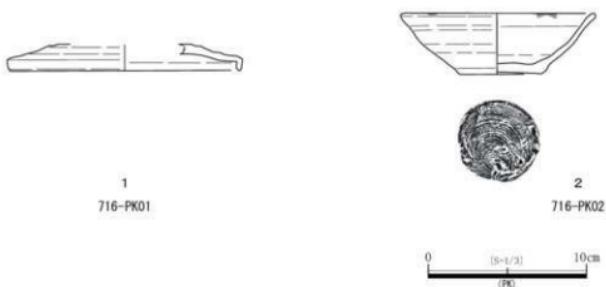
第39図 SD44 土層断面（東から）



第40図 調査風景1(北から)



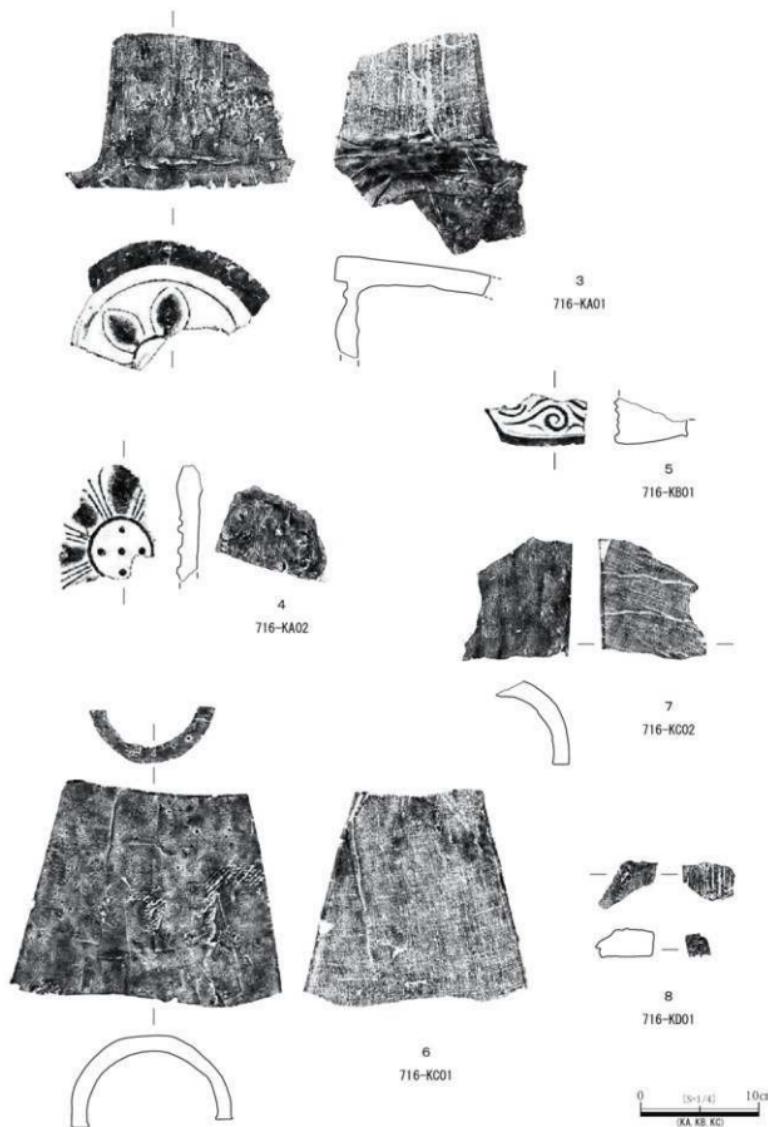
第41図 調査風景2(北から)



第42図 MKIII-716 出土遺物実測図1



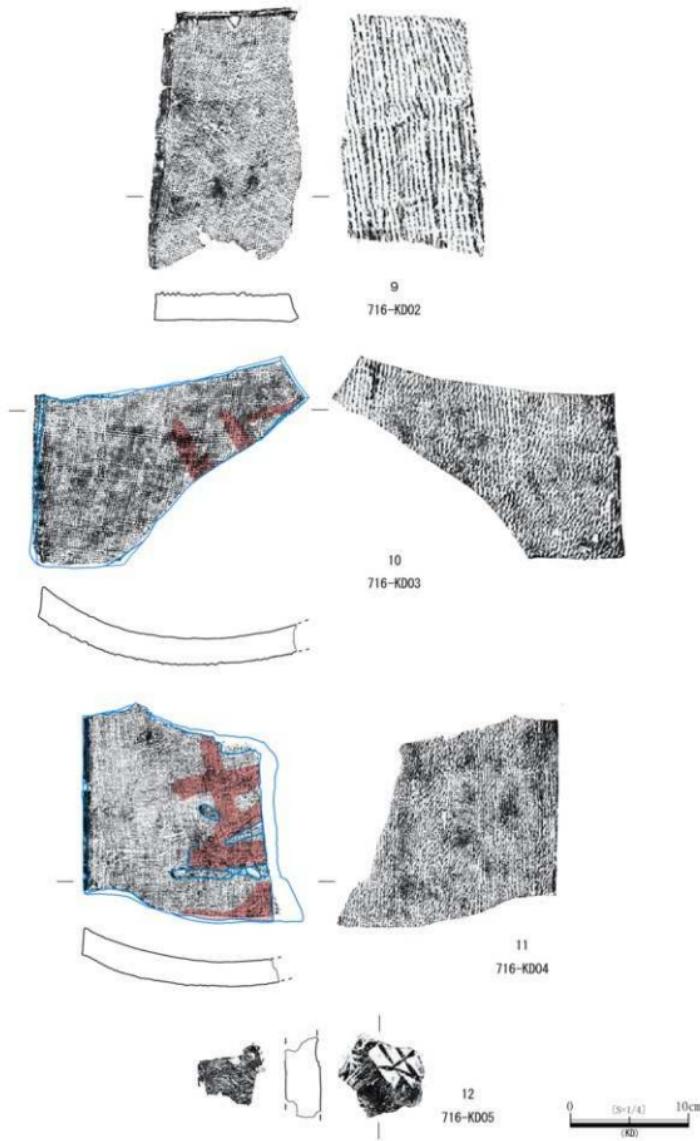
第43図 MKIII-716 出土遺物写真1



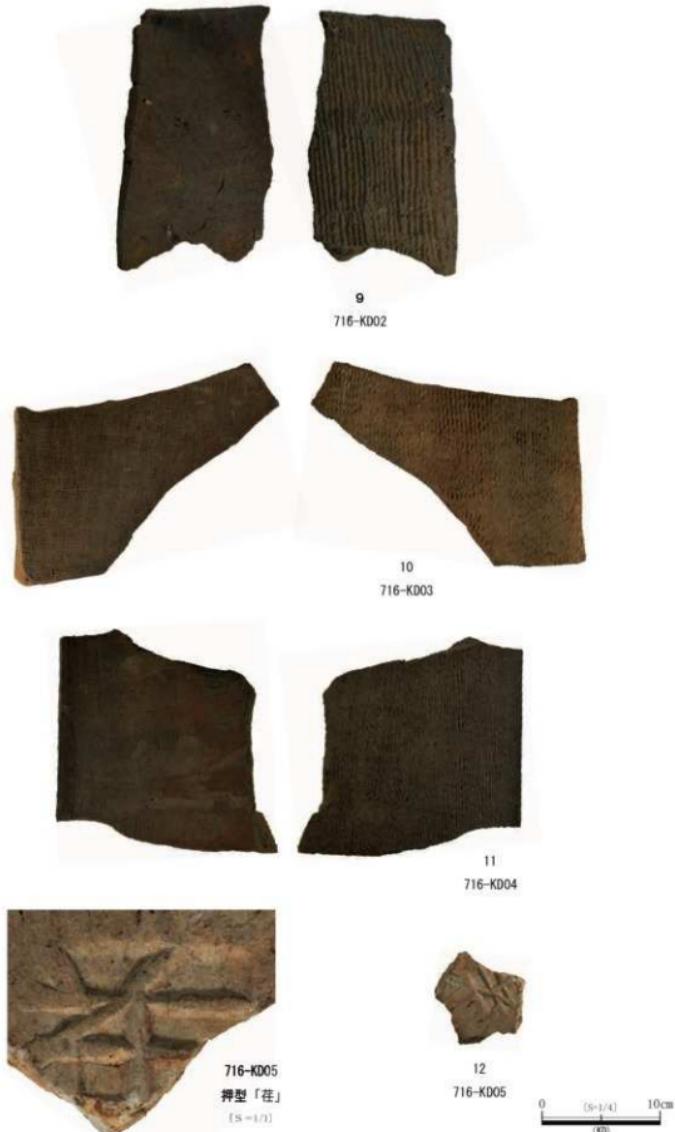
第44図 MK III - 716 出土遺物実測図2



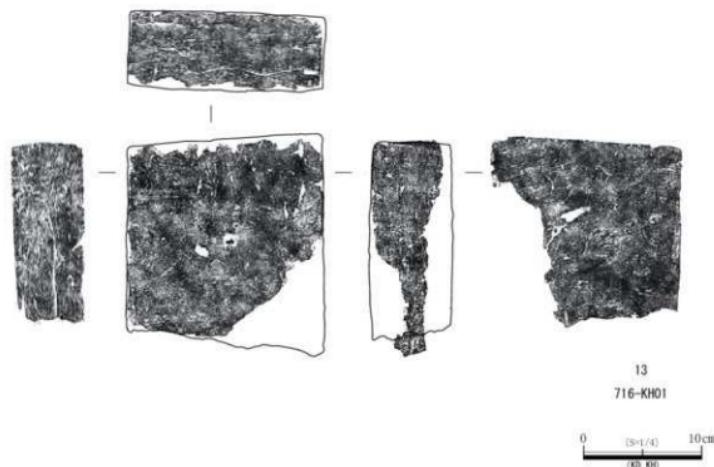
第45図 MKIII-716 出土遺物写真2



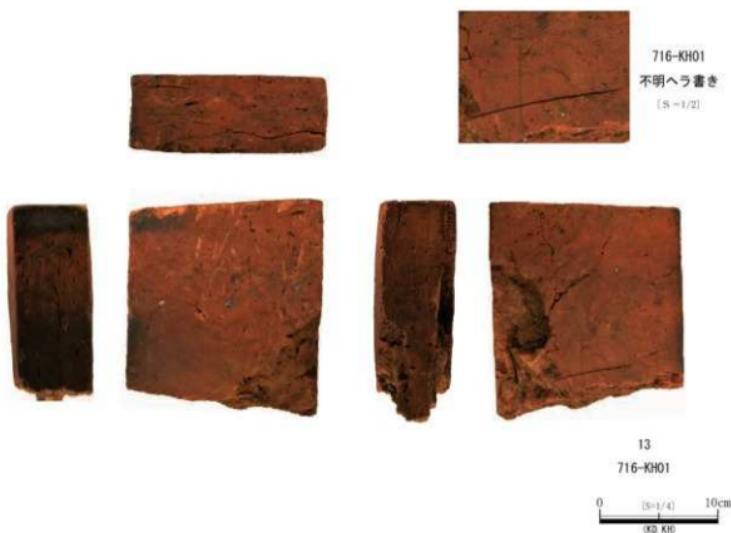
第46図 MK III - 716 出土遺物実測図3



第47図 MK III-716 出土遺物写真3



第48図 MKIII-716 出土遺物実測図4



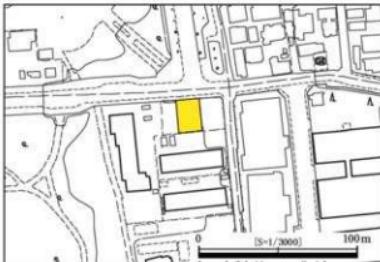
第49図 MKIII-716 出土遺物写真4

第16表 MKIII-716 遺物観察表

| MKIII-716 歴史時代 土器 | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|--------------------------|------------------------|---------------------------------------------|-----------------------------------------------------|------------------------------------------|------------------------------|---------------------------------------------|------------------------------|---------------------------------------------------|------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|
| 番号 遺物番号 | 種別 器種 | 出土 位置 | 口径 器高 底径 (cm) | 器形の特徴 | | | 成・整形の特徴 | | | 残量 | 備考 | |
| 1 PK01 | 須恵器 蓋 | SA19-2 抜き上層 | ((15.0)) (1.6) — | 体部外面はナデの凹凸が顕著。体部前面は天井部から体部にかけて内溝気味で緩やかに垂下る。 | | | 体部外面回転ナデ。 | | | 小片 | 外外面:灰白色 5V6/L. 壓い。焼成普通。微砂粒微量、白色針状物質や多量。 | |
| 2 PK02 | 須恵器 环 | SD436 B期 中層 | ((12.1)) 3.8 5.1 | 体部はやや内溝して立ち上がる。 | | | クロロ調整の後、底部は回転糸切をし、無調整。 | | | 3/4 | 外外面:灰黃色 2.5V7/2. 壓い。焼成普通。微砂粒微量、1~3mm角縫や多量。口縫部と体部前面の一部に保有着。 | |
| MKIII-716 歴史時代 砖瓦 | | | | | | | | | | | | |
| 番号 遺物番号 | 出土 位置 | 直徑 | 内区 | | | 外区 | | | 全長 | | | |
| | | | 中房径 形态 | 蓮子狀 弁孔径 弁幅 | 弁数 | 幅 | 幅 文様 | 幅 文様 | 高 | 文様 | 種別 | |
| 3 KA01 | SD436 A期 上層 | ((20.0)) B1 | ((5.5)) 3.4 | — | ((14.0)) 6 | 3.0 | 1.0 | a | 2.0 | 1.0 | a (13.2) | 單弁六葉蓮華文 |
| 備考 中房の形状: B1. 弁の形状: TC. 製作技法: a. 壓い。焼成普通。前面面目 ((18×17). 凸面叩きの後、タテナデ。瓦当と男真面の接合部はヨコナデ。灰色 5V4/L. 微砂粒多量、1~8mm角縫や多量。 | | | | | | | | | | | | |
| 4 KA02 | SD436 B期 下層 | — | 5.8 B1 | 5 (9.3) (C.5) | 8 | — | — | — | — | — | (2.3) | 單弁八葉蓮華文 |
| 備考 中房の形状: B1. 弁の形状: TC. 製作技法: a. 壓い。焼成普通。瓦当と男真面の接合部はヨコナデ。灰色 5V5/L. 微砂粒少量、1~4mm角縫少量。白色針状物質や多量。石基微量。 | | | | | | | | | | | | |
| MKIII-716 歴史時代 字瓦 | | | | | | | | | | | | |
| 番号 遺物番号 | 出土 位置 | 上端幅 下端幅 底深 (cm) | 厚さ (cm) | 内区 | | | 外区 | | | 成・整形の特徴 | | |
| | | | | 厚さ (cm) | 文様 | 上 | 厚さ (cm) | 文様 | 下 | 厚さ (cm) | 文様 | 幅 (cm) |
| 5 KB01 | SD436 B期 上層 | (10.8) S.7 — | 4.2 | (3.4) | HK | — | a | 0.8 | a | — | a 0.4 | 右偏行唐草文。製作技法: D. 段段: 形態: B. 壓い。焼成普通。頭部ヨコナデ。灰色 5V4/L. 微砂粒少量、1~8mm角縫や多量。 |
| MKIII-716 歴史時代 男瓦 | | | | | | | | | | | 成・整形の特徴 | |
| 番号 遺物番号 | 出土 位置 | 狭幅 広幅 全長 (cm) | 厚さ (cm) | 素材 | 凹面 | | | 凸面 | | | 備考 | |
| | | | | | 布目 | 特徴 | 叩き | 特徴 | 特徴 | 特徴 | 特徴 | 特徴 |
| 6 KC01 | SD436 B期 上層 | 10.2 18.3 | 1.3 | 粘土 模組 | 21×19 | 開端縫へラケズ り。一部指ナデ。 | 布目 | 側端縫の一部へ ラケズり。踊面叩 きの後、全体ナ デ。 | 後・側端面へラ ケズり。 | 無段。灰白色 5V4/L. 壓い。燒成普通。微砂粒微量、1~5mm角縫微量。 | | |
| 7 KC02 | 表土 | — 11.3 | 1.5 | 粘土 模組 | 24×24 | 側端縫へラケズ り。粘土模組の筋 跡顕著。 | — | 側端縫無調整。 全体タテナデ。 | 側端面へラケズ り。 | 灰オリーブ色 5V5/2. 壓い。燒成普通。微砂粒微量、1~3mm角縫微量。 | | |
| MKIII-716 歴史時代 女瓦 | | | | | | | | | | | 成・整形の特徴 | |
| 番号 遺物番号 | 出土 位置 | 狭幅 広幅 全長 (cm) | 厚さ (cm) | 素材 | 凹面 | | | 凸面 | | | 備考 | |
| | | | | | 布目 | 特徴 | 叩き | 特徴 | 特徴 | 特徴 | 特徴 | 特徴 |
| 8 KD01 | SA19 抜き穴 | — (4.7) | 2.3 | — | — | 開面彫刻工具に よる浅いタテナ デ。側端縫へラ ケズり。 | — | 開面彫刻工具に よるタテナデ。 側端縫へラケズ り。 | 側端面へラケズ り。ヘラ書き「口 方」あり。 | 灰黄色 2.5V7/2. 壓い。燒成普通。微砂粒少量、1~6mm角縫微量。 | | |
| 9 KD02 | SA19 抜き穴 | (10.3) (22.0) | 2.1 | 粘土板 ? | 19×23 | 狭・側端縫へラ ケズり。 | 調目 R6 | 狭・側端縫無調 整。 | 狭・側端面へラ ケズり。 | 灰白色 10V5/L. 壓い。燒成普通。微砂粒や多量、1~6mm角縫少量。 | | |
| 10 KD03 | SD436 B期 上層 | — (7.6) (18.0) | 2.2 | 粘土板 ? | 18×19 | 広・側端縫無調 整。不明墨書き あり。 | 調目 LS | 広・側端縫ナ デ。 | 広・側端面へラ ケズり。 | 灰黄色 2.5V6/2. 壓い。燒成普通。微砂粒少量、1~3mm角縫微量。 | | |
| 11 KD04 | 表土 | — (18.5) | 2.1 | 粘土板 ? | 29×24 | 側端縫へラケズ り。指頭痕あり。 不明墨書き「寺」 ? あり。 | 調目 L11 | 側端縫ナ デ。 | 側端面へラ ケズり。 | 灰黄色 2.5V7/2. 壓い。燒成普通。微砂粒や多量、1~5mm角縫や多量、白色針状物質や多量。 | | |
| 12 KD05 | 表土 | — (7.7) | 3.0 | — | (15× 15) | 布目を消すナ デ。 | — | 押型「往」(往原 郡)あり。 | — | 灰白色 2.5V7/1. 壓い。燒成普通。微砂粒少量、1~11mm角縫少量。 | | |
| MKIII-716 歴史時代 塼 | | | | | | | | | | | 成・整形の特徴 | |
| 番号 遺物番号 | 出土 位置 | 長辺 短辺 (cm) | 厚さ (cm) | 素材 | 上面特徴 | | | 下面特徴 | | | 備考 | |
| | | | | | 上面特徴 | 下面特徴 | 側面特徴 | 上面特徴 | 下面特徴 | 側面特徴 | 備考 | |
| 13 KH01 | 搅乱 | (11.6) 11.4 | 6.7 | 粘土板積 (5枚?) | 全体ナデ。棒一 部に布目痕あり。 側端から中央部 に向かってやや 盛り上がる。 | 全体ナデ。棒一 部に布目痕あり。 不明ヘラ書きあ り。 | 全体ナデ。棒一 部に布目痕あり。 ヘラ書き。 | 橙色 7.5V6/6. 壓い。燒成普通。微砂 粒や多量、1~12mm角縫や多量。 | | | | |

(2) 武藏国分寺跡第717次調査

| | | |
|------|----------------------|-----------|
| 所在地 | 西元町一丁目 2448-18 | |
| 調査原因 | 集合住宅建設 | 調査種別 確認調査 |
| 調査費用 | 国庫補助等 | 調査体制 委託 |
| 調査期間 | 平成28年7月4日～7月13日 | |
| 調査面積 | 29.08 m ² | 遺物箱数 1箱 |
| 検出遺構 | なし | |
| 主な遺物 | 土師器・須恵器・瓦、縄文時代石器 | |



第50図 MK I - 717 調査位置図

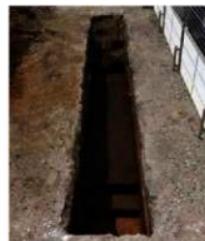
【1. 調査の目的と経緯】 本調査は、平成28年6月20日付国教教ふ取第293号法第93条第1項届出に基づき、市教委が調査会に委託して実施した。調査区は、国分寺市西元町一丁目2448-18に所在し、武藏国分寺跡（遺跡No.19）に該当する。本敷地内で平成22年度に実施した確認調査（MK663次）では奈良・平安時代の遺構や遺物が出土しており（市教委『平成22年度年報』2012年）、また南側の隣地でも奈良・平安時代、縄文時代の住居等が多数検出されている。

このため届出記載の工事によって住居や土坑などの遺構が破壊される可能性を検証するために、トレチを3箇所設定して確認調査を実施した。調査面積は29.08 m²である。現地調査は平成28年7月4日から同年7月13日（実働8日）まで実施した。

【2. 調査結果と出土遺物】 調査区内は、Aトレチ（東側）、Bトレチ（中央）、Cトレチ（南側）の各トレチとも地表より約1.2mの深さまで、盛土・耕作土等による表土（基本層序I層）に厚く覆われていた。その下層から奈良・平安時代の遺構確認面である基本層序III b層（厚さ約30～40cm）が検出されたため、遺構の有無を確認したが、住居等は検出されなかった。さらに縄文時代の遺構を確認するためにA・Cトレチ内的一部分をIII c層、IV層（中間まで）まで掘下げて遺構確認を行ったが、遺構や遺物は未検出であった。遺物は、III b層から縄文時代の打製石斧（1）が出土した。このほか、表土から古代の土師器・須恵器等・瓦の破片が出土したが、小片のため図化し得なかった。

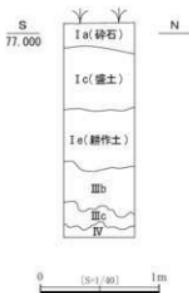
第51図 Aトレチ全景
(東から)

第52図 Bトレチ全景（南から）

第53図 Cトレチ全景
(北から)



第 54 図 MK I - 717 調査区全体図

第55図 MK I - 717
土層柱状図（西壁）第56図 Cトレンチ
西壁土層断面第57図 遺物出土状況（AG01）
Aトレンチ（東から）

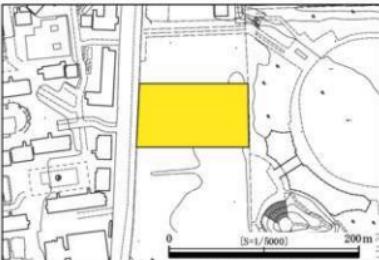
第58図 MK III - 716 出土遺物実測図・写真

第17表 MK I - 717 遺物観察表

| MK I - 717 縄文時代 石器 | | | | | | | | | |
|--------------------|----------|----------|-------------|-------------|-------------|-----------|----------|----|----|
| 番号 遺物番号 | 種別 器種 | 出土 位置 | 最大長 (cm) | 最大幅 (cm) | 最大厚 (cm) | 重量 (g) | 遺存 状態 | 石材 | 備考 |
| 1 AG01 | 打製石斧 | III b 層 | (7.4) | 5.5 | 2.6 | 151.75 | 欠損 | 砂岩 | |

(3) 武藏国分寺跡第718・722次調査

| | | | |
|------|---------------------------------------------------------------------------------|------|--------------|
| 所在地 | 泉町二丁目 102 番 13 | | |
| 調査原因 | 都公文書館 改築 | 調査種別 | 確認調査 発掘調査 |
| 調査費用 | 公共機関負担 | 調査体制 | 委託 |
| 調査期間 | 〔確〕平成 28 年 10 月 24 日～11 月 29 日 〔発〕平成 29 年 2 月 7 日～2 月 28 日 | | |
| 調査面積 | 〔確〕507.13 m ² 〔発〕326.30 m ² 計 833.43 m ² | | |
| 検出遺構 | SD153 (SD3)・SD170、SK3458J～3460J、PJ-1～4 | | |
| 主な遺物 | 須恵器・瓦、白磁、近世陶磁器、繩文土器・石器 | | |



第 59 図 MKIV-718・722 調査地位置図

【1. 調査の目的と経緯】 東京都公文書館改築工事に伴う発掘調査は、平成 28 年 7 月 20 日付国教教ふ
收第 396 号法第 94 条第 1 項通知、平成 28 年 9 月 29 日付「東京都公文書館改築工事に伴う埋蔵文化財
発掘調査委託に関する協定書」に基づき、東京都総務局が調査会に委託して行ったものである。

対象地は、国分寺市泉町二丁目 102 番 13 に所在し、周知の埋蔵文化財蔵地である武藏国分寺跡
(No. 19) に該当する。

当該地の周辺の発掘調査（西国分寺地区土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査、都立多摩図書
館改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査、都立小金井特別支援学校改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査
(本書付録 (4) 参照)）では、歴史時代の掘立柱建物跡・竪穴住居跡・溝跡・土坑・地下式横穴墓、
縄文時代の集石・土坑・旧石器時代の石器集中部を検出している。

このため、東京都総務局と市教委の間で協議、調整を行い、本工事で予定されている建物基礎工事等
によって埋蔵文化財が破壊される可能性がある部分については、事前に埋蔵文化財確認調査を行う旨を
確認し、平成 28 年 9 月 29 日に東京都総務局、市教委、遺跡調査会の間で「東京都公文書館改築工事に
伴う埋蔵文化財発掘調査委託に関する協定書」を締結した。

この協定に基づき、まず確認調査（以降、その 1 調査）を平成 28 年 10 月 24 日から 11 月 29 日（現
場実働 23 日）まで実施した。調査面積は 507.13 m² である。

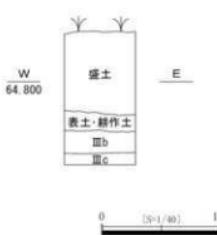
その 1 調査の結果、B トレンチで歴史時代の溝跡 (SD170) が良好な状態で検出されたが、施工計画
に照らすと同構の大部分が未調査のまま滅失してしまう可能性が明らかとなつたため、協定書第 9 条に
基づき、歴史時代の溝跡が延長する部分について追加で発掘調査を行うこととし、平成 29 年 1 月 6 日に「東京都公文書館改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査委託に関する協定書（第 1 回変更）」、および 1
月 16 日に「東京都公文書館改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査委託（その 2）契約書」を締結し、「東
京都公文書館改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査（その 2）」として歴史時代溝跡 (SD170) の延長が予

測される範囲、約 460 m²を対象にトレーナーを設定し、発掘調査を実施することとした。

その 2 調査の調査面積は 326.30 m²、調査期間は平成 29 年 2 月 7 日から 2 月 28 日（現場実働 15 日間）である。

【2. 検出された遺構と出土遺物】 その 1・その 2 調査とともに、まず地表から 1.5 m ほどまで重機による掘削を行った。調査地内は広い範囲で地表から 150 ~ 200 cm 以上まで盛土に覆われており、またその下層は旧鉄道学園内の道路・建物の基礎等による削平を大きく受けている。

その後人力により不陸を精査し遺構確認を行った結果、その 1 調査では、調査区の西半で遺構確認面を検出し、歴史時代の溝（SD170）、縄文時代の土坑（SK3458・J3459J・3460J）、縄文時代の小穴（PJ-1 ~ 4）を検出した。



第 60 図 MKIV-722 土層柱状図（北壁）



第 61 図 MKIV-718 B トレーナー東壁土層断面

SD170 溝（第 75・76 図）

歴史時代の SD170 溝については、近隣の調査（遺跡調査会第 168・364 次調査）において検出されている溝の主軸と同一線上にあり、覆土の堆積状況を考え合わせて同一の遺構であると考え、遺跡調査会で取得していた遺構番号 SD170 を付与したものである。

遺物は、近世の陶磁器片が 3 点、縄文土器片が 5 点（中期加曾利 E 式）、縄文時代の石器（打製石斧）が 2 点出土した。

引き続き行ったその 2 調査では、トレーナー西側において SD170 を東西 46 m にわたって検出した。東側は旧鉄道学園時代の削平が地表から 2 m より深くまで及んでおり同溝の検出はできなかった。

SD170 は上面幅 1.4 ~ 2.0 m、底面幅 0.6 m、深さ 70 cm を測り、断面形は逆台形を呈し、主軸方向は武藏国分寺中軸線から 80 度西偏して。覆土は、下層はロームブロック・III b ブロックを多く含み、中・上層は黒褐色土を主体とする自然堆積である。

SD170 は、西国分寺地区遺跡調査会が平成 5 年から 8 年に実施した西側隣接地（西国分寺地区住宅市街地整備総合支援事業）の発掘調査で検出された SD5 とも同一の遺構である可能性が高く、その場合、東山道武藏路を横切り東西約 340 m 以上を測る。

また、東京都埋蔵文化財センターが実施した東京都立多摩中央図書館改築工事に伴う発掘調査（北側隣接地）で検出された溝跡 SD3(以下 SD3) が本調査区内の SD170 まで延びていることが確認され、当該部分の溝を SD153 と命名して調査を行った。

遺物は縄文土器片（第 718 次 5～7）、古代の須恵器・瓦（第 722 次 2・3）、そして白磁片（第 722 次 1）が出土した。

このほか、調査区全体の表土やⅢ層から縄文時代の打製石斧（第 718 次 9・10）なども出土している。

【3. 小 緒】 今回の調査で特筆される成果の一つは、前述のとおり SD170 が再開発事業に伴う調査の SD5 と一連の東西溝で、約 340 m 以上にも及ぶ延長距離が判明したことである（第 62 図）。再開発事業の調査では「古代の遺構」は基本土層の I c 層、「中世・近世の遺構」は上位層の I b 層をそれぞれ覆土の主体と認識し、土師器・須恵器・瓦片が出土する SD5 は前者の遺構として扱っているが、報告書には交差する東山道武藏路との新旧関係は明示されていない（伊藤 1999）。ところが、SD170 覆土中より大宰府分類で 13 世紀後半～14 世紀前半の白磁皿 IX 類（山本 1995）が出土したことに及び、これらが中世の所産であったということは大きな発見となった（第 102・103 図）。というのも、第 1 期から第 4 期までの変遷が説かれている泉町地区の東山道武藏路は、道路自体から出土する遺物が極めて僅少のため、最終段階の第 4 期の存続期間「11 世紀の初めより以前」（福嶋 2003）という時間的尺度でしか把握出来ておらず、その明確な下限年代を押さえる意味で本溝の調査成果は貴重といえるだろう。

また、再開発の調査では、東山道武藏路の東側に並走する南北溝 SD33 も、規模・形状から SD5 と一連の区画溝を構成している遺構の可能性が触れられ、覆土内からは「常滑と思われる陶器片 4 点」他多くの遺物が出土しているが、その時期は東山道武藏路 SF1 および 10 世紀中頃の遺物を含む SX13 と「さほどへだたりない時期に構築された溝」と推測されている（伊藤前掲）。現時点での白磁皿と SD33 の「常滑と思われる陶器片 4 点」以外に詳細な情報は無いが、ひとまず SD5・33・170 の溝は 14 世紀以降の区画溝として再検討してみる必要がありそうである。

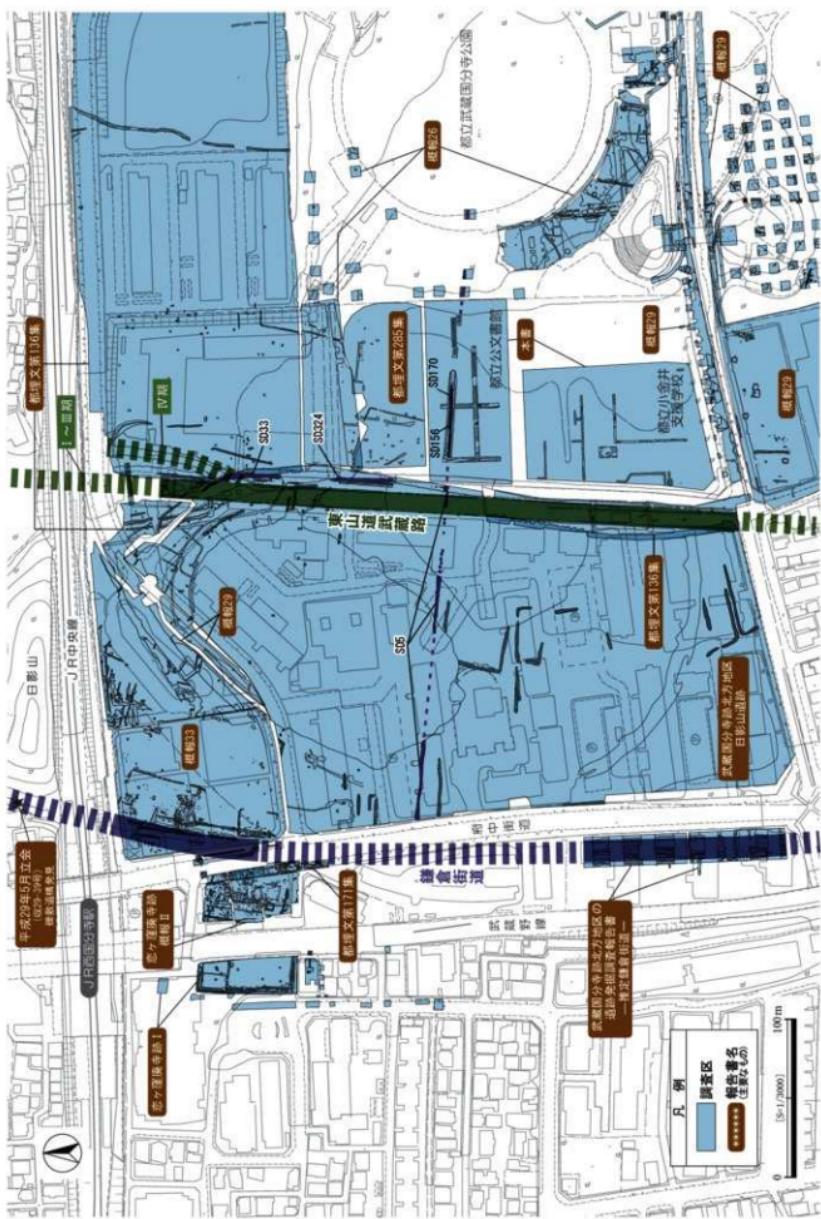
その際に気がかりなのは、JR 西国分寺駅周辺に広がる「恋ヶ窪廃寺跡」との関連である。恋ヶ窪廃寺跡は、昭和 46 年の第 1 次調査で、土壙を伴う礎石建物 SB1 と碑牌等が検出されたことを嚆矢として、以後、数次に亘る調査によって、鎌倉街道に沿って溝で囲繞された範囲に複数棟の掘立柱建物、火葬墓・土壙墓、方形周溝状遺構等の存在が判明し（第 63 図）、これらの遺構は、①礎石建物跡のみで構成される平安時代後半の第一期（創建期）、②掘立柱建物跡や溝跡等で構成される 13 世紀末を中心とした第二期（再建期）、③寺域南辺溝埋没後に土壙墓・火葬墓等で構成される 14 世紀前半～15 世紀末の第三期、という概略 3 時期に亘って変遷する古代末～中世の寺院跡と捉えられている（有吉 1986・板倉 2006 等）。ただ、これまでに周辺一帯で出土した錢貨を除く中世の遺物は第 64～66 図に掲げた程度であり、個別遺構の年代は遺物の出土状況に照らして更なる精査が必要だが、SD5・170 は、このうち武藏国分寺跡第 294 次調査の方形区画溝 SD208・209 や、第 16・104・134 次調査の掘立柱建物・方形周溝状遺構等と主軸方位が近似している点は留意すべきであろう。『新編武藏風土記稿』の恋ヶ窪村の項には、「弥陀堂三間四面、村の南境にあり、府中高安寺持、木の坐像二尺許、此堂昔は無量山道成寺とも云、或いは飯

寺とも云へるよし、いずれ寺の廃跡なるべし」といって、現在はJR西国分寺駅の北東に集合墓地の遺称として名を留める弥陀堂が、道成寺の後継寺院であったことが触れられており、道成寺と恋ヶ窓廃寺跡の関係は引き続き追究すべき課題の一つである。

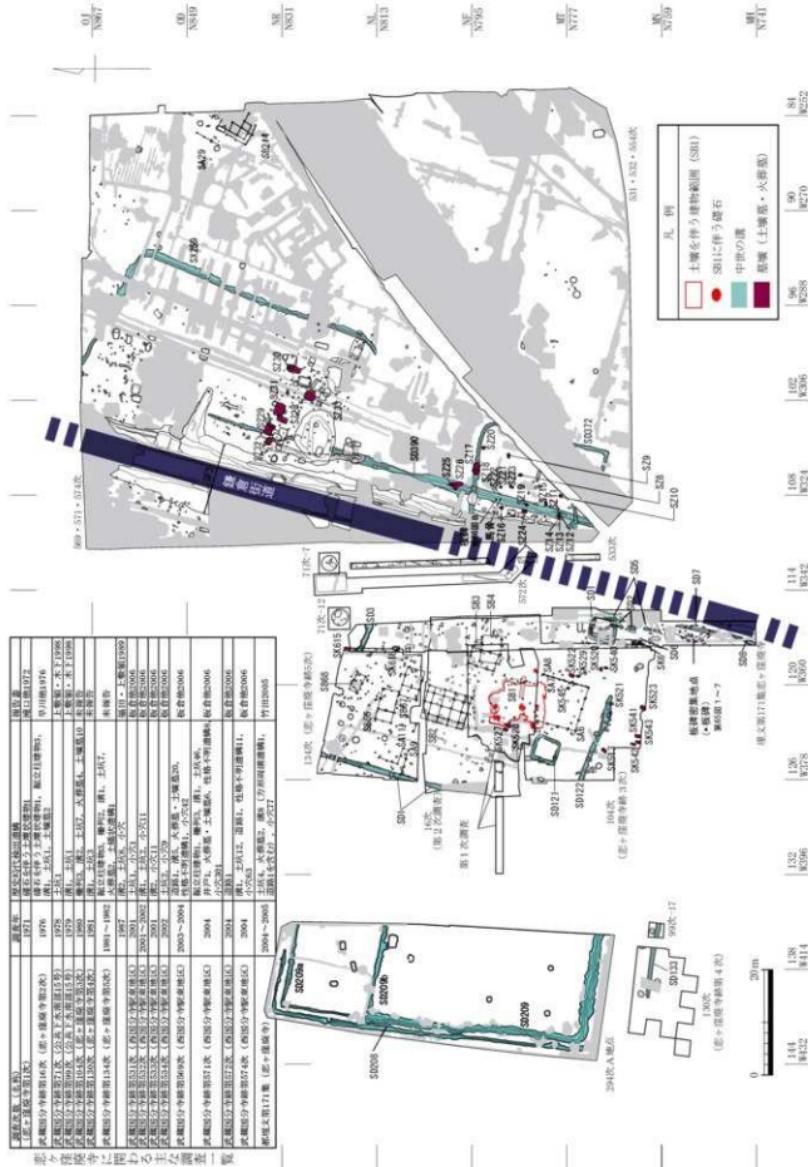
ところで、延宝6（1678）年の国分寺村検地帳に、小名の一つで中世武士の館跡に關係する「堀之内」地名が確認され（大澤1990）、明治2年の国分寺村絵図には2箇所に「堀之内」の表記が見える（第67図）。これを現在の地図に当てはめると第68図に示した範囲に該当し、一つは国分寺薬師堂の北西側、もう一つは黒鐘谷周辺となる。薬師堂北西側一帯は、これまでに多くの発掘調査が行われているものの中世に関わる情報が少ない一方で、黒鐘谷周辺は伝祥応寺跡で土星を伴う礎石建物跡が発見され、14～15世紀代を中心とした遺物も出土している（第69・70図）。このような点も踏まえ、市内における中世遺跡のあり方を注意してみていく必要があるだろう。

[引用・参考文献]

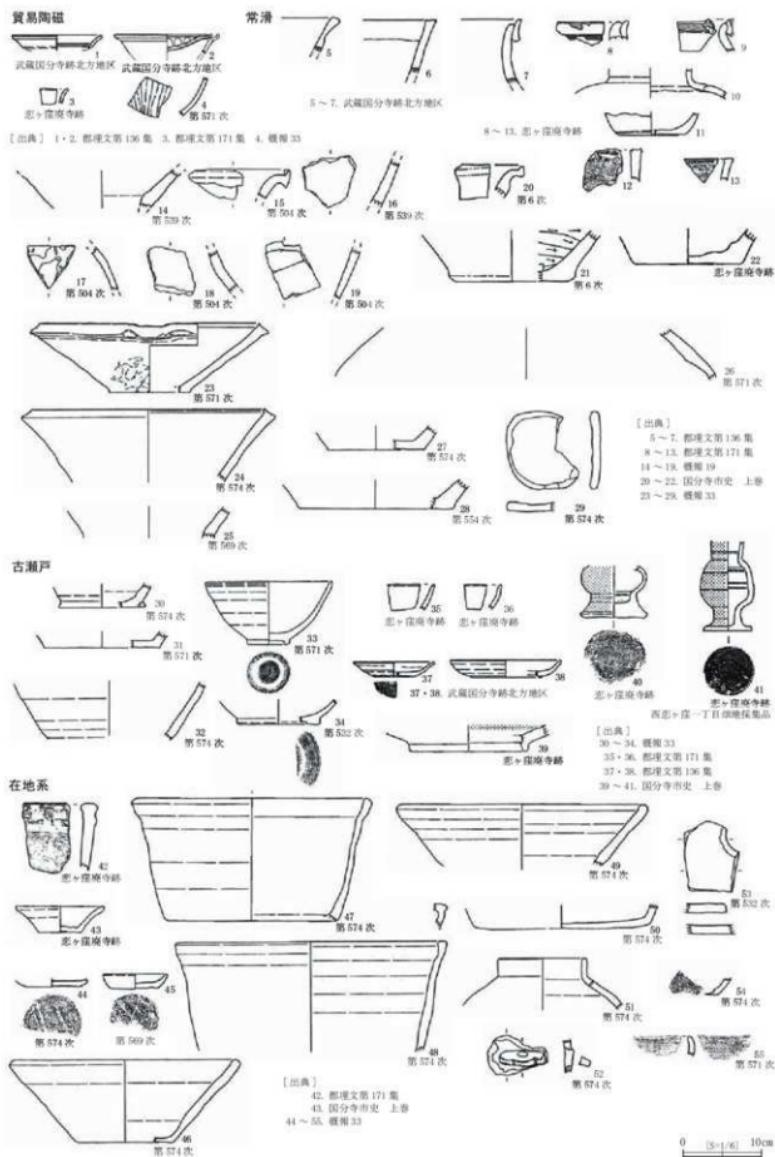
- 有吉重蔵 1986 「国分寺市域における中世遺跡」『国分寺市史 上巻』国分寺市
- 有吉重蔵他 1989 「武藏国分寺跡発掘調査概報 XIV－昭和52～57年度 尼寺々城確認調査－」国分寺市遺跡調査会・国分寺市教育委員会
- 伊藤俊治 1999 「IV. 歴史時代 2. 古代 2) 遺構 ②溝跡」『武藏国分寺跡北方地区 日影山遺跡・東山道武藏路』西国分寺地区遺跡調査会
- 板野普鏡他 1996 「武藏国分寺跡北西地区の遺跡発掘調査報告書－推定鎌倉街道－」西国分寺地区遺跡調査会
- 板野普鏡他 1999 「武藏国分寺跡北方地区 日影山遺跡・東山道武藏路」西国分寺地区遺跡調査会
- 板倉歓之他 2006 「武藏国分寺跡発掘調査概報 33－北方地区・西国分寺駅東地区第一種市街地再開発事業に伴う調査－」国分寺市遺跡調査会
- 大澤理恵 1990 「第1章 近世初期の村落 第2節 植地と村落」『国分寺市史 中巻』国分寺市
- 小川将之他 1999 「武藏国分寺南西地区発掘調査報告書－府中都市計画道路3・2・2の2号線建設に伴う調査－」武藏国分寺関連（府中都市計画道路3・2・2の2号線）遺跡調査会・東京都北多摩南部建設事務所
- 上敷領久他 1998 「武藏国分寺跡発掘調査概報 XXII－国分寺市公共下水道面整備南部地区15号工事他に伴う調査－」国分寺市遺跡調査会
- 上村昌男他 2002 「武藏国分寺跡発掘調査概報 26－北方地区・平成8～10年度西国分寺地区土地区画整理事業及び泉町公園事業に伴う調査－」国分寺市遺跡調査会
- 上村昌男他 2003 「武藏国分寺跡発掘調査概報 29－北方地区・平成11～13年度西国分寺地区土地区画整理事業及び泉町公園事業に伴う調査－」国分寺市遺跡調査会
- 瀧口 宏治 1972 「恋ヶ窓廃寺址調査報告」東京都国分寺市・泉町廢寺址遺跡調査会
- 竹田 均 2005 「恋ヶ窓廃寺跡遺跡－国分寺3・4・14是政恋ヶ窓線整備事業に伴う発掘調査」『東京都埋蔵文化財センター調査報告 第171集』東京都埋蔵文化財センター
- 西野壽勝他 1999 「武藏国分寺跡西方地区 武藏台東遺跡」都宮川越道住宅遺跡調査会
- 早川 泉他 1976 「武藏国分寺跡調査概報 II－恋ヶ窓堂址第二次調査－」国分寺市教育委員会・武藏国分寺遺跡調査会
- 福嶋宗人 2003 「VII まとめ 3 古代」『武藏国分寺跡遺跡北方地区－西国分寺地区土地区画整理事業に伴う調査－』東京都埋蔵文化財センター調査報告第136集
- 福嶋宗人他 2003 「武藏国分寺跡遺跡北方地区－西国分寺地区土地区画整理事業に伴う調査－」『東京都埋蔵文化財センター調査報告第138集』東京都埋蔵文化財センター
- 福田信夫他 1989 「恋ヶ窓廃寺跡発掘調査概報 I－西国分寺駅南口地区第一種市街地再開発事業に伴う調査－」国分寺市遺跡調査会
- 福田信夫 1995 「武藏国分寺跡II－平成5年度発掘調査概報－」国分寺市教育委員会
- 福田信夫 1996 「武藏国分寺跡III－平成6年度発掘調査概報－」国分寺市教育委員会
- 福田信夫 1997 「武藏国分寺跡IV－平成7年度発掘調査概報－」国分寺市教育委員会
- 山本信夫 1995 「11. 貿易陶磁器〔2〕中世前期の貿易陶磁器」『概説 中世の土器・陶磁器』真陽社



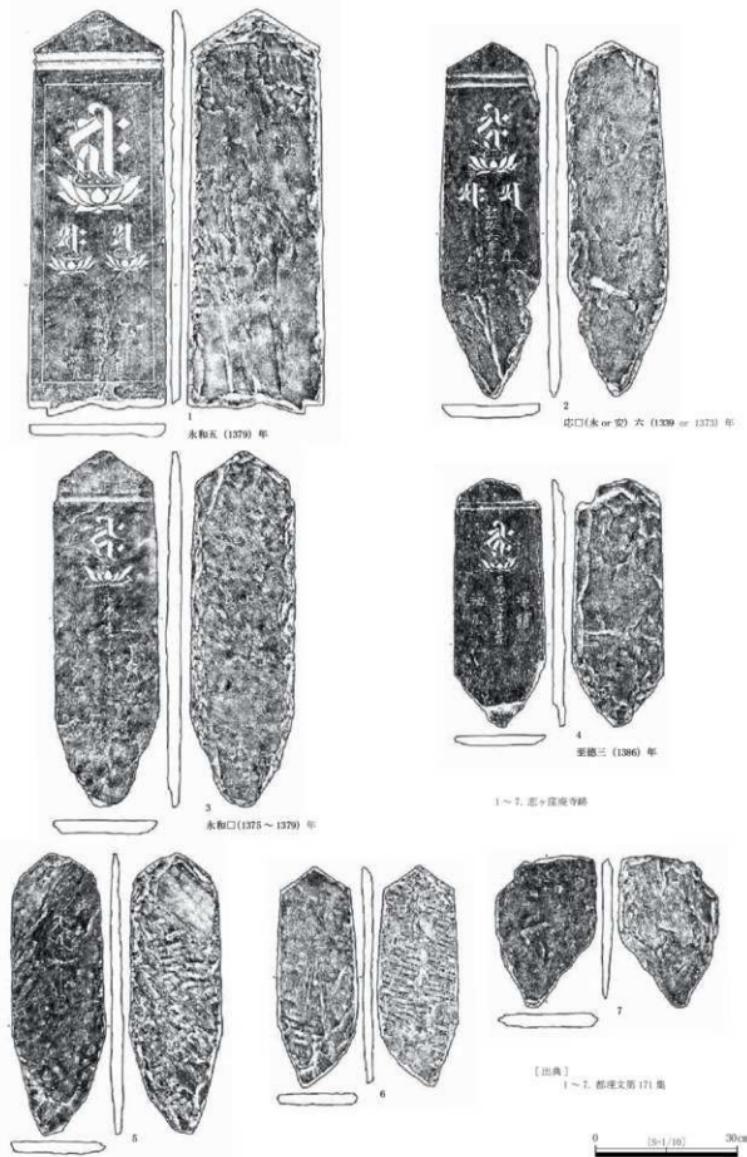
第62図 恋ヶ窪廃寺跡と周辺の中世遺構群



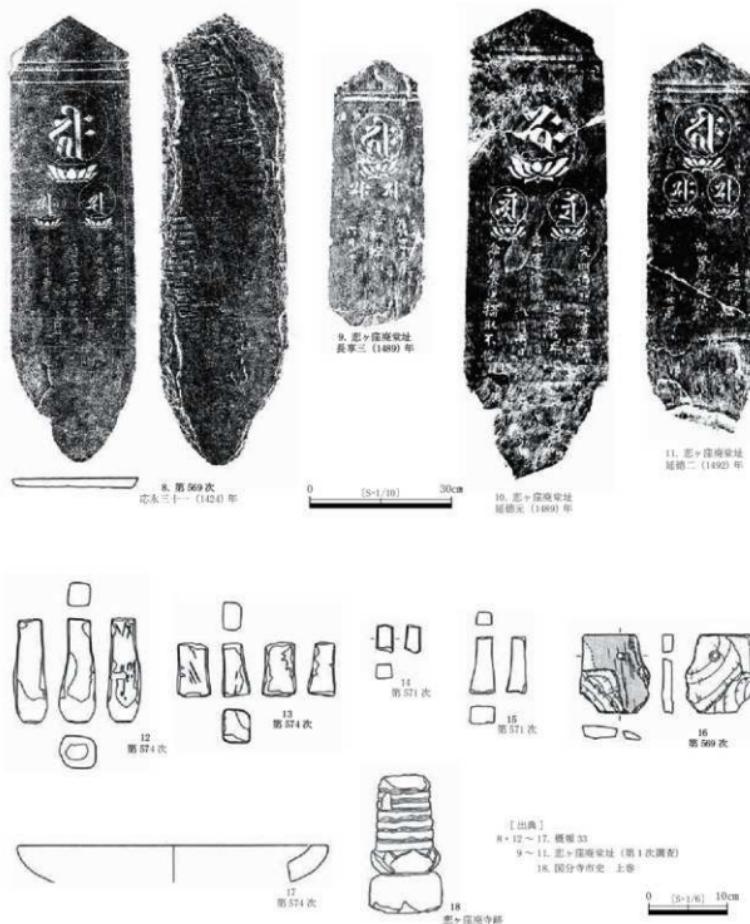
第63図 恋ヶ窪廃寺跡 全体図



第64図 恋ヶ窪寺跡周辺出土の中世遺物-1（土器・陶磁器）



第 65 図 志ヶ庵寺跡周辺出土の中世遺物 -2 (石塔)



第66図 恋ヶ窪廃寺跡周辺出土の中世遺物-3（石塔・石製品）

圓分寺村繪圖(明治2年9月)



卷之三

(注1) 久保は、人間の「良き」を評議する際に、「(学者) 良き文化者に於て」(「良き」)と「(学者) 良き文化者に於て」(「良き」)を並列して用いており、後者の「良き」は前者の「良き」を評議するところを意味する。また、「(学者) 良き」を「良き」と並列して用いており、後者の「良き」は前者の「良き」を評議するところを意味する。

AL2 (1984) 108: 1209-1212 © Kluwer Academic Publishers 1984

一、概念題（本多學次第）

二 武州多難縣野山頭村分寺村劉姓施水脈（本多良慶家）

三 例句多事語句：「阿公在那裡轉悠？」（本名之謂）

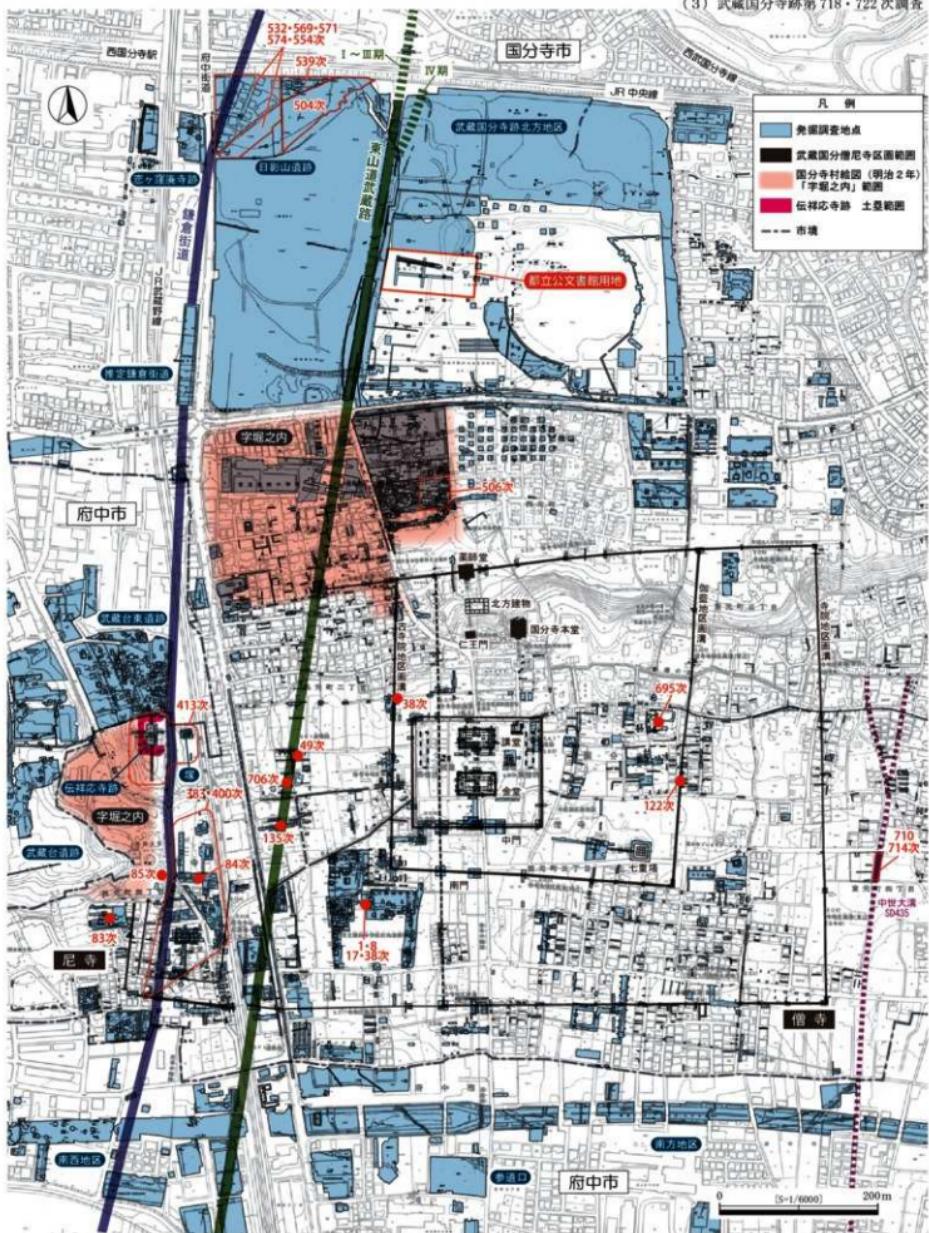
五 武州多難時的中國分子科之內華語學知識轉換的承擔（翁大畏研究）

九、武利多勞斯的《新約》和《舊約》聖經（本多山創）

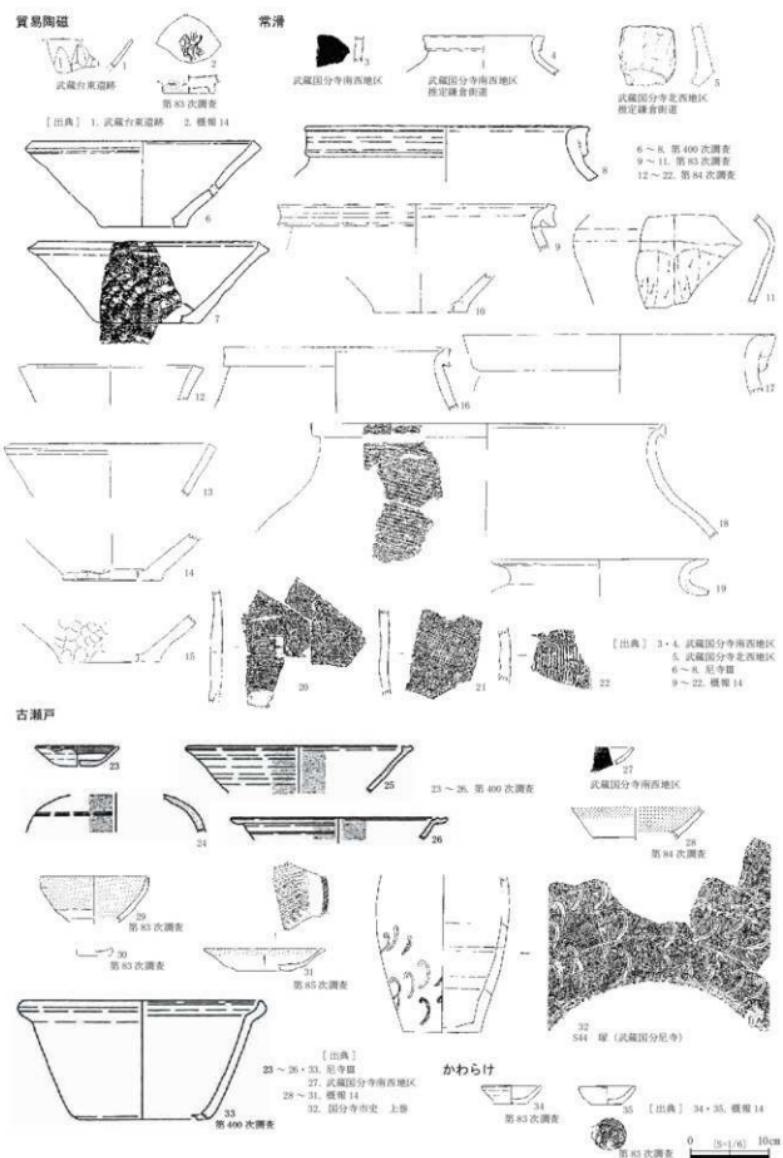
(注3) 佐賀町の洋菓子店うち、[株]山口屋、[株]丸山、天保14年(1843)。

第 67 図 国分寺村の字別開発と国分寺村絵図（明治 2 年）

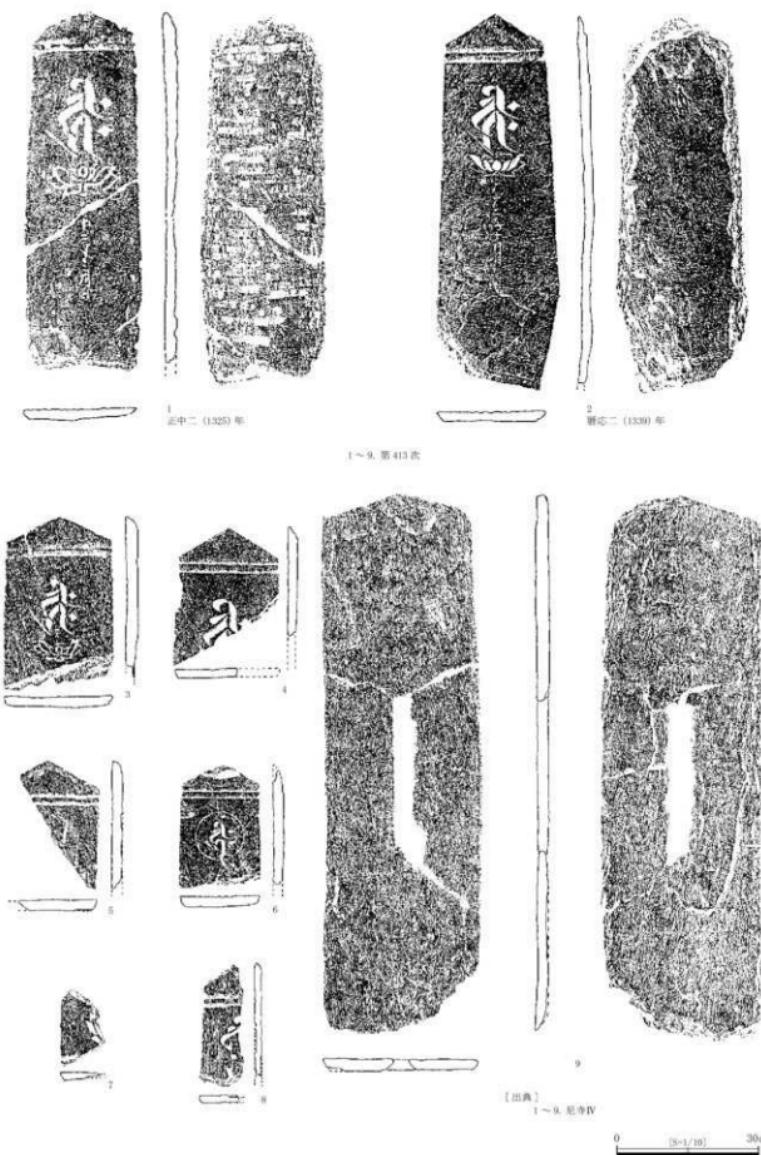
(3) 武藏国分寺跡第718・722次調査



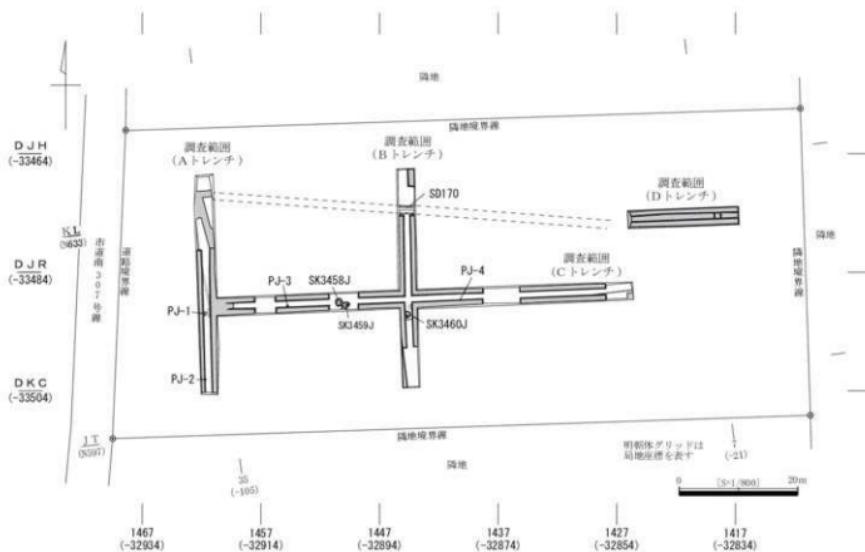
第68図 武藏国分寺跡周辺の中世遺物出土地点と国分寺村繪図（明治2年）「字堀之内」範囲



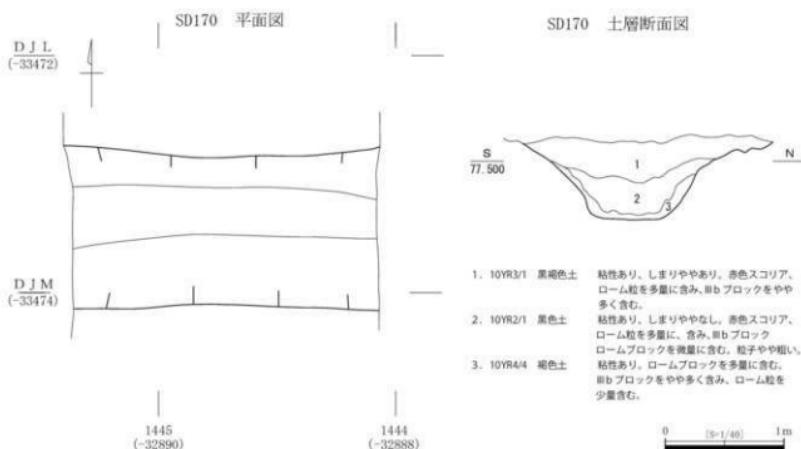
第69図 伝祥応寺跡周辺出土の中世遺物-1（土器・陶磁器）



第70図 伝祥応寺跡周辺出土の中世遺物-2(石塔)

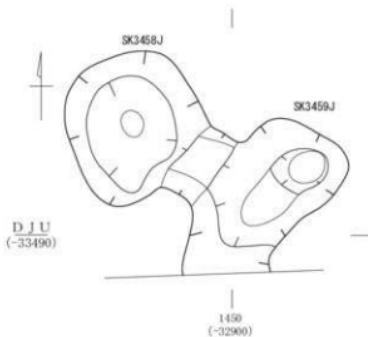


第71図 MKIV-718 調査区全体図

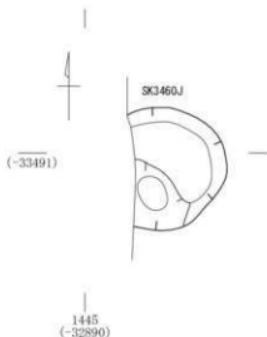


第72図 MKIV-718 SD170 平面・断面図

MKIV-718 SK3458J・SK3459J 平面図



MKIV-718 SK3460J 平面図



SK3458J 土層断面図



SK3459J 土層断面図



1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性あり、しまりあり。赤色スコリア、ローム粒、ロームブロックを微量含む。
2. 10YR4/4 褐色土 粘性あり、しまりあり。ローム粒、ロームブロックをやや多く含み、黒色スコリアを微量含む。

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性あり、しまりあり。赤色スコリア、ローム粒を少量含み、黒色スコリア、ロームブロックを微量に含む。
2. 10YR5/6 黄褐色土 粘性あり、しまりあり。ローム粒、ロームブロックを多量に、黒色スコリアを少量含む。

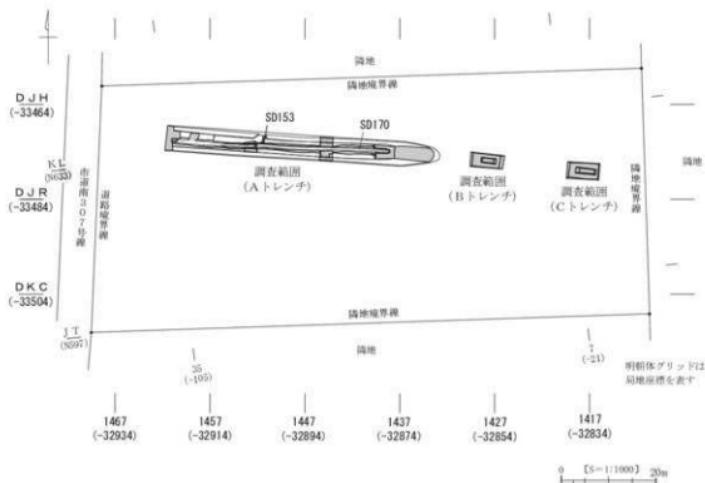
SK3460 J 土層断面図



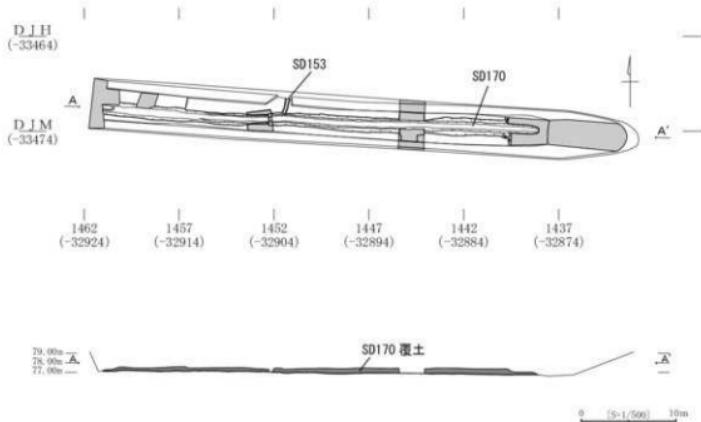
1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性あり、しまりあり。赤色スコリア、黒色スコリアをやや多く含む。
2. 10YR3/4 褐褐色土 粘性あり、しまりあり。ロームブロックを多量に含み、赤色スコリア、黒色スコリアを少量含む。

0 [S-1/40] 1m

第73図 MKIV-718 縄文時代構造 平面・断面図

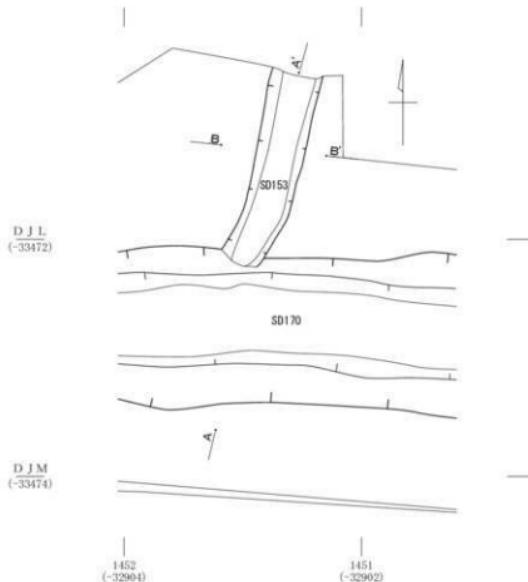


第74図 MKIV-722 調査区全体図



第75図 MKIV-722 SD170 平面・断面図

MKIV-722 SD153 SD170 平面図



MKIV-722 SD170 土層断面図



MKIV-722 SD153 土層断面図

**SD153**

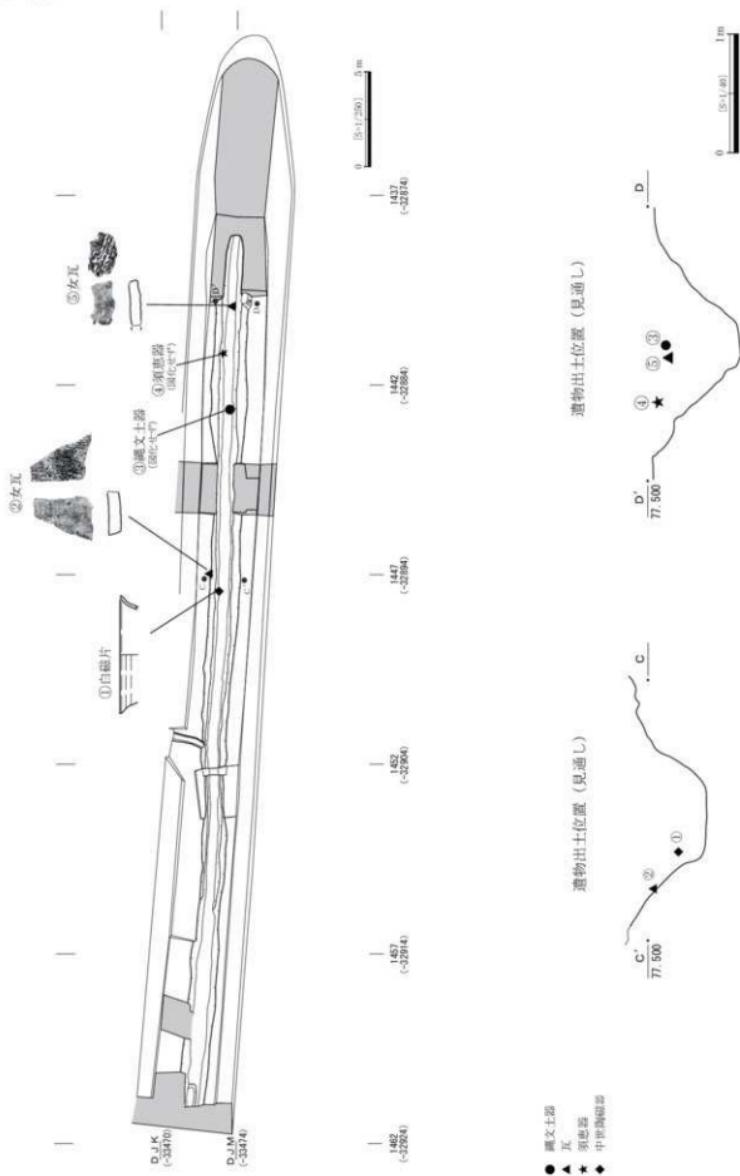
- ①. 10YR3/1 粘性やあり、しまりあり。ローム粒、赤スコリアを少量含み、粒子やや粗い。
- ②. 10YR3/2 粘性やあり、しまりあり。ローム粒、赤スコリアを微量。直徑 1cm~3cm のⅢb ブロックを少量含む。
- ③. 10YR4/2 粘性あり、しまりあり。ローム粒、赤スコリアを微量。ロームブロックを少量含む。

SD170

- 1. 10YR3/2 粘性やあり、しまりややあり。ローム粒、赤スコリアを多く含む。
- 2. 10YR3/1 粘性有り、しまりあり。ローム粒を多く。赤スコリアを少量。直徑 1cm のⅢb ブロックを微量に含む。
- 3. 10YR3/3 粘性あり、しまりややあり。ロームブロックを多量。ローム粒、赤スコリアを少量含み、全体的に粒子あらい。
- 4. 10YR3/1 粘性あり、しまりあり。ローム粒を多量。赤スコリアを少量。直徑 1cm~5cm のⅢb ブロックを少量含む。
- 5. 10YR3/4 粘性あり、しまりあり。直徑 1cm~3cm のⅢb ブロック、ロームブロックを多く。ローム粒、赤スコリアを少量含む。



第 76 図 MKIV-722 SD153・170 平面・断面図



第77図 MK IV - 722 遺物出土位置図



第78図 MKIV-718 Aトレンチ全景（南から）



第79図 MKIV-718 Bトレンチ全景（北から）



第80図 MKIV-718 Cトレンチ全景（東から）



第81図 MKIV-718 Cトレンチ全景（西から）



第82図 SD170確認状況（北から）



第83図 SD170完掘全景（南から）



第84図 SD170土層断面（西から）



第85図 SK3458J・3459J完掘全景（西から）



第86図 SK3458J 土層断面（南から）



第87図 SK3459J 土層断面（西から）



第88図 SK3460J 完掘全景（西から）



第89図 SK3460J 土層断面（南から）



第90図 MKIV-722 A トレンチ完掘全景
(東から)



第91図 MKIV-722 A トレンチ完掘全景
(西から)



第92図 SD170 完掘全景（西から）



第93図 SD170 完掘全景（東から）



第94図 SD170 土層断面及び白磁出土状況（西から）



第95図 SD170・SD3 土層断面（東から）



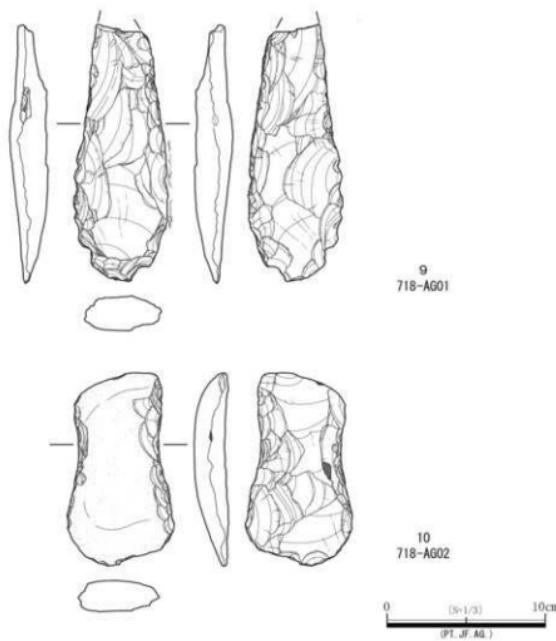
第96図 SD3 土層断面（南から）



第97図 SD170 遺物出土状況（東から）



第98図 MK IV-718 出土遺物実測図（歴史時代）



第99図 MK IV-718 出土遺物実測図（縄文時代）

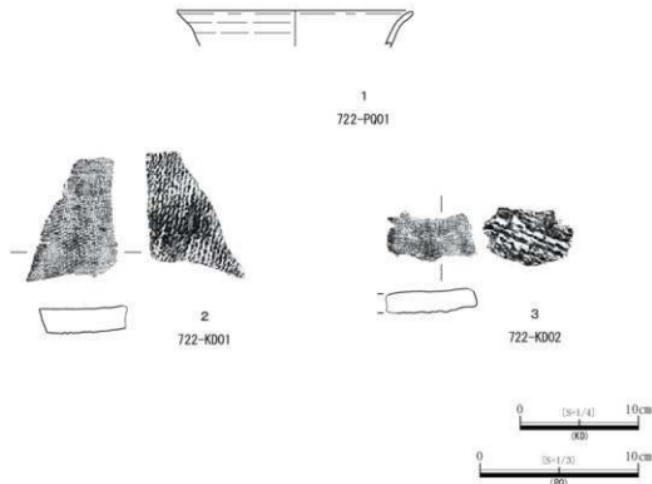


第100図 MKIV-718 出土遺物写真（歴史時代）

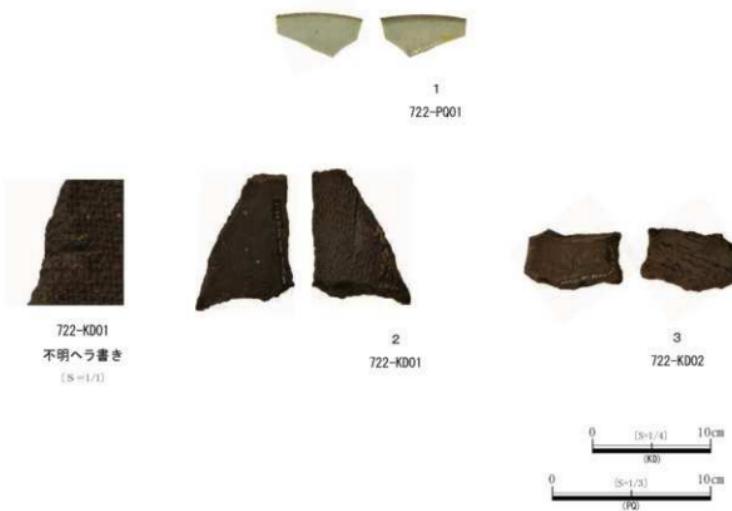


0 [3-1/2] 10cm
(PL. JF. AG.)

第101図 MKIV-718 出土遺物写真（縄文時代）



第102図 MKIV-722 出土遺物実測図



第103図 MKIV-722 出土遺物写真

第18表 MKIV-718・722 遺物観察表

| MKIII-718 歴史時代 陶器 | | | | | | |
|-------------------|----------|----------|------------|----------------------------|-----|-----------|
| 番号 遺物番号 | 種別 器種 | 出土 位置 | 器厚 (mm) | 文様模成・文様要素・要素の種類 | 残量 | 備考 |
| 1 PT01 | 天目茶碗 | 表土 | 5.42 | 体部片。内外面に濃茶色の鉄錆を施す。体部下半は露胎。 | 体部 | 瀬戸・美濃。 |
| 2 PT02 | 染付 碗 | 表土 | 2.38 | 酸化コバルト絵具で体部外面に文様描く。 | 口縁 | 19世紀後半以降。 |
| 3 PT03 | 白磁 碗 | 表土 | 4.65 | 体部外面に色絵あり。 | 底部片 | 19世紀後半以降。 |

| MKIV-718 繩文時代 土器 | | | | | | |
|------------------|----------|----------|------------------------|-----------------|-------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|
| 番号 遺物番号 | 種別 器種 | 出土 位置 | 口径 器高 底径 (cm) | 器形の特徴 | 成・整形の特徴 | 備考 |
| 4 JF01 | 深鉢 | 表土 | — (3.1) | 胴部片のため全体の器形は不明。 | 内面はナデと思われる。外表面は不鮮明であるが継位の繩文を地文とし、沈線による豊作文が施される。 | 加曾利E2～3。内面にはぶい黄色(2.5V6/4)、外表面は明褐色(7.5V8/6)を呈する。長石、石英、雲母、角閃石を含む。焼成は良好。 |
| 5 JF02 | 深鉢 | SD | — (4.6) | 胴部片のため全体の器形は不明。 | 内面は丁寧な磨き。外表面は継位の繩文(1M)を地文とし、沈線と磨消済文による豊作文を施す。 | 加曾利E3。内面は黄褐色(2.5V5/3)、外表面にはぶい黄色(2.5V6/4)を呈する。長石、石英、角閃石、小石を含む。焼成は良好。 |
| 6 JJ01 | 深鉢 | SD | — (1.4) | 胴部片のため全体の器形は不明。 | 内面は未調整。外表面は不鮮明だが継位の綱文(1M)が右端に施されると思われる。 | 型式不明。中期か。褐色(7.5V8/4)を呈する。長石、石英、角閃石、小石を含む。焼成は良好。 |
| 7 JJ02 | 深鉢 | SD | — (2.4) | 胴部片のため全体の器形は不明。 | 内面は未調整。外表面はナゲで無文。 | 型式不明。中期か。褐色(7.5V8/4)を呈する。長石、石英、角閃石、小石を含む。焼成は良好。 |
| 8 JJ03 | 深鉢 | 田畠 | — (1.9) | 胴部片のため全体の器形は不明。 | 内面は未調整。外表面はナゲで無文。 | 型式不明。中期か。褐色(7.5V8/4)を呈する。長石、石英、小石を含む。焼成は良好。 |

| MKIV-718 繩文時代 石器 | | | | | | |
|------------------|----------|----------|-------------|-------------|-------------|-----------|
| 番号 遺物番号 | 種別 器種 | 出土 位置 | 最大長 (cm) | 最大幅 (cm) | 最大厚 (cm) | 重量 (g) |
| | | | | | 遺存状態 | 石材 |
| 9 AG01 | 打製石斧 | 田畠 | (16.3) | 6.0 | 2.5 | 232.6 |
| 10 AG02 | 打製石斧 | 田畠 | 12.2 | 6.8 | 2.2 | 197.4 |
| | | | | | | ホルンフェルス |

| MKIV-722 歴史時代 磁器 | | | | | | |
|------------------|----------|------------|------------------------|----------------|------------|-------------------|
| 番号 遺物番号 | 種別 器種 | 出土 位置 | 口径 器高 底径 (cm) | 器形の特徴 | 成・整形の特徴 | 残量 |
| 1 PQ01 | 白磁 皿 | SD01 覆土 | ((15.0)) (2.3) — | 口縁部は外反して立ち上がる。 | 口縁部の釉剥ぎ取り。 | 小片 大宰府分類白磁皿Ⅴ類。 |

| 番号 遺物番号 | 出土 位置 | 狭壠 広壠 全長 (cm) | 厚さ (cm) | 成・整形の特徴 | | | | | 備考 | |
|------------|-------------|------------------------|------------|---------|-------|----------------|-----------|----------------------|-----------|--------------------------------------------|
| | | | | 素材 | 凹面 | | 凸面 | | | |
| | | | | | 布目 | 特徴 | 叩き | 特徴 | | |
| 2 KD01 | SD170 覆土 | — (11.5) | 2.0 | — | 22×21 | 不明へラ書き？ あり。 | 繩目 L10 | 一部に指ナデ。 | — | 灰色5V4.5/1、重い、焼成普通。 微砂粒多量、1～7mm角質少量。 |
| 3 KD02 | SD170 覆土 | — (4.8) | 1.7 | — | 23×23 | 側端縁ヘラケズリ。 | 繩目 R6 | 側端縁無調整、 表面の摩耗激しい。 | 側端面ヘラケズリ。 | 暗灰黄色5V5.2/2、重い、燒成普通。 微砂粒やや多量、1～5mm角質少量。 |

(4) 武藏国分寺跡第719次調査

| | | | |
|------|---------------------------|------|------|
| 所在地 | 西元町三丁目 10-4 | | |
| 調査原因 | 分譲住宅建設 | 調査種別 | 確認調査 |
| 調査費用 | 国庫補助等 | 調査体制 | 委託 |
| 調査期間 | 平成28年10月24日から11月8日 | | |
| 調査面積 | 11.39 m ² | 遺物箱数 | 1箱 |
| 検出遺構 | SK3457、P-1・2 | | |
| 主な遺物 | 土師器・須恵器・綠釉陶器・灰釉陶器・瓦、近世陶磁器 | | |



第104図 MKIII-719 調査位置図

【1. 調査の目的と経緯】 本確認調査は、平成28年8月8日付国教教ふ収第464号法第93条第1項届出に基づき、市教委が調査会に委託して行ったものである。

調査区は、国分寺市西元町三丁目10-4に所在し、周知の埋蔵文化財包蔵地である武藏国分寺跡（遺跡No.10・19）に該当する。同敷地内及び周辺で実施された発掘調査（武藏国分寺跡第21・36・234次）では、複数の竪穴住居が検出されるなど、僧寺中心部に近いことからも遺構が密集している地域である。このため工事で予定されていた基礎敷設及び排水管埋設工事によって住居や土坑などの遺構が破壊される可能性があるため、より詳しく埋蔵文化財の内容・性格等を把握するために、確認調査を実施した。

調査面積は11.39 m²である。現地調査は平成28年10月24日から同年11月8日（実働7日）まで実施した。

【2. 検出された遺構と出土遺物】 調査区内は、地表より約80～90cmの深さまで、盛土・耕作土等による表土（基本層序I層）に覆われていた。その下層から奈良・平安時代の遺構確認面である基本層序IIIb層が検出されたが、広範囲にわたって搅乱があり、調査区内のIIIb層は全体的に上方が大きく削平されている状況であった。このIIIb層で遺構の有無を確認したところ、土坑1基（SK3457）、小穴2個が検出された。

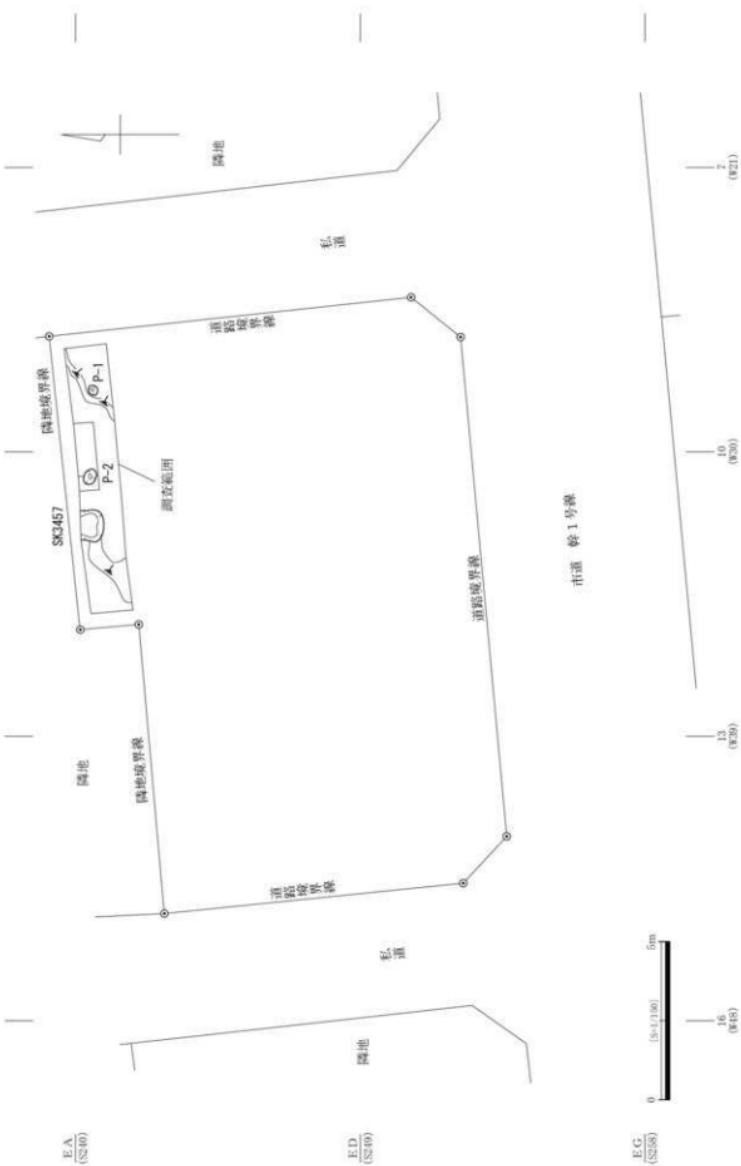
SK3457 土坑（第109図）

調査区の中央付近で検出されたが、遺構の北側は調査区外へと続いており、全体の規模は不明である。遺構の規模は、現状で東西約75cm、南北約80cm（以上）、確認面からの深さは約45cmである。

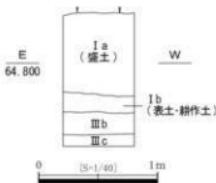
遺物は覆土から土師器や須恵器、瓦の破片が出土しているが図化し得なかった。

小穴（pit）1・2（第109図）

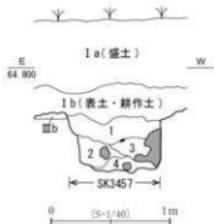
小穴は、調査区の中央付近（P2）と東側（P1）から1個ずつ検出された。P1は直径約30cmの楕円形の平面形状を呈し、深さは8cmほどと浅いもので、遺物は検出されなかった。P2は、直径約40cmのほぼ真円形で、深さは確認面から約75cmあった。深度から柱穴の可能性も考えられたが、明確な柱痕や抜き取り穴などは確認できなかった。覆土からは古代の遺物が供出している。このほか、調査区の表土から古代の綠釉陶器や灰釉陶器（1）などの土器片や瓦（2）、近世の陶磁器片などが出土している。



第105図 MKIII-719 調査区全体図

第106図 MKIV-719
土層柱状図（北壁）第107図 北壁土層
断面（南から）第108図 MKIV-719 調査区全景
(東から)

SK3457 土層断面図（東西）

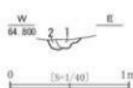


1. 10YR3/3 黒褐色土 粘性ややあり、しまりややあり。上層からの転圧の影響を受け、上方はよく縮まる。5~30mmのロームブロックを西側にやや多量含む。ローム粒少量、炭化物微量、赤色スコリア微量含む。
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色土 粘性ややあり、しまりややあり。ローム粒、赤色スコリア微量含む。
3. 10YR4/4 黄褐色土 粘性なし、しまりなし。ローム粒や多量、赤色スコリア微量含む。
4. 10YR4/4 黄褐色土 粘性なし、しまりなし。色味は3に似る。ローム粒多量含む。



第110図 SK3457 断面（南から）

P-1 土層断面図（東西）



1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性あり、極度にしまる（現代耕種による）。下部にⅢ層1~3cmブロック、焼土粒を微量含む。
2. 10YR4/3 黄褐色土 粘性あり、しまりやく層と同じ。Ⅲ層ブロックに黒褐色土が混じる。焼土粒を微量含む。

第109図 MKIV-719 造構断面図



第111図 SK3457 調査区内完掘状況（南から）



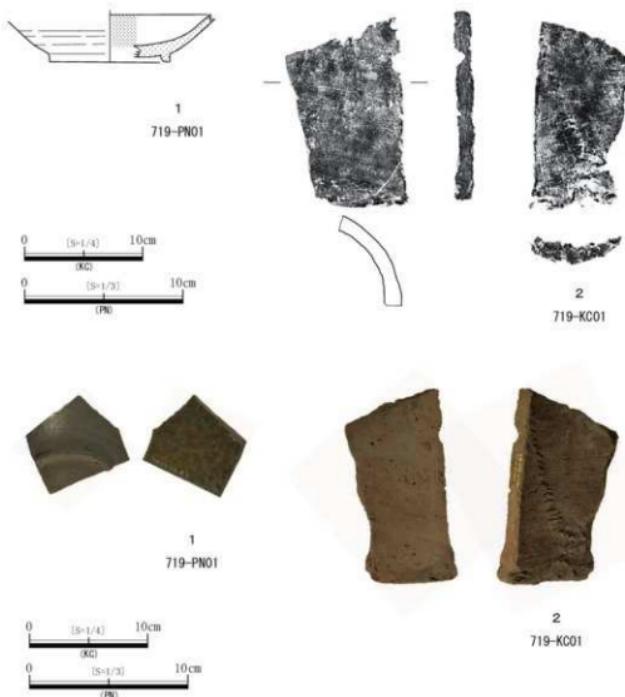
第112図 P-1 断面

(南から)



第113図 P-2 完掘状況

(東から)



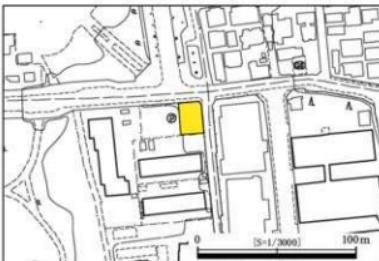
第114図 MKIV-719 出土遺物実測図（上）・出土遺物写真（下）

第19表 MK I - 719 遺物観察表

| MKIV-719 歴史時代 土 器 | | | | | | | | |
|-------------------|-----------|------------------------|-------------------------------|------------------------|------------------------------------------------------|-------------------------------|-----------------------------------|-----------------------------------------------------|
| 番号 遺物番号 | 種別 器種 | 出土 位置 | 口径 器高 底径 高台高 (cm) | 器形の特徴 | 成・整形の特徴 | 残量 | 備考 | |
| 1 PN01 | 灰釉陶器 鉢 | 表土 | — (3.0) (9.0) 0.4 | 体部は内湾して立ち上がる。低い 高台。 | クロ調整の後、底部は回転削切 をし、高台貼付。体部内面に削毛 跡による施釉（オリーブ灰色）。 | 底部～ 体部 1/10 | 外面：灰白色 5Y7.5/1。堅い。 地成普通。微砂粒微量。 | |
| MKIV-719 歴史時代 男 瓦 | | | | | | | | |
| 番号 遺物番号 | 出土 位置 | 枝幅 広幅 全長 (cm) | 厚さ (cm) | 成・整形の特徴 | | | | 備考 |
| | | | | 素材 | 平面 布目 | 凸面 特徴 | 凹面 特徴 | |
| 2 KC01 | 表土 | — (5.5) (16.5) | 1.3 | — | 25×26 広・側端縁ほぼ 無調整。 | — 全体ヨコナデ。 広・側端縁無調 整。 | 広・側端面へラ ケズリ。 | 無段。灰黄色 2.5Y7.2/2。堅い。 燒成普通。微砂粒やや多量、 1～3mm角礫微量。 |

(5) 武藏国分寺跡第721次調査

| | | |
|------|----------------------|-----------|
| 所在地 | 西元町一丁目 2448番1外 | |
| 調査原因 | 集合住宅建設 | 調査種別 確認調査 |
| 調査費用 | 国庫補助等 | 調査体制 委託 |
| 調査期間 | 平成29年1月16日～1月27日 | |
| 調査面積 | 38.39 m ² | 遺物箱数 1箱 |
| 検出遺構 | PJ-1 | |
| 主な遺物 | 瓦、縄文土器・石器 | |



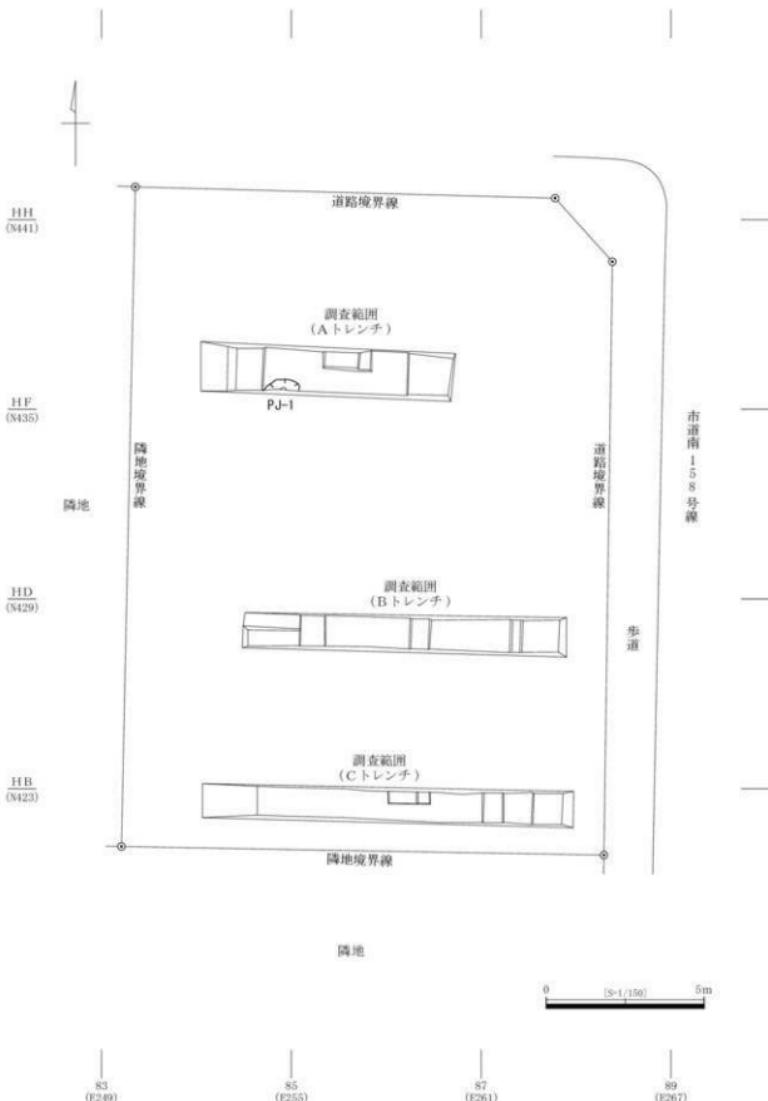
第115図 MK I - 721 調査位置図

【1. 調査の目的と経緯】 確認調査は平成28年11月7日付国教教ふ取第750号法第93条第1項届出に基づき、市教委が調査会に委託して行ったものである。調査区は、国分寺市西元町一丁目2448番1外に所在し、武藏国分寺跡（遺跡No.19）に該当する。先に報告した武藏国分寺跡第717次調査区の東隣にあたり、先述したように敷地内で過去に実施した調査では、遺構や遺物の出土が確認されている。このため、当該地においても、工事に先立ち、埋蔵文化財の有無、内容・性格等を把握するため、トレントを3箇所設定して確認調査を実施した。調査面積は38.39 m²である。現地調査は平成29年1月16日から同年1月27日（実働9日）まで実施した。

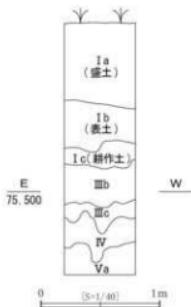
【2. 検出された遺構と出土遺物】 調査区内は、Aトレント（北側）、Bトレント（中央）、Cトレント（南側）の各トレントとも地表より0.9～1.2mの深さまで、盛土・耕作土等による表土（基本層序I層）に覆われていた。その下層から奈良・平安時代の遺構確認面である基本層序III b層（厚さ約30～40cm）が検出されたため、遺構の有無を確認したが、歴史時代の住居跡等は検出されなかった。さらに縄文時代の遺構を確認するために各トレント内の一部をIII c層まで掘下げて遺構確認を行ったところ、Aトレントで小穴（Pit、第120図）を1個検出した。また、旧石器時代の遺物の有無を確認するために、各トレントの端を部分的にV a層の途中まで掘下げたが、石器などの遺物は出土しなかった。

遺物は、表土やIII b層から縄文時代の土器片・打製石斧（2）、古代の瓦（1）が出土している。

第116図 Aトレント全景 歴史時代確認面
(東から)第117図 Bトレント全景 歴史時代確認面
(西から)



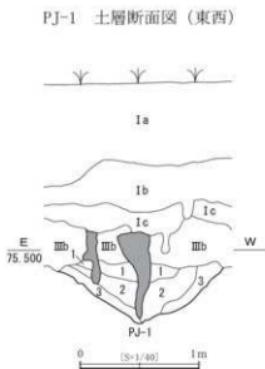
第118図 MKI-721 調査区全体図



第119図 MKIV-721 土層柱状図（南壁）



第121図 Cトレンチ東壁土層断面（西から）



1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性あり、しまりあり、赤色スコリア少量、ローム粒微量含む。
2. 10YR3/3 墓褐色土 粘性あり、しまりあり、赤色スコリアや多く、ローム粒、ロームブロック多く含む。
3. 10YR4/4 黄褐色土 粘性あり、しまりあり、赤色スコリア少量、ローム粒、ロームブロック多量含む。

第120図 MKIV-721 遺構断面図



第122図 PJ-1断面（北から）



第123図 遺物出土状況（AG01）
Bトレンチ（北から）



第124図 Cトレンチ全景縄文確認面（東から）



第125図 Bトレンチ全景縄文確認面（西から）



第126図 Aトレンチ プレ坑（西から）



第127図 Aトレンチ 縄文土器出土状況(南から)



第128図 Cトレンチ 南壁土層堆積状況(北から)



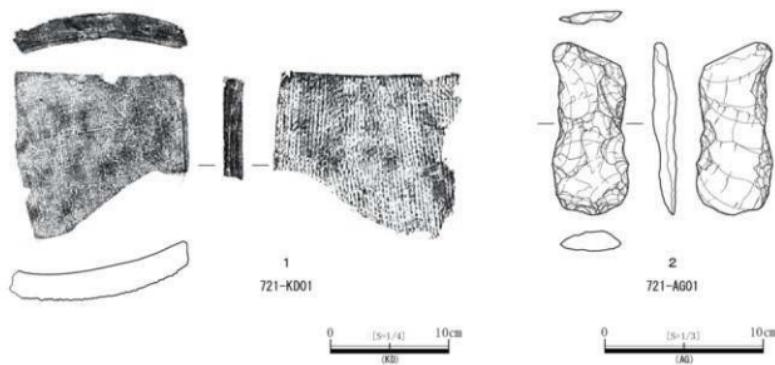
第129図 Bトレンチ 南壁土層堆積状況(北から)



第130図 作業風景 1



第131図 作業風景 2



第132図 MK IV - 721 出土遺物実測図



第133図 MK IV - 721 出土遺物写真

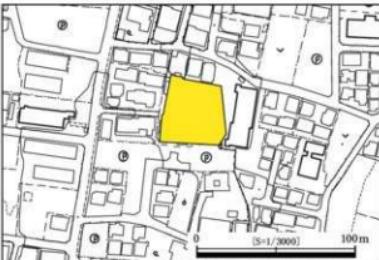
第20表 MK IV - 721 遺物観察表

| MK IV - 721 歴史時代 女瓦 | | | | | | | | | | |
|---------------------|----------|------------------------|------------|---------|---------|-------------|-----------|--------------|------------------------------------|--|
| 番号 遺物番号 | 出土 位置 | 軒端 広場 全長 (cm) | 厚さ (cm) | 成・整形の特徴 | | | | | 備考 | |
| | | | | 素材 | 凹面 | | 凸面 | | | |
| | | | | | 布目 | 特徴 | 叩き | 特徴 | | |
| 1 KD01 | 表土 | (14.9) — (14.7) | 2.3 | 粘土 | 28 × 22 | 挫・側端縁へラケズリ。 | 調目 R10 | 挫・側端縁ナデ。ケズリ。 | に赤い黄色 2.5% / 3. 黒い。 焼成普通。微砂粒微量。 | |

| MK IV - 721 縄文時代 石器 | | | | | | | | | | |
|---------------------|----------|----------|-------------|-------------|-------------|-----------|----------|-----------------|----|--|
| 番号 遺物番号 | 種別 器種 | 出土 位置 | 最大長 (cm) | 最大幅 (cm) | 最大厚 (cm) | 重量 (g) | 遺存 状態 | 石材 | 備考 | |
| 2 AG01 | 打製石斧 | Ⅲ層 | 10.8 | 4.8 | 1.5 | 97.11 | 一部 欠損 | ホルン フェル ス | | |

(6) 恋ヶ窪遺跡第98次調査

| | | |
|-------|----------------------------|-----------|
| 所 在 地 | 西恋ヶ窪一丁目 28- 9 | |
| 調査原因 | 土地造成 | 調査種別 確認調査 |
| 調査費用 | 国庫補助等 | 調査体制 委託 |
| 調査期間 | 平成 28 年 11 月 14 日～12 月 2 日 | |
| 調査面積 | 40.91 m ² | 遺物箱数 1 箱 |
| 検出遺構 | SX2～4 | |
| 主な遺物 | 須恵器、近世陶磁器、黒曜石 | |



第134図 K2-98 調査地位置図

【1. 調査の目的と経緯】 本確認調査は、平成28年9月6日付国教教ふ収第563号法第93条第1項届出に基づき、市教委が調査会に委託して行ったものである。

調査区は、国分寺市西恋ヶ窪一丁目28番地9に所在し、恋ヶ窪遺跡（遺跡No.2）に該当する。平成7年に実施された東隣地の発掘調査（恋ヶ窪遺跡第55次調査、未報告）では旧石器時代の石器集中部や礫群が検出され、縄文時代の土器や石器、近世の古銭などが出土していた。このため、本計画で予定されている雨水浸透施設等の工事によって遺構や遺物が破壊される可能性があるため、部分的な確認調査を行った。調査面積は40.91 m²である。現地調査は平成28年11月14日から同年12月2日（実働14日）まで実施した。

【2. 検出された遺構と出土遺物】 調査はトレンチを3箇所(A～C)設定して行った。Aトレンチ内は、地表より約50～70cmの深さまで、盛土・耕作土等による表土（基本層Ⅰ層）に覆われており、搅乱も広範囲に及んでいた。Ⅰ層と搅乱を掘下げたところ、シルト質の自然堆積土（地山）を検出した。シルト質の土は、火山灰由来の立川ローム層の土とは異なり、水の流れなどによって二次的に堆積した水成ロームである。シルト層には、地下水中の鉄分が葦などの根回りに水酸化鉄として形成されるいわゆる高師小僧や、微細砂の集積が部分的に確認された。

シルト層の下層は砂礫層で、地表から約1.4mの深さで検出された。砂礫層は、直径2～50mmの礫を主体とする層で、河川堆積物を含んでいることから、旧河床と考えられる。Aトレンチの場所は、土地造成のために上面が削平されていたため、旧地表の状況は把握できないが、地形的には開析谷である恋ヶ窪谷の低地にあたり、立川ローム形成時には周辺の湧水を集めた河川の流れがあったと考えられる場所である。高師小僧の検出は、シルト層形成時に葦などが茂る場所だったことを示しており、河川堆積物である砂の集積層からは増水などによる河川の氾濫などが窺える。なお、Aトレンチ内のシルト層の上方は地表からの水の染み込みからか、部分的に変色している。Aトレンチからは、SX2が検出された。

SX2 不明遺構（第138図）

トレンチ内の南側で確認された。地表下約75cmの位置で検出され、深さは確認面から約55cmである。平面形態は不整形な円形で、西端は幅約1mのかつての水路口と想定される

開口部に連結している。規模は、南北方向2.5m、東西方向約2.0mである。おそらくは溜池で、江戸時代に数十m西側を南北方向に流れていた恋ヶ窪用水（恋ヶ窪村分水）の水を敷地内まで引き込んで利用するために掘削されたものと想定される。遺物は覆土より灰釉鉄絵丸碗（1）や常滑の甕（2）が出土している。このほか搅乱覆土より黒曜石が出土しているが、図化し得なかった。

Bトレンチは、Aトレンチの北東約15mの位置に設定した。Bトレンチも地表より0.8～1.5mの深さまでI層が厚く堆積しており、その下層でシルト層を確認した。シルト層には1～5cmの小石が極微量含まれており、高師小僧も部分的に見受けられた。遺構は、トレンチの南端でSX3が検出された。

SX3 不明遺構（第140図）

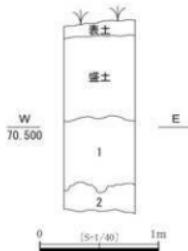
現状で南北約1.5m、東西約1mを確認したが、東側・南側は調査区外へと続いており、全体の規模は不明である。遺構の性格は不明であるが、SX2の底部と標高がほぼ同じことから、SX2同様に水を溜めるための掘り込みの可能性がある。なお、基本層序確認のために遺構下部を部分的に掘り下げたところ、標高69.13mで礫層が検出した。遺構に伴う遺物は出土していない。

Cトレンチは、敷地内の東端に位置する。トレンチの東側から中央にかけて4段ほどの階段状遺構SX4が検出された。

SX4 不明遺構（第141図）

階段状遺構は、各段が20～50cmと一定ではないものの、人為的に掘りこまれている。また、トレンチ中央は平坦なテラスが設けられ、西端からまた1段下がっていることから、段掘りと想定される。地山は、地表下10cmほどでローム層が現れたが、立川ロームの何層かは不明である。おそらくは、江戸時代以降に段掘りによって土地を開拓し、大部分削平されたと考えられる。遺物は出土していない。

なお、調査区全体の表土や搅乱からは古代の須恵器や近世以降の陶磁器（3～6）が出土している。

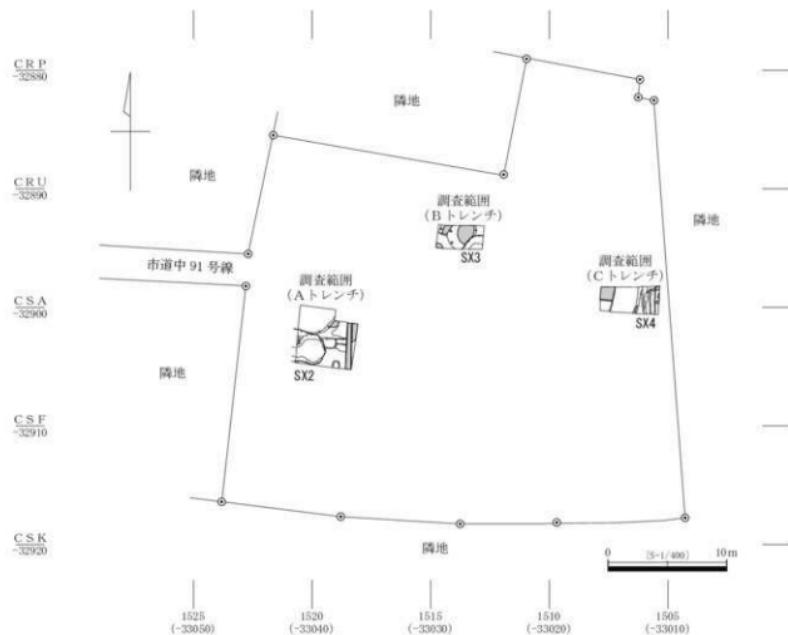


1. 10YR6/4 にぶい黄褐色土
粘性ややあり、しまり強い、シルト質でロームに似る地山。砂質で削るとシャリシャリする。赤色スコリア、黒色スコリア極微量。幅1m長さ10～20cm程度の高師小僧ごみ量（長いもの約20cm）。高師小僧の廻りのみ2層の色となつており、周辺の鉢分を帶びたものと考えられる。10～50mmの礫を極微量含む。
2. 10YR6/6 混凝褐色土
粘性やや強い、しまり強い、シルト質でロームに似る地山。粘性が高い。赤色スコリア、黒色スコリア極微量。高師小僧微量、5cm大の礫数点含む。

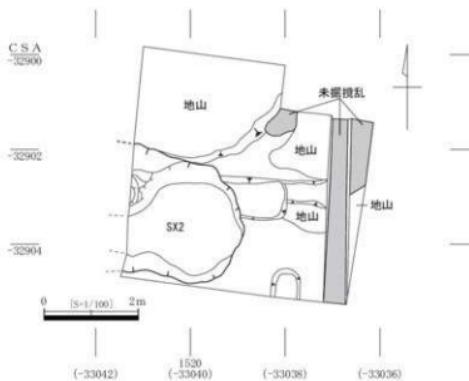
第135図 K2-98 土層柱状図（Bトレンチ北壁）



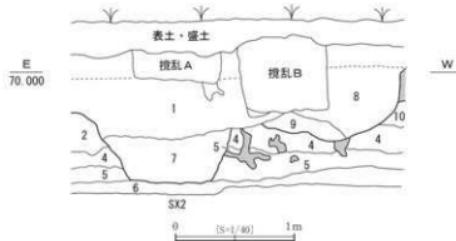
第136図 Bトレンチ北壁土層断面（南から）



第137図 K2-98 調査区全体図



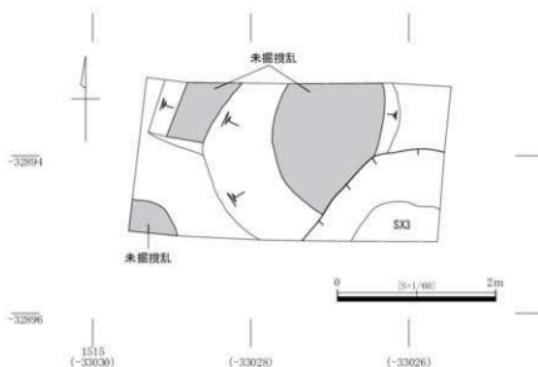
第138図 SX2 平面図



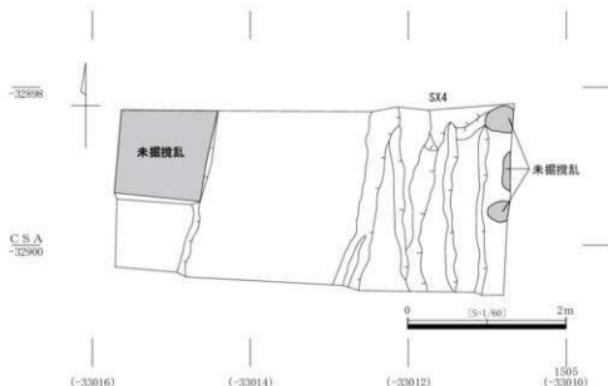
1. 7SYR5/3 にぶい褐色土
粘性ややあり、しまりなし。下層はしまりよい。5~40 mmのシルトブロック少量、赤色スコリア、炭化物微量含む。
層は上下で2層に分かれる。一部により旧表土に分かれる。
2. 10YR6/6 明黄色土
粘性あり、しまり強い。シルト質でロームに似る地山。やや砂質で削るとシャリシャリとした感触を受ける。
3. 10YR7/4 にぶい黄褐色土
赤色スコリア少量、幅1mm、長さ10~20mmの高師小塊をやや多量含む。
4. 10YR7/4 にぶい黄褐色土
高師小塊の砂が10~20mmの範囲で集積する箇所がみられる。
5. 10YR7/4 にぶい黄褐色土
粘性あり、しまり強い。シルト質でロームに似る地山。赤色スコリア・幅1mm長さ10~20mmの高師小塊を微量含む。
6. 砂礫層
粘性あり、しまり強い。シルト質でロームに似る地山。赤色スコリア微量含む。0.5~1mmの砂がレンズ状に集積する箇所が多く見られる。全体的に砂質でシルト砂岩の崩壊したものをブロック状に含む。酸化鉄の集積あり。
7. 7SYR5/4 にぶい褐色土
粘性ややあり、しまり非常にあり。2~50mmの礫を主体とした0.5~1mmの砂を多量に含む。シルト質砂岩の崩壊したものをブロック状に含む。ガチャガチャしている。
8. 7SYR5/4 にぶい褐色土
粘性なし、しまり弱い。5~20mmのシルトブロックをやや多量含む。全体的にボソボソしている。SXの覆土で、堆積状況から一層に埋められたと看取りされる。7と1の構成はやや不明瞭。覆土としては同様。
9. 7SYR5/4 にぶい褐色土
粘性なし、しまりややあり。1~10mmのシルトブロックをやや多量含む。赤色スコリア、炭化物を微量。
10. 10YR7/4 にぶい黄褐色土
粘性ややあり、しまり強い。シルト質でロームに似る地山。上層からの水の影響で部分的に10YR5/3灰色に変色している。赤色スコリア微量、(高師小塊なし)部分的にシャリシャリする。

挖乱
A. 7SYR3/1 増褐色土
B. 8層主体でボソボソ

第139図 SX2 断面図



第140図 SX3 平面図



第141図 SX4 平面図



1. 10YR5/3 にぶい黄褐色土
2. ロームブロック主体土
3. 10YR4/2 泥黄褐色土
4. ロームブロック土
5. 10YR4/3 にぶい黄褐色土
6. 10YR4/3 にぶい黄褐色土
- 粘性あり、しまりややあり。ローム粒を多量。10～20mmのロームブロック少量。赤色スコリア微量含む。
粘性あり、しまりややあり。1～140mmのロームブロック主体。赤色スコリア微量含む。
粘性あり、しまりややあり。ローム粒・1～30mmのロームブロック少量。赤色スコリア微量含む。
粘性あり、しまり強い。ロームブロックのみを固く練めて造成された層。他の土の混ざりはない。
粘性なし。しまりややあり。ローム粒・1～60mmのロームブロックや多量。黒褐色土のブロック微量混入。赤色スコリア微量含む。
粘性ややあり、しまりあり。ローム粒・1～30mmのロームブロック少量赤色スコリア、黒色スコリア微量。

立川ロームの特徴

- A～Cの共通 10YR5/3 黄褐色：立川ロームN層に似るが層位は不明。
A：粘性あり、しまり強いやや強く、崩るとシャリシャリする。赤色スコリア、青灰スコリア、黑色スコリア10～20%、10mm大の礫を微量。白色骨質微量（5%）含む。
B：Aに比べて粘性弱く、しまり弱く、崩るとシャリシャリしより容易である。含有物はAに同じ。基部小礁ごく微量。
C：下にくほど粘性を増す。しまり弱い。シャリシャリはほとんどなく粘質。青灰色スコリアほとんどなく、赤色スコリア主体（10～15%）、10～40mmのろいシルト砂岩微量。

第142図 Cトレーナー 南壁土層断面図



第143図 Aトレンチ表土下遺構確認面（西から）



第144図 Aトレンチ全景（北から）



第145図 Aトレンチ南壁土層断面（北から）



第146図 Aトレンチ砂礫層近影（北から）



第147図 SX2完掘状況（北から）



第148図 作業風景1



第149図 Bトレンチ全景（北から）



第150図 SX3完掘状況（北から）



第151図 Bトレンチ北壁土層断面（南から）



第152図 作業風景2



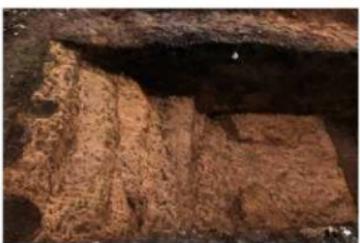
第153図 Cトレンチ調査前の現況（南から）



第154図 Cトレンチ全景（西から）



第155図 SX3 東側完掘状況（西から）



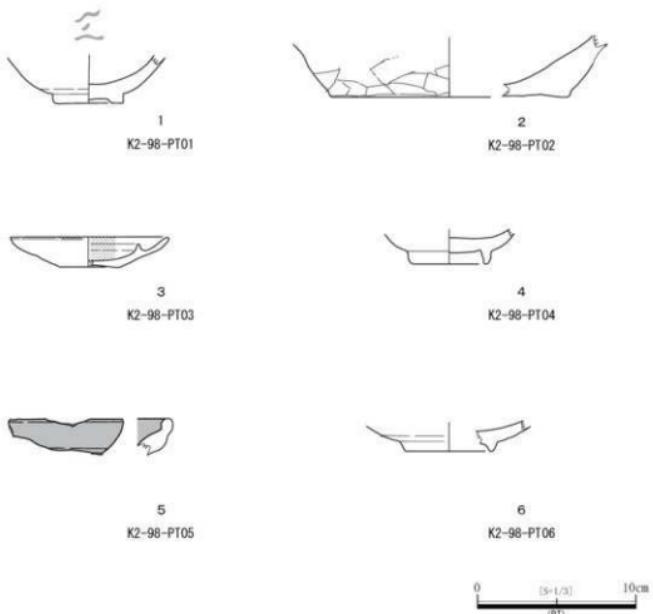
第156図 SX3 東側完掘状況（北から）



第157図 Cトレンチ南壁土層断面（北から）



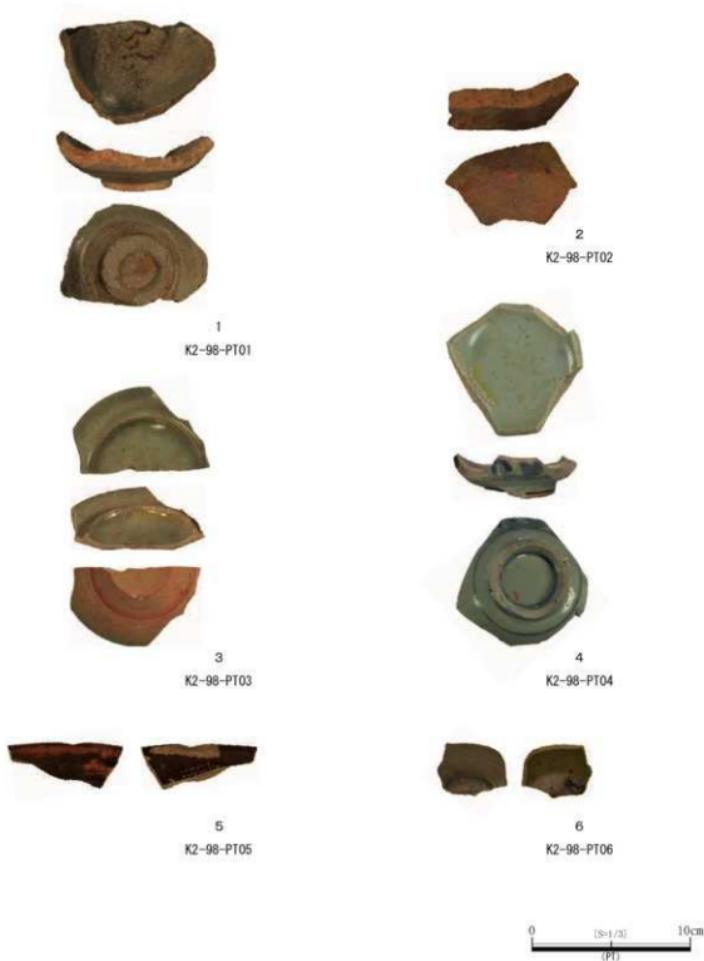
第158図 SX3 西側（北から）



第159図 K2-98 出土遺物実測図

第21表 K2-98 遺物観察表

| K2-98 歴史時代 陶磁器 | | | | | | | |
|----------------|------------|-----------|-------------------------------|---------------------------------|---------------------------------------|----------|------------------------------------------------------------------------------------|
| 番号 遺物番号 | 種別 器種 | 出土 位置 | 口径 器高 底径 高台高 (cm) | 器形の特徴 | 成・整形の特徴 | 残量 | 備考 |
| 1 PT01 | 灰釉鉄繪 丸瓶 | S32 覆土 | (3.1) 4.4 0.2 | 縁部はやや丸みをもって立ち上がる。 | 削り出し高台で、垂付部は平盤を呈する。 | 体部2/3～底部 | 筋土は軟質で灰白色を呈し、高台・体部下半を除く内外面に乳灰色の灰釉を施す。見込みに薄茶色の鉄繪で川の字状に波紋を4本描く。18世紀の唐津系の製品。 |
| 2 PT02 | 常滑 甕 | S32 覆土 | — (3.8) (15.0) — | 肉厚の底部からやや緩やかに外上方へ立ち上がる。 | 胴部外面にヘラケズリを施す。 | 底部片 | 砂粒・白色粒を多く含む、赤褐色の筋土。 中世か? |
| 3 PT03 | 灰釉 打明受皿 | 表土 | ((10.0)) 1.9 (4.0) — | 薄作りで、底部から緩やかに立ち上がり、口縁端部はやや直立する。 | 体部～底部外面は回転ヘラケズリを施す。 | 1/2弱 | 硬質で灰白色の筋土。灰褐色の灰釉を内面～外縁口縁端部に施塗するが、凸帯の受皿端部は拭き取っている。 体部外面に1箇所のビン痕あり。18世紀の瀬戸・美濃系製品。 |
| 4 PT04 | 染付 梅樹文碗 | 複品 | — (4.6) 0.7 | 肉厚な底部を有する。 | | 底部片 | 淡青色の呉須で、高台内に一重、高台外間に二重の瀬戸。体部外側に梅樹文を描く。18世紀の肥前系製品。 |
| 5 PT05 | 鐵繪 描繪 | 複品 | ((24.4)) (2.7) — | 口縁端部でやや内傾する。 | | 小片 | 灰白色的軟質な筋土を有し、茶褐色の鉄繪を内外面に施塗する。18世紀の瀬戸・美濃系製品。 |
| 6 PT06 | 銅緑釉 輪充皿 | 複品 | (2.9) (5.4) 0.5 | | 高台は削り出しで、見込みは蛇ノ目状に袖を割がしている。袖割面に砂目痕あり。 | 小片 | 草色の銅緑釉を高台内を除く全面に施塗する。18世紀後半～18世紀前半の唐津系製品。 |



第160図 K2-98 出土遺物写真

(7) 多摩蘭坂遺跡第13次調査

| | | |
|------|---------------------|-----------|
| 所在地 | 内藤一丁目 8-26 | |
| 調査原因 | 個人住宅 | 調査種別 発掘調査 |
| 調査費用 | 国庫補助等 | 調査体制 委託 |
| 調査期間 | 平成28年8月29日～9月8日 | |
| 調査面積 | 8.95 m ² | 遺物箱数 なし |
| 検出遺構 | なし | |
| 主な遺物 | なし | |



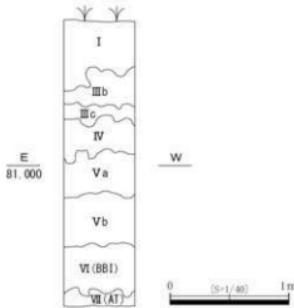
第161図 K7-13 調査地位置図

【1. 調査の目的と経緯】 本発掘調査は、平成28年7月21日付国教教ふ收第406号法第93条第1項届出に基づき、市教委が調査会に委託して行った。

調査区は、国分寺市内藤一丁目8-26に所在し、周知の埋蔵文化財包蔵地である多摩蘭坂遺跡（遺跡No.7）に該当する。遺跡は、旧石器時代、縄文時代、奈良時代の集落跡であり、工事で予定されている地階造成工事等によって旧石器時代の石器や縄文時代の土坑・住居などの埋蔵文化財が破壊される可能性があるため、掘削深度が埋蔵文化財に影響を及ぼす範囲について事前に発掘調査を行った。

調査面積は8.95 m²である。現地調査は平成28年8月29日から9月8日（雨天の為、現場実働7日）まで実施した。

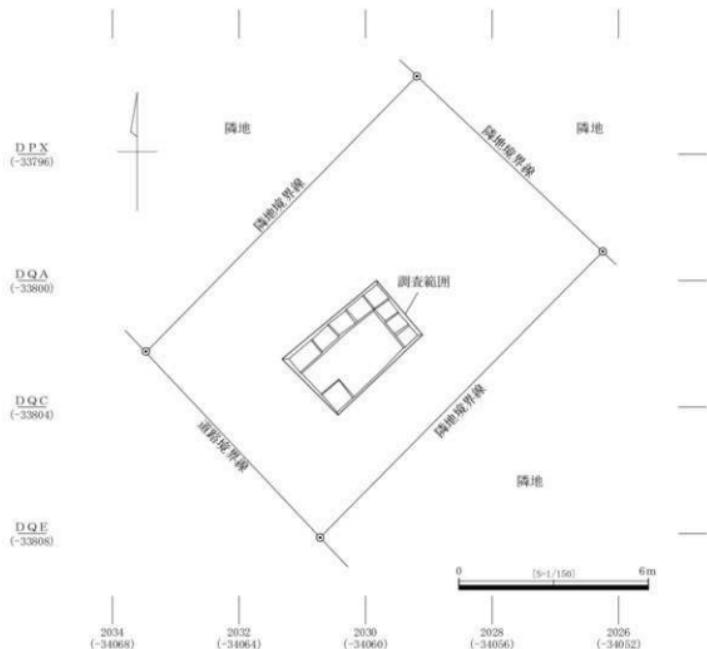
【2. 調査結果】 調査区内は、地表より約40～60cmの深さまで表土（基本層序Ia層）に覆われており、その下層から奈良・平安時代の遺構確認面であるIIIb層が検出された。同面で遺構の確認を行ったが、住居などは検出されなかった。このため、下層のIIIc層まで掘下げて縄文時代の遺構を探ったが、土坑などは検出されなかった。統いて、旧石器時代の遺物の有無を確認するために、工事予定深度（約2m、一部2.4m）まで手掘りで掘り下げたが、遺物は検出されなかった。



第162図 K7-13 土層柱状図(南壁)



第163図 南壁土層断面（北から）



第164図 K7-13 調査区全体図



第165図 K7-13 調査区全景（北から）



第166図 調査区縄文確認面（北から）

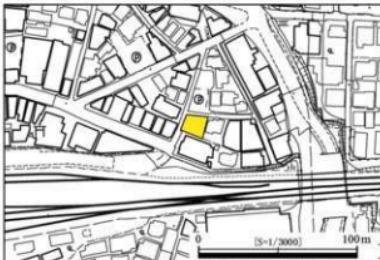


第167図 作業風景

(8) 本町（国分寺村石器時代）遺跡

第14次調査

| | | |
|------|---------------------|-----------|
| 所在地 | 本町二丁目 4-6 | |
| 調査原因 | 集合住宅建設 | 調査種別 確認調査 |
| 調査費用 | 国庫補助等 | 調査体制 委託 |
| 調査期間 | 平成29年2月13日～2月17日 | |
| 調査面積 | 5.54 m ² | 遺物箱数 1箱 |
| 検出遺構 | PJ-1～4 | |
| 主な遺物 | 縄文土器 | |



第168図 K 28-14 調査地位置図

【1. 調査の目的と経緯】 本調査は平成28年10月25日付国教教ふ収第709号法第93条第1項届出に基づき、市教委が調査会に委託して実施した。

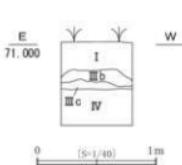
調査区は、国分寺市本町二丁目4-6に所在し、本町（国分寺村石器時代）遺跡（遺跡No.28）に含まれている。昭和54年に南隣の敷地内で実施した調査（本町遺跡第1次調査・未報告）では、縄文時代の住居等が検出され、土器などの遺物も多数出土している。このため、予定されている雨水浸透設備設置等によって住居や土坑などの遺構が破壊される可能性があり、埋蔵文化財の有無、性格等を把握することを目的として、敷地内に2箇所のトレンチを設定して調査を行った。

調査面積は5.54 m²である。現地調査は平成29年2月13日から同年2月17日（実働5日）まで実施した。

【2. 検出された遺構と出土遺物】 調査区内は、Aトレンチ（北側）、Bトレンチ（南側）の各トレンチとも地表より35～50cmの深さまで、盛土・耕作土等による表土（基本層序I層）に覆われており、また搅乱も広範囲に及んでいた。表土直下の大半は、縄文時代の遺構確認面であるIII c層もしくはその下層のIV層で、縄文時代の遺物を包含するIII b層は僅かに遺存している程度であった。

III c層で縄文時代の遺構確認を行ったところ、Aトレンチで小穴2個、Bトレンチでも小穴2個を検出した。

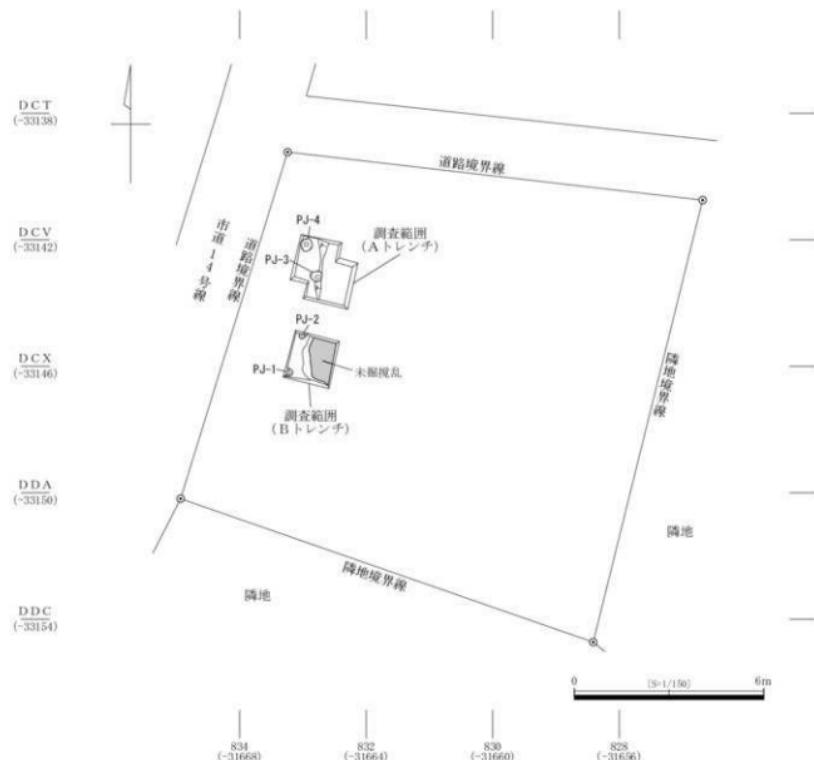
遺物は、表土等から縄文土器の破片が出土したが、小片のため図化し得なかった。



第169図 K 28-14 Bトレンチ 土層柱状図（南壁）



第170図 Bトレンチ 南壁土層断面（北から）



第171図 K 28-14 調査区全体図



第172図 A トレンチ全景 (東から)



第173図 B トレンチ全景 (東から)



第174図 K 28-14 平面図



第175図 Aトレンチ 北壁土層断面（南から）



第176図 調査前の状況（西から）



第177図 作業風景

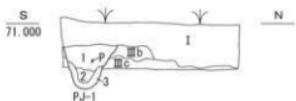


第178図 PJ-1断面（東から）



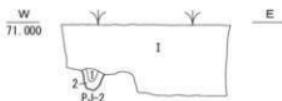
第179図 PJ-2断面（南から）

PJ-1 土層断面図



1. 10YR3/3 粘性あり、しまりあり。赤色スコリアやや多く含む。
2. 10YR4/3 粘性あり、しまりあり。赤色スコリア、ローム粒多く、炭化物少量含む。
3. 10YR4/4 粘性あり、しまりあり。赤色スコリア、ローム粒、炭化物少量。
ロームブロックやや多く含む。

PJ-2 土層断面図



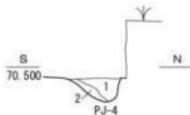
1. 10YR4/2 粘性あり、しまりあり。赤色スコリア、ロームブロック少量。
2. 10YR4/4 粘性あり、しまりあり。赤色スコリアやや多く、ローム粒含む。
ロームブロック多く含む。

PJ-3 土層断面図



1. 10YR3/4 粘性あり、しまりあり。3mm赤色スコリア多く、ローム粒微量。
ローム土やや多い。
2. 10YR4/6 粘性あり、しまりあり。赤色スコリア微量。ローム土。
ロームブロック多い。

PJ-4 土層断面図



1. 10YR3/3 粘性あり、しまりあり。3mm赤色スコリア多く、ローム粒ローム土
やや多い。1cmロームブロック微量含む。
2. 10YR3/4 粘性あり、しまりあり。赤色スコリア微量。ローム土やや多く含む。
ロームブロック多い。

0 [S=1/40] 1m

第180図 PJ-1～4断面図



第181図 PJ-3断面(東から)



第182図 PJ-4断面(東から)

(9) No. 29 遺跡第4次調査

| | | |
|------|----------------------|-----------|
| 所在地 | 本町一丁目 324-91 | |
| 調査原因 | 集合住宅建設 | 調査種別 確認調査 |
| 調査費用 | 国庫補助等 | 調査体制 委託 |
| 調査期間 | 平成29年5月9日～5月20日 | |
| 調査面積 | 15.27 m ² | 遺物箱数 なし |
| 検出遺構 | なし | |
| 主な遺物 | なし | |

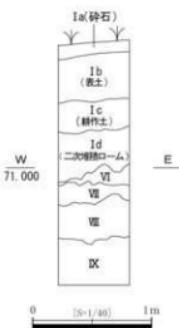


第183図 K 29-4 調査地位置図

【1. 調査の目的と経緯】 調査は平成28年3月7日付国教教ふ取第1087号法93条第1項届出に基づき、市教委が調査会に委託して行った。

調査区は、国分寺市本町一丁目324-91に所在し、No.29遺跡に該当する。当該地は、旧石器・縄文・奈良・平安時代の散布地（包蔵地）であり、工事で予定されている建物基礎工事等によって旧石器時代の礫や縄文時代の土坑・住居などの埋蔵文化財が破壊される可能性があるため、埋蔵文化財の内容・性格等を把握するための確認調査を実施した。調査は、トレンチを1箇所設定して行った。面積は15.27 m²である。現地調査は平成28年5月9日か5月20日（現場実働9日）まで実施した。

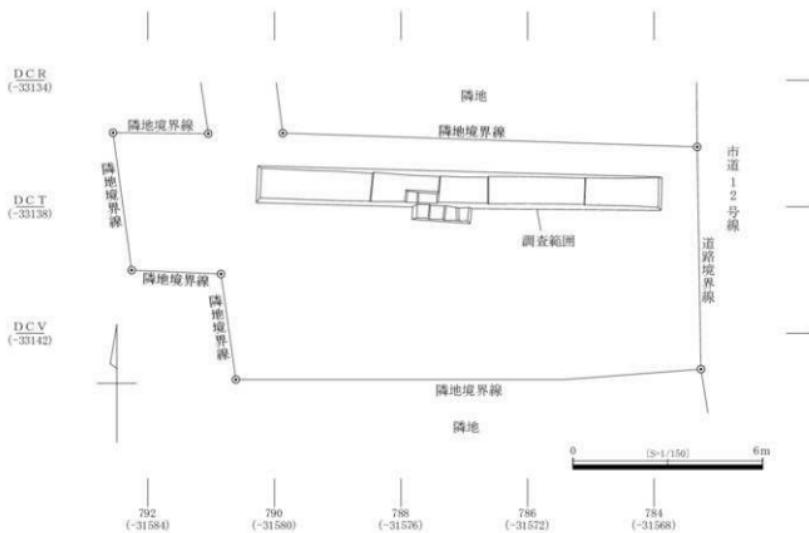
【2. 調査結果】 調査区内は、地表より約50～75cmの深さまで表土（基本層序Ia～Ic耕作土含む）に覆われており、その下層から2次堆積の立川ローム層（Id）が検出された。市内の一般的な層序では、I層の下層には奈良・平安時代の遺構確認面であるIIIb層と縄文時代の遺構確認面であるIIIc層・IV層が検出されるが、現地が斜面地であること、また後世の削平などにより、II～IV層は確認できなかった。続けて、縄文時代より古い旧石器時代の遺物の有無を確認するために、地表より約1.8mの深さまで掘削し、Va～IX層の途中まで確認したが、遺物は検出されなかった。



第184図 K 29-4 土層柱状図（北壁）



第185図 Bトレンチ 南壁土層断面（北から）



第186図 K 29-4 調査区全体図



第187図 調査区縦面確認面全景（東から）



第188図 調査区全景（東から）



第189図 調査地点遠影（南西から）



第190図 調査前 トレンチ設置状況（南西から）



第191図 調査地点から南東を望む



第192図 調査地点から南を望む



第193図 調査地点から西を望む



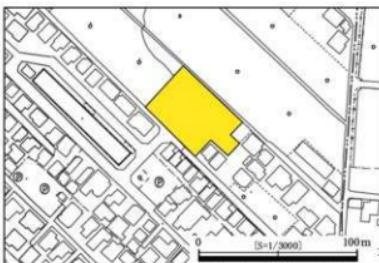
第194図 作業風景



第195図 北壁東側土層断面 合成写真（南から）

(10) № 41 遺跡第1次調査

| | | |
|-------|----------------------------|-----------|
| 所 在 地 | 内藤一丁目 18 番 1 | |
| 調査原因 | 土地造成 | 調査種別 確認調査 |
| 調査費用 | 国庫補助等 | 調査体制 委託 |
| 調査期間 | 平成 28 年 12 月 8 日～12 月 22 日 | |
| 調査面積 | 70.80 m ² | 遺物箱数 なし |
| 検出遺構 | なし | |
| 主な遺物 | なし | |



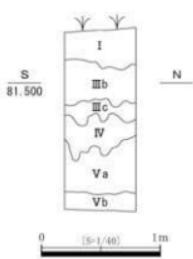
第 196 図 K 41-1 調査地位置図

【1. 調査の目的と経緯】 調査は、平成 28 年 10 月 24 日付国教教ふ収第 705 号法第 93 条第 1 項届出に基づき、市教委が主体となり、調査会に委託して実施した。

調査区は、国分寺市内藤一丁目 18 番 1 に所在し、№ 41 遺跡（遺跡№ 41）に該当する。届出記載の計画で予定されている造成工事によって土地に包含されている遺物が破壊される可能性があるため、埋蔵文化財の有無を確認するために部分的な調査を行った。

調査面積は 70.799 m²である。現地調査は平成 28 年 12 月 8 日から同年 12 月 22 日（実働 11 日）まで実施した。

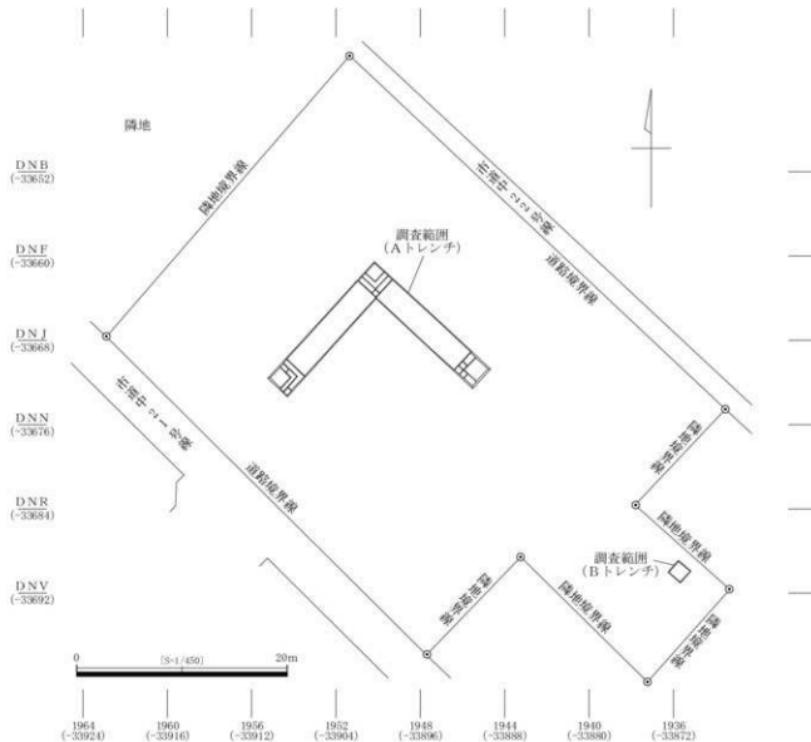
【2. 調査結果】 調査区内は、A トレンチ（北西側）と B トレンチ（南東側）の両トレンチとも地表より約 40 ～ 50 cm の深さまで、耕作土等による表土（基本層序 I 層）に覆われていた。その下層から奈良・平安時代の遺構確認面である基本層序 III b 層（厚さ約 30 ～ 40 cm）が検出されたため、遺構の有無を確認したが、住居等は検出されなかった。さらに縄文時代、旧石器時代の遺物等を確認するためにトレンチ内の一部を III c 層、IV 層、V a 層、V b 層（途中まで）の最大 1.65 m の深さまで掘下げて遺構確認を行つたが、遺構や遺物は未検出だった。



第 197 図 K 41-1 土層柱状図（西壁）



第 198 図 A トレンチ 西壁土層断面（東から）



第199図 K 41-1 調査区全体図



第200図 Aトレンチ奈良・平安時代確認面
(南東から)



第201図 Aトレンチ奈良・平安時代確認面
(北東から)



第202図 Aトレンチ 縄文時代確認面(北東から)



第203図 Aトレンチ 縄文時代確認面(南西から)



第204図 Aトレンチ 北端ブレ坑全景(北東から)



第205図 Bトレンチ 縄文時代確認面(北西から)



第206図 Bトレンチ ブレ坑全景(南東から)



第207図 Bトレンチ 南東壁土層断面(北西から)



第208図 調査前の状況



第209図 作業風景

第3章 総括

平成28年度に国庫補助事業及び国分寺市遺跡調査会が事業者から委託を受けて実施した埋蔵文化財の調査は、武藏国分寺跡（No.10・19遺跡）5地区、恋ヶ窪遺跡（No.2遺跡）1地区、多摩蘭坂遺跡（No.7）1地区、本町（国分寺村石器時代）遺跡（No.28）1地区、No.41遺跡1地区的計10地区（調査は11カ所）である。これらの調査面積の合計は、1,070 m²であるが、法92条に基づいて平成27年度から実施している調査などを加えると、市内全体では7,858 m²の調査が実施された。このうち、公共機関が事業主となって実施した調査は1,617 m²である。調査面積の総計は、昨年度の15,793 m²に比べると約半分の面積だが、それ以前の平成24～26年度の平均が3,206 m²であることを考えれば、依然として調査面積は多い傾向にある。

以下、本報告書に掲載した6遺跡、11カ所及び立会調査の補足も加えて、時代ごとに主な調査成果と課題についてまとめる。

【旧石器時代】

旧石器時代の調査は、武藏国分寺跡第721次調査、恋ヶ窪遺跡第98次調査、多摩蘭坂遺跡第13次調査、No.29遺跡第4次調査において、トレンチの一部をIV層以下まで掘り下げる遺物の有無を確認したが、遺物の出土はなかった。特に多摩蘭坂遺跡第13次調査では、北隣りの第4次調査（国分寺市遺跡調査団1997）で、7枚の文化層が確認され、第3・6文化層のブロックの広がりから台地の奥部（現在の武藏野段丘面の台地縁から北へ約90m）における石器群の形成が注目されていたため、部分的にVII層まで掘り下げる調査を実施した。今回の調査では、石器の出土はなかったものの、調査範囲は比較的小規模であったこともあり、石器群の検出傾向や遺跡の広がりなどを把握するためにも、今後も継続して周辺の調査を重ねていく必要があろう。

なお、No.29遺跡第4次調査のトレンチ北壁の土層観察から、調査区の旧地形は、東から西へ向かって緩やかな斜面が続き、西端付近から本多谷へ向かって西へ深く落ち込む急斜面の地形であったことが想定された。谷を挟んだ対岸にある本町（国分寺村石器時代）遺跡との関連を考察する上でも、旧地形の把握も調査の重要な成果と言えよう。

【縄文時代】

武藏国分寺跡第717次調査では、縄文時代の遺物包含層包含層であるIII b層から砂岩の打製石斧が出土している。また、第718・722次では、3基の土坑（SK3458J～3460J）と加曾利E2～3式の縄文土器の破片や打製石斧が出土した。第717次の東隣りの敷地で実施した第721次調査でも縄文土器の破片や打製石斧が出土している。これらの遺物はいずれも縄文時代の遺構には伴わず、表土や包含層、歴史時代の遺構の覆土から出土したものであるが、台地上における縄文時代の生活圏を知る新たな材料となった。

その他の遺跡では、本町遺跡第14次調査で、4個の小穴と縄文土器片が確認された。本町遺跡は、国分寺駅周辺という立地からか、近年は調査が少なく平成19年度の第13次調査（国分寺市教育委員会

2009）から約10年ぶりの調査となった。小規模な調査区で、さらに上部削平が激しかったものの、縄文土器を伴う小穴が検出されたことは留めておく必要がある。

また、本町遺跡では、工事の立会調査でも縄文土器を確認している（届出・通知および立会記録No.67）。発見された場所は、武藏野台地縁辺から開析谷の本多谷に向かう斜面地付近で、擾乱された表土層から包含層の上層から収集した。出土した土器は勝坂3式から加曾利E3式まで認められ、中期でもやや時代幅があり、遺跡の広がりや今後の埋蔵文化財の保護を図る上で貴重な情報が得られた。

【古代】

武藏国分寺跡第716次調査では、尼寺の中枢部を区画する南辺掘立柱塀の柱穴2基（SA19-2・3）、及び塀に並行して掘られた3条の溝（SD44・SD436 A・B）が検出された。掘立柱塀の柱穴は、中門より東へ取りつく2本目（SA19-2）と3本目（SA19-3）と想定された。SA19-2は遺構の半分が擾乱により消滅していたが、残存する規模は東西幅約1.0m、深さは確認面から約0.9mを確認した。SA19-3はSA19-2の東側で検出され、両者の柱間は約2.4m（約8尺）と他地点の柱間と相違ない距離であった。平面形状は南北方向が長い隅丸長方形を呈し、長辺約1.4m、短辺約1.0m、確認面からの深さは約1.0mあり、掘方底部には柱を据えた压痕「あたり」が認められた。

本調査で注目されたのは、SA19-3（SA19-2は未確認）の建替えの回数である。中門の西側に取り付く同じ掘立柱塀SA18では、1度の建て替えによる2時期が確認されている（国分寺市教育委員会1995）。一方で、尼寺伽藍東辺の掘立柱塀の柱穴は、1時期のみで建替えがなく、柱の抜き取りで終わっていた。このことから、寺觀の正面を整える目的をもって、南辺は柱の建て替えを行い、東辺・西辺（未調査）は建替えを行わなかった可能性が考えられた。しかし、今回検出された中門の東へ取り付く南辺のSA19-3は、東辺と同じく1時期のみで建替えがなく、柱の抜き取りをもって完結していることから、尼寺における掘立柱塀の建替え回数は、伽藍中軸線を挟んで東西で異なる可能性も想定される。

また、同調査では、尼寺の掘立柱塀に外側に塀と並行して掘られた南面東側の溝SD44と、その内側を廻るSD436が検出されており、SD436は2時期（A・B）にわたることも確認された。既往調査では、SD436と同じ性格をもつ南面西側の溝（SD264）について、僧寺のように塀に併設された溝というよりは、整地や基壇築造のための土採取跡とし、すぐに埋められて開口していなかったとする考えが有力視されており（国分寺市教育委員会1996）、塀に伴う構はさらに外をめぐるSD44と想定されていた。本調査地点においても、SD44の覆土はその大半が自然堆積土であり、区画溝としての機能を有していたことが追認された。一方で、SD436については、A期は短い期間で人為的に埋められた覆土と看取されたものの、B期はA期に比べると長い時間をかけて埋まつたものと捉えられた。これにより、B期の溝は、場所によって長期間開口していた可能性があり、かつ本地点が中門のすぐ東側という寺觀に影響を及ぼす場所であったことを含めば、南面のB期の溝については、区画施設としての機能も果していた可能性が窺えよう。尼寺の西辺区画施設については、市街化が進んでいることもあり、未だ不明な点が多い。今後も遺構の保存を図りながら、必要最小限の範囲で成果が得られるよう精度の高い調査を行っていくことが肝要である。

武藏国分寺跡第719次調査では、土坑1基（SK3457）が検出された。調査区は、僧寺伽藍中心から南へ約240m、東へ約30mと中心部に近い位置にあり、周辺の調査では多数の遺構が確認されていた。同敷地内で実施された第21次調査（国分寺市遺跡調査会・国分寺市教育委員会2011）では、竪穴住居3軒（SI107・108・110）、そして第36次調査（国分寺市遺跡調査会・国分寺市教育委員会1988）では、本調査区の西側と東側の道路から竪穴住居3軒（SI169・183・184）と土坑1基（SK355）が検出されていた。今回の調査区は小規模なものであったが、土坑が検出されたことにより改めて遺構の密度が濃い地域であることが確認された。

武藏国分寺第717・721次調査区は、武藏国分寺跡北方地区の北東部に位置し、僧寺伽藍中心からは北へ約430m、東へ約250mの位置にあたる。周辺では、平安時代の遺構が多数検出されていたが、平成27年度に本調査区の南側で実施した第709次調査（国分寺市遺跡調査会2017）では、縄文時代の小穴と土坑のみが検出され、古代遺構は未検出であった。今回の調査区からも古代遺構は検出されておらず、南方の湧水源をはじめとする水場から離れるにつれて遺構が希薄になる状況を再確認する結果となつた。

【中世】

中世の遺構で特筆されるのは、武藏国分寺跡第718・722次調査で検出された溝SD170（SD5）が東西約340m以上にも及ぶこと、SD170覆土中より大宰府分類で13世紀後半～14世紀前半の白磁皿IX類（山本1995）が出土したことで、これまで古代と捉えられていた遺構の年代が中世と判明したことである。

SD5は、東山道武藏路の東側を並走する南北溝SD33と同じ性質の区画溝として考えられており、年代は他の遺構との関係から10世紀中頃に近い時期とされていたが、調査成果からSD5・33・170は14世紀以降の区画溝である蓋然性が高くなつた。本調査区の西方に位置する恋ヶ窪廐寺跡や伝鎌倉街道沿いの伝祥応寺など、周辺の中世遺構との関係を引き続き検証していくことが課題であろう。

【近世以降】

恋ヶ窪遺跡第98次調査で検出された遺構は、溜池と考えられるSX2・3及び段掘りSX4であった。溜池SX-2は、地表下約75cmの位置で検出された。深さは確認面から約55cmあり、平面形態は不整形な円形を呈していた。池の西端には水路口があり、西方を南北に流れる恋ヶ窪用水（恋ヶ窪村分水）から分水して敷地内へ引き込んだものと考えられた。SX3は部分的な調査に留まつたが、同じ用途で造られたものと考えられる。なお、SX2の覆土からは18世紀の灰釉鉄絵丸碗の破片が出土しており、近世の所産と想定される。

なお、本調査は、縄文時代・旧石器時代の遺構・遺物有無の確認を目的として実施したものであったが、結果として市域でもあまり例のない低湿地における旧地形の情報が得られた。調査区で確認された水性ロームで形成されたシルト質堆積土や砂礫層、河川堆積物の層位関係の情報は、遺跡の性格を把握する上でも貴重である。また、江戸時代の集落の様子を窺い知る遺構も検出され、地域史の復原につながる貴重な成果といえよう。

今後も引き続き遺跡の広がりや性格を把握するための調査を継続して実施することが必要である。

最後に、本書をまとめにあたって、発掘調査の際に多大な御理解・御協力をいただいた工事主体者や施工業者をはじめとする関係者の皆様には、深く感謝を申し上げます。

〔引用・参考文献〕

- 武藏国分寺遺跡調査会・国分寺市教育委員会 1979『武藏国分寺遺跡調査会年報 1974 武藏国分寺跡』
国分寺遺跡調査会・国分寺市教育委員会 1982『武藏国分寺遺跡発掘調査概報 VII—佐藤国分寺共同住宅建設に伴う調査—』
瀧口 宏「地と人と」1986『国分寺市史 上巻』国分寺市史編さん委員会
国分寺市遺跡調査会・国分寺市教育委員会 1989『武藏国分寺跡発掘調査概報 XIV—昭和 52 ~ 57 年度尼寺々城確認調査—』
国分寺市遺跡調査会 1995『武藏国分尼寺跡 II—平成 5 年度発掘調査概報』
国分寺市遺跡調査会 1996『武藏国分尼寺跡 II—平成 6 年度発掘調査概報』
国分寺市遺跡調査会 1997『多摩蘭坂遺跡 II—都宮内藤 1 丁目第 3 団地建設に伴う事前調査—』
国分寺市遺跡調査会・国分寺市教育委員会 1988『武藏国分寺跡発掘調査概報 X II—昭和 50 ~ 53 年度公共下水道面整備に伴う調査—』
国分寺市遺跡調査会 1999『武藏国分寺跡発掘調査概報 X XIV—北方地区・三菱地所㈱共同住宅建設工事に伴う発掘調査—』
国分寺市遺跡調査会 2002『武藏国分寺跡発掘調査概報 26—北方地区・平成 8 ~ 10 年度西国分寺地区画整理事業及び泉町公園事業に伴う調査—』
国分寺市遺跡調査会 2003『武藏国分寺跡発掘調査概報 29—北方地区・平成 11 ~ 13 年度西国分寺地区土地開発事業及び泉町公園事業に伴う調査—』
江坂禪綱・芹沢長介・坂詰秀一編 2005『新日本考古学小辞典』ニュー・サイエンス社
国分寺市教育委員会 2009『平成 19 年度国分寺市埋蔵文化財調査年報』
国分寺市遺跡調査会・国分寺市教育委員会 2012『武藏国分寺跡発掘調査概報 37—昭和 50 ~ 55 年度僧寺寺院地内等の調査—』
国分寺市教育委員会 2013『平成 23 年度国分寺市埋蔵文化財調査年報』
国分寺市教育委員会 2016『平成 26 年度国分寺市埋蔵文化財調査年報』
国分寺市遺跡調査会 2017『平成 27 年度国分寺市埋蔵文化財調査概報』
国分寺市教育委員会 2017『平成 27 年度国分寺市埋蔵文化財調査年報』

付 編

(1) 元町通り水道管布設替工事に伴う立会調査

—僧寺伽藍中枢部北辺区画掘立柱塀・薬師道跡・市立第四小学校付近の古代遺構等の記録—

【1. 調査に至る経緯】 平成 28 年 7 月 28 日、東京都水道局多摩水道改革推進本部立川給水管理事務所（以下、水道局と略）から市教委に、法第 94 条に基づく埋蔵文化財発掘の通知が提出された（国教教ふ収第 422 号）。本工事は、西元町二丁目 17 番地先（元町通りの武藏国分寺跡資料館入口付近）から、西元町一丁目 14 番地先（多喜窪通りの市立第四小学校前交差点付近）に至る、延長距離約 560 m の区間において、昭和 63 年～平成元年度に施工した給水管の付設替を目的とした工事である（第 1 図）。その内容は、径 150mm の既設管を径 200mm に増径し、幅 0.60 ~ 0.85 m、深さ 1.20 ~ 1.52 m の規模で人力併用の機械掘削を行い、同日中には埋め戻して舗装を復旧するのが基本的な仕様で、新旧管の切り替えには、既設管の脇に一旦は地表下約 50cm 付近の深さで仮設管を設け、切り替え後は仮設管を撤去し、施工区間全体で舗装の本復旧を行うというものであった。

ところが、施工範囲のうち、国分寺薬師堂仁王門下から史跡公園北東エントランスに至る区間は国指定史跡地内に含まれていることから、市教委は水道局に対して、法 125 条に基づく史跡の現状変更許可申請も合わせて提出するよう求め、同日付で申請書を受理した（国教教ふ収第 425 号）。なお、従前の法施行令では、文化庁長官の権限であった「埋設されているガス管・水管」等の改修に伴う現状変更行為の許可及びその取消し並びに停止命令は、平成 28 年 3 月 25 日改正の政令第 78 号（平成 28 年 4 月 1 日施行）により当該市区町村の教育委員会で行うことになったため、同令第 5 条第 4 項の一ホに基づき、許可判断は市教委で行うこととなった。

そこで、これらの申請・通知を受理した市教委は、施工者と本工事が基本的に既設水道管の付設替えであり、工事が原則的に掘山内での施工となることを確認したため、工事にあたっては市職員が立ち会い、遺跡が発見された場合は所要の措置をとるものとした。また、法 94 条の通知については、その旨の意見を付して都教委へ進達した。本件にかかる都の通知文書は、8 月 16 日付 28 教地管理第 1379 号にて施工者・市教委の両者に送付され、法 125 条について市職員の工事立会を条件に、8 月 3 日付国教教ふ収第 425 号により市教委から水道局宛てで現状変更の許可通知を送付した。なお、市教委では、昭和 63 年～平成元年当時の水道管付設工事の取り扱い協議記録が現存していないため、工事に立会うにあたっては慎重な姿勢で臨むこととした。

【2. 工事立会の概要】 施工範囲内での掘削工事は 10 月 13 日より翌年 2 月 22 日まで行われ、この間、土曜日も含めて延べ 55 日間の工事に立会うこととなった。工事は、歩行者・自転車を除く車両の規制をかけたうえで、当該日中に一定区間の掘削と管付設及び撤去、さらには埋戻しと仮舗装までを行なうなど、極めて迅速に進められたため、遺跡の記録作業に時間的な猶予があまりとれなかつたのが実情であるが、周辺地形の状況把握はもとより、幾つかの地点では遺構や遺物の検出も認められたので、以下、

立会で特筆すべき点を中心に報告する。なお、立会箇所とそれぞれの調査所見は、第1図・第1～3表に示したとおりである。

僧寺伽藍中枢部北辺区画掘立柱塀 SA12(東) 僧寺伽藍中枢部では、市教育委員会が平成15～24年度に史跡整備に伴う事前遺構確認調査を実施し、金堂・講堂等の伽藍を構成する主要な建物を、塀や溝等の遮蔽施設で囲繞していたことが明らかになっている（中道2016）。その規模は、掘立柱塀の心心距離で東西約152m、南北約132mの規模にも及び、調査の結果、当初の塀は掘立柱であったものが、後に築地塀へと作り替えが行われたことや、塀の内側・外側には大小の溝も並走していた様子が判明しているが、このうち今回の工事箇所は、北辺区画塀・溝がめぐる位置に該当することになった（第3・4図・図版1-1～3）。

北辺区画塀は、従前からの調査で「SA12」の遺構番号を付しており、武藏国分寺の伽藍中軸線を挟んで東側をSA12(東)、西側をSA12(西)と称し、凡そ7尺(2.0m)スパンで柱穴が存在すると仮定した場合に、東側で33基・西側で33基の合計66基が一列に並んでいることが想定される。このうち昭和55年度に実施した第117次調査では東端部の柱穴、平成20・23年度に実施した区画北辺地区で4基の柱穴、平成24年度に実施した区画北西地区でコーナーを含む4基の柱穴をそれぞれ確認した。また、平成24年度には、元町通り上で、同様に現状変更に伴うガス管布設替工事が行われ、区画北辺地区に続く東側で柱穴の痕跡を記録している（依田2013）。

今回の工事では、総延長距離約34.5mの区間で、SA12(東)の柱穴9～23の15基を掘り山の南壁断面にて確認した（第5・6図）。柱穴9以西の柱穴は、既設の給水管が北側にずれている関係もあって検出されなかつたが、柱穴2に該当する柱穴は先述のガス管工事の際に存在を確認している。また、柱穴9～18の10基は、既設の工事によって柱穴掘り方の北側30～40cm程度分が削られていたが（図版1-5～8、図版2-9～13等）、柱穴19以東は再び既設管が北側にずれており、柱穴掘り方の北側10～20cm程度分が失われている状況を確認した（図版2-14～16、図版3-17・18等）。なお、南壁断面中に見えた柱穴の土層断面図は第5・6図に示したとおりで、柱穴掘り方幅は約1.1～1.4mを測り、いずれも工事の掘削深度以上の掘り込みを有している。

近世薬師道の痕跡 立会い№43・48地点の国分寺薬師堂階段下において、アスファルト・碎石を除去した下面から、非常に固く締まった茶褐色土が検出され、同層上面の一部に細かい玉砂利が敷かれていた様子が見られた（第6図・図版3-21）。遺物等は出土していないため厳密な年代は押さえられないが、薬師堂に通じる南北道路は明治2年の国分寺村絵図にも明確に描かれており（68頁第67図）、恐らくはアスファルトが敷かれる以前の薬師道の痕跡と思われる。

武藏国分寺跡北方地区周辺の古代遺構 現在の多喜窪通りに程近い工事区間の北側付近は、市立第四小学校やマンション・老健施設等の建設に伴い広域の発掘調査が行われ、特に古代に関わる遺構の広がりが把握されている一帯である（第2図）。今回の工事では、特に、立会い№1・10・11・12・16・17・19の各地点において、遺構と思われる土層の堆積を確認しており、以下にその概略を記す。№1地点では、東山道武藏路東側溝に比定される深さ40cm程の溝状の落ち込みを検出した（図版3-22）。また、

No.10・11・12・16・17・19では、それぞれ竪穴住居とみられる土層の堆積状況を確認したが（図版3-23・24、図版4-25～28）、このうちNo.11・12・16地点では、今回の施工箇所の東側に隣接地で、昭和53年度に実施した公共下水道南部地区18号工事施工に伴う武藏国分寺跡第79次調査で竪穴住居が数件確認されており（第2図、上村・上敷領1990）、それらの延長部分が確認されることになる。さらに、立会No.17地点では、焼土と白色粘土中に瓦が差し込まれている状況が確認され、カマドの構築部材と思われる（図版4-27）。No.16・17地点では当該土層中より遺物を回収したので、詳細は次項に掲げた。

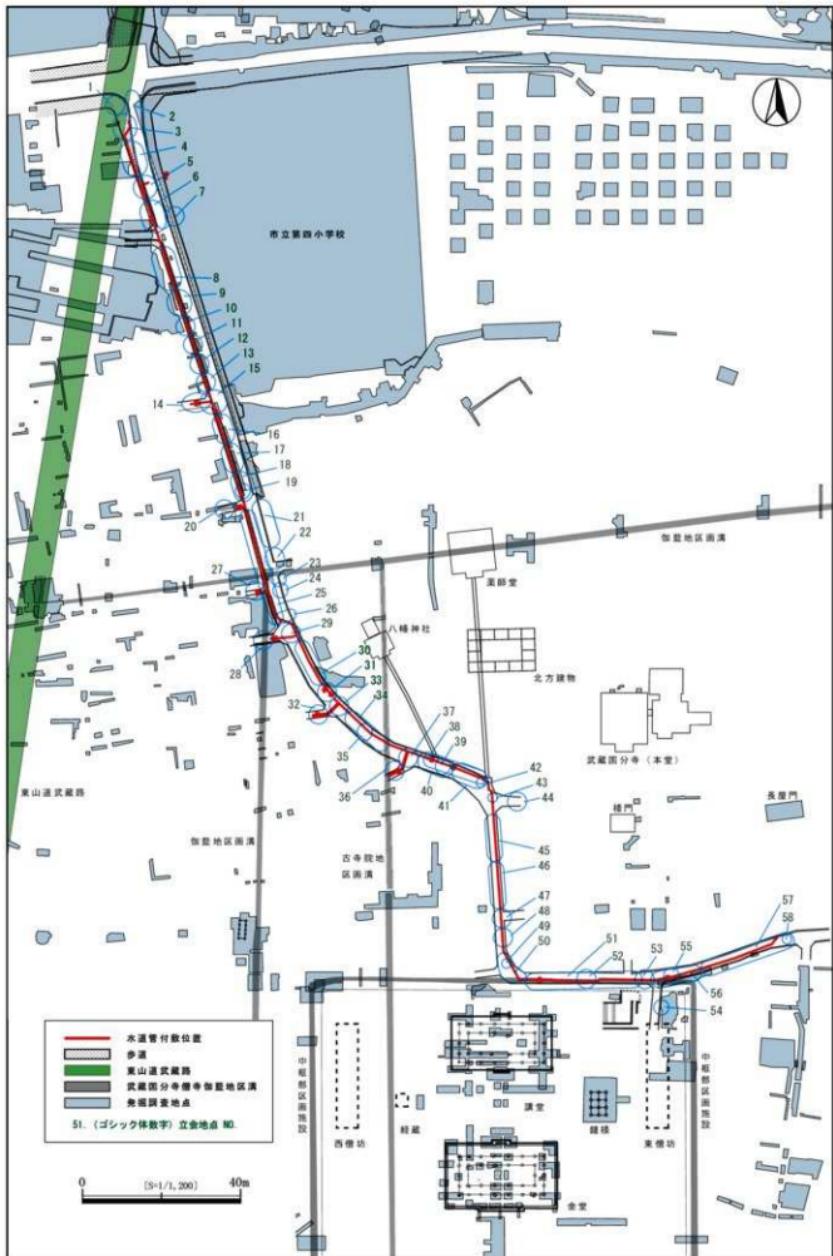
【3. 出土遺物】当該、工事立会い中に回収した遺物4点を図示した（第7・8図）。1は須恵器壺で、口径14.7cm、高台径6.6cm、器高5.1cmを測る。緻密でやや軟質な胎土には少量の砂粒を含んでおり、色調は灰褐色を呈する。9世紀後半頃の東金子窯製品と思われる。内底面には煤が付着しており、灯明具としての使用が想定されるが、口縁部内面と高台内には液垂れ状の痕跡が認められる。立会No.17地点より出土した。2は須恵器壺で、口径11.3cm、底径5.6cm、器高3.5cmを測る。腰部は丸みを持ち、肥厚する口縁部は外反気味に立ち上がる。砂粒を少量含む、硬質な胎土で、色調は灰褐色を呈する。肉厚な感じから、9世紀後半頃の東金子窯製品と思われる。立会No.16地点より出土した。3は土師質土器の高台付皿で、口径11.5cm、高台径6.0cm、器高3.7cmを測る。橙褐色をした、大粒の砂礫を含む粗い胎土で、細かい粘土塊が器表面に多く付着している。口縁部はやや肥厚気味で、底部は回転糸切後に、接地面がやや外傾する高台を貼り付けている。10世紀前半頃の製品であろう。立会No.10地点より出土した。4は立会No.16地点より出土したもので、刃先が屈曲しているが刀子の刃部と思われる。重量は19.4gを有する。

【4. 工事終了後の措置】工事終了後の3月13日に、水道局より市教委宛てに現状変更終了報告書が提出された（国教教ふ収第1146号）。また、立会中に発見した出土品については、市教委が工事立会最終日の2月22日付で事務連絡にて小金井警察署へ埋蔵物発見通知を、同日付国教教ふ発第270号で都教委へ出土品保管証を、それぞれ提出を済ませ、都教委からは3月9日付28教地管理第1379-2号にて文化財認定及び出土品の帰属にかかる通知を受理した（受理日3月17日国教教ふ収第1176号）。

なお、史跡地内で発見された僧寺伽藍中枢部北辺区画掘立柱塀（SA12東）は、平成29年5月31日に開催した平成29年度第1回国分寺市史跡武藏国分寺跡保存整備委員会で、「平成28年度の史跡現状変更」として報告し、文化庁より今後の史跡整備の一環で、現行道路の路面上に柱穴の検出位置を表示することの可否について関係部局と調整をはかるよう提案を受け、今後の課題とした。

【参考文献】

- 上村昌男・上敷領久1990『武藏国分寺跡発掘調査概報 XVI—国分寺市公共下水道面整備南部地区18号工事に伴う調査—』
国分寺市遺跡調査会
- 中道 誠 2016『国指定史跡武藏国分寺跡発掘調査報告書 I 遺構編—史跡保存整備に伴う事前遺構確認調査—』
国分寺市教育委員会
- 依田亮一 2013『国指定史跡武藏国分寺跡附東山道式蔵跡—平成24年度保存整備事業に伴う事前遺構確認調査—』
国分寺市遺跡調査会・国分寺市教育委員会



第1図 元町通り水道管布設工事 立会地点全体図

第1表 元町通り水道管布設替工事に伴う立会調査記録一覧 1

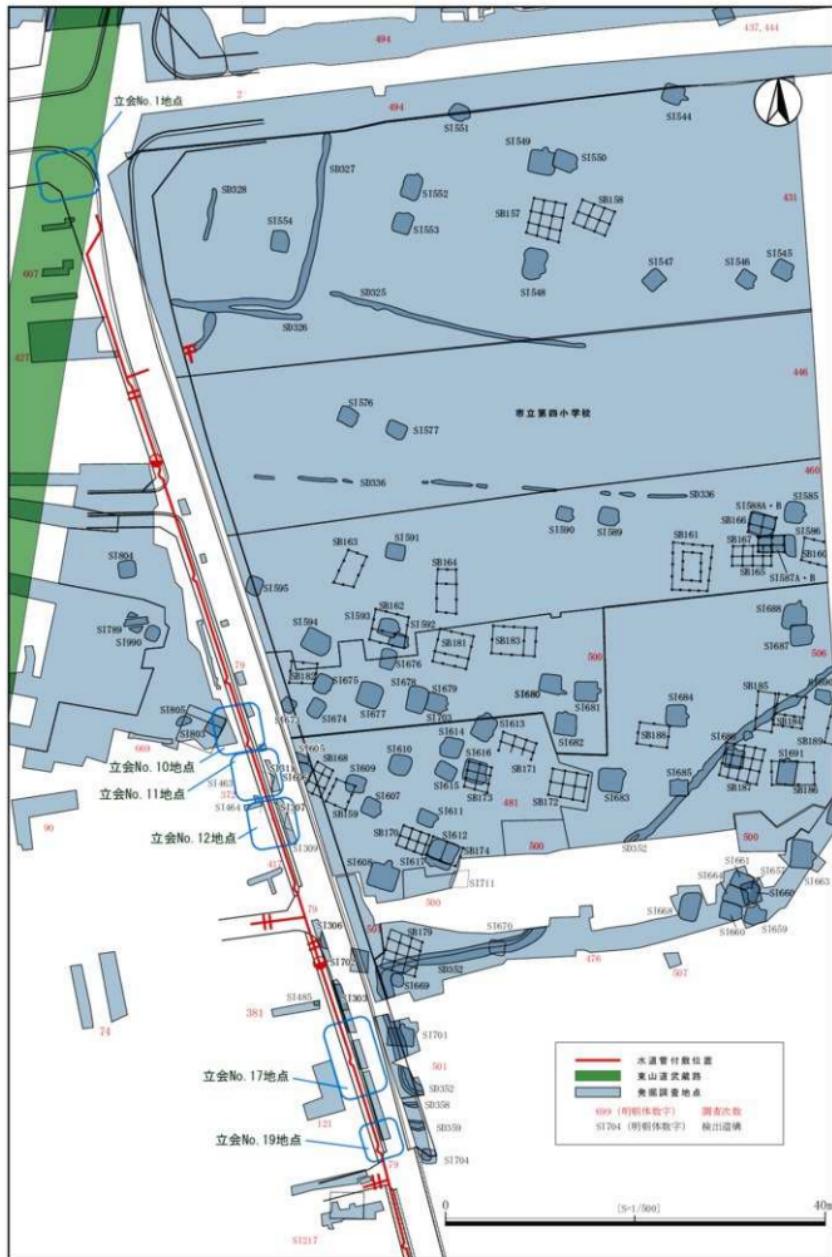
| 地点 | 工事箇所 | 立会日 | 立会所見 | No. |
|----|-------------------------------|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|
| 1 | 四小交差点南西歩道 | H28. 10. 13 | 既設水道管位置確認のための試掘（以下、試掘と表記）。GL-120cm 試掘。路盤 50cm、III b 層 30cm、以下 III c 層。 | 1 |
| | | H28. 12. 1 | 試掘。東山道武藏鐵東側構築物。GL-180cm 試削。路盤 80cm、III b 層 20cm、III c 層 10cm、以下 IV 層。底面は V 層。側壁は III b 層上面で確認、40cm の深さを有する。上層は III b 層に似るが、下層は転圧を受けた硬い黒褐色土で、ローム粒少量含む。【図版 3】 | 119 |
| | | H29. 1. 7 | 駿山内。 | 151 |
| 2 | 四小西 西側歩道 | H28. 10. 13 | 試掘。GL-50cm まで路盤、黒色土 30cm、III b 層 40cm、以下 III c 層。 | 2 |
| | | H29. 1. 6 | GL-100cm 試削。路盤 30cm、路盤下はスコリア混じりの黒色土。古代漢 SD336 の延長にあたるため、漢覆土の可能性あり。 | 150 |
| 3 | 四小西 西側歩道 個人宅前 | H28. 12. 12 | 西面、GL-110cm 試削。路盤 40cm、黒色土 60cm、以下ローム。下部に下水管が通っているが、推進工法のよう、上層は自然堆積の可能性あり。 | 149 |
| 4 | 四小西 西側歩道 西元町 2-17-17・18 | H28. 12. 5 | GL-110cm 試削。路盤 40cm、黒色土 60cm、以下褐色土。 | 126 |
| | | H28. 12. 6 | GL-110cm 試削。路盤 50cm、III b 層 40cm、III c 層 20cm、以下 IV 層。 | 127 |
| | | H28. 12. 6 | GL-100cm 試削。歩道は駿山。車道は路盤 50cm、III b 層 30cm、III c 層 20cm、以下 IV 層。 | 128 |
| | | H28. 12. 9 | GL-150cm でローム。 | 138 |
| | | H28. 12. 12 | GL-130cm 試削。路盤下 -110cm で転移層。 | 141 |
| 5 | 四小西 西側歩道 西元町 2-17-18 動物病院前 | H28. 12. 5 | GL-90cm 試削。路盤 40cm、黒色土 20cm、以下 III c 層。黒色土は縄文遺構の覆土の可能性あり。 | 125 |
| | | H28. 12. 9 | | 137 |
| 6 | 西元町 2-17-18・19 個人宅前 | H28. 12. 5 | GL-110cm 試削、路盤 30cm、黒色土 20cm、褐色土 20cm、以下ローム。 | 124 |
| 7 | 四・体育館前水栓 | H28. 12. 12 | GL-110cm 試削。路盤 40cm、褐色土 50cm、黒色土 10cm、以下ローム。 | 142 |
| 8 | 西元町 2-16-40 老健施設前歩道 | H28. 11. 30 | GL-110cm 試削。路盤 50cm、黒色土 20cm、褐色土 30cm、以下ローム。 | 117 |
| | | H28. 12. 9 | | 136 |
| | | H28. 12. 16 | | 146 |
| | | H29. 1. 10 | | 152 |
| 9 | 西元町 2-16-40 老健施設前歩道 | H28. 11. 29 | GL-110cm 試削。路盤 50cm、III b 層 30cm、以下 III c 層。III b 層上面で底部に褐色土、ロームブロック少量混入する黒褐色土の落ち込みがあり、漢遺構の覆土の可能性あり。 | 111 |
| | | H28. 12. 9 | | 135 |
| 10 | 西元町 2-16-40 老健施設南東側歩道 | H28. 11. 29 | GL-90 ~ 110cm 付近でロームブロックを多く含む明褐色土があり。土師質土器出土、堅穴住居覆土の可能性あり。 | 110 |
| 11 | 西元町 2-16-44 駐車場前歩道 | H28. 11. 29 | 路盤 50cm、路盤下に深さ 30cm 程のロームブロック少量含む黒褐色土の落ち込みあり、堅穴住居覆土の可能性あり。【図版 3】 | 109 |
| 12 | 西元町 2-16-45 個人宅前歩道 | H28. 11. 29 | 路盤 50cm、路盤下に深さ 30cm 程のロームブロック少量含む黒褐色土の落ち込みあり。硬質面上は暗褐色土ベース、堅穴住居土の可能性あり。【図版 3】 | 108 |
| 13 | 西元町 2-16-45 個人宅前歩道 | H28. 11. 29 | GL-100cm 試削。路盤 50cm、III b 層 30cm、III c 層 10cm。 | 107 |
| 14 | 西元町 2-16-45 南側歩道 | H28. 10. 15 | 試掘。硬質面を検出。 | 4 |
| | | H28. 12. 2 | GL-100cm 試削。路盤 40cm、III b 層 50cm、以下 III c 層。 | 122 |
| | | H28. 12. 15 | GL-170cm 試削。路盤 40cm、黒色土 40cm、褐色土 20cm、以下ローム。-80cm に縄文土器片、-50cm で瓦片確認。 | 145 |
| | | H28. 12. 21 | GL-80cm 試削。路盤 40cm、褐色土 20cm、転移層 20cm、掲示板の南側で -70cm 付近に黒色土、古代漢の覆土の可能性あり。 | 149 |
| 15 | 西元町 2-16 交差点 | H28. 11. 28 | GL-110cm 試削。路盤 80cm、以下 10cm 程のローム混じり土、黒色土。 | 105 |
| | | H28. 12. 9 | GL-80cm 試削。路盤 30cm、以下黒色土・ローム、黒色土上面に焼土らしきものが混じる。 | 134 |
| 16 | 西元町 2-15-40・41 個人宅・アパート前歩道 | H28. 11. 28 | GL-100cm 試削。-50cm 付近で、南北 1m 幅、深さ約 30cm の黒色土。黒色土は堅穴住居土の可能性あり、土師器・須恵器・金属製品を含む。遺構外は褐色土（III b 層）。 | 102 |
| 17 | 西元町 2-15-41・42 アパート・駐車場前歩道 | H28. 11. 25 | 路盤 30cm、黒色土 20cm、以下ローム。黒色土は粘土・粘土を含み、粘土中に大型の瓦片が含まれる。堅穴住居のカマドの可能性あり。【図版 4】 | 99 |
| | | H28. 11. 28 | アパート入口のゲートから北へ 6m、南北約 2.9m 幅で黒色土の広がりを確認。黒色土中から須恵器片出土。堅穴住居の可能性あり。【図版 4】 | 101 |

第2表 元町通り水道管布設替工事に伴う立会調査記録一覧2

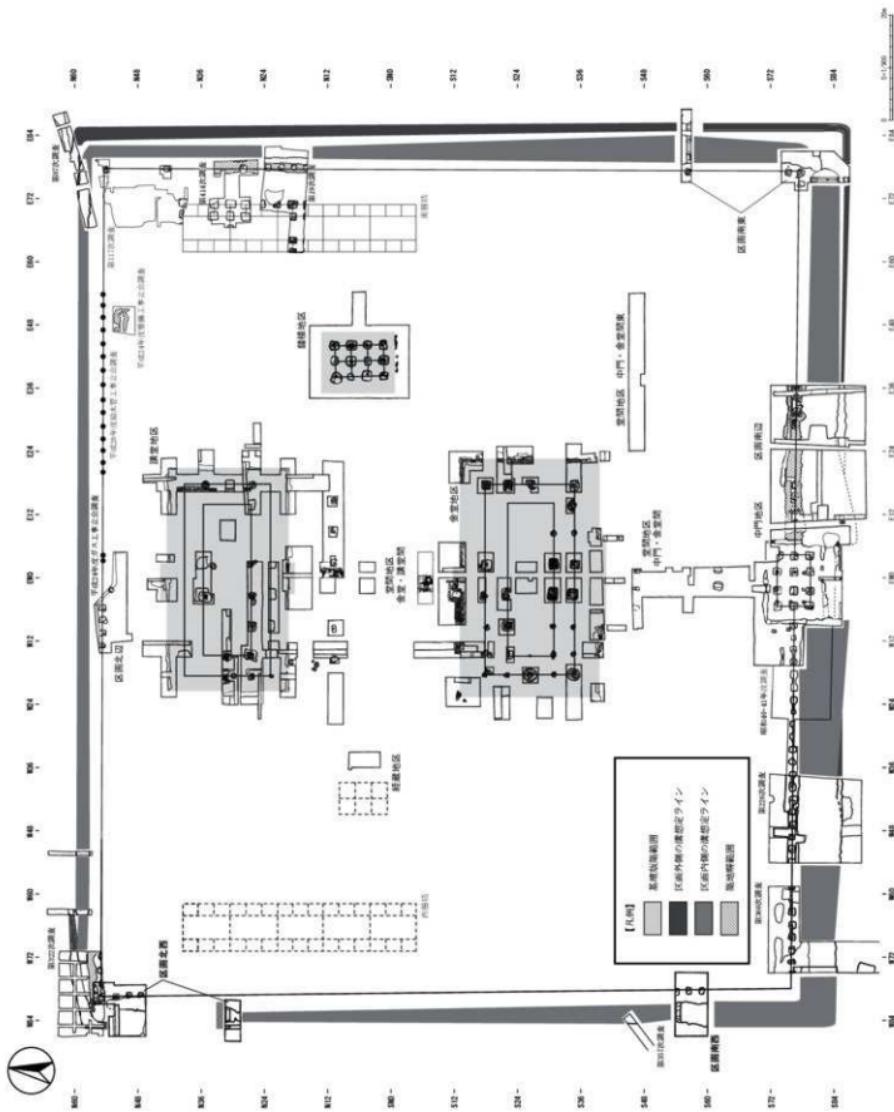
| 地点 | 工事箇所 | 立会日 | 立会所見 | No. |
|----|---------------------------|-------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|
| 18 | 西元町2-15-42 個人宅前歩道 | H28. 11. 25 | GL-130cm 剥剝。路盤 60cm、黒色土 40cm、以下ローム。 | 96 |
| 19 | 西元町2-15-42 個人宅前歩道 | H28. 10. 15 | 試掘。GL-100cm 剥剝。路盤 60cm、Ⅲb 層 10cm、以下Ⅲc 層。個人宅門から南へ 0.5m から南北 1m 幅で造構と思しき覆土を確認。その南は後見。造構覆土は 90cm の厚みあり。灰・粘土・燒土を混入。堅穴住居のカマドの可能性あり。【図版4】 | 6 |
| 20 | 西元町2-14-16 北側市道 | H28. 10. 15 | 試掘。 | 5 |
| | | H28. 12. 2 | GL-100cm 剥剝、路盤 40cm、黒色土 40cm、以下ローム。 | 129 |
| | | H28. 12. 13 | 既設ガス管の掘山。 | 144 |
| 21 | 消防署前道路 | H28. 12. 20 | 掘山内。 | 148 |
| 22 | 消防署南西 薬師堂西側入口部 | H28. 12. 8 | GL-80cm 剥剝。路盤 40cm、褐色土 20cm、以下ローム。 | 130 |
| | | H28. 12. 19 | 伽藍地北辺区画査の走行予測地点であったが、掘山内のため未検出。 | 147 |
| | | H29. 1. 11 | 道路横断。仮設管の撤去。 | 153 |
| 23 | 国分寺公園西側 | H28. 10. 14 | 試掘。GL-110cm 剥剝。路盤 30cm、以下ハードローム。 | 3 |
| 24 | 国分寺公園西側 | H28. 11. 10 | 水栓の設置。GL-160cm 剥剝。路盤 50cm、以下ローム。 | 72 |
| 25 | 西元町2-13-37 ~ 2-14-1 東側 | H28. 11. 21 | GL-100cm 剥剝。路盤 20cm、以下掘山（山砂）。 | 87 |
| | | H28. 11. 22 | GL-100cm 剥剝。路盤 60cm、以下黒色土・褐色土。黒色土中には土器片を含み。幅 2.1m を有する。構造構の可能性あり。 | 92 |
| 26 | 西元町2-13-37 東側 | H28. 11. 21 | GL-100cm 剥剝。路盤 50cm、以下ハードローム。 | 86 |
| 27 | 西元町2-13-37 北側市道 | H28. 12. 13 | GL-160cm 剥剝。掘山内。 | 143 |
| 28 | 幼稚園北側市道 | H28. 11. 2 | 試掘。路盤 30 ~ 40cm、褐色土 10 ~ 20cm、以下ハードローム。 | 57 |
| 29 | 市指定史跡 土師窯穴住居前面 | H28. 11. 19 | 道路西湖：路盤 30cm、路盤直下ハードローム。 道路東側：GL-130cm 剥剝。路盤 30cm、ハードローム 30cm、第一暗色帶 20cm。 | 85 |
| 30 | 幼稚園東側（道路横断） | H28. 11. 17 | ほほ掘山内。 | 82 |
| 31 | 八幡神社スロープ前 | H28. 11. 15 | 「縁員減」の道路標識から北へ 5cm、ほほ掘山内。 | 77 |
| 32 | 幼稚園南側市道 | H28. 11. 2 | 試掘。GL-240cm 剥剝。路盤 50cm、以下黒褐色土。 | 58 |
| | | H28. 11. 25 | GL-100cm 剥剝。路盤 30cm、黒色土 20cm、褐色土 30cm、以下ローム。 | 95 |
| 33 | 幼稚園東側 | H28. 11. 15 | 幼稚園前のミラー、GL-110cm 剥剝。 | 78 |
| | | H28. 11. 16 | 公園角。GL-110cm 剥剝。 | 81 |
| 34 | 西元町2-11-43・44 東側 | H28. 11. 14 | ミラーから北へ 0.3m、GL-110cm 剥剝。路盤 40 ~ 50cm、以下掘山でロームブロックが入る。 ここより北へ 1m の範囲は、粘土質土を確認。道路標識の直下で古代茶碗出土。標識から 3m 坂下では、-130cm で鐵屑を検出し、鐵屑中にには深さ 20cm 程の空隙が存在。 | 73 |
| | | H28. 11. 16 | 参道から北へ 1.5m、東面は地山残る。西面は掘山。 | 80 |
| 35 | 西元町2-11-43・44 東側 | H28. 11. 15 | 消防栓。GL-150cm 剥剝。路盤下はハードローム。 | 79 |
| | | H28. 12. 2 | 試掘。掘山内。 | 123 |
| 36 | 西元町2-11-44 南側市道 | H28. 11. 2 | 試掘。路盤 50cm、褐色土 10cm、以下ハードローム。 | 59 |
| | | H28. 12. 7 | | 129 |
| 37 | 西元町2-11-22・44 東側 | H28. 11. 7 | ほほ掘山内。 | 61 |
| | | H28. 11. 18 | GL-130cm 剥剝。 | 83 |
| | | H28. 11. 18 | 道路標識前。GL-120cm 剥剝。路盤 30cm、黒色土 30cm、40cm 褐色土（スコリア多、漸移層）。 以下ソフトローム。黒色土は東へ向かって薄くなる。 | 84 |
| | | H28. 12. 12 | 假設撤去。 | 139 |
| 38 | 八幡神社隣段下 ~ 薬師堂隣段下 | H28. 10. 19 | 假設水道管を設置。 | 8 |
| 39 | 八幡神社隣段下 | H28. 11. 1 | 栓の設置。 | 55 |
| | | H28. 11. 2 | | 56 |
| | | H29. 1. 20 | 消防栓工事 | 154 |

第3表 元町通り水道管布設替工事に伴う立会調査記録一覧3

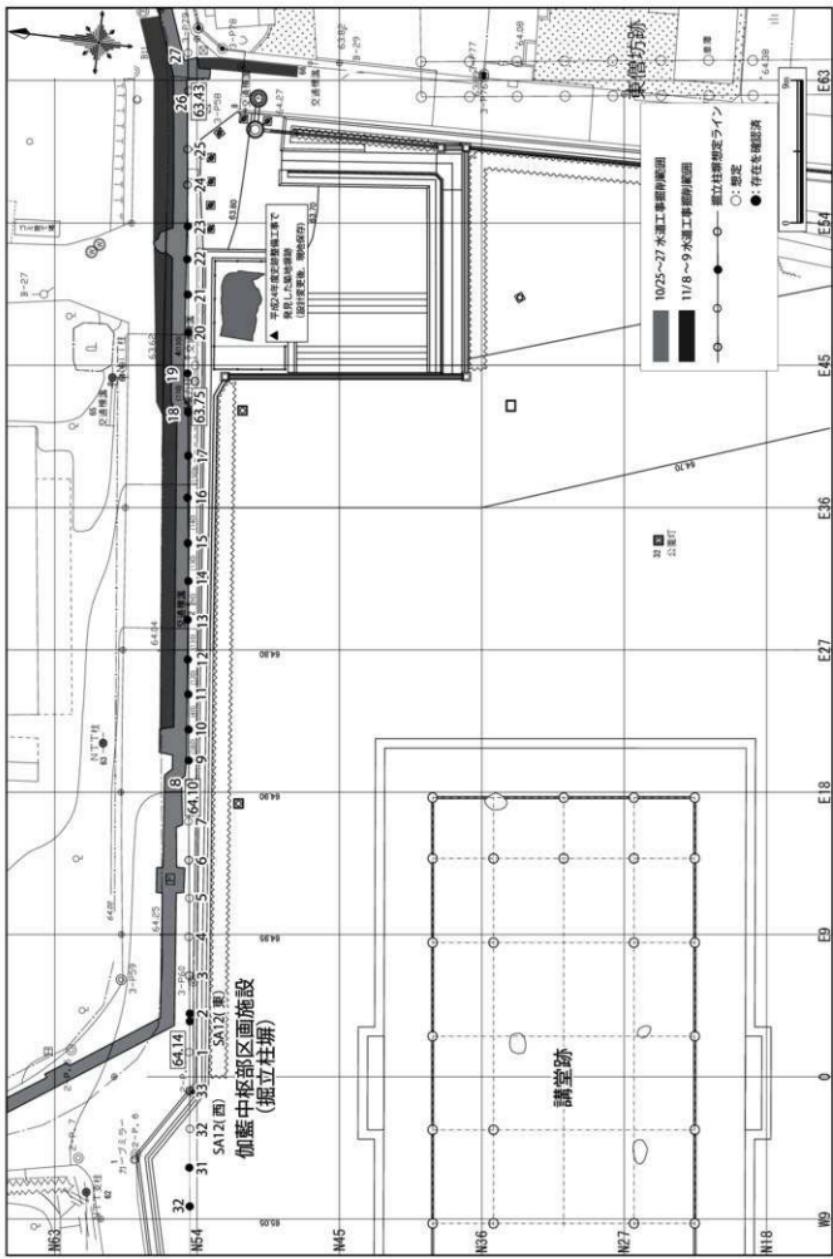
| 地点 | 工事箇所 | 立会日 | 立会所見 | No. |
|----|----------------------|-----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|
| 40 | 八幡神社階段下付近 | H28.10.29 | 路盤・碎石。黒色土、ローム。 | 51 |
| | | H28.10.29 | 路盤・碎石。ローム。 | 52 |
| 41 | 薬師堂階段下西側 | H28.10.29 | ほぼ雁山内。 | 50 |
| | | H28.10.31 | | 53 |
| 42 | 薬師堂階段下 | H28.10.22 | 試掘。薬師堂前の階段西角から南へ~2.7m、GL-90cm 錠削。路盤 30cm、茶褐色土 20cm (ローム粒多、やや緑色)、暗褐色土 20cm (ローム粒多・小石少、粘性・緑色あり)、暗褐色土 5cm (ローム・小石少、粘性・緑色あり)。以下ハードローム。 | 11 |
| 43 | 薬師堂前 | H28.10.22 | 試掘。42 地点から南へ~1.8m、GL-130cm 錠削。路盤 40cm、硬化面 10cm (薬師道の可能性あり)、暗褐色土 30cm (ローム少、粘性・緑色あり)。以下ハードローム。【図版 3】 | 12 |
| | | H28.10.29 | 路盤 30cm、砂利層 10cm (薬師道)、明褐色土 5cm、黒色土 15cm、闊色土 20cm、以下漸移層・ソフトローム。 | 49 |
| 44 | 国分寺墓地北側 | H28.10.29 | ほぼ雁山内。 | 48 |
| 45 | 国分寺墓地西側 | H28.10.29 | ほぼ雁山内。 | 47 |
| 46 | | H28.10.28 | 墓地西側フェンス沿い、GL-130cm 錠削。路盤 40cm、以下闊色土。 | 45 |
| 47 | 国分寺墓地南北 | H28.10.28 | GL-120cm 錠削。東西に下水道管があり、全体的に擾乱 (水路跡) を受けている。 | 44 |
| 48 | 公衆トイレ西側 | H28.10.28 | GL-120cm 錠削。西面: 路盤 40cm、70cm 厚の褐色土を分して、以下ローム漸移層、東面: 路盤 40cm、20cm 厚で褐色土の複質面 (薬師道の可能性あり)、以下褐色土 (底面に粘土・乾燥土検出)。 | 43 |
| 49 | 国分寺駐車場南西隅 | H28.10.21 | 試掘。 | 10 |
| | | H28.10.22 | 試掘。GL-140cm 錠削。路盤 30cm、硬化面 10 ~ 20cm (薬師道の底跡、東側で厚い)、硬化面直下ローム 5 ~ 10cm、褐色土 50cm、以下ハードローム。 | 13 |
| 50 | 国分寺駐車場南西隅 | H28.10.27 | GL-120 ~ -150cm 錠削。路盤 40cm、褐色土 20 ~ 60cm (瓦・礫を含む)、以下ソフトローム。中根部区画 S0214・229 の予期地点だが、明確に探し出されなかつた。 | 35 |
| | | H28.11.9 | 貯管敷去。S0214・229 は確認できず。南側では GL-60cm 表土、瓦が混じる。北側では GL-80cm までロームブロック・瓦片が多く含む。 | 71 |
| 51 | 史跡公園北側 | H28.10.26 | 柱穴列 (SA12 東-9 ~ 23) 検出。【図版 1 ~ 3】 | 34 |
| | | H28.11.8 | 国分寺多道東側。路盤 40cm、茶褐色土 80cm、以下ローム。 | 64 |
| | | H28.11.8 | 国分寺多道正面。路盤 40cm、褐色土 50cm、以下ローム。 | 65 |
| | | H28.11.8 | 国分寺入口の石碑前。路盤 30cm、漸移層。ローム。 | 66 |
| | | H28.11.8 | 北側に電柱。路盤 30cm、褐色土 40cm、以下ローム。 | 67 |
| | | H28.11.8 | 南側電柱支線。路盤 30cm、褐色土 40cm、以下ローム。 | 68 |
| | | H28.11.8 | 道路標識から東へ~1m GL-80cm 錠削。路盤 30cm、褐色土 50cm、以下黒色土。 | 69 |
| | | H28.11.9 | 旧皆巣去。道路標識から西へ~1m、道路肩から北へ~1.8m、GL-90cm 錠削。路盤 30cm、褐色土 20cm、以下粘土混じりの黒褐色土 10cm。 | 70 |
| | | | | |
| 52 | 公園照明灯北 (講堂基壇の北東隅) | H28.10.22 | 試掘。道路境界から北へ約 1m、GL-140cm 錠削。北側に堆山。路盤 30cm、緑・石多い層 20cm、黒色土 20cm (粘性・緑色あり)、以下褐色土 (粘性・緑色あり)。 | 14 |
| 53 | 史跡公園入口北側 | H28.10.19 | 試掘。SA12-22・23 を検出。【図版 3】 | 9 |
| | | H28.11.4 | 柱の設置。寺地中には見えず。 | 60 |
| 54 | 西元町 3-31-10 西側 | H28.11.8 | 東面、GL-20 ~ -40cm、南北 30cm の範囲で一部地山が残る。ローム粒が入り道構の覆土の可能性あり。西面は雁山のため続かない。 | 62 |
| 55 | 西元町 3-31-10 北側 | H28.11.8 | 仮設管敷去。路盤 30cm、路盤下黒色土から明治期の陶器片検出。 | 63 |
| 56 | 西元町 3-31-13 北側 | H28.10.25 | GL-130cm 錠削。路盤 30cm、瓦・繩・ローム粒を含む褐色土 (粘性無し・緑色あり) 30cm、以下ハードローム。 | 27 |
| 57 | 西元町 3-31-13・14 北側 | H28.10.18 | 路盤横断。GL-120cm 錠削。北面。路盤 40cm、範囲東側を中心に褐色土 20 ~ 30cm、須恵器片を含むため、構造構の可能性あり、以下ハードローム。 | 7 |
| | | H28.10.24 | | 16 |
| 58 | 西元町 1-14-1 南側 | H28.10.22 | 試掘。雁山内。 | 15 |



第2図 元町通り水道管布設替工事 市立第四小学校付近の立会調査と周辺の古代の遺跡

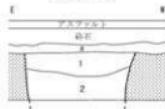


第3図 武藏国分寺僧寺跡 伽藍中板部の調査地点と水道工事検出の北辺区画堀位置図



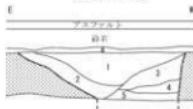
第4図 元町通り水道管布設替工事 伽藍中板部北辺区画査定地点

SA12-9



| | | |
|--------|-------|------------------------|
| a | 暗赤褐色土 | 粘性あり。しまりあり。粘土鉢・瓦片少數含む。 |
| SA12-9 | | |
| 1 | 灰白色土 | 粘性あり。しまりあり。粘土ブロック多量含む。 |
| 2 | 明灰褐色土 | 粘性あり。しまりあり。粘土鉢・瓦片少數含む。 |

SA12-10



| | | |
|---------|-------|-------------------------------|
| a | 暗赤褐色土 | 粘性あり。しまりあり。粘土鉢・瓦片少數含む。 |
| SA12-10 | | |
| 1 | 明灰褐色土 | 粘性あり。しまりあり。瓦片微量。ローム鉢・粘土鉢多く含む。 |
| 2 | 灰白色土 | 粘土ブロック主張層。既被削。 |
| 3 | 暗赤褐色土 | 瓦片微量。粘土ブロック多く含む。 |
| 4 | 暗灰褐色土 | 粘性あり。しまりあり。ロームブロック少數含む。 |
| 5 | 泥質褐色土 | 粘性あり。しまりあり。ローム鉢や多く含む。 |

SA12-12

SA12-11



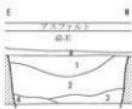
| | | |
|---------|-------|----------------------------------------|
| a | 暗赤褐色土 | 粘性あり。しまりあり。粘土鉢・瓦片少數含む。 |
| SA12-11 | | |
| 1 | 明灰褐色土 | 粘性あり。しまりあり。瓦面色粘土ブロック・瓦片少數。灰白色粘土鉢や少數含む。 |
| 2 | 灰褐色土 | 粘性あり。しまりあり。ロームブロック主張層。 |
| 3 | 暗赤褐色土 | 粘性あり。しまりあり。ローム鉢少數含む。 |
| 4 | 暗赤褐色土 | 粘性あり。しまりあり。ローム鉢や多く含む。 |
| SA12-12 | | |
| 1 | 暗灰褐色土 | 粘性あり。しまりあり。瓦片少數。ロームブロックや多く含む。 |
| 2 | 灰白色土 | 粘性あり。しまりあり。瓦片少數。粘土ブロック多量含む。 |
| 3 | 明灰褐色土 | 粘性ややあり。しまりややなし。ローム鉢・粘土鉢少數含む。 |

SA12-13



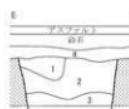
| | | |
|---------|-------|------------------------------|
| a | 暗赤褐色土 | 粘性あり。しまりあり。粘土鉢・瓦片少數含む。 |
| SA12-13 | | |
| 1 | 暗褐色土 | 粘性あり。しまりあり。ロームブロックや多く含む。 |
| 2 | 暗褐色土 | 粘性ややあり。しまりややなし。ローム鉢・粘土鉢少數含む。 |
| 3 | 暗赤褐色土 | 粘性あり。しまりあり。ロームブロック多量含む。 |

SA12-14



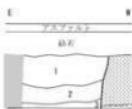
| | | |
|---------|-------|--------------------------------------|
| a | 暗赤褐色土 | 粘性あり。しまりあり。粘土鉢・瓦片少數含む。 |
| SA12-14 | | |
| 1 | 暗灰褐色土 | 粘性ややあり。しまりあり。瓦灰色粘土ブロック・ロームブロックや多く含む。 |
| 2 | 暗褐色土 | 粘性ややあり。しまりややなし。ローム鉢・粘土鉢少數含む。 |
| 3 | 暗赤褐色土 | ローム鉢・粘土鉢少數含む。 |
| 4 | 暗褐褐色土 | 粘性あり。しまりあり。ロームブロック多量含む。 |

SA12-15



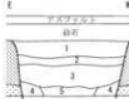
| | | |
|---------|-------|------------------------------------|
| a | 暗赤褐色土 | 粘性あり。しまりあり。粘土鉢・瓦片少數含む。 |
| SA12-15 | | |
| 1 | 灰褐色土 | ローム鉢・ロームブロックや多く。灰褐色粘土ブロック・粘土鉢多量含む。 |
| 2 | 暗赤褐色土 | 粘性あり。しまりあり。粘土鉢少數。ロームブロック多く含む。 |
| 3 | 暗灰褐色土 | 粘性あり。しまりあり。ロームブロック多量含む。 |

SA12-16

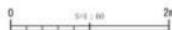


| | | |
|---------|-------|--------------------------|
| SA12-16 | | |
| 1 | 明灰褐色土 | 粘性あり。しまりあり。ローム鉢・粘土鉢少數含む。 |
| 2 | 泥質褐色土 | 粘性ややなし。しまりややなし。ローム鉢少數含む。 |
| 3 | 明灰褐色土 | 粘性あり。しまりあり。ロームブロック多く含む。 |

SA12-17

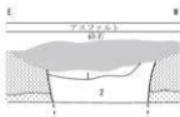


| | | |
|---------|-------|-------------------------------------|
| SA12-17 | | |
| 1 | 明灰褐色土 | 粘性あり。しまりあり。ローム鉢少數含む。 |
| 2 | 灰褐色土 | 粘性あり。しまりあり。ロームブロック微量。灰褐色粘土ブロック多く含む。 |
| 3 | 暗赤褐色土 | 粘性ややなし。しまりややなし。ロームブロック微量。粘土鉢少數含む。 |
| 4 | 暗灰褐色土 | 粘土ブロック多量含む。 |
| 5 | 暗褐色土 | 粘性あり。しまりあり。ローム鉢・ロームブロック少數含む。 |



第5図 伽藍中枢部北辺区画場 SA12(東) 断面模式図 1

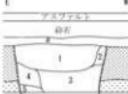
SA12-18



SA12-18

- 1 明黄色土 粘性あり。しまりあり。ロームブロック多量含む。
2 棕褐色土 粘性あり。しまりあり。ロームブロック多く含む。

SA12-19

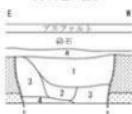


- a 棕褐色土 粘性あり。しまりあり。粘土鉱・瓦片少量含む。

SA12-19

- 1 棕灰褐色土 粘性あり。しまりあり。ロームブロック微量。ローム鉱少量含む
2 棕褐色土 粘性あり。しまりあり。ロームブロック多量含む。
3 明黄色土 粘性あり。しまりあり。ロームブロック微量含む。
4 明茶褐色土 粘性あり。しまりややなし。ロームブロック多量含む。
5 黑褐色土 粘性あり。しまりあり。ロームブロック多く含む。

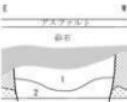
SA12-20



SA12-20

- a 棕褐色土 粘性あり。しまりあり。粘土鉱・瓦片少量含む。
SA12-20
- 1 明黄色土 粘性あり。しまりあり。ローム鉱・粘土鉱少量含む。
2 棕褐色土 粘性あり。しまりあり。ロームブロック多く含む。
3 棕褐色土 粘性あり。しまりあり。ロームブロック少量含む。
4 明黄色土 粘性あり。しまりあり。ロームブロック多量含む。

SA12-21



SA12-21

- 1 棕褐色土 粘性あり。しまりあり。ロームブロック多量含む。
2 黑褐色土 粘性あり。しまりあり。ローム多く含む。

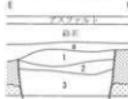
SA12-22



SA12-22

- 1 明茶褐色土 粘性あり。しまりあり。ローム鉱少量含む。(P1)
2 明褐色土 粘性あり。しまりあり。粘土鉱ブロック少量。ロームブロック多く含む。
3 明褐色土 粘性あり。しまりあり。ロームブロック多量含む。
4 黑褐色土 粘性あり。しまりあり。ローム鉱少量含む。
5 黑褐色土 粘性あり。しまりあり。ロームブロックや多く含む。

SA12-23

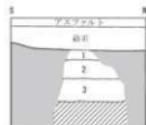
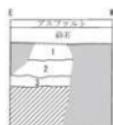


- a 棕褐色土 粘性あり。しまりあり。粘土鉱・瓦片少量含む。

SA12-23

- 1 明茶褐色土 粘性あり。しまりあり。ロームブロック多く含む。
2 黑褐色土 粘性あり。しまりあり。ローム鉱少量含む。
3 棕褐色土 粘性あり。しまりややなし。ロームブロックや多く含む。

薬師道検出状況



| 裏面透 | |
|-----|--------------------------------|
| I | 茶褐色土 非常に固くしまる。ローム鉱多く含む。薬師道。 |
| II | 棕褐色土 粘性あり。しまりあり。瓦片少量。ローム鉱多量含む。 |
| III | 棕褐色土 粘性あり。しまりあり。ローム鉱・礫少量含む。 |



第6図 伽藍中枢部北辺区画場 SA12(東) 断面模式図2

図版 1 元町通り水道管布設替工事 1



1. SA12 検出範囲（北から）



2. SA12 検出範囲（北東から）



3. SA12 検出範囲（西から）



4. SA12-9 検出状況（北から）



5. SA12-10 検出状況（北から）



6. SA12-11 検出状況（北西から）



7. SA12-12 検出状況（北東から）



8. SA12-13 検出状況（北東から）

図版2 元町通り水道管布設替工事2



9. SA12-14 検出状況（北東から）



10. SA12-15 検出状況（北から）



11. SA12-16 検出状況（北東から）



12. SA12-17 検出状況（北東から）



13. SA12-18 検出状況（北から）



14. SA12-19 検出状況（北から）



15. SA12-20 検出状況（北から）



16. SA12-21 検出状況（北から）

図版3 元町通り水道管布設替工事3



17. SA12-22 検出状況（北から）



18. SA12-23 検出状況（北から）



19. SA12-22・23 検出状況（北から）



20. № 41 地点 工事作業スナップ（南東から）



21. №. 43 地点 薬師道検出状況（北から）



22. №. 1 地点 東山道東側溝（南から）



23. №. 11 地点 堅穴住居 SI2 検出状況（東から）



24. №. 12 地点 堅穴住居 SI3 検出状況（東から）

図版4 元町通り水道管布設替工事4



25. No. 17 地点 堅穴住居 SI4 検出状況（南から）



26. No. 17 地点 堅穴住居 SI5 検出状況（北東から）



27. No. 17 地点 SI6 カマド検出状況（東から）



28. No. 19 地点 堅穴住居 SI7 検出状況（東から）



29. № 45 地点 工事作業スナップ（北から）



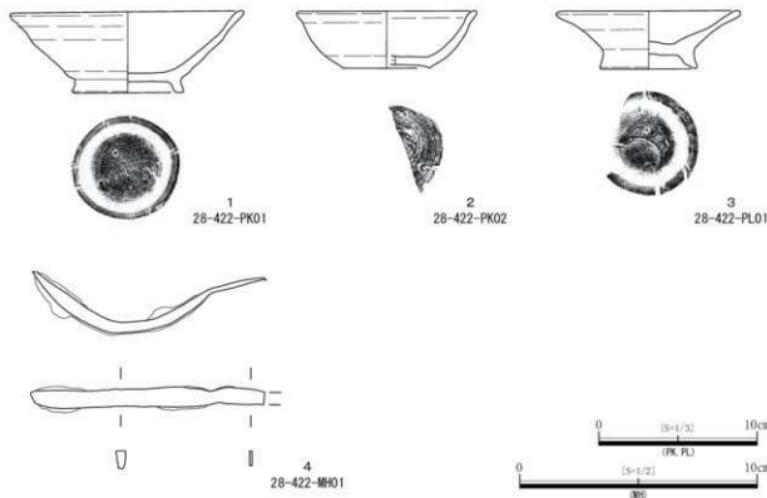
30. № 45・46 地点 仮復旧スナップ（北から）



31. № 17 地点 工事作業スナップ（南から）



32. № 13～15 地点 工事作業スナップ（南から）



第7図 元町通り水道管布設工事に伴う立会調査 出土遺物実測図



第8図 元町通り水道管布設工事に伴う立会調査 出土遺物写真

(2) 武藏国分寺跡史跡整備工事に伴う立会調査

—史跡武藏国分寺跡（僧寺地区）第一期整備工事（中枢地区）中門付近で検出した礎石の記録—

【1. 調査に至る経緯】 国分寺市は、大正 11 年 10 月 12 日に国の史跡に指定された武藏国分寺跡を郷土の歴史を語り継ぐよりどころとして、また豊かな自然を残す場として急速に進む都市化から保護し、歴史公園として整備・活用するための事業を行っている。すでに尼寺地区は歴史公園として平成 15 年から供用を開始しており、僧寺地区についても平成 15 から 24 年度まで、整備を行う基礎的な情報を得ることを目的に事前遺構確認調査を実施した。この調査成果をもとに、平成 23 年度より僧寺地区の第一期整備工事を進めており、平成 27 年度は史跡武藏国分寺跡（僧寺地区）第一期整備工事（中枢地区）第 2 工区その 2 として、中門地区周辺や鐘楼地区の整備工事を進めていた。

平成 28 年 12 月 12 日、市職員立会のもと、中門地区の南側、隣地との境界に設置する金網フェンス基礎部分を掘削している際に未発見の礎石と考えられる石が検出された。

【2. 検出された礎石の概要】 石は、地表面から約 40 cm の深さで検出された。位置的には、武藏国分寺跡の中枢部区画施設である SD194 構・SD197 構の直上で、層位はこれらの構を覆う表土中にあたる。礎石の上面から約 10 cm 程度まで部分的に周りを掘り下げて確認したが、深く地面に埋っている可能性が高かったため、掘削範囲は拡張せずに掘山内での簡易観察を行った。このため、礎石の規模や重量は不明であるが、確認範囲内では縦横ともに約 40 cm 以上あった。上面は、ほぼ平坦で凹凸が少なく、明確な加工痕は確認できなかったが、調整されている可能性がある。石材はチャートで、色はやや橙色が強く、一部に被熱したような赤い部分が見受けられた。

中門跡は、昭和 40 年と、今回の整備工事に伴う平成 19 年に調査が実施されており、礎石を据えるための基礎地業である壺地業が 12 箇所検出されている。壺地業の数から、八脚門の礎石立建物の構造と想定されているが、実際の礎石は原位置では確認されていない。しかし、昭和 40 年の調査の際に、中門の前面（南側）を東西に走る大きな構（のちに SD194 構と呼称）から、礎石に使われたと想定される大きな石が 10 個見つかっており（第 1 図参照）、烟作の邪魔になるので中門跡から運びこまれたものと考えられていた。今回発見された石は、SD194 のさらに外側（南側）を廻る SD197 構付近から検出されているが、位置的に接近していることからも、同様の目的で移動・投棄された可能性が考えられる。

【3. 検出後の措置】 発見後、礎石は取り上げを行わずに現地に存置する方向で工事請負業者と協議を行い、発見位置を記録し、写真撮影と観察を終えた後に、砂を被せシート養生を施した。

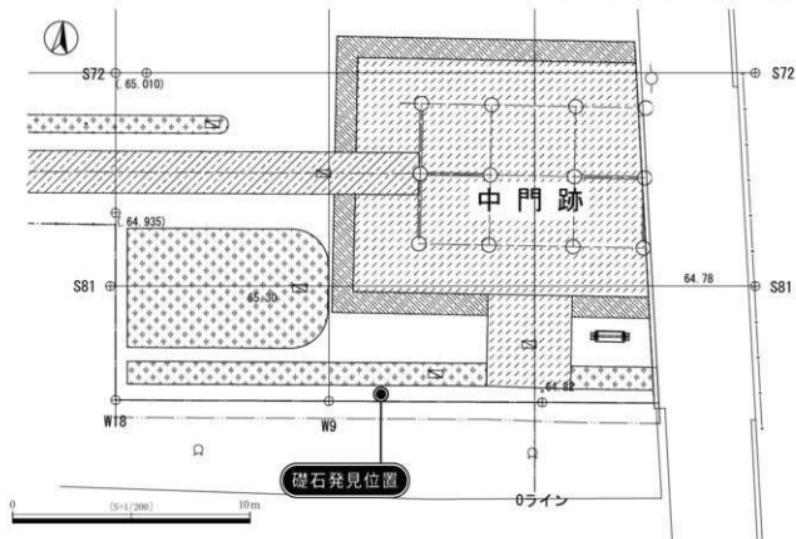
フェンス工事は、礎石を傷つけない形で施工され、原位置で地下保存されている。

〔参考文献〕

- 境口 宏編 1987『武藏国分寺跡調査報告—昭和三十九～四十四年度—』早稲田大学考古学会・国分寺市教育委員会
中道 誠 2016『国指定史跡武藏国分寺跡発掘調査報告書　I 遺構編—史跡保存整備に伴う事前遺構確認調査—』
国分寺市教育委員会



第1図 平成19年・昭和40年の中門跡発掘調査状況と礎石発見位置



第2図 平成19年・昭和40年の中門跡発掘調査状況と礎石発見位置

図版 中門付近で検出した礎石



1. 中門礎石検出状況（北から）



2. 中門礎石検出状況その2（北から）



3. 中門礎石埋め戻し状況（北東から）



4. フェンス基礎設置状況（北東から）

(3) 平成 27 年度の立会調査で出土した遺物

平成 27 年度に市教委の職員が西元町二丁目 11-7,8 における宅地造成工事に伴って立会調査（立会 No. 86）を実施した際に出土した遺物について、平成 27 年度の年報（中野他 2017）に紙面の都合上実測図・写真を掲載できなかったため紹介する。

1 は須恵器の小型壺である。明灰色を呈し、砂粒・石英を含む胎土で、口径 6.8cm、底径 3.6cm、器高 6.7cm を有する。内面のロクロ目は顕著で、外面胴部下半から底部にかけてはヘラケズリを施す。また、外面肩部には墨痕が付着している。小型の器形と肉厚な胎土の様相から、東金子窯産で 9 世紀前半頃の製品と思われる。2 は土師質土器の坏底部で、底径は 4.2cm を有する。砂粒を多く含む粗い胎土で、椎褐色を呈する。底部はやや下に張り出し、見込み内面中央が突出している。10 世紀代の製品であろう。

〔参考文献〕

中野 純他 2017 「第 1 章 届出・通知および立会記録等一覧」『平成 27 年度 国分寺市埋蔵文化財調査年報』

国分寺市教育委員会

| 日付 | 条 | 申請地 | 申請工事内容 | 指示内容 | 立会実施日 | 立会記録・調査次数・備考 |
|----------|------|-----------------|--------|------|-------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| H27.9.18 | 93 条 | 西元町 2-11-7,8 | 宅地造成 | 立会調査 | ① H28.4.8 ② H28.4.12 ③ H28.4.18 ④ H28.4.25 ⑤ H28.5.27 | ①道路と同じ高さの面と、300cm 以上の上の面に 2 段ある。上下とも 300cm 以上に削削。下段、設計 GL-150cm で組み削被出、厚さ 40cm、Ⅲc 層 5cm、Ⅳ 層 10cm、V-a 層 35cm、V-b 層 20cm、VI 层 40cm、VII 層 15cm、Ⅸ 層 30cm、Ⅹ 層途中まで。②下段、壁面西側に立ち上がりのみ確認。壁面東側、駐車場側の隔壁裏にも同様の落し込み確認。③④段既確認。⑤段既確認。状落ら込み確認。上面幅約 230cm、高さ約 200cm、上層黒褐色土、細ローミム粒を少々含む。しまり弱い。黒褐色土から須恵器短頸壺出土（第 1・2 図）。東側溝状落ら込み、西端は黒褐色土の層と茶褐色土の層に分かれるが、工事中のため全容は確認できず。 |



第 1 図 平成 27 年度 届出・通知および立会記録 No. 86 で出土した遺物実測図



第 2 図 平成 27 年度 届出・通知および立会記録 No. 86 で出土した遺物写真

(4) 武藏国分寺跡第698次調査

国分寺市
武藏国分寺跡北方地区

—都立小金井特別支援学校仮設校舎建築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告—

平成25年10月

国分寺市遺跡調査会

例 言

1. 本書は、武藏国分寺跡（国分寺市No.19遺跡）の北方地区における平成25年度都立小金井特別支援学校仮設校舎建築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の実績報告書である。
2. 発掘調査は、東京都教育庁都立学校教育部からの委託を受けて国分寺市遺跡調査会（会長：坂詔秀一）が行った。なお本調査にかかる協定は平成25年6月29日付で東京都教育庁都立学校教育部・国分寺市教育委員会・国分寺市遺跡調査会の3者間で締結した。
3. 発掘調査及び出土品整理作業の期間は、次のとおりである。
発掘調査 平成25年7月12日～同年8月9日
出土品整理・報告書作成 平成25年8月26日～同年10月2日
4. 発掘調査は、仮設校舎建築で埋蔵文化財に影響が及ぶ可能性のあったエレベーターシャフト部分及び給排水管の埋設部分について6箇所（A～Fトレチ），計326.1m²を対象に実施した。なお、調査次数は武藏国分寺跡第698次とした。
5. 出土遺物・写真・図面等へは遺跡略称のMKを冠し、「MK IV-698- 以下台帳番号、登録番号」のように記載してあり、全て国分寺市教育委員会で保管している。なお、出土遺物はコンテナ1箱である。
6. 発掘調査は、上敷領久・藤崎努・田中哲史（株式会社ダイサン）が担当し、依田亮一・中道誠がこれを助けた。
7. 本書の執筆は、上敷領久が担当し、依田・中道がこれを助けた。遺物の実測作業および挿図の作成は武山寿子（株式会社ダイサン）が担当した。
8. 図面中の方位は記載がある場合を除き、僧寺中軸線を基準とした新局地座標北を表示している。
9. 遺構断面図の水系高は全て海拔78.400mに統一した。
10. 遺構平面図および断面図におけるスクリーントーンの指示は次のとおりである。

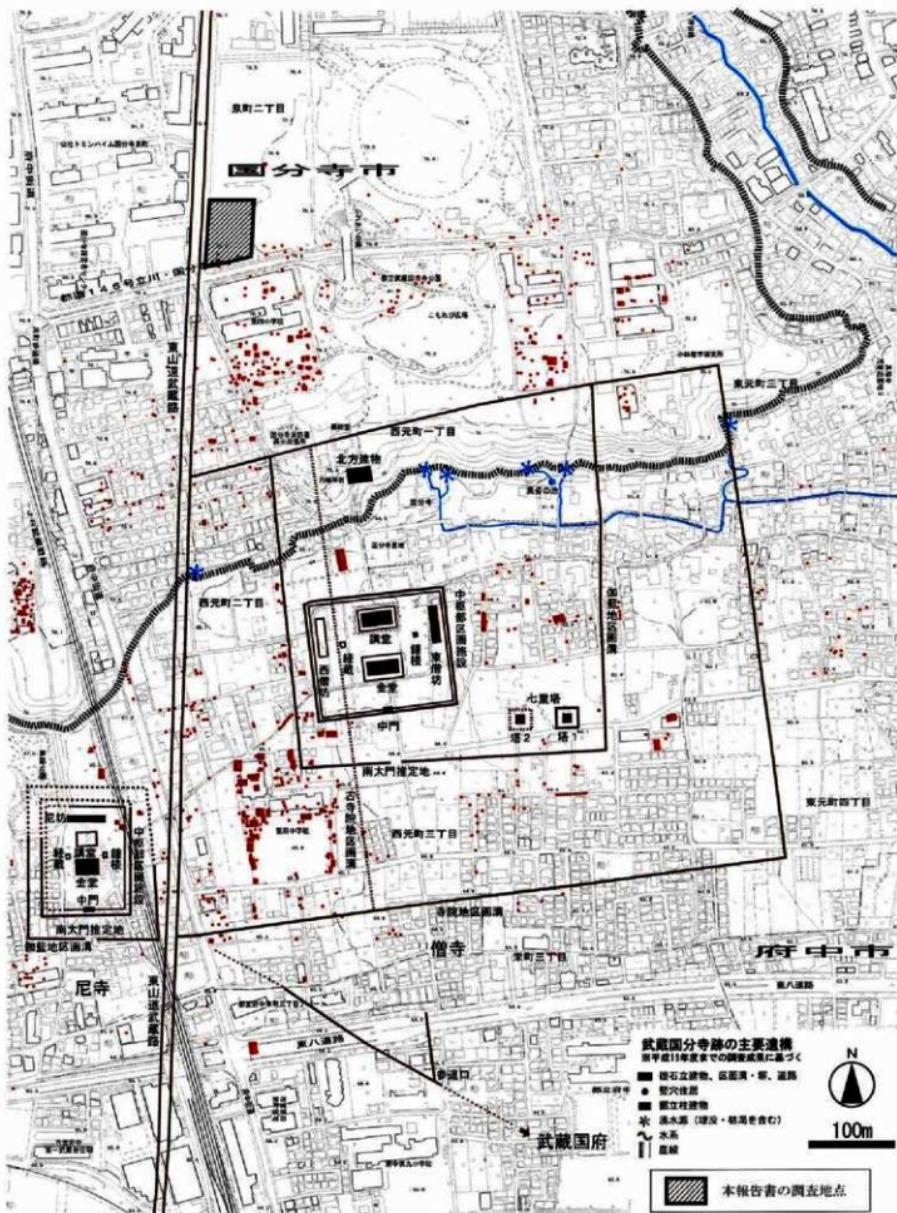


擾乱

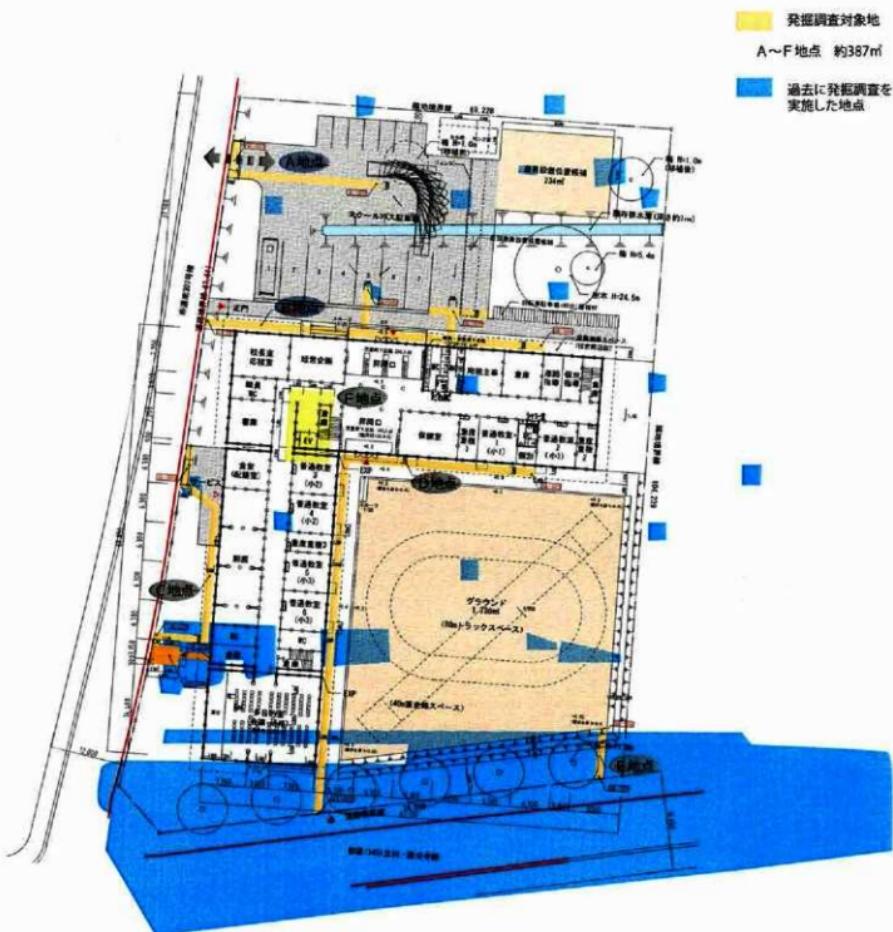


既存建物の基礎

11. 縮尺は、基本土層図1/40 トレチ配置図1/500 調査区平面図・断面図 1/150
遺構平面図・断面図1/40 遺物実測図・写真2/3 である。
12. 遺構番号は下記のとおりとした。
P 小穴
13. 発掘調査・出土品整理参加者
飛鳥千砂子・川久保正秋・菊地恭平・黒尾直太・小泉恵子・高橋哲也・伊達秀穂
塙田達也・平林 彩・福澤真吾・水村聖美
14. 協力者
渋江芳浩

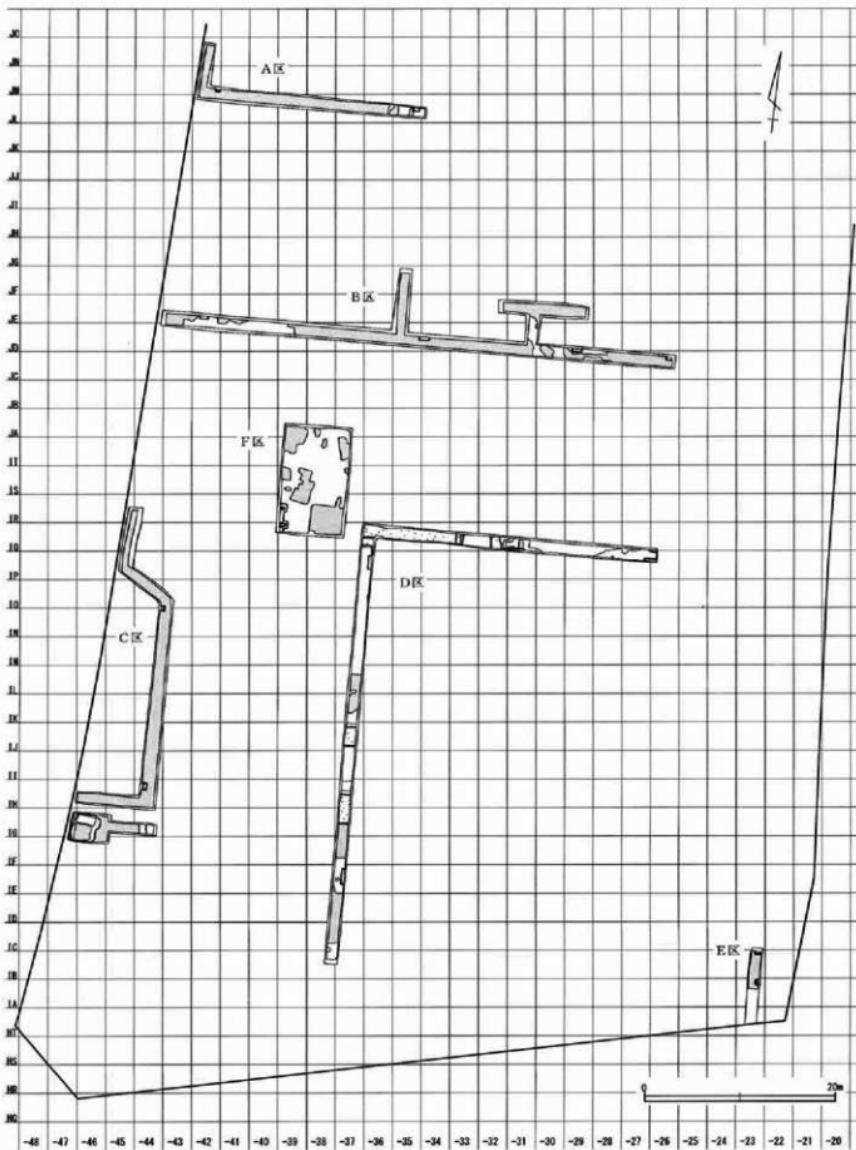


第1図 調査地点位置図



第2図 平成25年度都立小金井特別支援学校埋蔵文化財調査 調査地点位置図

■ トレンチ配置図



第3図 トレンチ配置図

1. 調査の経緯と経過

今回の調査は、都立小金井特別支援学校仮校舎建設に先立つ埋蔵文化財調査である。

平成24年8月2日に東京都教育庁地域教育支援部管理課埋蔵文化財係より、国分寺市泉町二丁目102番9の都有地において、都立小金井特別支援学校の仮校舎建設設計図が照会された。当該地は、西側に奈良時代の道路状遺構である東山道武藏道が南北に走り、また昭和54年度の旧国鉄鉄道学園の調査において平安時代の住居跡が検出されている。さらに国分寺駅東口再開発事業に伴う事前調査においては縄文時代から旧石器時代にいたる遺物が出土している。そのため、仮設建物といえども建物構造によっては地下の埋蔵文化財に影響を与える可能性があるとし、周辺遺跡での遺構検出状況を精査することと、埋蔵文化財に影響を与えない工事について検討された。

その後、東京都教育庁都立学校教育部より平成25年4月10日付25教学特38号「国教教ふ取第69号 文化財保護法第93条第1項通知」が提出された。これに基づき協議した結果、発掘調査は工事掘削が現地表面下約0.8mを超える、0.75～1.8mにおよぶエレベーターシャフト部分および給排水管の埋設部分に対して発掘調査を実施することとした（第2図）。

発掘調査の実施については国分寺市遺跡調査会（会長：坂諸秀一）が行なうものとし、国分寺市教育委員会と東京都教育庁都立学校教育部および国分寺市遺跡調査会の三者で平成25年6月27日に「都立小金井特別支援学校埋蔵文化財発掘調査委託に関する協定書」を締結した。これに基づき、平成25年6月28日に東京都教育庁都立学校教育部と国分寺市遺跡調査会で都立小金井特別支援学校埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結し、武藏国分寺跡第698次調査発掘調査を実施することとなった。

作業員・重機・測量機材の提供は、支援業務委託として㈱ダイサンが受託した。

調査はエレベーターシャフト部分および給排水管の埋設部分について6箇所（A～F区）をトレシチ状に設定して行った。

調査方法は基本的に表土を重機により掘削し、遺構確認面は人力による精査を行った。写真撮影・図面作成により遺構および土層断面図を作成した。調査終了後調査区間に仮置きした発生土を用いて埋め戻しを行った。

以下、日付を追って主な調査経過を記す。

| | |
|---------------|--------------------------|
| 平成25年7月12日（金） | 資材搬入、芝刈機搬入、除草作業 |
| 7月12日（金） | 除草作業完了、重機搬入、芝刈機搬出 |
| 7月17日（水） | B・C・F区位置だし作業 |
| 7月18日（木） | C・F区表土掘削、D・E・B区位置だし作業 |
| 7月22日（月） | A・D・E区表土掘削 |
| 7月23日（火） | F区遺構確認および全景写真撮影、A・B区表土掘削 |
| 7月24日（水） | B・D区表土掘削終了 |
| 7月25日（木） | A・E区全景写真撮影 |
| 7月26日（金） | B区遺構確認作業および全景写真撮影 |
| 7月30日（火） | D区遺構確認作業 |
| 7月31日（水） | D区全景写真撮影、A区平面実測 |
| 8月1日（木） | B区平面実測、F区P1・2完掘写真撮影 |

| | |
|----------------|----------------------------------------|
| 8月 2日 (金) | F区平面実測、D・F区遺物取り上げ |
| 8月 5日 (月) | C区平面実測、8月7日まで国分寺市立第四小学校教諭福澤真吾先生発掘体験研修。 |
| 8月 6日 (火) | B・C区平面実測、A区埋め戻し作業 |
| 8月 7日 (水) | B・C・F区平面実測、C・F区埋め戻し作業 |
| 8月 8日 (木) | A・B・C・E区埋め戻し作業、D・E区平面実測、A・B・C・F区完了 |
| 8月 8日 (木) | D区平面実測、E・D区完了、現場撤収作業、道具類返却、現地調査終了 |
| 平成25年8月26日 (月) | ～同年10月2日まで株式会社ダイサンにて基礎整理作業 |

2. 調査結果

調査は、エレベーターシャフト部分および給排水管の埋設部分に対してA～F地区を設定し、重機によって表土を掘削した。その結果盛土・表土がきわめて厚く堆積していた。また、既存建物の基礎が深く大きく擾乱していた(第3図)。発見された遺構は小穴2基。出土した遺物は縄文土器片2点、土師器片1点、須恵器片が1である。

堆積土は下記の通りである(第4図)。



以下各地点の状況を記す。

A地区(第5図)は、埋設管が一律0.8mまで掘削されるため当該深度まで調査を行った。調査面まではほぼ全域に盛土が堆積しており、工事深度内では遺構確認面は検出されなかつた。そのため一部を試掘したところ地表面下約0.8mまで盛土、約1.1mで旧表土、約1.2mでII層、約1.3mでIIIa層、約1.5mでIIIb層が確認された。調査面積は28.5m²である。

B地区(第6.7図)は、埋設管が一律1.1mまで掘削されるため当該深度まで調査を行った。工事深度内の一部地表面下約1mでIIIa層が検出されたため当該部分について遺構確認を行つたが遺構・遺物は発見されなかつた。さらに一部を試掘したところ地表面下約0.9mまで盛土、約1.2mまで旧表土、約1.3mでIIIa層、約1.5mでIIIb層が確認された。調査面積は

74.8 m²である。なお、表土中より土師器の壺片1点が出土した。

C地区(第8図)は、C1区の埋設管が一律0.8mまで掘削されるため当該深度まで調査を行った。調査面まではほぼ全域に盛土が堆積しており遺構確認面は検出されなかつた。さらに一部を試掘したところ地表面下約0.8mまで盛土、約1mでIIIa層、約1.3mでIIIb層が確認された。調査面積は42.7 m²である。

C2区は一律1.8mまでが掘削されるため当該深度まで調査を行つた。盛土は地表面下約1.7mまでロームによるものと疊によるものが分厚く堆積しており歴史時代および縄文時代の遺構確認面は削平されていることが分かつた。さらに地表面下約1.8mでV層が検出されたため当該部分について旧石器時代遺構の確認を行つたが遺構・遺物は発見されなかつた。調査面積は14.4 m²である。

D地区(第9・10図)は、埋設管が一律1.4mまで掘削されるため当該深度まで調査を行つた。調査面まではほぼ全域に盛土が堆積していたが、地表面下約1.2mまで盛土、約1.3mで旧地表面、約1.4mでIIIb層が確認されたため歴史時代まで遺構確認を行つたが工事深度内では遺構確認面は検出されなかつた。調査面積は89.1 m²である。なお、表土中より縄文土器の壺片1点が出土した。

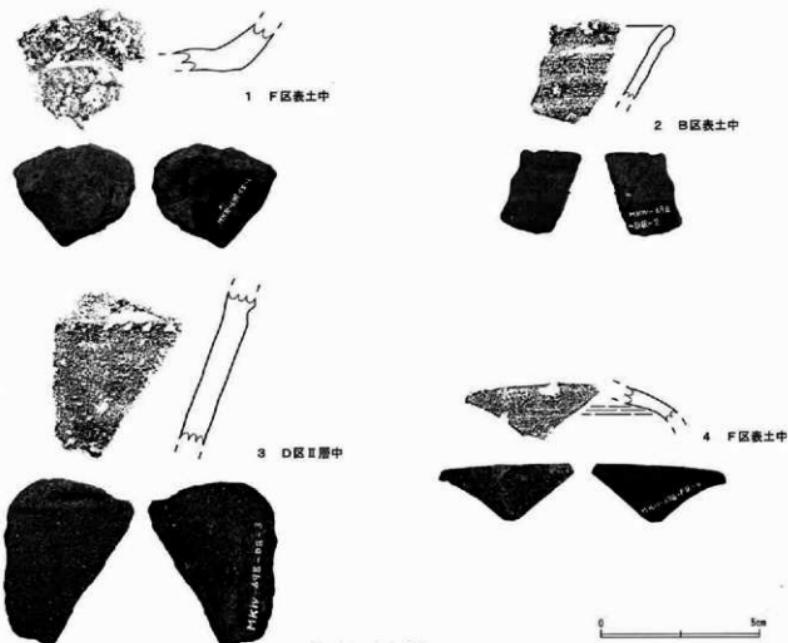
E地区(第11図)は、埋設管が一律75cmまで掘削されるため当該深度まで調査を行つた。調査面までは全域に盛土が堆積しており工事深度内では遺構確認面は検出されなかつた。調査面積は4.0 m²である。

F地区(第12図)は、エレベーターシャフト部分が一律1mまで掘削されるため当該深度まで調査を行つた。調査面まではほぼ全域に盛土が堆積しており工事深度内では遺構確認面は検出されなかつた。そのため一部を試掘したところ地表面下約1mでII層、約1.2mでIIIa層、約1.3mでIIIb層が確認された。この試掘部分においてIIIb層上面を精査したところ小穴(ビット)が2基検出された(第12図)。小穴1は長軸約0.6m、短軸約0.5m、深さ約0.12mを測る。平面形は楕円形を呈し西側一部は調査区外に及ぶ。断面形は2基の小穴が連結したようにも見えるが平面では確認されなかつた。機能等は不明である。小穴2は直径約0.4m、深さ約0.12mを測る。平面形は円形を呈し、断面形は皿状である。機能等は不明である。

調査面積は72.6 m²である。なお表土中より縄文土器の壺片1点、須恵器の長形瓶片が1点出土した。

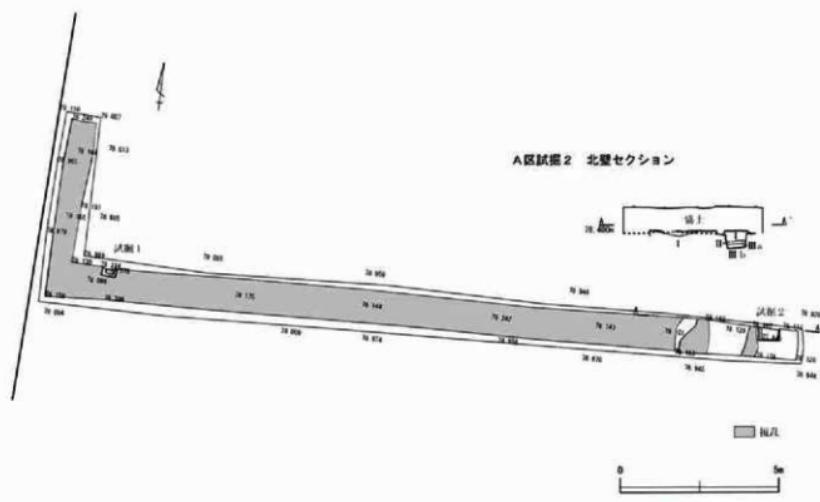
3.まとめ

今回の調査では、E地区より小穴2基が検出された。またB・F区表土中より縄文土器片、土師器片、須恵器片が1点ずつ。D区II層中より縄文土器片1点が出土した(第13図)。調査面積に対して検出遺構と出土遺物が少ないようにも看取られるが、先述したように当該地区は概ね地表面下1mから1.3mの分厚い盛土と旧地表に覆われており、工事掘削が遺構確認面にまで及ばないことから、調査を工事掘削深度に留めている。そのため、地表面下1.4mから下の大部分の歴史時代・縄文時代・旧石器時代は未確認であることから、この数量が直接当該地区の遺跡の様相を表しているものではないことに注意されなければならない。



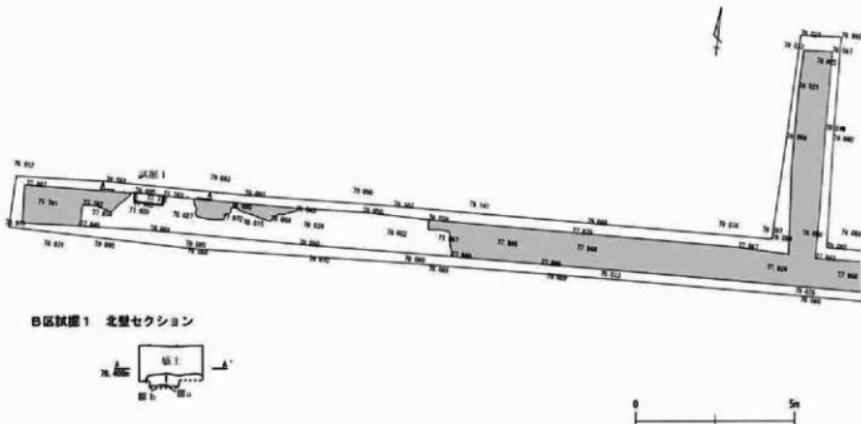
第5図 出土遺物

■ A区



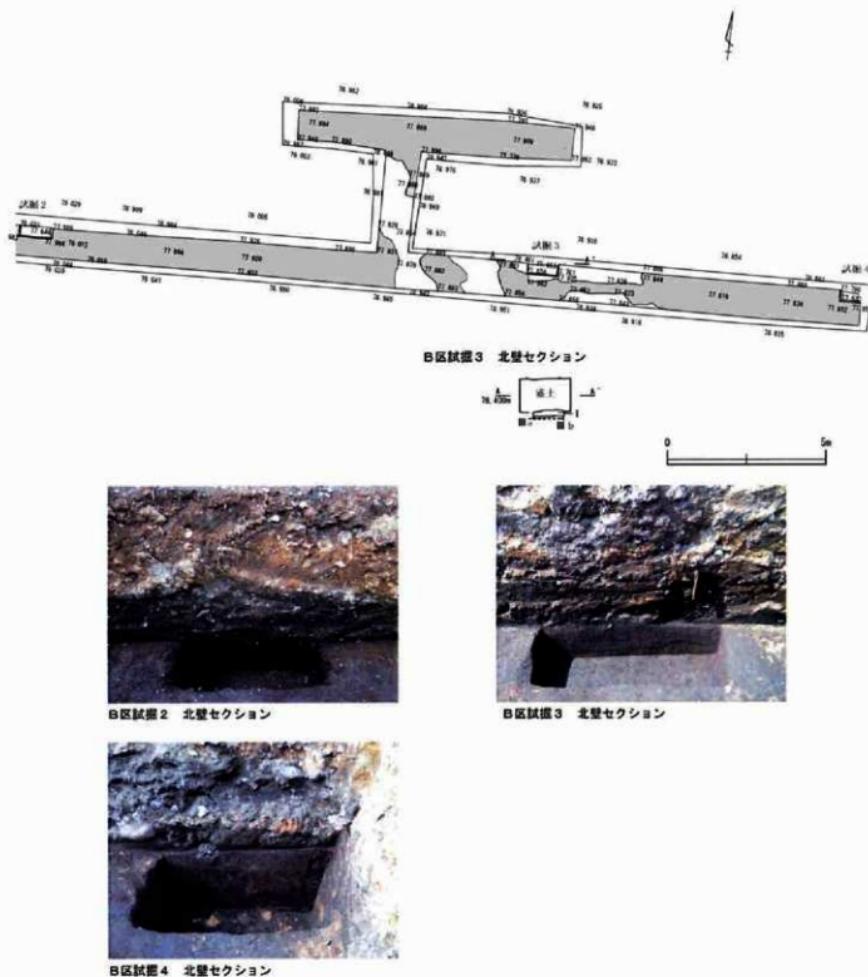
第6図 A区

■B区(1)



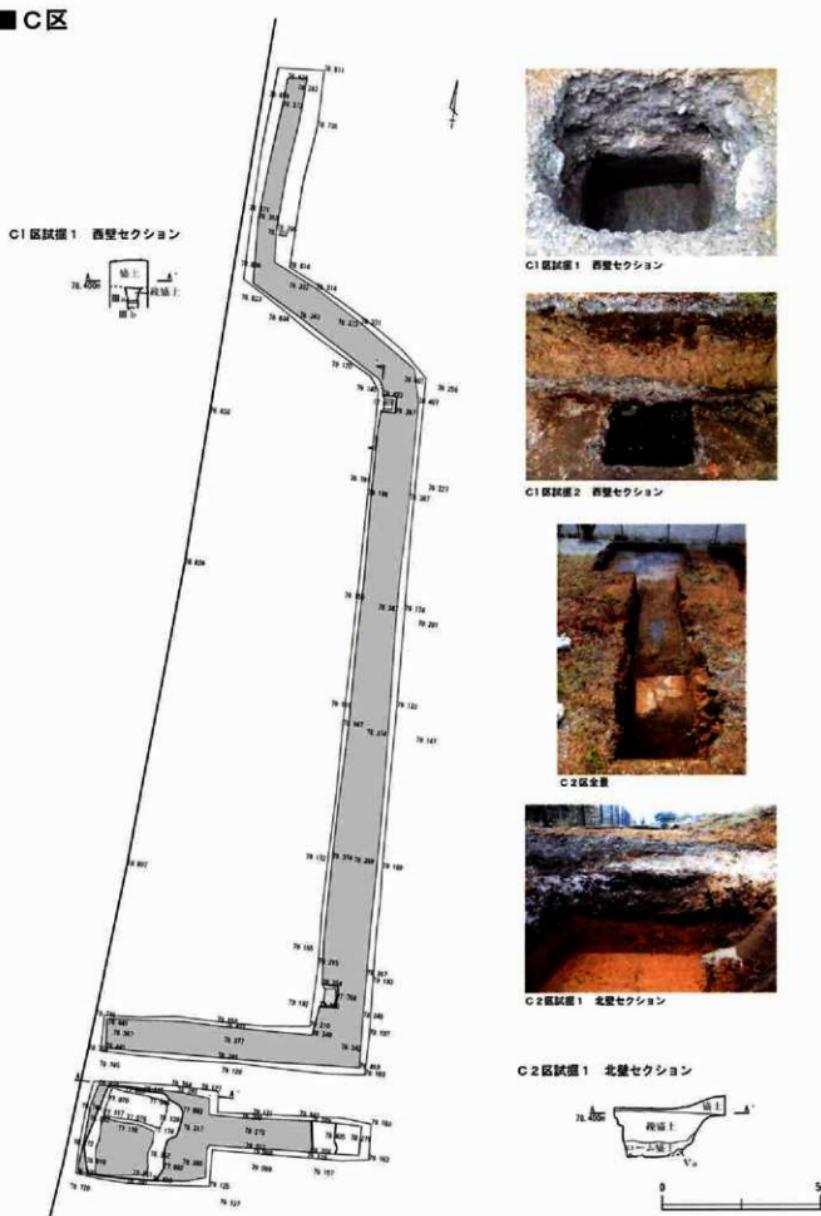
第7図 B区(1)

■ B区 (2)



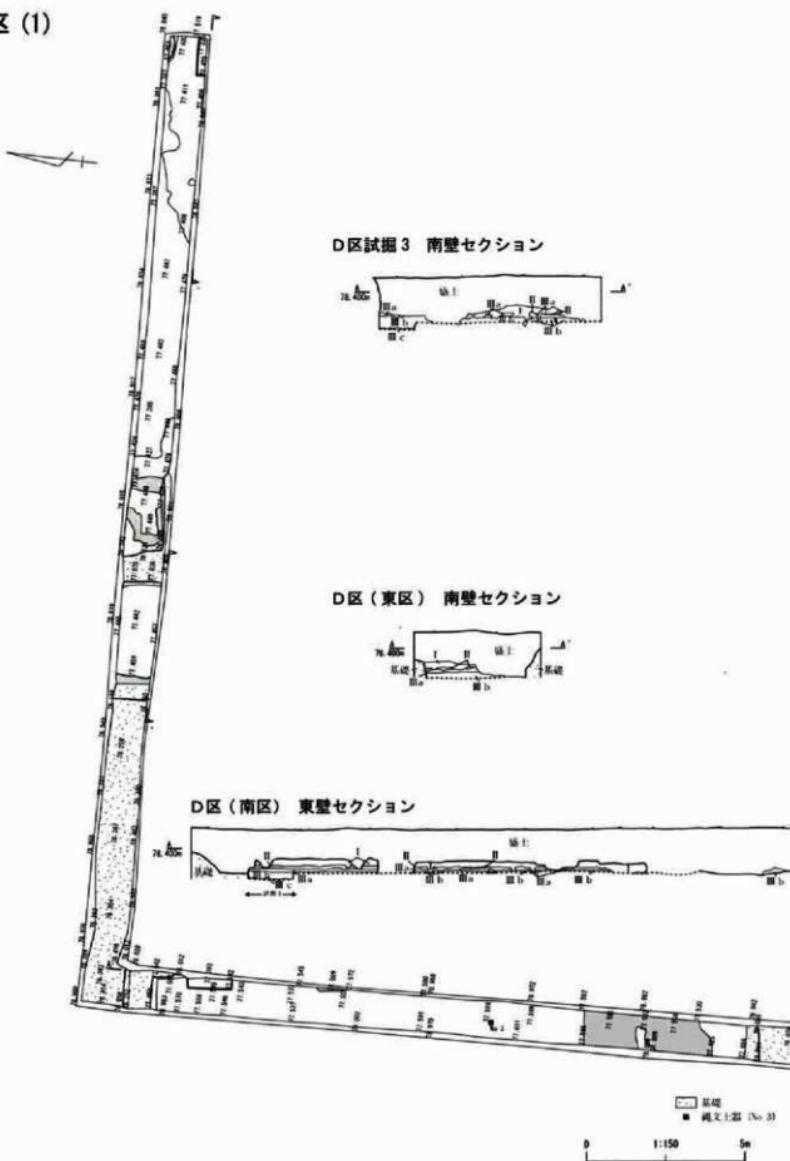
第8図 B区 (2)

■ C区



第9図 C区

■ D区(1)

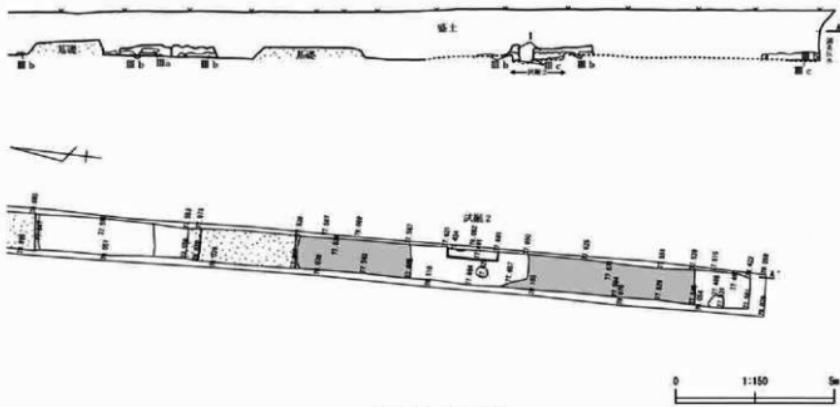


第10図 D区(1)

■ D区 (2)

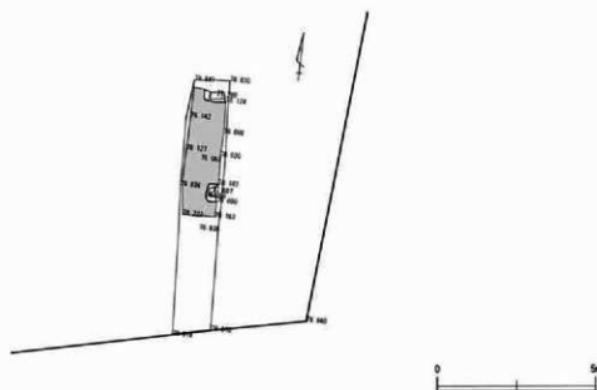


D区 東壁セクション



第11図 D区 (2)

■ E区



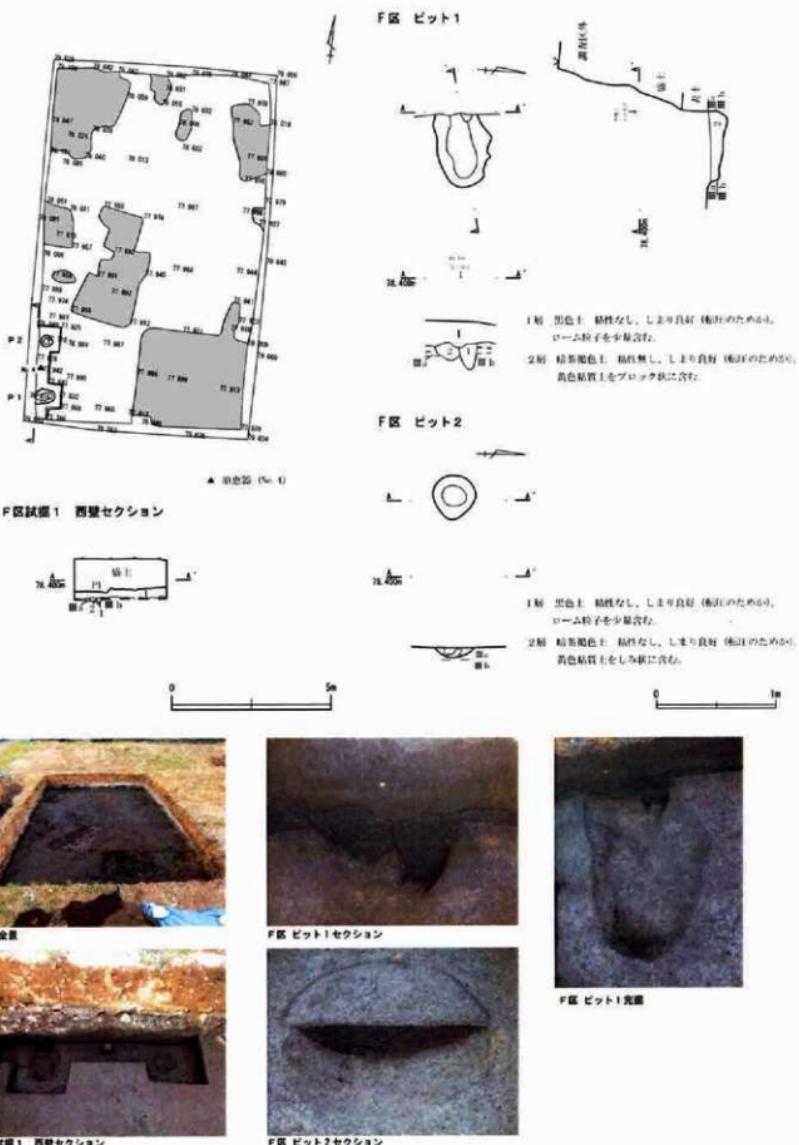
E区 全景



E区試掘2 実壁セクション

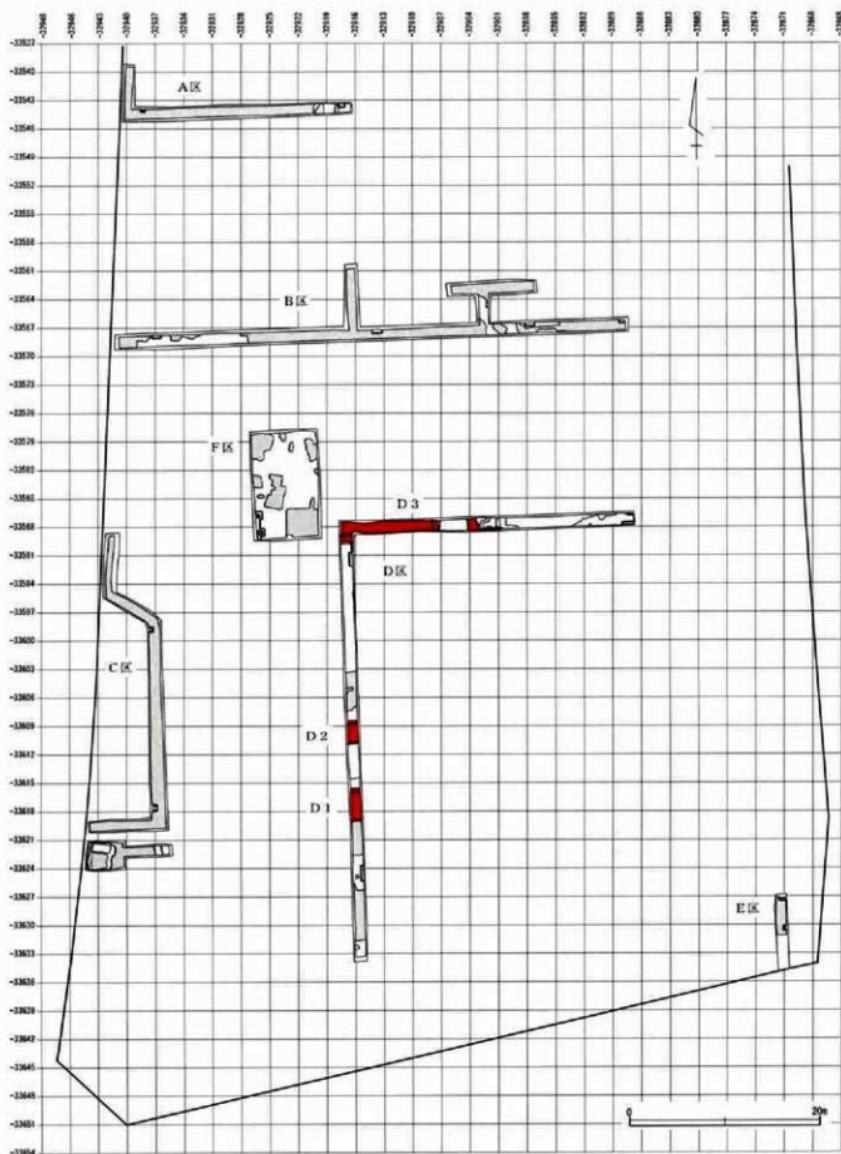
第12図 E区

■ F区



第13図 F区

■既存建物基礎図



第14図 既存建物基礎図

■ 既存建物基礎



D1区基礎(西から)



D2区基礎(西から)



D3区基礎(東から)

報告書抄録

| | |
|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ふりがな | へいせい 28ねんど こくぶんじしまいぞうぶんかざいちょうさがいほう |
| 書名 | 平成 28 年度 国分寺市埋蔵文化財調査概報 |
| 副書名 | |
| 巻次 | |
| シリーズ名 | |
| シリーズ番号 | |
| 編著者名 | 増井有真 依田亮一 島田智博 中野 純 |
| 編集機関 | 国分寺市教育委員会・国分寺市遺跡調査会（会長：坂詔秀一） |
| 所在地 | 〒185-0023 東京都国分寺西元町1-13-10 武蔵国分寺跡資料館内 TEL 042-300-0073 |
| 発行年月日 | 2018年3月31日 |
| 規格／部数 | A4版横組1段 46文字×34行 160頁／350部 |
| 資料の保存 問い合わせ先 | 国分寺市教育委員会 教育部 ふるさと文化財課 〒185-0023 東京都国分寺西元町1-13-10 武蔵国分寺跡資料館内 TEL 042-300-0073 FAX 042-300-0091 E-mail bunkazai@city.kokubunji.tokyo.jp |

| ふりがな 所収遺跡名 | ふりがな | コード | | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 m ² | 調査原因 |
|----------------------------------|---------------------|--------|-------|----------------------|----------------------------|---------------------------|------------------------|----------------------------|
| | 所在地 | 市町村 | 遺跡番号 | ° ′ ″ | ° ′ ″ | | | |
| 武藏国分寺跡 第716次調査 他5 | 東京都 国分寺市 西元町 | 13-214 | 10・19 | 35° 41' 46.77" | 139° 28' 15.44" 他 | 20160607 ～ 20170228 | 合計 930.47 | 分譲住宅建設 集合住宅建設 公文書館改築 |
| 恋ヶ窪遺跡 第98次調査 | 東京都 国分寺市 西恋ヶ窪 | 13-214 | 2 | 35° 42' 10.45" | 139° 28' 05.98" | 20161114 ～ 20161202 | 40.91 | 土地造成 |
| 多摩蘭坂遺跡 第13次調査 | 東京都 国分寺市 内藤 | 13-214 | 7 | 35° 41' 41.06" | 139° 27' 25.14" | 20160829 ～ 20160908 | 8.95 | 個人住宅 |
| 本町(国分寺 村石器時代) 遺跡 第14次調査 | 東京都 国分寺市 本町 | 13-214 | 28 | 35° 42' 02.77" | 139° 29' 00.31" | 20170213 ～ 20170217 | 5.54 | 集合住宅建設 |
| No.29 遺跡 第4次調査 | 東京都 国分寺市 本町 | 13-214 | 29 | 35° 42' 02.29" | 139° 25' 05.13" | 20160509 ～ 20160520 | 15.27 | 集合住宅建設 |
| No.41 遺跡 第1次調査 | 東京都 国分寺市 内藤 | 13-214 | 41 | 35° 41' 45.17" | 139° 27' 31.65" | 20161208 ～ 20161222 | 70.80 | 土地造成 |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------|-----------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------|
| 武藏国分寺跡 | 集落跡 寺院跡 道路跡 | 奈良・平安時代 中世 近世 縄文時代 | 掘立柱壙柱穴 2 基 溝 5 条 土坑 1 基 小穴 2 個 土坑 3 基 小穴 5 個 | 土師器、須恵器、 縄釉陶器、灰釉陶器、白磁、近世陶磁器、瓦、埠 縄文土器、石器 | 武藏国分尼寺を区画する 掘立柱壙の柱穴を 2 基検出。 中門を挟んで西側と 東側で建替えの回数が異 なることを確認。 |
| 恋ヶ窪遺跡 | 集落跡 | 旧石器時代 縄文時代 中世 | 性格不明遺構 3 基 | 黒曜石 近世陶磁器 | 近世の溜池と想定される 遺構を検出。 |
| 多摩蘭坂遺跡 | 集落跡 | 旧石器時代 縄文時代 奈良時代 | なし | なし | |
| 本町（国分寺 村石器時代） 遺跡 | 集落跡 | 旧石器時代 縄文時代 奈良・平安 時代 | 小穴 4 個 | 縄文土器 | |
| No.29 遺跡 第4次調査 | 散布地 (包蔵地) | 旧石器時代 縄文時代 奈良・平安 時代 | なし | なし | |
| No.41 遺跡 第1次調査 | 散布地 (包蔵地) | 奈良・平安 時代 | なし | なし | |
| 要 約 | 平成 28 年度に国分寺市内で行われた分譲住宅建設、集合住宅建設、土地造成、公文書館改築、個人住宅建設に伴う確認調査、発掘調査のうち、国庫補助事業および公共事業にともなう原因者負担で調査を行った計 6 遺跡、10 地点についてまとめた報告書。そのほか付録として 3 件の立会調査記録と、平成 25 年度に調査した公共事業に伴う 1 件の調査概要を掲載。 | | | | |

平成 28 年度 国分寺市埋蔵文化財調査概報

発行日 平成 30 年（2018）3 月 31 日
編 集 国分寺市教育委員会
国分寺市遺跡調査会
発 行 国分寺市教育委員会
〒 185-0023 東京都国分寺市西元町 1-13-10
（武藏国分寺跡資料館内 ふるさと文化財課）
印 刷 株式会社アトミ

©Kokubunji City Board of Education 2018. Printed in Japan

表 紙 アートポスト 菊版 125kg
本 文 マットコート A判 57.5kg

令和 4 年(2022)8 月 16 日 デジタル版作成